

稲門フィラテリー 21 号～ 30 号目次

2006 年 9 月～ 2008 年 12 月

号番号をクリックで目的号が表示、最終ページクリックで目次に戻る

21 号

切手と登山
「愛・地球博」 追っかけ 3 年
動転
ローランド・ヒルの追悼記事

22 号

第 7 回稲門フィラテリー総会報告
私感・モーツァルトその人
わたしのモーツァルトさま
教科書の話
高窓のある家
白虎隊と板東収容所切手
思い出の走馬灯

23 号 (2007.3.1)

映画特集号に寄せて
ハリウッド映画再開 60 周年記念切手展を終えて
無線通信の面白さと驚き、映画「空と海の間に」
映画「早稲田大学」

24 号

目で考える切手の発行
私とオーストリア切手
振り込め詐欺の話
「切手教室」 50 回を振り返って
本誌発行までの切手教室内容

25 号

早稲田大学創立 125 周年記念の企画、
記念官葉、記念カバーの頒布について
都の西北 ～早稲田大学 125 年のあゆみ～
ウラジオストクからハバロフスクまで シベリア鉄道の旅
国際切手展 Washington 2006 への出品と参観メモ
早稲田大学 創立 125 周年記念フレーム切手発行

26号

創立125周年事業に稲門フィラ役割果たす
総会報告＋雑感少々
三浦半島周遊 稲フィラ見学旅行記
六十余年 切手を集めた人生は 一鉄鋼マンの軌跡
SCOUT運動100年に寄せて
趣味の王様
外国の国名や都市名の漢字表記
リニアモーターカー時速503Km 体験記

27号 (2008.3.1)

日本の野球 昔と今 一 郵趣でふり返る
人との出会いと切手人生
朱鷺 ～再び大空へ～
渡辺勝正氏 ミュージカルを監修
日本のシンドラ 杉原千畝物語 SE M PO
切手偏見 1 シートを裏面から偏見
大学125年記念写真記録集作製
懐かしきキャンパス2

28号

『南蛮のみち』バックパッカー二人旅
なにもようせい傳
切手偏見2 ふるさと切手を偏見

29号

手彫切手の楽しみ NO.1
『南蛮のみち』バックパッカー二人旅 2
ニューヨーク旅行記 ―ワールドトレードセンターの思い出―
切手に廁の香を聞く
切手偏見3 慶応大学150年切手から切手を偏見
東京中央郵便局建て替え

30号

震災切手でカムバック
稲門フィラテリー第9回総会報告
閑話
湖国、滋賀の旅日記
切手偏見4 切手の美の壺 カットの美

切手と登山

和波 久基

切手蒐集は小学生の頃、父親の無造作に集めていた切手を見て大変な興味を持ったことから始まった。山登りのはじまりと言えば中学生の頃、三重の故郷の鈴鹿の山に子供達だけで母親のにぎってくれたおむすびと水筒だけで雨具も持たず粗末な運動靴をはいての遊びの山登りだった。中学卒業後、二年上の兄と一緒に学院に入ってから切手研のあることを知って、学院生も入会 OK とのことで入会させてもらった。入会当時大変印象に残っているのが昭和 27 年に卒業された白木朝康様であった。やさしい大先輩で、おどろくばかりのコレクションを見せていただき、切手もいただいた記憶がある。

一方本格的な山登りは夏休み帰省時、大学 1 年の S27 年 8 月父と兄弟三人計 4 名オール早稲田で富士宮登山口 0 合目からの富士登山だった。夏の富士登山は裾野の樹林帯をのぞいて日陰がないので暑さを避けるため夕方から登りはじめ夜歩きを続けて山頂直下八合目か九合目の山小屋に泊まり、早起きして山頂からのご来光をおがむのがほとんどだった。

目頃低地で生活をしていきなり最高峰の富士山にいどんだため全員高山病にかかり大変つらい山頂だった。

翌年 S28 年は北アルプス白馬岳に同じメンバーで登り清水尾根をぐるりまわって祖母谷温泉で道端の温泉に入り、樫平より関西電力のトロッコ列車で黒部川の深い溪谷のすばらしさを満喫しながらその日は宇奈月温泉で一泊した。追記、富士山も白馬岳も共に地下足袋での登山だった。学生時代の登山はこの二山で終わっている。本格的

に山登りをするようになったのは卒業後トヨタの販売会社に入ってから夏休みを蓼科の会社のロッジで過ごすようになってからだ。妻も一緒に八ヶ岳山麓を歩くうちに山と高山植物のすばらしさに魅せられてしまった。いの一番で最高峰の富士山に登ったので、以後の登山はすべて富士山よりも低い山に登り続ける事となった。

切手への興味も自然の風景が好きで国立公園、国定公園、観光地百選、ふるさと切手等に多くの代表的な山が登場して蒐集の楽しみを増してくれた。八ヶ岳から出発した登山の楽しさは次にあこがれの北アルプス、中央アルプス、南アルプスへと進んで行った。最初から目標にしたわけではなかったが、3000m 以上の山はこの中部山岳地帯の北、中央、南アルプスのみとの好位置にあったため、全 25 座を完登したのは平成 9 年 8 月 12 日南アルプスの聖岳 3013m であった。まだ深田久弥の「百名山」が発刊される以前のため夏山は大学生、高校生の夏合宿で大変にぎわっている頃で中高年の姿は非常に少なかった。

さかのぼって平成 5 年に今迄の登山実績から先輩会員二人の推薦を得て日本山岳会に入会した。単独または妻と二人で登っていたが、入会後の登山数はうなぎ登りにふえていった。入会同期の仲間で深田久弥の百名山に挑戦している者がいて強くすすめられた。ここにおいて次なる目標を百名山完登に置くことにした。これ迄に僅か 11 山に登っただけで残り 89 山に挑戦することとなった。ここにきてついに中高年の百名山ブームにとり込まれることとなった。これからは中部山岳地帯から、北は北海道か

ら南は九州屋久島迄の列島縦断の挑戦となった。

トヨタを少し早めに退職させてもらって平成4年2月北海道のワインの販売会社の社長を5年つとめあげ、このワインが取り持つ縁で平成9年1月からリーガロイヤルホテルに営業として誘われ、若い人達と一緒に営業の第一線で仕事に打込んでいるが今年末でホテル営業10年を迎える。この転職15年間は仕事と登山の両立にほんとうに恵まれ、我ながら驚くほど元気に1頃調に事故もなく平成16年11月13日、屋久島の宮ノ浦岳1935mの山頂にて百名山完登を達成した。満70才9ヶ月だった。

以下に各地から選んだ切手に登場している山の登頂記です。

富士山登頂 H10年8月24日(二回目) 3000m25 登座完登お礼の登山

23日マイカーにて8:30自宅出発、一路東名高速を走り御殿場LCを出て新五合目駐車場に12:00着標高2400m、山頂が見えている。12:30出発。18:18表口九合五勾標高3590m地点の胸突山荘着。宿泊。天気晴気温12℃。



切手にある観測所の前の
富士山最高地点にて

24日3:15目がさめる。4:30出発。5:03山頂着。5:10山頂より日の出快晴日の出をおがみカメラにおさめる。富士山最高地点剣ヶ峰に立ったのは5:50 3776mとある。新五合目駐車場に



11:55着。

旭日岳(2290.3m)登頂 H14年8月7日

平成14年8月4日力》ら12日迄夏休みをとって妻と一緒にマイカーによる北海道百名山に登るドライブに出発した。8月4日むし暑い曇り空のなか自宅を17:30出発。首都高から東北道を北へひた走る。栃木県内豪雨とすごい雷の中約40分走行。途中SAで2回休憩。日付が変わり、5日0:35東北道岩手山SAに入り車中泊(東京から583km)。5:00目がさめる。6:00朝食、6:30出発。8:00青森料金所出る。東京より725km(本線上680km)。20分後青森港フェリー埠頭着。9:10発函館行きがとれた。9:14出船、うす曇、レストランでくつろぐ。妻のおごりでビール1本と枝豆。フェリーは函館山の横を通過、12:55函館港着下船。曇空。

この頃から7月9日に同じ北海道の幌尻岳に登る途中額平川の急流を15回も渡渉中、右足の親指を強く流れの中で岩にぶつけ、爪がいたんでいたのだが、ここに来て我慢が出来ないほど腫んできたので車中から119番に電話、外科医院を教えてもらい爪を抜く治療をして、羊蹄山に登るため車

を倶知安口登山口に走らせた。途中から強い雨が降り出した。半月湖の登山口に着いたのは20:50。駐車場にて車中泊。22=00眠りにつく。どうやら雨は止んでいる。

8月6日(火)4:00少し前に目がさめる。雨は止んでいるが夜中から吹いていた強風が残っている。5:20妻の見送りを受けて出発。妻は半月湖畔で絵を描いたり散策をして7時間半を過ごすと言う。車の鍵も渡して出発。蝦夷富士の名のとおり遠望は富士山に似てすばらしい。標高は1980mである。順調に高度をあげる。晴れているが強風が吹きあれている。振り返るとニセコの山に異様な雲がおおいはじめている。

9時14分八合目着。標高1570m曇り一面ガスに、冷たい強風、出発してすぐカウベルをつけた男性が一人登ってきた。私を追い越して行った。100m程登ったところでカウベルの男性が降りてきた。山頂火口沿の道はどしゃぶり横なぐりの雨と猛烈な強風、加えて視界10m前後でとばされそうで危険なため、勇気ある撤退をしたようだ。話をうかがって山頂の火口沿の道に出てみたら、そのままのすさまじさ。雨具を出し遅れ、身体全体がびしょぬれで寒さのため身震いがとまらず、あせりのためにうまく上下の雨具が着られない。ここ迄来たのだからと強気で頂上をきわめる決断を下し慎重な行動で火口半周先の山頂の標識に11時に到着。その荒れ方はすさまじいの一語だ。山頂でただ一人冷えて脚が硬直している。20分後に山頂に別れをつげ、痛む足を引きずるように下山開始。歩く早さは通常の半分程にしかあがらない。加えて下山は危険である。妻に約束した時間より大幅に遅れる。下山口にかなり近づいた時点で15時30分頃、蜂に左耳をさされてしまった。かゆくてたまらない。毒がどんどん全身にまわっている。16:10半月湖駐車場着。妻は何度も下山口までまだかまだかと心配していたとのこと。ぬれたまま車で出発。17:27、倶知安厚生病院にとびこみ解毒の点滴治療を受ける。医師は今日は倶知安で泊まって翌日出発をすすめたが、そのまま病院を19:17出発し国道をひた走り、小樽にて寿司屋に入り夕食を食べ、21:30小樽を



後に道央道砂川SAまで走り、ここで車中泊。(23:26着)

8月7日(水)7時少し前、砂川SAを出発。旭川鷹栖ICを出て、9:15待望の旭岳ロープウェー駅駐車場着。東京より1241km、標高1100m、ロープウェーにて姿見駅に着く。標高1600m。妻と二人で北海道最高峰旭岳の頂上を目指して10:00出発。広大な周囲の草原はお花畑が一面にひろがっている。ここをアイヌ語でカムイミンタラ、神々の遊ぶ庭と言う。旭岳は北海道の真中にあるので北海道のヘソと言われる。途中姿見の池周辺は何本かいきおいよく蒸気を吹きあげている。姿はやさしいが生きている火山だ。

姿見の駅を出発して12:51旭岳の山頂着(標高2290.3m)。山頂から展望は薄曇だが北東にある間宮岳のみガスに見えかくれしている以外は展望なし。山頂に25分間滞在したあと山頂に別れを告げ姿見の駅に降りた。この夜は美瑛駅駐車場泊。

槍ヶ岳(3180m)
登頂 H3年8月11日

平成3年の夏休みは8月10日から13日迄の4日間北アルプス上高地から梓川に沿って徳沢、横尾、槍沢を通って槍ヶ岳を振り出しに東鎌尾根を下り表銀座の西岳、大天井岳、





大山 (1711m) 登頂 H16 年 7 月 20 日

7 月 20 日 5:30 自宅出発、羽田着 6:30。羽田発 米子行 7:37 離陸、8:43 米子空港着陸。9:15 レンタカーにて空港出発。10:21 大山夏山登山道駐車場着。空港より 33.5km 10:51 出発 山頂まで 2.8km 石段の登り口だ。

一合目、二合目の標識あり。12:54 七合目通過。10 分後 1500m 通過、1600m まではきつい急登の連続。M:15 大山山頂着。強風一面ガス展望なし。伯耆富士の異名を持つ大山は山腹、山頂とも崩壊がはげしく、山頂の剣が峰 (1729m) へは登山禁止で手前の弥山 1711m が山頂となっている。山頂にいる



燕岳に至る縦走だ。

8 月 11 日前日泊った横尾山荘を 5:42 出発。槍沢をさかのぼり槍ヶ岳直下の槍岳山荘に到着したのは 13:56 であった。標高 3060m。雨で視界きかず、山荘で身仕度をととのえ 15:40 出発。槍の山頂に妻と一緒にいどむ。ほぼ直登に近い岩山を慎重に一步一步よじのぼる。幸いにもガスっていたので妻は真下を見ても何も見えないので恐怖感はないと言っていたが、一瞬ガスが晴れて地上が見えた瞬間、山荘が真下に見えたのには驚きだった。そそり立った槍の頂上は非常にせまく、登り道はしばしば渋滞で立ち往生。山頂に立ったのは 16:15、気温 9℃。妻と二人そろって記念写真。展望は 3600 のはずだがガスの切れ間から時々のもめる程度だったが、登頂の喜びの方が大きかった。

時間僅か 5 分で、14120 山頂に別れをつげた。17:15 大山橋駐車場着。車で米子駅前ホテルに 18:47 着。入浴しようと思っていたら妻から電話が入る。グッド・タイミング。心配だったんだろう。

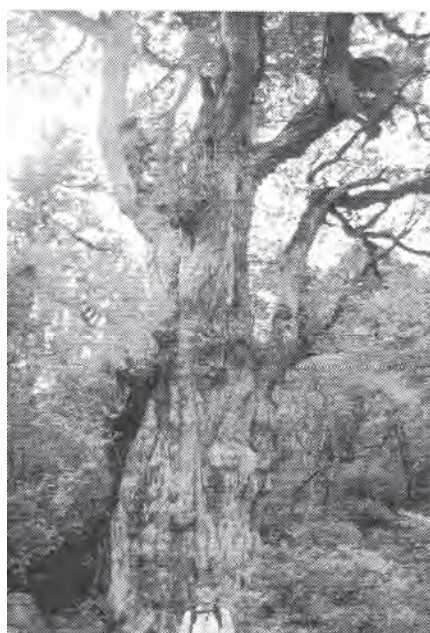




宮ノ浦岳（屋久島 1935m）百名山完登の山登頂 H16 年 11 月 13 日 宮ノ浦岳は九州最高峰の山である。九州本島に数々の有名な山があるが皆、宮ノ浦岳におとる高さだ。

屋久島は年間の降雨量 1 万ミリに達する世界有数の温暖多雨の島である。樹齢 7200 年の縄文杉をはじめとする屋久杉が有名である。11 月という年間で一番雨の少ない時を選んだのが正解だった。4 日間島にいて雨具を着たのは僅か 30 分だった。

11 月 12 日、羽田を 8:34 離陸。10:15 鹿児島空港着陸。快晴、気温 25℃鹿児島北フェリー埠頭を 12:50 出発。15:33 屋久島宮ノ浦港入港。17:03 本日の宿屋久島グリーンホテル着。13 日 3130 起床。4:30 バスにてホテル出発。5:18 淀川登山口着 10 分後いよいよ出発。まだまっくらの夜だ。淀川小屋で朝食。4:40 日の出、花之江河を通過。9:23 宮ノ浦岳が姿を現す。小休止しながら 10:44 待望の宮ノ浦岳山頂に立つ。ツアー一行の仲間と山頂にいる登山者から大きな拍手で百名山完登の祝福をうけた。喜びが込み上げてきた。ツアー一行の方々にも百名山最後の山行であることを話していなかったのが皆さん驚いた様子だった。山の姿はおだやかな様相であった。本州では 11 月の高山は紅葉が終り落葉の時期なのに木々も山肌も緑と草色につつまれていた。真冬は九州最高峰のため山々はかなり積雪があるとのこと。



「愛・地球博」 追っかけ 3 年

市川 鴻之祐

愛知万博「愛・地球博」には実によく通った。切手展出品作の資料をできる限り集めてやろうと全期間通用パスを購入した。名古屋市東郊の会場まで地下鉄とリニモを乗継いで 40 分で行ける。友人からもらった招待券で開幕五日前の内覧会を見たほか 20 数回通った。

スタンプショウ・オープン切手展 (4 月末・浅草) には開幕前年 (04) から 3 年連続で「愛・地球博」をテーマに出品した。04 年は「熱く・・・」、05 年「いりゃあせ…(いらっしゃい)」、06 年「私の…」。

切手を共に 70 年近くになるが久々に燃えた 3 年間でした。

淋しい外国の地球博切手

海外 120 カ国が参加したのに地球博切手発行は 10 数カ国だけ。万博会場で見たのはイランと、P スタンプ (2 種連刷 10 枚) を無料で配ったカタール。国連館では業者が館用 P スタンプも売った。

地球博切手は 4 ～ 6 種の小型シートにテーマ「自然の叡智」の字やロゴ入りが主流。グレナダ、ミクロネシア、パラオはいずれも発行日まで同じ。ガンビア、シエラレオネともに開幕後 3 カ月たった 6 月以降に発行された。シートにテーマ「NATURE' SWISDOM」と公式ロゴかモリコロ図案、切手は珊瑚礁、月面着陸、誕生 (母子)、火山、野生動物などと同じトーン。コンゴも不思議。パウロ 2 世・蝶・らん・新幹線と山手線電車に絵柄と不似合いな「05AICHI」の字 (小型 3 種)。カナダ: 石標とオーロラを描く短編 1 種。国連: キヤノン後援「世界環境写真コンテスト」入賞作を使った単片 6 種、クロアチア: 円形切手入り小型。ロシア: 小型 1 種。モンゴル: 犬ネコなど描く (4 種連刷) 小型。ブータン: 仮面舞踊 (4 種連刷と仏陀 (1 種)

の小型 2 種。ヨルダン: 塩の結晶 (3 種連刷を含む 4 種を収めた大ぶりの死海シート。カナで「ヨルダン」と書かれている。

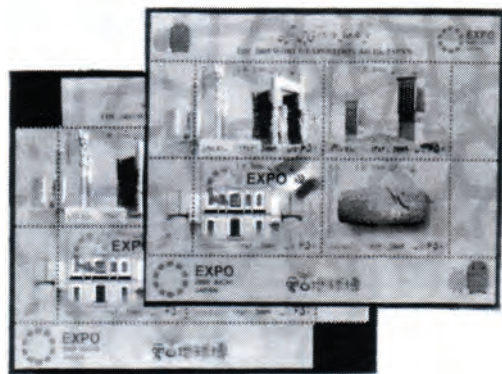
21 世紀の万博に期待をこめ

開幕前年の 04 年は寄付つきモリコロ切手が発行されただけ。防府のガ 1 I 馨さんらに作って戴いた台紙で万博関連局の私製カバーを作った。大阪万博以前の国内博覧会は 90 を越すと知って複製絵はがきを求めるなどして一覧を作った。P スタンプには興味がないが 05 年 4 月に大府市が発行したフレンドシップ事業記念 (売価 1000 円) は良心的。初日印を押印し展示した。

商売上手? ”イラン局”

イラン館ではジュウタン会社が作ったカバー入り切手を 500 円で売ったが同じ館内の ”郵便局” では、シートの角のモリコロ部分をちぎって 200 円で売っていた。版權の関係とか。翌日は 300 円だったり局員によっても違った。終盤はどちらも半値の 250 円・100 円で売るなど商売上手。安い切手も多く、チーターセット (切手 4、絵葉書、封筒各 4FDC) 400 円も売れていた。ジュウタンは 1 億円以上売れたという。

活かせなかった大阪博の経験



イラン地球博小型シート左はモリコロ抜きで販売したもの

大阪万博当時の「郵趣」には郵趣協会が積極的な活動をした記事が見られるが、今回は消極的で残念だった。外国切手発行に協力、悪徳業者絡みの切手高騰を防いだことやこの時期に会員・事務局員が飛躍的に伸びたとの記事もある。今回は世界的に収集熱がさめ、お役所は民営化問題でそれ所ではなかったのだろうか。

マンモスの毛はモチ本物

万博の目玉マンモスのリーフを補強するものを捜していた時、知人から「これはどうか」とマンモスの毛（注1）を戴いた。釣り糸みたいに太く長さ20センチと10センチほどの義出所を伏せることを条件に。マンモス切手とともにこの毛を04年オープン展に出品。それ以後も毎回リーフの形をかえて展示した。後日、新聞社からも尋ねられたが「証拠はないが…」とケムにまいた一約束の手前、言えないだけにホッとした。



愛知万博開幕日 マンモスの毛のカバー

ラッキー！ 友人が万博担当に

旅行会社勤務の友人が万博担当になったことは幸運だった。内覧会の券をくれたのも彼だ。おかげで無人走行車（皿MS）の絵はがきと乗車券がわりになった袋、開幕五日前の万博局印など招待客でなければ入手できない資料をゲットできた。閉幕後10日余り過ぎた時に、彼から万博局最終日のカバーが来た。しばらくしてお宝がぎゅっ詰まったダンボール箱が届いた。開閉会式次第をはじめ来賓客用のお土産グッズや

豪華な冊子、ロボット・トランプ、ピンバッジ。「海外勤務になったので、謹呈」との手紙とともに、主なスタッフに贈られた感



届いた万博のお宝

謝のタテまでである。

縁日なみ混雑と出会い

閉幕が近づいた9月は20万人を越す日が14日間、縁日なみの人出。早朝から開門を待つ間に小学生兄妹と仲良しになって、ドイツ館と一緒に見るなど、楽しい出会いも多かった。宿舎確保を頼まれた縁で、野口英世ゆかりのガーナの高校生一行を案内、朝日新聞マイペーパーを作った。平和と友好を願う彼らはメッセージが掲載された新聞を土産に帰国した。

杉原先生のアピール欠く

6千人の命を救った外交官、杉原千畝先輩のリトアニア館の展示は物足りなかった。小中学時代を名古屋で過ごした（私の母校五中OB）ことを紹介する良い機会と期待したが、館内での表示説明がなく来館者には伝わりにくかった。

万博局の一部混乱

開幕日に一部の万博分局ではスタンプを自由に押させたため切手を貼らずに押印したり一時混乱FDCも黒みがかったものに（黒い小型印、茶色の黒活が出るかも）。閉幕日の午後、瀬戸分局では郵便商品が売り切れ。「売るものは何もありません」と係員。この日「明日からはどこを歩こうか」帰路のバスで同年輩がつぶやいた。

注1 マンモスの毛は60～80センチと長いものが多い（ロシア館員の話）。05作品は中部、鹿児島両スタンプショウにも出品した。

動 転

馬場 恒浩

受話器をとったら女性の異き声が聞こえた。

「雅子か？」

「大変なことしちゃった！」

「どうしたんだ！」

「院長先生が来られたから、代わります。」

「電話を代わりました。実は雅子さんが、夕べだした薬で、今朝患者が死にました。これは雅子さんのミスです。病院として困ったことになりました。然し、起こってしまったことは仕方ありません。病院としても表沙汰だけにはしたくないんです！」

「今朝から病院の弁護士と死んだ患者の弁護士が話し合ってます。先程から、先方の弁護士さんも、やっと我々の立場を理解されたようです。お互いに表沙汰にしないで解決したいという態度に変わって来ています。」

最近の医療ミスによる死亡は3000万円です。現在雅子さんは、2500万円の保険に入っています。先生の気持ちが変わらない内に500万円を振り込んで下さい。……500万円と言えば大金ですから、200万円だけでも今日中に振り込んで下さい。」

ご存知のように、『オレオレ詐欺』の犯人からの電話である。新聞やテレビに何度も報じられていることである。然し、握った受話器から直接聞こえてくる犯人の声は、私を完全に動転させた。私にとっては、“来るべきものが来た！”という思いであった。昨今の新聞・テレビで報道される医療事故は、医者の娘を持つ親とすれば、何時このような事態に遭遇するか常に心してい

たからである。その点“表沙汰にしたくない！”と言う院長の言葉は、私にとって一縷の望みであった。娘の将来を考えれば、表沙汰になるのは最悪である。直ぐにでも勤め先に駆けつけてやりたい気持で一杯であった。出来ることは何でもしてやりたかった。こんなに心配したことは嘗てなかった。

気持ちは上擦っていたのであろう、くだらない質問も多々していたようである。

その内、気を取り直したのか、こゝ隔慧では患者の御遺族に申し訳ないと考え、直接あつて謝罪したいと思った。その旨を院長に伝えと、院長は即座に拒否した。」「死んだ患者の遺族はここには居りません。弁護士同上の話し合いなので、今来ても困ります」

大体この種の事件は直接被害者の家族にあつて謝罪し、誠意を伝えて置くことが後々トラブルを軽減するための筋ではなかろうか！それを断わる院長は、おかしい！

その時、辻褄の合わない二、三の疑問が脳裏を掠めた。

娘は妊娠中のため、産業医として大学病院での診療を外してもらい、患者の少ないD印刷会社の岡山工場医務室に勤務している。普通、医師は国民年金加入で、企業の一員となった時だけ厚生年金に加入出来るシステムで、娘はこれを喜んでいた。岡山市内より北に電車で30分程の山里である。

第一に、“雅子さん”という呼び方は医師仲間ではしない。どんなに若造であつても、院長や教授でさえも、馬場先生と姓名

に、先生を付けて呼ぶ慣わしのようだ。（娘は職場結婚のため、旧性を名乗って主人と区別している）それに、殆どの医師が医療事故を想定して、一億円以上の保険に加入していると聞いている。

若しかしたら、何かの間違いかもしれない。まして身重の娘の体調も心配でもある。もう一度娘を電話口に出してもらった。

「声が違うじゃないか？」

「朝から泣いていたので、擦れてこんな声になってしまった！」

疑問を質そうと思っていたが、本人にそう言われてみると、娘の声のようでもあるし、また良く似ている。やはり間違いではなかったのか！がっかりしていると、すぐ院長の声になった。

「いろいろ御心配でしょうが、起ったことは仕方ないんです。相手の気持ちがかわらない内に一刻でも早く振り込んで下さい。200万円用意出来たら電話して下さい。」と携帯電話の教えてくれた。電話を切った後も荘然として、受話器は握ったままであった。しかし何か釈然としないものがあつた。

先ず200万円を用意しなければならない。その時妻は不在で、印鑑や通帳の場所が分からない。引き出しや箆笥を探したが見当たらない。最悪である。振込みの期限が近付いてくる。間に合わなければ、どうすれば良いのか？心配ばかりが先行する。

暫くして、どうせ居ないことは分っていたが、他に良い方法も浮ばなかったのも、娘のマンションに電話した。娘に聞くしかなかった。もちろん不在ではあつたが、幸い留守番電話だったので、至急連絡するように伝言した。

愈々困り果てていた時、電話が鳴った。娘からであつた。伝言してから五、六分程

経っていたであろうか。今度は、娘は泣いていなかった。早速院長先生からの電話の件を話した。

「昨日は日曜日で休診。それ『オレオレ詐欺』でしょう！」

その時やっと『オレオレ詐欺』であることに気付いた。この日は月曜日で、診療は午前中のみで今帰宅したところだと言う。電話して良かったと思う。

然し同時に、今まで犯人に騙されていたことに気付くと怒りがこみ上げてきて、腹が立った。早速、携帯に電話した。

院長を称した男の声ではあつたが、すぐには分からない様子であつた。他の『オレオレ詐欺』の最中であつたのかもしれない。180万円しか掻き集められなかったと言つたら、振込み機の前から、もう一度電話して下さい。その時までには口座番号を弁護士から聞いておくと言う。

当日、私は午後二時に大学病院の診療を受けねばならなかった。前立腺癌治療の小腺原挿入の場所を特定するためである。若し遅れたら半年先まで治療出来ない。振込口座を確認して警察署に通報する積りであつたが、娘も無事だったし、診療に遅れるわけにもいかない。今までに溜まった激情を押さえられず、電話口の犯人に、大きな声で怒鳴って罵倒した。気持ちがスーッとした。

平成14年11月30日のことであつた。翌日警察庁は『振り込み詐欺』と罪名を特定した。

娘は小学校の頃より切手蒐集に興味を示し、私と一緒に切手を楽しむ心根の優しい女であつた。この事件の後、無事女兒を出産。ハーバード大学の医学研究所に勤める主人の許へと、孫娘を連れて旅立った。寂しい限りである。

ローランド・ヒルの追悼記事

小西 邦彦

127年前のタイムズ紙が、オークションで買った品物の包み紙となって入っていました。以下はその前半部です。図版はペニーブラック 150 年記念切手（マン島）で、下が図案に使われた 15 歳のビクトリア。82 歳で死去するまで、1840 ～ 1901 の 61 年間、切手の上では 15 歳のままでした。



1879 年 8 月 28 日（木） タイムズ紙

昨日朝 4 時半、ローランド・ヒル氏はハムステッドの自宅で永眠しました。我が国は最も貴重な人材を失いました。

ヒル氏は自学自習の人で、イギリスを現在の地位に高めた一人でした。

ドイツには完成された官僚養成組織があり、そこから多くの人が訓練を経て国家の各方面の仕事につきます。英国には特別な訓練や強力なコネも無いのに、いつしか頭角を現し、国家ひいては人類に貢献した多くの人があります。インド提督クライブ、鉄道の父スチブソン等です。37 歳までは田舎の校長だったローランド・ヒルもその一人です。世界の郵便システムを変えたこの人物の生い立ち、そして彼を取り巻く環境を検証してみます。

1795 年 12 月 3 日、キダーミンスターに於いて、ローランドはトーマス・ライト・ヒルの三男として生まれました。家は先祖から受け継がれた物でした。フランスと戦争が始まると父の仕事はなくなり、一家は苦境に陥りました。父親は知性豊かな人物でしたが、知識豊富ではありませんでした。探究心旺盛で正直かつ大胆、誠実な人でした。思索に耽り、理論の構築に余念がない人でした。但し、実地に検証することはありませんでした。間違いないと確信すると、実証の必要性を感じなかったのです。

男 6 人に女 2 人、8 人の子持ちで政治的には Whig 党寄りでした。折しもフランス革命時でリベラルな風潮が一夜にして凍りつく恐れもありましたが、ヒル一家はより良い世界を目指して一路進もうとしていました。幼いローランドは「何か人類にとって大きな利益となることを仕上げてみよう」と心に誓うのでした。日々の

食事の際、家族はいつも議論を重ねていました。飲み物といえば、水より高い液体が供されることはありませんでした。権威を一切認めない一家でした。

ローランドの母は常識人でした。忍耐強く、用心深い性格でした。父のおかげでペニーポスティジが生まれ、母のおかげで成功にこぎつけたのです。母は日夜、一家が貧乏生活から抜け出す方策を案じ、父親に「減多に儲けが出ない商売はあきらめ、学校を始めましょう」と提案しました。

大層安い月謝で、一家の窮乏は続きます。まだ幼いローランドに向かって、母は大人の男性に話すように一家の困難を訴えました。貧乏のつらさをいやというほど味わって、彼は成長します。彼はまた、母親が郵便配達を恐れているのを見ました。家には

郵便料金を支払うお金がありませんでした。

子供達は各自多くの仕事を割り当てられ、よく働きました。11歳で父の助教についたローランドは12歳で学業を終え、教師に転じました。物の考え方、知識に対する強い関心を教えました。父は、広い視野を持ち、自己中心の思考に陥ることのないよう教えました。彼は生まれながらの自信家でした。数年も経ず、教育の古い概念を全てひっくり返し、自分流のシステムに再構築しました。体罰の全面禁止、そして完全な民主主義。若きローランド・ヒルが書いた「公教育」のシステム本は、何度か手直しを経て世に知れ亘るものとなりました。30歳でロンドン近郊に分校を設立。しかし多年の働き過ぎで健康を害し、長期の休養を余儀なくされます。校長職に嫌気がさしたローランドは、もっと自由にものの言える職を求め、弟のアーサーに学校をまかせ、改良法案作りに精を出します。出版したのは「貧困と犯罪の漸減策」でした。

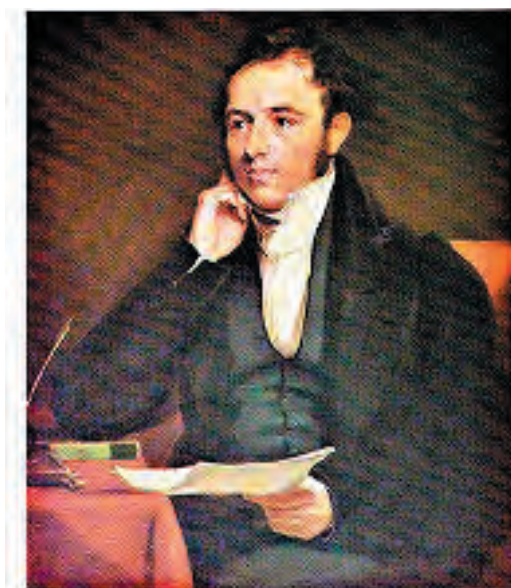
当時の郵便事情はひどいものでした。11,000行政区に郵便局は3,000しか存在せず、郵便が届かない地区も多く、料金も高額でした。封筒はまだ使われず、便箋一枚をロンドンからエジンバラへ送ると1シル麗ペンス。領収書の中に入れてダブルレター扱いで倍額の2シル3ペンス。重量は不問で、大きな紙に書いてもシングルレター。ティッシュペーパー2枚に書くとダブルレターとなりました。上流階級には料金無料の特権が与えられ、大抵タダでした。王族、議員、僧侶達です。商人達も違法の手段で通信費を安くしており、一般大衆に付けが廻っていたのです。

手紙を出したくても郵税が払えません。子供が成長して働きに出ても消息を知ることが出来ず、親が働きに出れば留守家族は音信不通。この状況は20年もの間続きました。

1835年のこと、一般歳入が大幅な黒字を計上しました。ローランド・ヒルはこの金

をうまく使って、郵便改革に取り組むことを思いつきました。手紙につぎ込まれる税ほどつまらないものはない。彼は郵便局調査に着手します。大発明の多くは何かの幸運に恵まれた結果です。ニュートンの万有引力の法則は、リンゴが落下した途端に生まれました。それまでリンゴは落下することがなかったかの如く。ローランドがひらめいたのは、英国全土にたった1ペニーで、しかも黒字で郵便を届けようというものでした。しかしローランドの案は、長年に亘る調査と計算に基づいたものでした。

時の郵政長官は、年間の郵便量を1億7千万通と云ったり、僅か4千2百万通と変更したりで正しい統計を知るのは困難でした。ローランドは、とにかく郵便配送のコストは誠に僅かな金額であることを掴みました。さらに郵便局は欠陥だらけで、再構築の為、大胆なプランを作り、1837年に「郵便改革」という有名なパンフレットを発表しました。ところが郵政本省のお偉方には、馬鹿げた代物と一顧だにされません。一方、民衆には歓迎され、実現に向けた協会が結成され、議会には請願が殺到しました。1838年下院に審議会が生まれます。そして一票差のきわどい採決で法案は通過したのです。



花本前会長が名誉教授に

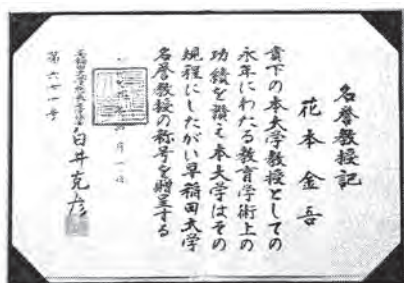
花本金吾稲門フィラテリー前会長は、1月19日8号館にて「英和辞書編纂の一側面」と題した最終講義を行い、3月末をもって早稲田大学法学部教授を退任されました。花本先生は早大レスリング部部長もされていたこともあって、この講義には早大レスリング部部員も出席、講義終了後部員から先生に花束が贈られました。

4月には、花本先生に早稲田大学名誉教授称号贈呈が決定、6月29日にその贈呈式がありました。写真はそのとき贈呈された証書です。

先生は『立派な証書と身分証明書をいただきました。3月末退任に伴い長年肌身離さず持っていた身分証明書を返却した際は、まったく身分を証明する物がなくなる寂しさを一瞬感じましたが、今回生涯有効な身分証を頂き、嬉しく思いました。』と話されました。

付記、名誉教授に関する大学の規定：

早稲田大学は、教授として原則満20年以上在職し、教育または学術上の功績が顕著な者に対して、名誉教職員規定により名誉教授の称号を授与する。



編集後記

サハラ砂漠にある世界遺産タッシリナジェールの壁画には、川が流れ緑が茂り、多くの動物が住んでいた様子がうかがわれるそうです。何千年かかかってゆるやかに地球が暖かくなっているのですが、ここ数十年は、かつてないものすごいスピードで温暖化が進んでいるのが実感されるようです。皆様にはおかれましては、お身体を大切にこの夏を乗りきられますように。

本号を印刷にまわす直前、早稲田実業の夏の甲子園初優勝が決まりました!! 今度は秋季・六大学野球の優勝を期待したいものです。

大隈講堂の姿が見えなくなった

5月30日、大隈講堂のまわりに工事用足場が組み立てられはじまっていた。

7月15日、すっかり白いボードで覆われてしまっていた。でっかい四角い積み木を組み合わせて作った大隈講堂の模型のように見えた。外観はそのまま内部が改修されるとのこと。

2007年9月の改修工事完了が楽しみである。

夏の切手展への参加者

サマーペックス'06(大手町:ていぱーく)
池澤克就氏 「湘南物語」

分科会活動報告(切手教室)

◎「第42回切手教室」(6月3日)

甲斐正三氏 「映画と切手」

池澤克就氏 「文化人切手」

◎「第43回切手教室」(7月1日)

池澤克就氏 「海外旅行と郵趣(アテネ)」

第三回郵趣会・交換会

◎「第44回切手教室」(8月5日)

小西邦彦氏 「郵便の父」

ローランド・ヒルの人物像」

小川義博氏 「グラフに見る切手の発行」

住所変更のお知らせ

和波 久基

146-0092 東京都大田区下丸子 2-24-10

多摩川ハイム 3-1103

電話:03-3758-0211

発行日:2006年9月1日

発行:稲門フィラテリー

発行人:小西邦彦一

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座:00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当:湯川宗昭・池澤克就

木元淳一郎・甲斐正三

稲門フィラテリー

第22号

2006年12月1日発行

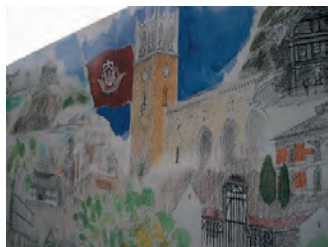
第7回稲門フィラテリー総会報告

青柳 次男

合格祈願で大隈さんの銅像に「お賽銭」を置いてきた。ご利益があって良かった。という話を耳にしていたので、そっと銅像の台座に目を遣りながら、いつもの7号館205号室に向かう。

10月22日、13時5分。稲門フィラテリー総会が始まった。もう7回目になる。窓の下では、ハイソサエティ・オーケストラが、開会を宣言するように校歌の演奏を始めた。磯野幹事の紹介で壇上に上がった小西会長は、「時代の変化によって人間関係はゆるくなっていくが、そんな中で、我々のような年齢層の集まりは、大変重要な役割を果たすのではないか。会員一同、益々、積極的に参加して会を盛り上げて欲しい」と挨拶。続く、過去1年間の活動報告では、退任される甲斐幹事の編集活動と、切手教室に関する宮鍋幹事の活動に謝辞を述べたあと、本年度は、Bring Your Ownの気持ちで、切手に関係の無い自分の経験でも自慢話でも、何でも良いから会報に発表する等、活発な活動を期待する、と話を結んだ。

磯野幹事から、学校の「125周年記念フレーム切手発行計画」が紹介された後、石井幹事の会計報告、住吉幹事の監査報告と議事は順調に進み、



建替中商学部校舎フェスの大隈講堂切手原作者 藪野画伯のスケッチ

役員改選の説明が終了したところで、一括して採決が行われ、全議題が出席者全員の拍手によって承認された。なお、渡辺洋、甲斐正三の2氏が幹事を退任され、諸田志郎氏が

会計監査から総務に変わり、新任幹事として三村正光氏（総務）、坂下泰一氏（会計監査）が選任された。総会出席者数31名。

「早大入試にみる英語問題の変遷」と題する、前会長花本先生の講演は、先生の出身地、島根県石見地区の話から始まった。——津和野市からは西周、森鷗外が出ているが、この二人は文化人切手になっている。この点で、私の出身地は「切手」に関係がある。更に、出身地の近くからは、雪舟、柿本人麻呂、徳川無声、島村抱月らが輩出し、現在、石見銀山は「世界遺産」に登録推進中である——その故郷を出てから早稲田で英語教師の職を得、辞書の編纂等に力を注ぎ、レスリング部部長、切手研究会会長をつとめられ、本年3月に定年で退任されるまで、最近の英語入試問題の傾向やTOEFL、TOEICの様子に触れながら、時にユーモア



花本先生

を交え、お話頂いた。先生は、現在、益々ご活躍中で、10月24日には、「基礎英作文問題精講（改訂版）」を出版されている。

花本前会長の乾杯で始まった懇親会は、最年少の出席者

和田会員の米国切手展入賞の話、市川会員の慶応OBとの野球の話等が紹介され、予定の2時間があっという間に過ぎてしまい、来年の再会を約束し、根岸会員の締めで、めでたくお開きとなった。昼間の好天とは違い、高田牧舎の外は秋の細い雨に濡れていた。（写真 磯野昭彦）



総会教室から見たホームミングデー銅像前風景

私感・モーツァルトその人

黒川 清知

私は1999年11月に早大切手研究会OB会によって発行された記念誌『早大切手研50年』に掲載された拙文「モーツァルト切手を楽しむ」の結びに「軽快な心地よいモーツァルトの曲を聴きながら、しかしどこか愁いを含んだメロディーを感じて、この天才音楽家をどう理解したらいいのだろうと思う」と書いています。

今私は、彼のピアノ協奏曲第23番(K488)を聴いています。第1楽章はアレグロ(明快に、喜びをもって)の表現がピッタリの楽章です。しかし第2楽章アダージョ(嬰へ短調)に移ると、哀愁を帯びたメロディーに変わります。

「彼をいかに理解したらいいのか」との自身の問いかけに対する答えを導く試みをと、丁度彼の生誕250周年である今年に加え、稲門フィラテリーの甲斐、小川両君の要請に何とか応えようと、世のモーツァルト愛好家の失笑、冷笑、苦笑を覚悟の上で、躊躇しながらもペンをとりました。

1756年1月27日父レーオポルト(37歳)母アンナ・マリーア(36歳)の第7子(内生存した子としては第2子)として、ヴォルフガング・アマデーウス・モーツァルトは、ザルツブルクで呱呱の声をあげました。今から丁度250年前、今年はモーツァルト年、世界各地で記念のコンサート、講演会、展覧会、出版等々そして記念の切手も祖国オー

ストリアを始め各国で多彩に発行されています。

●天才? 神童?

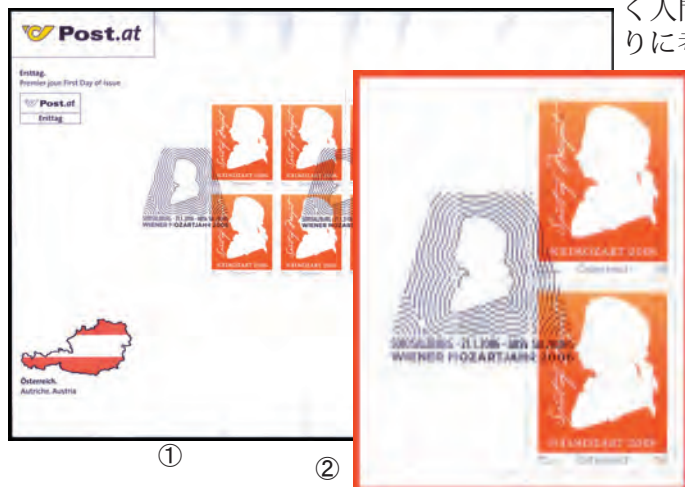
彼は幼い頃から作曲に楽器演奏にと非凡な能力を発揮したことは周知のことです。姉ナンネルの回想には、彼はすでに3歳でクラヴィーアで和音を弾き、4歳でメヌエットなどを上手に演奏し、そして5歳の時には作曲を始めたと記されています。

モーツァルト家と親しく、彼の幼い頃をよく知っているヨハン・アンドレアス・シャハトナー(ザルツブルク宮廷楽団のトランペット奏者)の回想には、彼4歳のおりいたずらのようなインクのしみだらけの、ペンの使い方もよく知らないような楽譜を、よく確かめると、それはきちんとした協奏曲であったといえます。また一度書いた楽譜をまったく修正しないなどという逸話から彼は天才、神童の称号がつけられました。

確かに神童ではありましたが、現代のモーツァルト研究では、彼といえどもスケッチを行い、手直しをして捨てるべきは捨て、時間をかけて推敲し、曲を作っていたことがわかっています。単なる直観派ではなく、知性派、思想家なのです。モーツァルトは普通の人間であり、「人生」をきわめて人間的に生きた人なんです。彼の天分が神の与えたものであったとしても、神の代理として超越的な音楽を作ったわけではなく、ごく人間的な問題意識の持ち主であり、彼なりに考え、苦労を重ねながら音楽を書いたと言えましょう。

●生誕地ザルツブルク嫌い

ザルツブルクは、その昔ローマ軍





④

の要塞の地で、見栄えのしない一寒村であったといいます。ずっと後になってライテナウという大司教が着任し、ローマを手本に大胆な街づくりを計画、その後の変遷を経て現在のこの町の形が出来上がりました。ザルツ (Salz) は塩 (塩が沢山とれた) ブルク (Burg) は城、城壁を意味し、交通、貿易の要衝の町でありましたが、しかしなんといってもこの町はあまりにも小さい、刺激がありません、オペラ劇場もなく、豊かな才能も発揮できず、このまま地方の音楽家として埋もれてしまうのだろうかと思ひます。父レーオポルトも、息子はこれでは音楽家として幸せにならないとやはり焦燥します。それには旅に出て息子を大都市の宮廷に就職させねばならない……………。

1771年の暮れ、それまでの大司教シュラッテンバッハが死去、翌年3月、ヒエロニムス・コロレドが後任の大司教として就任しました。この大司教は、前任者と違いおおらかさのない、秩序第一とする官僚的な君主であったといいます。この大司教はある程度音楽を理解していたそうですが、モーツァルトには、宿泊した部屋は召使いと一緒に、命令した度々の演奏や急いで作曲した作品にたいしては報酬も払わない、またモーツァルトが自ら進んで演奏活動しようとしても必ず邪魔をする態度に彼は我慢がなりません。大司教と度々衝突、折り合いが悪くなり、最終的には決裂するわけです。

モーツァルトにとってザルツブルクでの

生活は不満と忍耐の日々でした。刺激の乏しい田舎町、反りの合わない大司教、尊大な貴族たち、多額の借金、聴く耳を持たない人々のために作曲し演奏することは耐え難いことでした。「あの君主 A (大司教) が、傲慢な貴族たちが、ぼくには日増しに耐えられなくなるからです。だから、〈お前はもう要らない〉と、あの人たちが手紙でもよこしたら、どんなにか嬉しいだろうと思うくらいです」「ザルツブルクでは椅子やテーブルに聴かせているようなものです」などと父たちに手紙で訴えています。ああ「なにをかいわんや」です。

●旅のモーツァルト

「旅をしない人は〈少なくとも芸術や学問にたずさわる人たちでは〉まったく哀れな人間です。……凡庸な才能の人間は、旅をしようとしまいと、常に凡庸なままです」と人間形成の一助として旅を促らせ、そしてこうも書いています。「(旅では) 万事に気を配っています。御者への礼もぼくがすかさず支払っています。ああいう連中と話をつけるのは、やはりママよりぼくのほうがうまいですからね」

苦労も伴います。「とにかく八日間その馬車で耐えましたが、もうそれ以上我慢出来ませんでした。疲労のためではなく、というのは車輪のバネがよかったからで、もっぱら睡眠不足のためでした。御存じのとおり、ぼくは馬車の中では眠れないたちです。したがって、それ以上このような旅を



モーツァルトの旅した32の町

続ければ、病気になる危険さえありました。-----」(以上 1777～79 年母と同行のマインハイム、パリ旅行の際、ザルツブルク在住の父宛の手紙から)

彼が最初に旅に出たのは 6 歳になる直前の 1762 年 1 月。それから 19 年後にウィーンに定着するまで、手紙にしたためているように苛酷な郵便馬車で揺られ揺られて旅また旅の生活でした。旅した時間は、人生の三分の一にもなる 122 ヶ月ともいわれています。それが彼を短命にしたともいわれているようです。しかしその一方で訪れた 32 にものぼる音楽都市で得たものによって、彼は「真の天才」へと変貌を遂げたのではないのでしょうか。

彼は生涯に 17 回の旅をしています。その目的の一つ目は、神童ぶりを広く知らしめるための幼い頃の旅。第 1 回ミュンヘン、ウィーン旅行、そして西方への大旅行など、これらは神童としての評判で大成功、演奏家としての活動が前面に、そして 13～15 歳での第 1 回のイタリア旅行は、神童としてでなく大人としてと変化するわけです。これに続く第 2、3 回のイタリア旅行も依頼されたオペラを初演するため、一人前の作曲家としてみなされてくるわけです。

二つ目は、各地からの作品の依頼に応じ

るための旅行。第 2、3 回のミュンヘン、亡くなる 3 ヶ月前のプラハ旅行がこれになります。

三つ目は、就職活動のための旅行。常に就職のためのコネ探しはありましたが、就職活動を主とした旅行は、第 3 回ウィーンそしてマンハイム・パリ旅行が挙げられますが、両方の旅とも就職活動の面では失敗でした。

最後の晩年の旅、ベルリン、フランクフルトの旅。演奏会の収入などで、経済状態向上が目的でしたが、残念ながら彼の旅の中では、一番実りのない旅でした。

●父レーポルトそして父との葛藤

1719 年 11 月レーオポルトは、アウグスブルクにて製本師の息子として生まれ、1724 年イエズス会系のギムナジウムに入学、同系のリュケウム(現在の高校)進学、ザルツブルク大学入学、1739 年同大学退学、司教座参事の近侍、そして 1743 年ザルツブルク宮廷楽団員(第 4 ヴァイオリニスト)となり、1747 年アンナ・マリーアと結婚、7 人の子供が生まれますが、皆幼くして死に、わずかに第 4 子マリーア・アンナ(通称ナンネル)それと第 7 子のヴォルフガングのみが成長しました。1756 年 1 月ヴォルフガングが生まれますが、この年、レーオポルトは音楽史上に名を残す名著「ヴァイオリン教程」を出版します。翌年宮廷作曲家に任命、1763 年宮廷副楽長に任命され、以後ヴォルフガングを連れてヨーロッパ各地を旅行します。

1778 年妻は他界し、レーオポルトも 1787 年 5 月 26 日に亡くなりました。

「親たるものはその子供たちに自ら生活の糧を得るべき力を与えようと努力するものであり、これこそ自分の子らのためにも、また国家のためにも当然の責務であります。子供たちが神より才能を授けられておりますればおりますだけ、それだけいっそうそれを活かしまして、子供たち自身ならびに親たちの境遇を改善し、親を助け、自分たちの立身と将来について配慮すべき責務がございます・・・・・・」

このような方針のもとレーオポルトは早い時期から息子の類いまれな才能を見抜き、教師ならびに作曲家としての野心を捨て、すぐれた音楽教育の専門家として周到な指導を行なっていく





⑥

わけです。

ヴォルフガングの神童の噂は、ザルツブルク中に広がると、レーオポルトはこの小さな地方都市の評判だけでは満足せず、神から与えられたわが子の驚くべき天分を、できるだけ多くの人に示すことが、父親としての神聖な使命ではないか、少なからぬ名誉心も手伝ってレーオポルトをして旅に駆り立てるのでした。

しかしヴォルフガングが成人になるにつけ、この父親の教育パパぶりには、いささかウンザリしてきたようです。職さがしの旅であったマンハイム・パリの旅は、レーオポルトが病のため同行できなかったため母親との二人旅となりました。このとき父親は細かな指図を手紙で出し続けました。しかし職探しもままならず、その上、息子は初恋の人に夢中「名声と金を得て」「後世の人たちにまでも名を残すような音楽家たれ」と尻をたたき父親との間に軋轢が生じてきたのです。この旅行でヴォルフガングは、父親の束縛から開放され、自由にのびのびとする味を知ったのでしょう。父親の強硬な反対にも拘らずウィーンに定住を決意したのも、父親の許を離れたい一心があったとも思われます。

マンハイムのバス歌手でもある写譜係フランツ・フリードリッヒ・ヴェーバー家の次女アロイジアに思いを寄せるが振られ、彼女は俳優ランゲの妻となります。その後彼は妹のコンスタンツェを愛するようになり、1782年8月に結婚するわけですが、父レーオポルトは彼女の母親ヴェーバー夫人の評判のあまりよくないのを理由に最初はこの結婚を認めようとしませんでした。それまで頻繁だった父親との手紙のやりとりは、1784年以降、急に途絶えます。1785年2月から5月まで、レーオポルトはウィーンに来ていて、当地における息子の成功を

見ることはできましたが、父子の関係は改善に至りませんでした。この2年後レーオポルトは亡くなりました。

●恋と結婚

父レーオポルトは「本能そのものが私たちの敵だからです。必要な抑制にありとあらゆる思慮分別をはたらかせないものは、そこで思慮分別を使い尽くしても駄目でしょう」と息子ヴォルフガング・モーツァルトにこう論じています。

さてモーツァルトご本人はいかがだったのでしょうか、彼は幼児のころから人なつこく、人見知りせず、どんな人ともすぐに友達になれるような性格は終生変わりませんでした。この彼の「人間好き」のなかに、当然女性が含まれていることはいうまでもありません。「ぼくが冗談を言ったすべての人と結婚しなければならないとしたら、ざっと200人の妻を持たなくてはならないでしょう」(1781.7.25 父宛の手紙)

1777年に父方の叔父の娘すなわち従妹のアンナ・テークラ・モーツァルト(通称ベーズレ)とは、父の故郷アウクスブルクで会ったときから意気投合しました。彼女は「朗らか、頭がよい、可愛らしい、器用」とベタ惚れです。「最愛のベーズレ・兎ちゃん(ヘーズレ) なっかしいお手紙、たしかに受け取り・ぶんどり、ました。おじさん・どじさん・お婆さん・ろぼさん、そしてあなた・そなたが、お元気・お天気、だと分かりました・曲がりました。ぼくたちも、ありがたいことに、たいへん健康・頑固、です。……もうおやすみを言いたい。メリメリッと音を立てるほど、花壇にうんこをなさい。ぐっすりおやすみなさい、お尻を口まで伸ばして。……」駄洒落、



⑦

語呂合わせ、下がった言葉の連続、二人は思いっきり行儀悪くふざけ楽しんでます。折にふれ彼はベーズレにこのての手紙を送っています。これを所謂「糞尿(スカトロロジー)書簡」といいます。彼女とは深い仲であったようですが-----。

ところでヴェーバー家の娘、初恋の人アロイジーアは彼の求愛を冷たくはねつけました。「今日のぼくにはただ泣くことしかできません。----- お父さん、どうかすぐ返信のお手紙でぼくを慰めてください。-----」哀れなるかなモーツアルト、この年 1778.7.3 旅の疲れ、異郷での慣れない生活のためか最愛の母アンナ・マリーアが重病となり、パリで亡くなり、その上定職もない貧乏作曲家はこの失恋によって大きな打撃を受けるのです。

しかし 1781 年にウィーンに赴き、先ほどのアロイジーアの実家ヴェーバー家との交際が再開されます。この時は既に一家の当主は亡くなってウィーンに移住しており、未亡人は下宿を経営しておりました。

モーツアルトはウィーンでは、大司教コロレドとの雇用関係が切れ、自由な活動ができ、大いに張りきって作曲、度々の演奏会、ピアノ教師、楽譜出版と多忙な毎日それにオペラの仕事も舞い込み、人気上々の新進音楽家、その彼にヴェーバー夫人は娘の結婚相手として目を付けたのです。彼はこの下宿で厚遇され快適に暮らすうち、この家の三女でアロイジーアの妹コンスタンツェを愛するようになり、夫人の思う壺のようになったようです。

しかし父レーオポルトは、この結婚に終始反対しておりました。評判のよくないヴェーバー夫人に、世間知らずの人のいい我が息子がたぶらかされていると思っていたからです。事実夫人は結婚契約書に強制的に署名させ、最後には脅迫まがいでもーツアルトを追い詰めているようです。

「ご自分の息子が悪いことができる人間だと、お信じになれたとすれば、息子についてひどく思い違いをなさったことになりました。私はそれ(父の同意)をすっかり当てにしていたのです!.....」と彼は嘆いています。「あのひと(コンスタンツェ)の私に対する友情と愛は、とても大きかったので、喜んで.....最大の喜びをもって、自分の全生涯を、私の運命に捧げてくれました」(1782.8.7 父宛て)



⑧

かくして紆余曲折の末、レーオポルトもしぶしぶ折れて 1782.8.2 結婚式をあげました。彼 26 歳、コンスタンツェ 20 歳の年でした。

●暮らしぶり

ウィーンの音楽好きの商人でモーツアルトのほかハイドンとも親しかったミヒャエル・プーホベルクに、1788 年 6 月から亡くなった年の 91 年 6 月までの間、なんと 16 回にわたって合計 1451 フローリン(現在の日本円にして約 1451 万円)の借金をしています。

二頭立ての馬車、それも自前のを仕立てての度々の旅行、旅先での皇族、貴族達との交際・高価な衣服費といった身の丈以上の贅沢それに加えて浪費家の妻そしてその病弱の妻の治療費・温泉での湯治費用等々かなりの出費が重なったに違いありません。

また彼自身意識になかったかもしれないかもしれませんが、ウィーンの聴衆すなわち社交界の嗜好が次第に変わり、モーツアルトから遠ざかりつつあったことは否めません。そして彼のお金の使い方もあまり上手ではなかったようです。

「最愛、最上の友にして尊敬



⑨



⑩

すべき同志よ！困ったことです！
----あなたに見捨てられたら、私は不幸にも、罪もないのに、かわいそうな病気の妻と子供もろともに、破滅してしまいます。運命は残念ながら私に背を向けて、私がいくら稼ごうとしても、何ひとつ稼ぎにならないのです。私にもう500フロリーンを貸そうと思いいなるか、あるいは貸すことがおできになるかは、まったくあなたの次第なのです。ご援助がなければ、あなたの友人かつ同志（注）モーツァルト自身のこと）の名誉も平安も、そしておそらく生命も滅んで行くことを、お考え下さい。」
（1789.7.12 プーホベルク宛）

こんな脅迫じみた借金の申し込みもしているんですね。

世の人々は、「ウィーンに出てきてからのモーツァルトは、初めは売れっ子で収入も相当あったが、徐々に人気が落ち込み、最後は貧困と失意のうちに亡くなった」と解釈、私もその例外ではありませんでした。これは英雄、天才は生前には不幸である、いや不幸であってほしいという伝記対しての我々が抱く願望の一つかもしれません。

しかし近年この解釈に疑問がつけられたそうです。彼は天才、けっこうお金も稼いで、幸せな生涯であったというわけです。ウィーン時代前半は、高額作曲料、ご祝儀付きの演奏会、ピアノのレッスン料の収入でかなりのリッチな生活だったようです。

しかし彼の借金は生前は返されずに残りました。妻コンスタンツェは悪妻であったとの説が有力ですが、モーツァルトは結婚生活は幸せだったようです。離れて暮らしている時は、妻にかなりの熱い思いの手紙を頻繁に書いています。彼の死後コンスタンツェは再婚しましたが、以前とは違いつつましく家計をやり繰りし、彼が残した借金を完済したそうです。

彼には6人の子供が誕生していますが、成人したのは2人だけです。4人は生後まもなく死んでいます。彼は子煩悩だったといわれています。特に初めての女の子を亡くした時の嘆きようは大変だったようです。

また父の説得を無視して結婚をしてからは、姉とも疎遠になりました。

以上6つの観点から、モーツァルトとい



⑪



⑫

う偉大なる音楽家を見たわけですが、私には、正直ますますこの人が分からなくなりました。そうでしょう、専門的に研究したわけでもありませんし、ただ音楽が好きと言うだけで、皮相的に表面をなぞっただけですから。

従って冒頭に書いた「どう理解したら……」の自問自答の答えは、私の頭の中で混乱を来しているようです。ただ、彼は人生をきわめて人間的に生きてきた、普通の人である、故郷を忌み嫌い、雇用主への憎しみ、失恋を味わい、最愛の母を同行した異郷で亡くし、旅の肉体的苦しみ、結婚を父に反対され、その挙句の葛藤、姉弟との疎遠、膨大な借金、妻の病氣、ほとんどの子供の早世、栄光と凋落これだけいろいろな経験をしたらかなりのストレスがあったと思われそうですが……。

普通の人間であれば、その度に有頂天、嬉しさ、悲しさ、憂いに、弾んだり、落ちこんだり当然するでしょう。彼とても同じではなかったのか、そんな折々の心の状態が曲の中に無意識に潜んでいるのではないか、そんな解釈をして自分自身を納得させている私です。お笑い下さい。

にもかかわらず、彼の曲は、その多くに脳の中樞神経系に作用する高い周波数の音が含まれ、また一定の音の波形がシンプルにくり返される「ゆらぎ」の効果があり、脳の神経系、特に「副交感神経」に刺激を与え、これを活性化することで体をリラックスさせるという学者もおり、「癒し」の音楽の代表ともいわれています。35年の短くそして太い生涯、ゆうに600を超える多くの曲が全世界の人に今でも愛されている偉大な音楽家モーツァルト、1791年12月5日生涯を閉じる。時に午前0時55分

（了）

切手説明①オーストリアFDC ザルツブルグ②ザルツブルグ初日印③オーストリア④アンチグア・バブダ⑤フランス オペラ6種⑥ブルガリア⑦ドイツ⑧モナコ⑨ベトナム⑩ポーランド⑪ベルギー⑫ポ

わたしのモーツァルトさま

吉沢 忠一

それは、〈音楽〉ではなくて、〈音〉から始まった。早稲田を卒業して間もなく、確か根岸先輩に誘われて、新宿の風月堂へ行き、「LPとはこんなにいい音がするものか」とクラシック音楽の虜になってしまったのである。〈音楽〉は二の次だから、動機としては不純と言うほかない。

当時、夜勤をやっていたので、残業料も多少あったためか、来日するオーケストラを全部聞いてやろう、という飛んでもない志を立てたが、間もなく札幌へ転勤して、その野望は中断してしまった。6年弱で東京へ戻ってきたが、独身時代よりも、懷は窮屈になり、思うようにキップが買えなくなった。それでも、忘れられないのは、1961年（昭和36年）のバーンスタイン指揮ニューヨークフィルのストラヴィンスキーと1975年（昭和50年）のベーム指揮ウィーンフィルのブラームスだ。両方とも、好みからすると、あまり聞かない作曲家なのに、引きずり込まれたのが凄い。

大阪在勤時代には、当時まだ元気だった辻静雄さん（辻調理師専門学校設立者）のお宅に呼ばれてご馳走になったことがある。フランスの白ワインは素晴らしかったが、料理の方はそれほどでもなかった。食堂には、カミュー・コロ（フランスの画家）のやや暗い大作が飾ってあり、各部屋には、イギリス製のスピーカーが鎮座していた。アメリカのJBLパラゴンという、当時、既製品としては最も高価なスピーカーで、発売されて間もないCDを、聞かせていただいたが、意外にも、音はたいしたことなかった。JBL社の名誉のために付け加えると、最近のS9800などは、臨場感といい、鮮明度といい、素晴らしい音を出す。いま、既製品で最も高価なシステムは、ドイツ製のアバンギャルドだろうか？最上位機種は、2000万円近くするし、すでに立派なオーディオルームを持っている人を別にすれ

ば、これを設置する部屋の方がよっぽど高くつくことだろう。デモを聞いたことがあるが、弦楽器のしなやかさが出ない荒っぽい音だった。

年を重ねるごとに、モーツァルトのCDが、手元に増えてきた。モーツァルトの作品の演奏は、非常に難しいと言う人が多い。関西のある大学のオーケストラの指揮をしていた知人は「ジュピターぐらいは、暗譜で全部覚えています、とにかく難しい」と嘆いていた。（ジュピターは、モーツァルトが作曲した最後の交響曲第41番。なお、モーツァルトが作曲した交響曲は、普通、48曲とか52曲とかとカウントされている）以前は、モーツァルトの曲を、優雅に演奏することが多かったようだが、最近では、強く、厳しく、演奏する指揮者やオーケストラによく出会う。いまでも、耳に残っているのは、ムラヴィンスキー（ソ連時代の巨匠）とレニングラードフィルの交響曲第39番で、鋼（はがね）のような演奏だった。

35歳で亡くなったモーツァルトが、もし60歳まで生きていたら、どんな曲を書いたのだろうか？と何時も空想している。しかし、死の半年前に作曲された、モテット〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉（3分弱の小曲）を聞いてみると、そこには、崇高な諦観とでも言いたいような美しさを感じられ、彼はもう神に近い存在で、その先を考えない方がよいのではないかと思ってしまう。この曲に限らず、モーツァルトには、素晴らしい教会音楽が沢山あり、あまり深刻ぶらないのがよい。3年程前、林輝子さんも参加して、溝の口の洗足学園で演奏された〈孤児院ミサ〉は、なんと12歳の時の作品で、日本であまり演奏されないのが不思議なくらいの名曲だ。

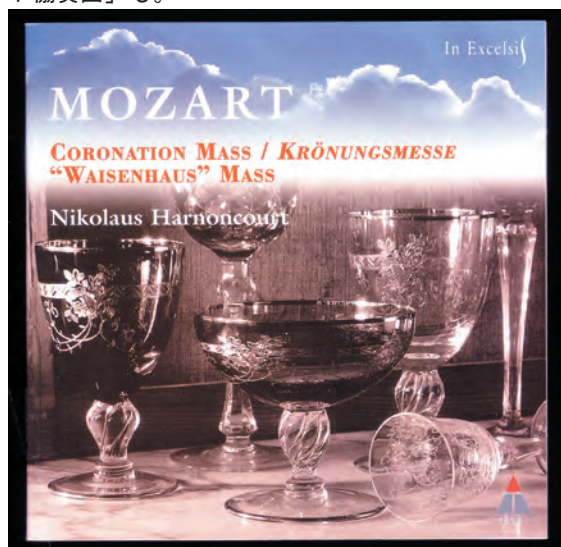
10年近く前、ウィーンへ行った時、もっとも驚いたのは、「近く、モーツァルトの遺骸が見つかるだろう」という話だった。ウィーン

大学の医学部は、凄い権限を持って、調査していて、「この間はハイドンがやられた（発掘された）」ともっともらしい話も聞いたが、半分は冗談だろうと思っていた。ところが、比較的最近、く問題の頭蓋骨は、彼のものとは確認できなかった」という記事が、日本の新聞にも出て、やはり、一生懸命、調査しているのかと感心してしまった。

私の好みでモーツァルトなどから4枚



モーツァルトの管楽器の協奏曲、楽しい曲ばかり、特に「クラリネット協奏曲」が秀逸、他に「ファゴット協奏曲」も。



アーノンクール指揮、モーツァルト「戴冠ミサ」と「孤児院ミサ」。彼はこの秋ウィーンフィルと来日

く死とは、モーツァルトが聞けなくなることだ」という台詞ほど、その音楽への心酔を表した言葉はあるまい。言ったのは、アインシュタインだそうだが、物理学者の方ではなくて、従兄弟にあたる音楽学者らしい。もう一人、スイスの神学者のバルトも言ったというが、モーツァルトの作品の中にく神を感じ取ったのだろうか？ 今日また、モーツァルト

を聴くとは、モーツァルト



録音は古いが、ワルターのモーツァルトは絶品 交響曲第39番と第41番。



シノーポリ指揮のマラーの交響曲第4番 生きている喜びを感じる曲、初録音はなんと日本。この指揮者は2001年4月、ベルリンで指揮中に倒れて死亡、日本でも話題になった。

教科書の話

額賀 健

出版社に入って41年、そのうち35年を教科書の編集に携わってきた。教科書は高校の国語の教科書である。そこに掲載されている作品について「切手」を挿絵としながら記してみようと思う。

◎定番教材について

教科書には定番教材というものがある。この学年ではこの教材をぜひ教えたい、この教材が入っている教科書を使いたいといった、教師の要望の特に多い教材である。そこで高校の国語教科書についてそれらを挙げてみようと思うが、その前に高校の国語の必修時間について記す。高校3年間で必ず履修しなければならない単位数は4単位(実質1年間30週として120時間)で、あとはいわゆる選択である。つまり高校1年で週4時間国語の授業を受ければ、仮に2年、3年で全く国語の授業を受けなくても、「国語」の科目については卒業できるということである。少し前までは高校国語の必修の時間はこの2倍以上あった。今評判の「国家の品格」の著者藤原正彦先生ならずとも「もっと国語教育を大切にせよ」と言いたくなる。実際は多くの生徒は2年、3年で選択という形で国語を勉強することになるのであるが、ただ理科系の生徒の2年、3年での国語の履修は少ない。ここでは定番教材について、高校国語の必修の教科書(今は「国語総合」という科目。少し前までは「国語Ⅰ」、もっと前は「現代国語」と「古典」)を中心に考えたいと思うが、2年、3年の選択教科書に及ぶ場合もある。

「国語総合」は現代文・表現・古典(古文・漢文)の分野で成り立っているが、

まず、現代文の小説教材で見てみると、

○芥川龍之介の「羅生門」

昭和40年あたりから高校1年の教材と

して使われ始め、現在では、15種類ほどある高校1年用の教科書のほとんどで採用している。全国で5000校ほどある高校はこれら15種類の中から使用する教科書を選ぶことになる。教科書会社の競争は結構厳しい。

さて、小説の内容はというと、京の羅生門の2階で老婆が女の死体から髪の毛を引き抜いている、それを主人公である下人(げにん)が目撃する、その下人の心理の展開がこの小説のテーマである。「ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。」で始まり、「下人の行方は、だれも知らない。」という暗示的な1行で終わる。平安時代の説話「今昔物語集」から採ったこの小説は教科書で12ページほどの短編で教材としてちょうどよい長さであり、テーマ・筋も生徒の興味を引くにふさわしく、教師が教えるための小説入門として格好のものである、というところから長年にわたって採用されており、今や現代文小説教材の古典と言われるほどである。

高校1年用教材としてほかに、太宰治の「走れメロス」や森鷗外の「最期の一句」などがよく採られていたが、やがて中学の教材として採用されるようになり、高校から姿を消した。このように高校1年用の教材が中学教材に降りていくことがよくある。国語教材のレベルを決めるのは結構難しい。

次に2～3年用の小説として、

○中島敦「山月記」 夏目漱石「こころ」 森鷗外「舞姫」が挙げられる。「山月記」「こころ」は高校2年用、「舞姫」は3年用教材として定着して





いる。「山月記」は漢文脈調で漢字が多用され難しい漢語も多いが、人が虎に変身する話がカフカの短編小説「変身」を思わせ生徒の興味をひきつける。「こころ」

は長編の抜粋だが、Kが自殺する場面を中心に多く採られていて、「私」の、友人Kとの心の葛藤が高校生の共感を呼ぶ。そして「舞姫」は文語体で書かれているため、いまや古典の入門として扱われることもあるが、近代文学史上でも近代文学の古典として高く評価されている。

韻文教材（詩・短歌・俳句）では、まず詩として

○宮沢賢治「永訣の朝」は欠かせない。入門期で扱うにはやや長めということもあってか、高校2年あたりに置かれることが多い。妹トシの臨終の様子、トシの臨終の床での言葉「あめゆじゅとてちてけんじゃ」

という願いに「曲がった鉄砲玉のように」に雪の降り積もった外に飛び出してゆく賢治の妹を思う心情を感動的に描いている。

ほかに、詩人として必ず採り上げられるのは、高村光太郎（「道程」「レモン哀歌」など）・島崎藤村（「初恋」「小諸なる古城のほとり」など。「初恋」は中学教材としても採られている）・萩原朔太郎・中原中也などがある。

短歌・俳句教材で必ず採り上げられる歌人・俳

人として、

○歌人では正岡子規・与謝野晶子・石川啄木・北原白秋・斎藤茂吉など、俳人では高浜虚子・山口誓子などである。定番の歌ということではないが、与謝野晶子の歌集「みだれ髪」から「清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢



ふ人みなうつくしき」などはよく採られている。正岡子規は日本に野球というスポーツを紹介した人としても知られており、ふるさと切手の正岡子規はバットを持ったユニホーム姿が面白い。

高校1年用の教材の古典はすべてが定番作品であるといってもよいくらいである。

古文では、

○1年で「徒然草」、2年で「枕草子」、3年で「源氏物語」が各学年の中心教材とほぼ決まっている。もちろんいずれも抜粋であるが、必ず採られるのは冒頭部分である。「徒然草」は「つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて～」、「枕草子」は「春は曙。～」、「源氏物語」は「いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひたまひける中に～」で

始まる部分である。

ほかに物語では、

平安時代の「竹取物語」「伊勢物語」「大鏡」（「大鏡」



は2年以降の教科書に登場する）、鎌倉時代の「平家物語」などが多く採られている。「竹取物語」「平家物語」ではやはり冒頭部分が多い。それぞれ、有名な「今は昔、竹取



の翁といふ者ありけり。」「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。」で始まる一節である。もちろん冒頭だけ

ではなく、2、3のほかの箇所も載せる。「大鏡」は藤原道長の登場する部分が多く採られる。



○前述の「徒然草」「枕草子」は随筆というジャンルであるが、それに並べられるジャンルとして日記がある。日記では「土佐日記」と「更級日記」が多い。

紀貫之が土佐守の任を終えて帰京するまでの55日間の旅日記である「土佐日記」は「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。」の冒頭で知られている。

○次に、和歌と俳句・俳文では、「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」と芭蕉・蕪村・一茶の俳句、俳文「奥の細道」(芭蕉)である。「万葉集」の歌人は額田王・柿本人麻呂・大伴家持など、「古今集」は紀貫之・伊勢・小野小町など、「新古今集」は後鳥羽上皇・藤原定家・西行などの掲載が多い。例えば、額田王、伊勢、小野小町、藤原定家では、「君待つと我が恋ひ居れば我がやどの簾動かし秋の風吹く」(額田王)、「春霞立つを見捨ててゆく雁は花なき里に住みやならへる」(伊勢)、「思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを」(小野小町)、「見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の」と



まやの秋の夕暮れ」(藤原定家)などの歌がよく採られている。

○芭蕉・蕪村・一茶の句は、普通「奥の細道」が1年の教材であるため、2年以降に登場する。芭蕉の俳諧・紀行文「奥の細道」は冒頭の「旅立ち」と東北の「平泉」のところが最もよく採られている。中学の教材でもやはりこの部分が多く採られているが、古典は、現代文の場合ほど中学教材との重複をうるさく言われないのは、古典文法の学習などがやや高度になったり、内容の取り扱いが異なってきたりするからであろう。冒頭の「旅立ち」は「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。」の有名な文で始まる一節で、旅日記の書き出しの句「行く春や鳥鳴き魚の目は涙」が詠み込まれている。「平泉」には芭蕉の句が「夏草や兵(つわもの)どもが夢の跡」「五月雨の降り残してや光堂」の2句入っている。

◎ その他の教材について

切手に登場する人物だけ見ていくと、大江健三郎と川端康成、大江は随想・評論の分



野で、川端は短編小説で採られている。明治初期では、樋口一葉、幸田露伴ともに明治初期の擬古文体を学ぶというのが目的の1つである。ほかに俳句の中村汀女や「日本百名山」の著者として知られる深田久弥、古典の評論として本居宣長、最近登場しているものとしては、詩人の金子みす





ず、漫画の手塚治虫（鉄腕アトム）、田河水泡（のらくろ）、宇宙飛行士の毛利衛などである。これらは主に2年以降に学ぶ「現代文」などの選択用教科書に出てくるものであるが、高校国語の科目は数種類あるし、教科書も各科目10種類以上あるので切手にかかわるものはもっとあると思う。教科書は3～4年ごとに改訂され、ほぼ10年ごとに学習指導要領の改訂に伴って新版に切り替えられる。その度に新しい教材が発掘される。ほかに切手にかかわるものとしてはチェコの作家カレル・チャペックの小説「切手収集」を掲載した1年生用教科書などもある。

以上教材をいろいろ挙げてきたが、今は使われていないものもあるということをお断りしておきたい。

さて、最後に長年教科書の編集に携わってきて、多くの人たちとの出会いがあったが、中でも忘れられない言葉がある。それらを2～3記して終わりとする。

◎記憶に残る言葉

★小林秀雄「一度発表した文章に手を入れることはできない。どうしても訂正を求められるなら教科書への掲載を拒否する。」
「美を求める心」という講演を基にした文章に検定意見が付き部分的に訂正を依頼し

た際の返事である。「田子の浦ゆうち出でてみれば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りけり」という和歌を引用し、その解釈を「田子の浦から」としていたのを、今の解釈では「田子の浦を通して」とするのが一般の解釈になっている、その訂正を打診したときのものである。はがきに書かれた一文ではあるが、文芸評論家小林秀雄の執筆態度の厳しさが伝わってきて、その勢いのある筆跡とともに忘れがたい。

★中村雄二郎「自分の発した言葉は必ず自分に跳ね返ってくる。」

哲学者中村雄二郎の文章を教材として採用した際、その教材について語ってもらったときの発言である。思索者として当然のことだったかもしれないが、私には身の引き締まる思いであった。

★築島裕「額賀さん、教科書作りはもうやめよう。学者は自分の説が否定されたときは学者生命をかけて戦うんだよ。」

元東京大学教授、国語学者の築島裕先生に教科書の代表編者をお願いしていた「古典」の教科書が検定不合格の通知を受け先生に相談に行ったときの言葉である。不合格の表面上の理由は誤記・誤植が多いというものであったが、本当の理由は浄土真宗の經典「歎異抄」の単独掲載であったと思う。たとえ古典の教材として扱ったとしても今に生きる宗教の經典を1つだけ採り上げるのは偏っていると判断されたためである。その後道元の「正法眼蔵」を加えて2つにして出願し直し合格した。ふだん温厚な築島先生の内に秘めた学者としての情熱と厳しさを知らされた。

★時枝誠記「時候の挨拶というのは単なる挨拶ではないんだね。本当のことなんだね。」私が入社早々の頃、言語過程説で有名な国語学者時枝先生が来社し、たまたま編集長が不在で私が対応したときの先生の言葉である。先生は数日前に築地のがんセンターを退院され何かの用事で来られたのである。若造を相手にしばらく雑談されて帰って行かれた。そのときのしみじみと言われた言葉が今でも耳に残っている。数日後亡くなられたと記憶する。

高窓のある家

長谷部 晃

日本の民家シリーズの第一集に「富沢家住宅」というのがありました。群馬県中之条町にある茅葺き二階建ての養蚕農家の住宅です。養蚕は蚕を育て繭を作るわけですが、蚕の飼育場や繭の上族場として広い場所が必要です。そこは温度調節がしやすいことが必須条件です。蚕は湿気を嫌いますが、梅雨時に桑をたべ生長、上族します。そこで茅葺き屋根の二階建ての民家が造られたのです。一階は農家の生活の場、二階が蚕の生長の場と分けられました。茅葺きは換気を計りながら、保温にもいいという特徴があるそうです。

私は昨年来養蚕の記録を写真に撮っています。秩父は関東平野の周辺部として江戸時代の半ばから養蚕地帯として発展してきました。しかし戦後は絹の需要の減少に伴い養蚕は衰退の一路をたどってきました。これを記録に残したいと思い写真を撮り続けてきました。来春には写真集「養蚕のいま」を上梓の運びとなっています。この取材と「養蚕農家の住宅」を併せて書いてみたいと思います。

養蚕農家の戸数の変遷は図1の通りです。
(1895～1990年 5年ごと)

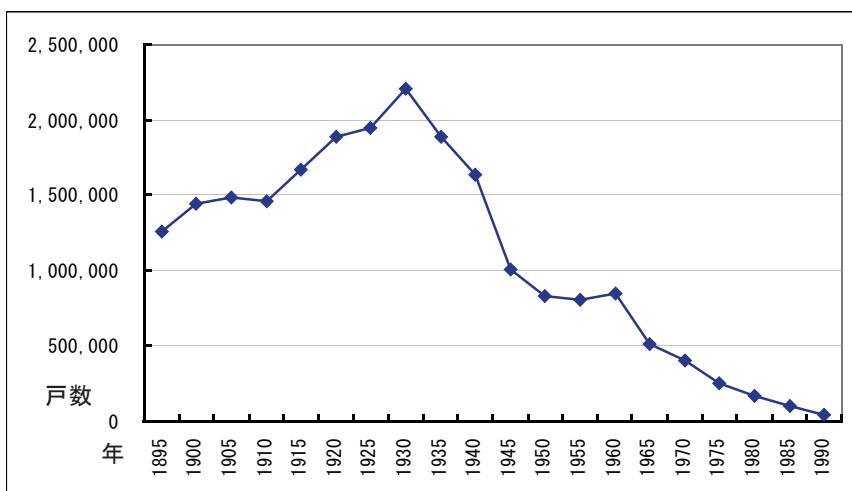


図1 養蚕農家の戸数変遷

日本全国でも埼玉県でも同様の傾向を示しています。大きな養蚕農家はこの中でも生き残っていますが、伝統産業の例に漏れず後継者不足



1997年民家シリーズ切手
富沢家住宅



写真1 本庄市児玉町秋山「高窓の郷」

で廃業するところが多く、現在養蚕を続けている人々も高齢化が進んでいます。30軒余の秩父の養蚕農家でも40代の方が最年少です。

養蚕農家の茅葺き屋根は激減しました。炭で暖をとり換気をするようになったからです。明治後半からは換気法として高窓が造られるようになりました。2階の屋根に小型の屋根を付け、天井を張らず空気抜きとし、



写真2 長瀬町矢那瀬

その真下の2階の床には炉がつくられ暖房用に炭が使われました。広い部屋を均等に暖房するためにいくつも炉と高窓を造ることもあったのです。

上越新幹線本庄早稲田駅の周辺案内図に「高窓の郷」という地区があります(写真1)。本庄市児玉町秋山地区です。かつて養蚕の盛んな地区で高窓のある家が多数ありました。最近では養蚕は行われなくなり高窓のある家だけが残りました。住宅の密閉製を高めるため改造され、高窓の窓が閉鎖されたり、二階の天井板が張られるようになりました。

高窓造りにもいくつかの形があります。茅葺屋根に一個の高窓を付けたものから、かわらぶき屋根に2~4個の高窓を付けたものまで多様です。また大きな高窓を付けたものもあります。農家の規模などによって違いがあるようです。高窓造の模範蚕室は本庄市児玉町にある旧児玉農高の競進社模範蚕室です。本庄市の文化財になっています。

養蚕をやめた農家が後継者が離農して村を去ったため高窓造りの住宅が朽ち果てているという例もあります(写真6)。



写真5 長瀬町岩田



写真3 本庄市児玉町秋山



写真4 長瀬町矢那瀬

時代と共に産業も住宅も変化します。これが歴史というものでしょう。かつてこのようなものがあったという遺構は保存が行われるべきです。ただ住宅などの場合は住んでいる人の問題があり、保存すると言うことが困難な場合もあります。さらにそれを含めた「景観」も重要な文化遺産です。その保存はさらに困難です。そこから記録に残しておくことも重要な課題になります。写真集などはこのために意義のあることだと思います。またその写真が切手に登場することは文化遺産の普及という点で意義のあることだと思います。



写真6 長瀬町矢那瀬

白虎隊と板東收容所切手

井上 武志

平成18年6月、松平健主演の映画「バルトの楽園」が封切られました。ご覧になられた方も多いのではないかと思います。この映画は、第一次大戦後に徳島の板東に收容された1千人のドイツ人捕虜と、会津出身の所長松江豊寿大佐（松平健）の交流をテーマにしたものです。収集家としては、收容所内で印刷された切手や絵葉書に興味をわきますが、ここはタイトルにそって話を進めることにします。



松江 豊寿

明治43年、時の通信省は官制改正を行い、全国に13の通信管理局を設置しました。地方郵政局の前身です。このとき任命された仙台通信管理局の初代工務部長は、会津白虎隊の生き残り飯沼貞雄（57才、旧名貞吉）でありました。飯沼は通信省の電信技士として官員人生をおくりましたが、戦いに敗れた会津のことを語ることはありませんでした。

慶応4年鳥羽伏見の戦いにより勃発した戊辰戦争は、東北にもおよび、薩長を主力とする西軍は四方から会津を包囲しました。会津藩主松平容保は戦力不足を補うために少年も白虎隊士としてとりあげ、飯沼も15才で入隊しました。

白虎隊士中二番隊の40余名は、同年8月猪苗代方面の戸ノ口原に出陣しました。少年達は、勢いにのる西軍の先鋒に破れて散り散りとなり、命からがら飯盛山にのがれてきました。ここで「鶴ヶ城」が炎上しているのを遠望して愕然とします。

事実は城下の民家が燃えていたのですが、20名の少年達はもはやこれまでと殿様の後を追って次々に自刃して果てました。飯沼もみなに遅れまいと、小刀でのどを突きました。

息子が足軽隊に属して出陣した農夫の妻が、息子を探しに飯盛山に登って、偶然に少年達の変わり果てた惨状を目にしました。そのなかに、見知った飯沼家の次男貞吉が虫の息で生きているのを見つけました。

背負って自宅につれ帰り、西軍兵士に発見されないよう納屋にかくまい、懸命に治療に努めました。若い飯沼は序々に体力を取り戻しましたが、敗戦により一藩あげて斗南（青森県むつ市）に流罪となるなかで表に出ることもかなわず、ひとり会津を去る決心をしました。

板東收容所長松江豊寿は、明治5年貧苦の斗南で、父久平の長男として生まれました。久平は会津最強の朱雀隊の参謀として越後を転戦したつわもので、薩長を見返せと幼い松江に厳しい教育をしました。赤貧洗うがごとき生活のなかで、学費が官費でまかなえるのは軍の学校です。松江は、当時全国に一校しかない最難関といわれた陸軍幼年学校に合格、軍人の道を歩むことになりました。

維新後、飯沼は貞吉を貞雄と改名し、文明開化のシンボルの電信技術を学ぶため、静岡に開校した工部省技術教場に入所しました。薩長

土肥の子弟優先ながら、藩校日新館の秀才といわれた飯沼は幸い合格することができました。

明治5年8月、卒業と同時に電信寮に技術等外見習として採用され、初任地はかつての敵地赤間関（長州下関）でありました。



電信創業100年記念切手

当時の電信・電報は公

用がほとんどで、反政府暴動が頻発するなかで重要な通信手段でした。勤務は、小倉、山口と敵地を転々としていましたが、西南戦争のときは「戊辰の仇討ち」とばかりに一段と仕事に励みました。

明治24年、広島電信建築区電信建築長の辞令をうけました。折りから日清間は風雲急をうけており、朝鮮にわたり、京城・釜山間に電信線を敷設することになりました。このとき飯沼は、洋服に刀を差し槍を携えて工夫達を督励しました。部下が「ピストルか銃でなければ危ない」と進言しますが、「自分は一度会津で死んだ身だ」と笑ってとりあいませんでした。戊辰戦争当時を思い出していたのでしょう。

日清の開戦後、緒戦の勝利を広島の大本営にいた明治天皇に伝えたのは、この飯沼が敷設した電信線でありました。

風貌がバタ臭い飯沼は、ドイツ人技師と馬をならべて仙台の町を行くと「異人さんが二人いる」と仙台っ子がはやしたそうです。

大正2年60才で定年退官、正五位勲四等に叙せられ、老後は市内光禅寺通の自宅で、囲碁と和歌を楽しみに悠々自適の生活をおくりました。



飯沼 貞雄

昭和3年年老いた飯沼に思いもかけない朗報が飛び込んできました。それは藩主松平容保公の孫娘節子（のちに勢津子と改名）姫が、昭和天皇の弟秩父宮妃に内定したとの知らせです。これで逆臣の汚名が晴れたと思わずうれし涙が流れました。会津若松では市をあげて盛大な提灯行列がおこなわれました。

新聞は、貞明皇后が女子学習院に行啓された折に松平節子姫を目にとめられたとの報道でしたが、貞明皇后の父は会津を攻撃した奥羽鎮撫総督九条道孝であり、会津人に哀れみのお気持ちがあったのかもしれない。

いよいよ死期が近づいたことを悟り、「自分の死後、もし会津の人が何かをもとめてきた

ならばこれを渡すように」と髪と歯を家人に託しました。出奔以来一度もなつかしい会津に帰郷せず、一人だけ生き残ったことを恥として、昭和6年6月飯沼は78年の波乱の生涯を仙台で終わりました。



坂東収容所切手2種（1918年もしくは1919年）

はがき用2銭

丘の上の日本監視哨

封書・小包用5銭

芝生と収容所建物

一方松江は、捕虜収容所長としてドイツ人に手ぬるいと陸軍上層部ににらまれ、少将で予備役に編入されました。長の陸軍に逆らい叱責を受けたとしても、敗者に厳しくあたることは出来ませんでした。有名な「坂東収容所切手」は、松江の寛大さによって生まれたものです。

大正11年、地元の人に乞われるまま、故郷会津若松の市長に就任しました。松江は市長となり、飯沼の語る白虎隊の悲劇を初めて知りました。自刃した飯盛山を墓苑として整備することに決め、会津出身の東大総長山川健次郎と、東武鉄道社長の根津嘉一郎に援助を求めました。大正14年、地元の若者の勤労奉仕によって、墓苑は見事に完成しました。松江は悲劇に散った十九人の郷土の先輩の慰霊をすることができました。

飯沼は、「卑怯者、死にぞこない、薩長の犬」などと永く会津人に罵倒されていました。しかし、死後26年を経過した昭和32年「遺髪と遺歯」が前島会仙台北支部の手により飯盛山に帰ることになり、墓苑の白虎隊士の墓の近くに、小さな「飯沼貞雄顕彰碑」が建立されました。

飯沼がなつかしい仲間のもとに戻ったときは、会津を出て90年が経過していました。西日に照らされた碑文には、「君と十九人の同志は泉下に手を執り合い満足の笑みを交わしていることであろう」と刻んでありました。

思い出の走馬灯

須藤 淳八

入学当初は、東中野から都バスで通学していたので、早稲田車庫の周辺の昔日のたたずまいは、今も記憶に新しい。「下町の太陽」のロケも、一部、ここで行われた。主演の賠償千恵子氏の父親が都電の運転士だったので、彼女も子供の頃からチンチン電車がだいすきだったと自叙伝にある。高校生だった吉永小百合氏と初めて出くわしたのが正門前。ロケ中の彼女の目はキラキラ輝いていた。この正門周辺も、学生運動が吹き荒れた日々があった。

今でも鮮明に記憶がある授業は、当時の商学部長、中島正信先生の経済原論。開講一番の咆哮－アウフ・ユーヴァーベルト・ワセダウニヴェルズテートー（世界に冠たる早稲田大学）。今で言うマインドコントロールであった。

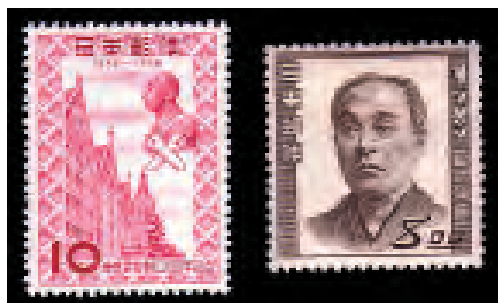
今もし存命なら115歳になる母校出身の父から聞かされた我が家の辿れし時に思いを馳せて選択した入交教授の「徳川幕藩体制崩壊過程の研究」。我が家は芝愛宕山下の田村家で江戸留守居役として7百石拝領していたが維新政府に七十石にされ、農地解放でパーになった。墓も麻布の臨濟宗から国元の曹洞宗の寺へ。郷里には今も、江戸詰めの先祖の墓石が多数、旧墓としてある。子供の頃はこんな重いものを、どのようにして運んできたのだろうと墓参のたびに思っていた。こんな思いがこの授業を選択させることになったのだろう。

苦手の会計学では、試験に際して、横尾氏から講義録を借り、引越しの際に紛失してしまったこと。ごめんなさい横尾君。

切手では戸塚スタンプの女社長と矢沢さんにお世話になった。切手研の何人かと初めてピザをご馳走になったのもその女社長からだった。この頃は目白に移っていた。ピザの

お土産を下宿の小母さんに持っていったら、これなんですかと云われた。ピザはまだ珍しい頃だった。その下宿の先代の住人は、後にハードボイルドの旗手となった「大藪晴彦」氏であった。このおばさんのご子息は、歩いて通えるワセダではなくケイオーに行った。

慶応といえば、当時の塾本部が、創立百年を祝して福沢翁の切手を額面に近い価格で放出するという報が入った。仕送りが来てスグだったので目一杯買い込んできた。少し残してかなりの金額で戸塚スタンプの矢沢氏に引き取ってもらった。その後、調子に乗って、切手業者のオークションに参加し、その場の雰囲気が高値で落札し、痛い目にあった。



甘い思いを抱かせてくれた慶応切手

物は違うが、2001年築地の初セリで、大間産の本マグロー本が2千万を超える高値で落札され正月の話題になった。その業者は間もなく廃業に追い込まれたというその場の勢いとは恐ろしいものである。

切手研に入って最初のカルチャーショックは、皆、麻雀がうまいし、好きだということだった。皆それぞれ全国有数の進学校出身なのである。二番目には年長組の先輩たちがオヤジ然と写ったことである。後に急折された横山先輩には静岡に行くたびにご馳走になった。合掌。

世の中は、駕籠に乗る人、担ぐ人、
その又、草鞋を作る人



2005年初夏の頃だったか、米国で、さ刷り飛行機切手未使用田型が史上最高値で落札されたニュースが新聞に載っていた。当時、米欧の株価や不動産価格、今ほどでもなく、欧米文化の懐の深さ感じられました。あの英領ギアナ切手高値を、はるかに上回る金額で。日本もブームが来るかも。だが、日本では、ゲームとやらが訪れても長続きはしないと思う。双方向性のある市場が形成されない限り。映画「シャレード」で有名なパリの青空市場は無理としても。

A woman in a dark coat is standing behind a newspaper kiosk, looking down at a newspaper. The kiosk is filled with various newspapers and magazines. The background shows a city street with buildings and trees.

右 映画に登場する切手とストーリー上でのカタログ値
左からテグラ・フィラスキリゲン 8 万 5 千 \$、ハワイ
アンブルー 6 万 5 千 \$、ガゼット・モルダーバ 10 万 \$。
残念ながら SCOTT には見つからない。



次 23 号は映画特集号



原稿募集

会報の原稿を募集しています。切手の話題、切手にまつわる思い出、学生時代の話し、現在の生活日記、趣味なんでも結構です。気楽にお考えいただき、ぜひ皆様の楽しく、貴重な原稿をお寄せください。お待ちしております。

会報 1 ページは 1600 ～ 1700 文字とお考えください。切手、写真等はお預かりして編集後に返却することも可能です。また、他の会報等に掲載したものはご遠慮ください。

会報に関するご意見、要望もぜひお寄せいただきたいと思います。会員の皆様と意思の疎通を十分に取ながら会報を作成していきたいと考えております。

本号より第 1 号よりの通算したページも外側下隅に表示することとしました。

編集後記

急遽、9 月の幹事会で会報の編集を個人的に任せられ、不安なスタートでした。一番心配であった原稿の集まりは皆様の快諾がえられました。次号が特集号であることを考慮すると本号に掲載できないと皆様の掲載が半年後の 6 月になることを思い、10 月はじめには増ページの問題を解決しなければならないといううれしい悩みを抱えました。幸い、会長、会計のゴーサインをいただき無事に発行できたことを幹事、執筆の皆様へ深く感謝します。また、今号に掲載できなかった原稿執筆者 4 名の方には深くお詫びします。(小川)

試作カラー版会報の配信

22 号は紙で印刷依頼ではなく電子 FILE で印刷依頼を試みました。従って PDF・FILE 形式のカラー会報ができてます。希望の方は MAIL で下記までお申し出ください。試験的に名簿記載の ADDRESS と確認のうえ返信 MAIL で添付・お届けします。

y-ogawa@bekkoame.ne.jp

早慶戦外野応援席が復活

ここ数年、伝統早慶戦で内野応援席にさえ空席がある試合もあった。ところが、作年の春の優勝がかからない早慶戦なのに、外野応援席が復活し、早稲田側外野応援席はほぼ満員。来年はハンカチ王子も加わり、さらに観衆が増えそうですね。ぜひ、過っての応援するとだんだん席がずり落ちていく芝生外野席を思い出し会員有志で集い、黄色い声に囲まれたいと思います。

OB 会員連絡先をお知らせ下さい

稲門フィラテリー会員住所録と一緒にお知らせしましたように連絡先の明らかな OB 会員が少なくなっています。会員名簿に記載されていない OB 会員およびその連絡先をご存知の方は事務局までお知らせください。

「ハリウッド映画再開

60 周年記念切手展」

会員の甲斐氏が個人で 11 月 23-26 日、目白の切手博物館で切手展を開催されました。日程的に今号では報告できませんでしたが、次号の映画特集号では詳しい紹介記事があることを考えます。

発行日：2006 年 12 月 1 日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F

(株) 英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座：00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当：小川義博 (臨時)

(湯川宗昭 池澤克就 木元淳一郎)

稲門フィラテリー

第23号

2007年3月1日発行



映画特集号に寄せて

小林 彰

昨年9月の例会時に甲斐正三さんが、編集でたいへんなのは原稿集めとの話をされ、合わせて11月に目白の切手の博物館で「ハリウッド映画再開60周年」に因み映画切手のミニペックスを開催予定と紹介されました。

格調の低い作品をトイレの臭いが漂う場末の映画館で見ていた中学時代以来、私も映画ファンの端くれで、映画切手展、しかも切手を中心ではなくプログラムやプロマイドが主体と聞けば、期待は大きく膨らみます。

例会後、恒例の高田馬場駅前「びあぐら」での懇親会。参加者は6～7名でした。甲斐さんが原稿集めはむずかしいとまたため息。横に座っていた西村壽一郎さんが、それなら映画の特集号を出したら如何と。私がこの名案に即座に賛成したのは言うまでもありません。その後、関係幹事の賛同を得て本特集号発行の運びとなったのです。

さて、映画切手展は予定通り11月23日から26日まで開催されました。切手の博物館3階の会場では等身大のマリリン・モンローが来場者を迎えてくれます。「7年目の浮気」で地上に吹き上げてくる地下鉄の風にス

カートをあおられているあのモンローです。

会場に一歩足を踏み入ると、「駅馬車」のジョン・ウェイン、「風と共に去りぬ」のクラーク・ゲーブルとビビアン・リー、「カサブランカ」ハンフリー・ボガードとイングリッド・バーグマン、「望郷」ジャン・ギャバン・・・名画と名優が300リーフに収まって参観者を魅了しています。その上、俳優の似顔絵が展示フレームのあちこちで微笑んでいます。その中の4人がフレーム切手になりました。数が少なく値打ちものです。

4日間の会期中の入場者は520名を超えた由。ミニペックスとしての新記録とか。ギネスものです。甲斐さんの個展だからなおすごい。熱心にメモを取る人も映画愛好家も作品を堪能していました。稲門フィラテリー会員も多数来場されましたが、足を運んだ方も運ばなかった方も、本号で改めて名画のシーンや名優の台詞など思い浮かべていただければ特集を提案した「甲斐」があります。

ところで、「早稲田大学」という映画があるのをご存知ですか。もちろん、大学の宣伝映画ではなく東映製作の一般映画です。詳細は黒川清知さんの記事をご一読ください。

「ハリウッド映画再開60周年」記念切手展を終えて

甲斐 正三

再開から60年を記念

さきの大戦中、交戦国の映画は上映が禁止されたが、2006年は戦争が終り 上映が再開されて丁度60年になる。1946年(昭和21年)2月28日、アメリカ映画の新作二本「キューリー夫人」と「春の序曲」が公開され、翌年にはイギリス、'48年にはフランスの新作が公開され、以降、映画の黄金時代を築いていく。

今回は60年の節目を記念して企画した個人のマイ・コレクション展である。再開から四半世紀の間に公開された馴染みの深い映画の数々を、アメリカ映画を中心にヨーロッパ、日本の映画を加えて、映画の好きな人にも紙上で楽しんで見てもらいたいと考えた切手展である。

展示会のもよう

目白・切手の博物館3階で11月23日から4日間にわたった展示会は、予想をはるかに超える普段のミニベックスの倍以上の500人を越える来場者をむかえ盛況のうちに終了した。

その喜びもさることながら、「いかがでしたか」と尋ねると、口々に「楽しかった!」、「懐かしかった!」、「とっても見易かった」と言葉が返ってきて心から楽しんでくれたことが肌で実感されたことの方がはるかに、そして何よりも嬉しかった。

いったん家に帰り、わざわざご自分の資料を持っ

て再度話をしに見えた方もおられた。いつものミニベックスとは雰囲気が違う、客層が違うと、協会の人が話しているのもよく耳に入ってきたし思いもかけず幾つも花束が届き「花束があるミニベックスは初めて」とも言われたりした。入口に立つ等身大のM・モンローにビックリされた人もいたようである。

記念小型印を使用し、スターの似顔絵をデザインしたフレーム切手や記念カバーも作成した。フレーム切手は自分自身の記念のためと思い小数しか作らなかったが、それも好評であった。

企画を話した時、映画の仕事とは全く無縁の世界に生きてきた私が、こんな展示を個人としてやることに若干の心配をされた人もいたようだが杞憂に終わったと感じている。展示したリーフの中から、何点か紹介しながら文を進めたい。

展示会のねらい

娯楽の少なかった学生時代、多い時は1年に120～130本の映画を見たであろうか。「映画」と言えば、最近見た映画、今迄に見た懐かしい映画などを思い出す。誰でもそれらの名画の思い出はなかなか消えるものではないであろう。

「映画作品」を切手や他のマテリアルを加えて「紙(リーフ)上で映画を見る」ことを考えたのはそのため、従来形の展示は最初から考えなかつた。

原形は02年春に「切手の博物館」で行なった個人の展示会にあり、そのコンセプトは今回も変わっていない。

04年6月の切手教室で「切手の楽しさ 三題」として

- 感性に訴える
- 品良く美しい・きれい
- 誰にでも説明なしで分る・面白いと話したことがある。それを個展



として実現し、受け入れられたことが実感されたのは喜びであった。

展示の内容と構成

最終的に採り上げた映画は、サイレント（無声）映画を含めて約 120（アメリカ：75、ヨーロッパ：35、日本：10）、リーフで 280 になる。紙上で映画を見ることが狙いなので、映画の概要を紹介する必要があると考え「世界映画作品大辞典」（キネマ旬報社 1970 年発行）から使わせてもらうことで同社の了解を得た。辞典に採録された映画誕生期から 1970 年までの内外の代表的な作品 1,800 本から引用したものが殆どである。因みにキネマ旬報ベストテンは、アカデミー賞より 3、4 年早く世界で最も古い歴史を持つと思われる。

具体的な構成は、採り上げる個々の「映画作品」を① 関係する切手、② 映画のパンフレット、③ スチール写真・絵葉書で計 2 リーフにまとめることを原則とした。実際にはこの三つは簡単には揃わず、「禁じられた遊び」、「天井桟敷の人々」など諦めざるを得なかった映画も多い。

切手は国の文化、歴史、風物などを表すものとも相変わらず思い込んでいる私は、関係の深い国が発行した切手を対象としている。と言うのも、切手や映画を通して自然に知った国々の文化、歴史、風物などがいかに多かったかを身にしみて感じているからである。

近年、アフリカやカリブ海の一部の国が外貨獲得手段として乱発する映画切手は実に多いが自国とは全く無関係であり、これらは原則として使用を控えた。

関係する切手には、映画作品、俳優、監督、音楽家のほか、原作者、舞台となった場所、時代背景なども含めている。「駅馬車」ならモニュメント・ヴァレーを抜かすわけには行かないし、「第三の男」と「チター」、ウィーンの「大観覧車」は切っても切り離せない。「駅馬車」は戦前に公開され評判だけを耳にしていたので、三本立て専門であった私が待ちこがれてロードショウの東劇まで見に行った例外的な映画である。01 年 8 月末にモニュメント・ヴァレーへ行ったのは「駅馬車」の舞台を見

たいがためであった。帰国して 10 日後、ニューヨークで同時多発テロが発生したことは忘れようがない。

20 年位前、仕事でドイツのガルミッシュ・パルテンキルヒェンに泊まった晩、チターでこの曲が演奏されるのを目の当たりにした時はかなり興奮したものである。公開当時、タイトルバックに動く弦がどのような楽器であるか誰も知らず話題になったことを思い出す。

一方、パンフレットを調べ直し新たに発見したことも多い。「舞踏会の手帖」や「モンパルナスの



灯」のパンフレットを読み直して、なんと主演 3 人が切手になっていることを知ったのは、つい最近のことである。急遽作品を入れ替えて展示に組み入れることにしたが、こうしたことは数え切れない。

見易いように

見易さについても 120 もの作品をどの順序で並べたら見易いか意を用いた点である。「サイレント時代」と「トーキー初期の時代」は国をこえてま

とめ、以降は国別、年代順とし、アメリカ映画の場合はさらにジャンル別、その中で年代順とした。モンロー、A・ヘップバーンやヒッチコックらは個人単位でまとめている。続いて「世界の代表的な映画切手」、「日本映画史（江崎次郎氏賛助出品）」で全体の構成とした。

4段の展示用パネルで中2段だけを用いたのも、今までの経験から4段をフルに使うと重くなるのを避けたためである。

パンフレットを千鳥形に並べたり、リーフ内の文字を極力押さえて読まずに 見ただけで分るようにしたのも同じ目的で、「誰にでも説明なしで分る」ことを目指した一つの表れである。

「これ全部ご自分のもの!」、「全部ご自分で作ったの!」と驚かれた方もかなりいたが、280 リーフを一人で作るのは大変ではあったものの、統一感を持たせることが出来て良かったと思っている。

関係する切手

アメリカ映画が全体の6割を占めるのは、公開された映画の本数が多いだけではなく、映画の切手が非常に多いからでもある。

映画王国アメリカは、映画100年にあたる1995年に始まる「ハリウッドの伝説」シリーズは第1弾としてマリリン・モンローの切手を発行、昨年で12人を数える。他にも音楽家など非常に多い。200年強の歴史の中で、映画が代表的な文化という位置付けもあるのではないかと考えている。M・モンローの切手が発行された丁度この頃、初めてアメリカ郵政のホームページを開いて、モンローの切手が画面いっぱいに広がった時の印象は忘れがたい。

それに比べてヨーロッパの国は、映画関係の切手は数では及ばないが、他に誇るべき文化が多々あるからでもあろう。とは言え、フランス、イタリアなどは見るべき映画切手は少なくない。

「ローマの休日」ほど日本人に愛されている映画はないかもしれない。ローマの名所が何ヶ所も出てくるが、意外にもイタリアにはいい切手が少ない。フランスは02年から首都シリーズを発行、第一回としてローマを採り上げたが水彩画風の美しい小型シートである。思いきってシートをくずし、これを使ってリーフにまとめた。直接関係するとは言いがたいのだが。



展示もせまった10月初め、オーストリア郵政から冊子が届いた。なんと映画「サウンド・オブ・ミュージック」切手帳（英語と日本語）が紹介されているのではないか。中にはフレーム切手が9種含まれている。オーストリア郵政自身がこの切手帳のためにだけ発行した切手である。即日発注し、展示に間にあえば差し替えようと考えていたが、届いたのは展示の終わった翌日であった。

日本の映画切手は非常に少なかったが、展示一月半前の10月に「日本映画」Ⅰ、Ⅱが発行されたのはまことにグッド・タイミングであった。

映画のパフレットが残っていた



した時が、「映画」と「切手」の二つがドッキングする最初のキッカケになった。

「映画」と「切手」が結びつくもう一つの大きいキッカケは、150枚を越える当時の映画のパフレットが捨てられずに実家にそのまま残っていたことである。映画が好きだった兄や姉が買ったパフレットも多い。

昭和20年代前半のものは印刷も紙質も悪いのは当然で、さわるとボロボロになりそうなものもある。それにしてもよく残ったものである。この頃は奥付がなく発行日が分らず作品の展示順序を決める時に困ったが、裏面に化粧品や喫茶店の広告が多いのも時代を感じさせて面白い。

書き込みのある英和対訳シナリオが数冊あるのは兄たちが英語の勉強をしたのであろう。イギリス映画「ヘンリー五世」（昭和23年）のシナリオ

もある。「シェークスピアを原文で読む会」のKさんに何気なくその話をしたら、会の誰もがそのようなものの存在を知らず、ちょっとした話題になったそうである。傷みがすすんでいて簡単にコピーのとれる状態ではないのが惜しまれる。

これらのパンフレットが残っていなかったなら今回の展示会はなかったかもしれない。当時一緒に映画を見た友達が多いが、聞いてみてもほとんど残っていないと言う。

スチール写真・絵葉書

スチール写真や絵葉書は映画を語るには格好の材料である。高校時代、文化祭のために映画会社を訪ねて写真をもらったことがある。「第三の男」、「会議は踊る」などはその時のもの、それからもう半世紀が経っている。最近、古書店で探すこともあり、たまたま「王様と私」、「慕情」などの写真を見つけるとすぐ求めてしまう。割と安いので助かるが、この時代のものは少ない。

3年前の夏、ロサンゼルスに赴任中の次男の所へ遊びに行き一実是最愛の孫に逢いに行ったのだが—そこからアトランタまで一人で往復したこと





がある。「風と共に去りぬ」の原作者「M・ミッチェル記念館」へ行くのが唯一の目的であり、一日をゆっくりアトランタで過ごした。記念館はM・ミッチェル本人の展示品がほとんどで映画関係の展示は少なかったが、グッズ・コーナーには映画関連のものがかなり置いてあったので、日本人形の前に立つM・ミッチェルの絵葉書などを買い求めた。日本での出版記念に贈呈されたものであろう。今回これも展示に加えている。

淀川さんからの葉書

1930年代、ドイツ、オーストリア映画は全盛を極めるが、私はこれらの作品に強く惹かれることが多い。今度の展示会でも「一番好きな映画は？」と何人からも聞かれ、「会議は踊る」(1931)と答えている。高校生の頃、この映画を見た時、「こんなに楽しい映画があるのか」と思ったし、すぐにEPレコード(45回転)を買って一月以上毎日欠かさず何回も聞いて歌詞をスッカリ覚えてしまった。プレイヤーはもうないので聞くことは出来ないが、そのレコードは今も大事に持っている。

当時は海外へ出ることなど夢にも考えられな

かったが、1971年夏に初めて外国へ行った時にウィーンを訪れ、一晚、郊外のホイリゲでワインを飲む機会に恵まれた。劇中ロシア皇帝と花売娘クリステルが楽しい一晚を過ごすのがホイリゲである。場所は異なるであろうが、ここがあほのホイリゲなのか感慨ひとしおであった。

戦後は映画の復興が著しく停滞したこともあって見る機会は非常に少ない。94年秋、思い余って淀川長治氏へ、こんな思い出を書きながらビデオが入手出来ないかと手紙を書いたことがある。しばらくしてから届いたその葉書も今回展示に加えたが、「なぜ淀川さんからの手紙を持っているのですか？」と何人からも聞かれている。

展示にいたるまで

ふり返って見ると、ミニベックスの申込みをしたのが一昨年12月、それから小一年が経っている。昨年4月のスタンプショウには同様な趣旨で65リーフを出品したが、それを大幅に質・量を拡大、充実させ280リーフにまとめたものである。準備は早目に終えるようにしていたが、会期が近付くにつれ連日リーフの見直しや当初は予定していなかった準備に追われた。

この展示は是非映画ファンにも見て欲しいと言う思いは最初からあった。京橋のフィルム・センター(国立近代美術館別館)へ時たま映画を見に行き、また今回は図書室へデータ調べに何回も通っている。その時、フロアにいろいろなパンフレットが置いてあるので、フト思いつきダメモトと思いつつ尋ねると、当展示会のパンフレットを置いてくれると言うではないか。これは嬉しかった！実際に置いたのは10月末。フィルムセンターの方も展示会に見えていることが分り、終了後、挨拶に行き直接話が出来たのは幸いであった。

毎日新聞社に働きかけて竹橋まで資料を届けに行っている。展示1週間前の15日朝、真っ先に新聞を開いた時あまり大きく採り上げられていてビックリしたものである。会場へこの新聞を持ってきて、これを見て来ました、と言う方もおられた。これらも全て自分がやっているのだから、努力が報われたとの思いが強い。

協力者のこと

この展示には多くの協力者を得て、楽しい雰囲気
を盛り上げるのに大いに力があつた。

静岡の江寄次郎氏からは賛助出品として「日本映画史」5フレームの出展に快諾いただいた。

日本映画撮影監督協会の青木圭司氏は、10年以上前から映画切手発行に並々ならぬ努力をされているが、今回は記念シールなど提供いただき、ホンモノのカチンコをお借りして展示することが出来た。カチンコの実物を見たり手にするのは初めてで少し興奮したことを覚えている。

井本直恵氏が描かれたスターの美しい似顔絵も大好評で「どなたが描かれたのですか？」と何人から聞かれたであろうか。この絵は記念カバーのカシェ、フレーム切手に使わせていただいたし、小型印をデザインされたのも同氏である。

映画展を楽しくやろうと提案された平林健史氏は、壁面の構成から入口の等身大のモンローまで作成していただいた。

設営、立会い、撤収で協力いただいた方も多く、
稲フィア関係では、とくに小林彰氏に大変お世話
になった。

皆様にあらためて感謝申し上げます。

展示会のあと

「今度は何時やるのですか？その時は案内を下さい」と何人からも言われているが、喜びと同時に困ったなという気持ちもある。新しい企画を考える気持ちが一休みしているからである。考えてみると、気軽に楽しめる映画（切手）関係の展示会はあまりないのかもしれない。

今回はテーマが「映画」という普遍性の高いも

のであること、さらに展示のハッキリしたコンセプトを持っていたから出来たのではないかと考えている。「是非、本にすると良い」と熱心に薦める方も多く、展示作品のCD化を進めている。

展示がなくなって気がついたのだが、会場の雰囲気伝える写真がほとんどないことが惜しまれる。ともあれ自分でも満足できる展示会であった。

最後になるが、この展示に多々協力され、是非とも見て欲しいと思っていた稲フィラの会員でもある井上城氏は昨年5月卒然と逝った。無念である。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

[illegible]

無線通信の面白さと驚き、映画「空と海の間」

府川 宏昭

イタリア人のグリエルモ・マルコニーは1895(明治28)年に無線通信装置を発明し、1901(明治34)年12月12日、大西洋を横断する無線通信に成功しました。英のコーンウォールからカナダ、ニューファンドランド島のセント・ジョーンズまで、距離凡そ3400^{キロ}。送った語は確かたった1字、Sの符号だった、と記憶しています。



それから僅か数年後の明治37年に始まる日露戦争では、無線が早くも実用化され、翌38年5月27日、対馬沖でバルチック艦隊を発見

した信濃丸が、旗艦三笠にこれを打電しました。日本海海戦の火蓋が切って落とされたのです。

さて映画の話にしましょう。全世界には熱心なアマチュアの無線家がたくさんいて、日夜、短波で海と空を越えて交信していますが、この短波は気まぐれで、時には遥か彼方の遠隔地で受信されることもあります。

地味な映画、「空と海との間に」は、短波とアマチュア無線家が活躍する物語で、50年前、高校生の私がこの仏映画をどういう積りで観たのか、今となっては記憶が定かではありません。多分、無線の面白さに惹かれたのではないかと思います。

その粗筋を、少し長くなりますが、映画のパンフレットから拾ってみます。

物語の舞台は、ノルウェーの沿岸から2日

ほどの北氷洋、ノルウェー海に出漁していた1隻の漁船です。たぶんタラ(鱈、cod)を獲るトロール船だったのでしょう。

この船には、船長含め12人が乗り込んでいます。突然、1人の船員が奇妙な病気に罹って倒れました。船医などいません。

船長は病気の原因とその手当ての方法を確かめたく、無線で各地に呼掛けました。しかし、どこからも応答がありません。

無線機が故障していたのです。その内、次々に船員が倒れ、船長と航海士、それにアラブ人の3人を除いて、ほかの者は息も絶え絶えになってしまいました。

”船に悪魔が取り付いた!!”と、航海士は唯一の異教徒、アラブ人のせいになりました。ところが船長はアマチュア無線士で船内にも装置を備えていました。その短波で呼びかけてみれば、どこかのアマチュアが応答してくれるかもしれない、と考えました。それだけが倒れた船員を救うたった一つの手段だったのです。

救いを求めた電波は、何と真南に何千キロも離れたアフリカのトーゴに届き、物産店の白人経営者が受信したのです。白人はジャングルの中で回診している軍医を呼んで、危機に瀕した漁船と連絡、軍医と船長との交信で病気はハムの中毒と判明しました。

この漁船では唯1人のアラブ人を除いて全員がハムを食べていました。回教徒は、豚肉を食べません。豚は最下等の位置付けなのです。見るのも触るのも汚らしく、食べることも以ての外なのです。

アラブ人がハムを食べなかったのを目の敵に

していた航海士は、あくまでも回教徒を疫病神としていました。

時間は、夜の7時40分。翌朝の8時までに解毒の注射をしなければ、全員助からない。あと12時間しかなく、しかも、ハム中毒の血清はパリのパスツール研究所だけにしかないのです。

軍医は漁船を現在位置に停船させて待つように命じ、無線でパリを呼び出します。これに応じたのが18歳の若いアマチュア無線家でした。

無線家は軍医の指示で軍医の先輩医師を訪ねましたが、医師は1週間前に他界していました。医師の夫人は他人を救うどころではないと、嘆き哀しんでいましたが、無線家の懸命な説得にほだされてパスツール研究所へ赴き、血清を手に入れました。

2人はその足でオルリー空港に駆けつけましたが、冷酷な規則はおいそれと血清を運んではくれず、そのうち北へ飛ぶ飛行機はなくなってしまいました。しかし、ル・ブールジェ飛行場からは、まだミュンヘン行きの飛行機があると知らされます。

若い無線家は自宅へ跳んで帰り、ミュンヘンと呼び出し、ミュンヘンでは、盲目の中年男性が応答してきました。一方、医師の夫人がル・ブールジェ飛行場に着いた時、ミュンヘン行きは離陸したあとでした。

だが血清はベルリンへ飛ぶポーランドの客室乗務員に托されます。ミュンヘンでは、目が不自由な中年男性が杖を頼りに飛行場に行きましたが、パリから来た飛行機には血清は積まれていなかったのです。

医師夫人から事情を知った無線家が再びミュンヘンと呼び出したのは、夜半の2時を過ぎていました。盲人は米軍の病院に勤めている娘の手を借り、ベルリンの米空軍の軍曹に電話で頼み込みます。

軍曹はソ連地区の飛行場へ深夜侵入して、ポーランド機から血清を受取りましたが、帰路、ソ連の歩哨に捕らわれてしまいます。軍曹が熱心に説いた甲斐もあって、保釈されましたが、血清は返してくれません。

"ソ連にも飛行機はあります"。かくて血清はソ連機でコペンハーゲンに、さらにフランス機でオスロまで運ばれ、オスロからはノルウェー機が現場まで飛ぶことになりました。

その旨が逆のルートをとどって、アフリカへ伝えられましたが、そのころ船では船長までも中毒に侵され倒れていて、航海士が商船の航路まで出れば助かる見込みがあるのでは、と船を動かしていました。



船長は停船を命じます。刻々と迫る死が目前の船員を乗せたまま、漁船は北の海を漂っています。

ノルウェー機が血清を積んで飛び立

ち、まだ元気な航海士が無線機を操作して、機と連絡がとれました。雲が低く視界は利かなかったのですが、機は低空に突っ込み船の上空をかすめ、血清が投げ落とされて、船から少し離れた海上に浮かびました。

そのとき勇躍、凍る海に飛び込んだのは、1人だけハムを食べなかった異教徒の船員だったのです。

さて、この映画に触発された訳ではなかったのですが、就職した先は無線航海電子機器の会社でした。皆様でも例えばレーダだとか、今、流行のGPS、カーナビを造っている、といったらお解かりになると思います。ただし、"無銭"会社でした。

映画「早稲田大学」

黒川 清知

昭和28年9月のその日、共通教室(現10号館)の大教室を埋めつくした早大生の観客から、大きなどよめきと拍手が湧き上がった。待望の東映映画「早稲田大学」の試写会、銀幕に映し出された「早稲田大学」の題名、バックに校歌「都の西北」のメロディーが力強いオーケストラの演奏によってかぶさってくる。言い知れぬ感動が総身を襲ってきた。

原作は「人生劇場」の尾崎士郎、脚本は八住利雄、監督は佐伯清、物語は東京専門学校の創立から始まり、創立者大隈侯達の苦勞、明治40年の校歌誕生、大正6年の学校騒動、大隈総長の死、戦争、学徒出陣、戦後のアルバイト、レッドパージ、そして昭和27年5月8日の早大事件、血のメーデーの首謀者達の捜査にあたって、私服の刑事が無断でキャンパス内に入ってきたことに抗議するため、大勢の学生が大隈侯銅像前広場に座っていたところ、警官隊の群れが警棒を振りかざして、無抵抗の学生たちを排除するために襲い、流血の騒ぎとなった。その時の模様を綴ったある学生の詩「僕たちは座っていた。……」の朗読をバックにニュー

ス映画のシーンが挿入され、私は1年前のその翌日、校庭のアスファルトにこびりついた無数の血の跡を見ていただけに深い印象を受けた。

もちろん物語として、個々の学生生活や恋愛も色どっている。

この間70年、早稲田に学んだ青山杉作、佐野周二、波島進 扮する三代の親子、孫を通じて早稲田を描いている。大隈侯に小沢栄。大隈夫人に夏川静江、大山郁夫教授に千田

是也、その他、昭和28年9月 朝日新聞広告-山根壽子、東野英治郎等が出演している。

「三代にわたる早大生の学園生活を通じ、早大の学風が築かれ、時代の波にとけこんでゆく姿をたどるとともに青春の夢と希望が歴史に翻弄され、再び三たび燃え上がるさまを描き出したい」と尾崎士郎氏は映画制作に当たって語っている。



佐野 周二 波島 進

大学の125周年事業計画

いよいよ、この秋 早稲田大学は創立125周年を迎えます。これを記念して大学では以下の事業を計画に組み入れています。

1. フレーム切手の発行

大学に功績のあった歴史的人物、由緒ある大学建造物など10点をオリジナルシートにまとめ、大学カラーのデザイン台紙に収めて頒布する予定。発行日は創立記念日を待つことなく夏休み前になりそう。

2. 新宿北郵便局に要請

10月20日(ホームカミングデー)、21日(創立125周年記念日)両日に、「早稲田大学創立



125周年」記念小型印の使用と臨時出張所を大学構内に開設。

なお、記念小型印の原画は、鎌倉達敏会員が作成、すでに局に提出済みです。

分科会活動(切手教室)

第45回切手教室(9月2日)

マダガスカル郵便事情 小林 彰氏

第46回切手教室(10月7日)

手彫り切手の楽しみ 製造面から 坂下 泰一氏

第47回切手教室(11月4日)

切手貼り絵教室年賀状を作る 奥山 初代氏

第48回切手教室(12月2日)

切手のモーツァルト 黒川 清知氏

第49回切手教室(2月4日)

タイの切手 甲斐 正三氏

編集後記

名古屋の市川氏から学生時代野球部練習の合間に映画を楽しんだという昭和26年の早稲田全線座、馬場のパール座の変色した粗末な紙に印刷された映画ニュース紙が送られてきました。映画紹介も然ることながら、早稲大学界限商店の広告から、当時の暮らしの中で映画そして映画館の果たしていた役割が伝わってくるものです。

特集号からも過去、映画の果たした大きな役割が感じられ、映画に魅せられることができた時代が懐かしく、今の豊かさを考えさせられます。(お)

JAPEXで和田・鎌倉両氏が銀賞

11月に開催されたJAPEX'06では、稲門フィラテリーのメンバーも出品され、レギュラークラスで和田文明氏(米国の公用業務航空郵便史1920-45)が、ワンフレームクラスで鎌倉達敏氏(英国2ペンスブルー1840-1876)が、それぞれ銀賞を受賞されました。審査委員長を務められた本会会員の稲葉良一氏は、企画出品の小判切手100年に、ショーケース出品2点の他、リーフ構成をした小判切手のバラエティー、不統一印、ボタ印、外国郵便を展示されました。

会員動向

湯川宗昭氏は、食品添加物を使用目的から解説した「さらにやさしい食品添加物」(図書館協会推薦図書)の続編として、食品の製法から見た食品添加物の使われ方を解説した「さらにやさしい食品添加物2」を食品化学新聞社から出版しました。

渡辺勝正氏はNHKTVで放映中の大河ドラマ「風林火山」で中心に採り上げられてる山本勘助について「山本勘助の謎を解く」を大正出版から出版しました。

東京大学切手研究会

60周年記念切手展

平成19年1月20,21日、切手博物館で東大切手研究会60周年記念切手展が開かれました。9人のOBの方が東大に関係する明治時代に始まる実郵便を中心とした興味深い展示がされていました。

こちらの会もご多分にもれず7,8年前に研究会は消滅し、今は時にOBが集い旧交を温めている状況とのこと。

住所変更のお知らせ

池澤 克就

〒251-0053 神奈川県藤沢市本町 4-3-21
TEL & FAX 0466-27-0928

発行日: 2007年3月1日

発行: 稲門フィラテリー

発行人: 小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F
(株)英国海外郵趣代理部内
稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座: 00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当: 湯川 宗昭 池澤 克就
木元 淳一郎 小川 義博

2007 年 6 月 1 日発行

小川 義博

各シリーズ切手が発行された時期を年単位に整理してみたのが図1です。1950年代までは記念

図1 記念・特殊切手の発行経過

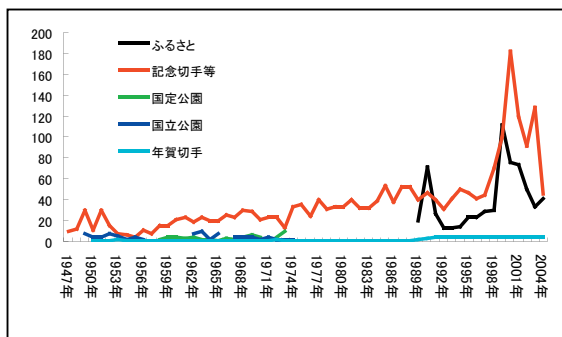


図2 大分類で見る特殊切手券種数推移

切手以外に年間3～4種類程度のシリーズ切手であったのが60年代より倍増して10種類を越えるシリーズ切手が発行されるようになってきてます。1980年代半ばからはシリーズ数は変わらないのに券種が非常に多くなりひとつのシリーズで発行される券種の増加が大きいのことがわかります。更に、1990年代になるとご存知のとおり「ふるさと切手」なる怪物切手シリーズが券種数を大幅に増加させ、加えて1990年代後半からは連刷シートの発行が加わり年間100を超える切手が発行される切手乱発国となってしまっていることがわかります。

ここでふるさと切手と連刷シートの発行が如何に券種(切手の種類)を多くしてしまったかを図2のグラフで見てください。ふるさと切手が年平均42券種とそれまでの記念特殊切手年間券種数を越える切手を発行させ、1998年の長野オリンピック連刷シートに始まる連刷シートの発行がおおきな問題であることがお解りいただけるかと思います。また、各シリーズ毎の券種数を見ても図3グラフ太い棒のようにふるさと切手券種の突出と20世紀デザイン、世界遺産、ふみの日シリーズが他の長期発行の国立公園、年賀切手を越える券種を発行させているのを見ると、ふるさと切手と連刷シート発行が真剣に検討されてしかるべきでしょう。

発行枚数で見る切手発行

乱発でなく乱造(濫造)の観点で発行枚数を整理してみると、宣伝、啓蒙を図るための交通安全、労働安全、貯蓄、省エネ、そして郵便番号等キャンペーン切手の他の切手に比べ格段に発行枚数が多いのは、その目的からして当然と考えられます。また、長期間にわたって発行されてきた年賀、国民体育大会、国土緑化シリーズの切手の発行枚数が多くなっ

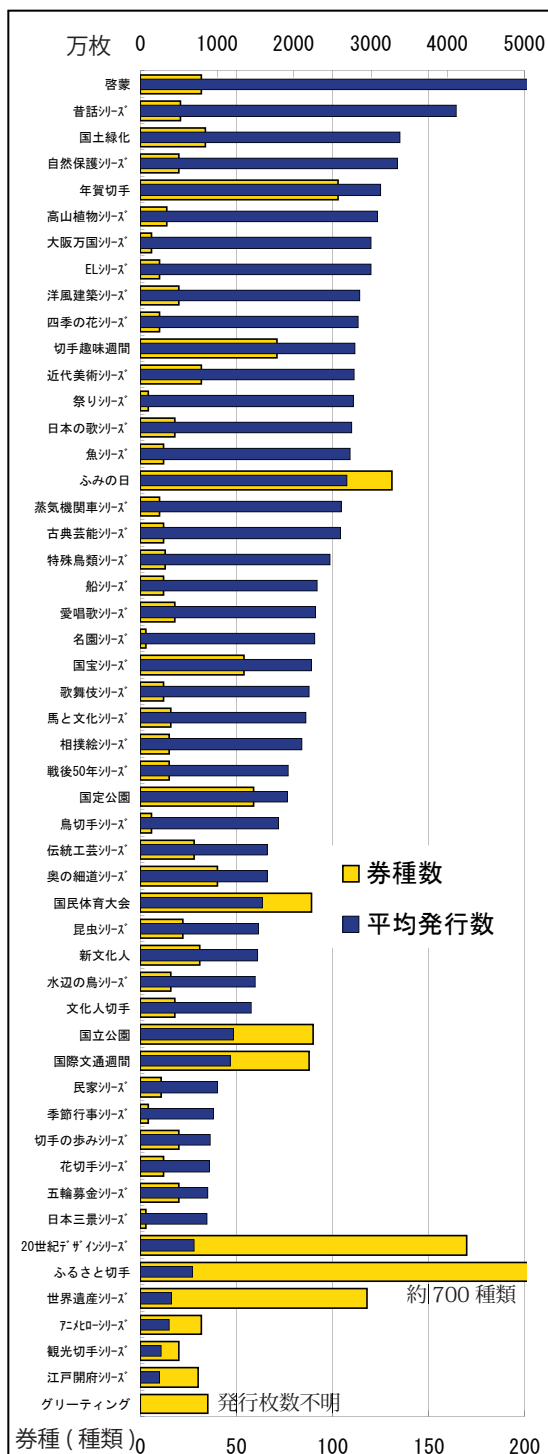


図3 シリーズ別券種数と平均発行枚数

ているのは当然ですが、20世紀シリーズ、ふみの日が連刷シートによる乱発効果がここに見られ非常に発行枚数が多くなっています。また、切手趣味週間、国宝シリーズと一般に人気のあるものも枚数が多くなっています。

更に、各シリーズ単位で券種1枚当たりの平均発行枚数を整理してみると図3グラフ(左頁)の細棒のようになります。ここで注意されるのが1960年代後半から1980年代に発行されたシリーズ切手の発行枚数の多さに比べ、1990年代後半からのシリーズ切手すなわち連刷シート発行シリーズ切手の発行枚数少なさです。平均すると20分の1に減じているのではないのでしょうか。これを図1の券種グラフに照らして考えると1960-80年代は乱造に傾いた切手の発行が、1990年代から徐々に乱発へて変わってきていることを示していると考えられるでしょう。記念・特殊切手が本来、持つ意義を意識して、それぞれの切手を使用する楽しみという点で、発行枚数には適正な数量が必要なはずです。

乱発は使用されることよりも使用されずに收藏されること、すなわち発行する側の利益を優先させた施策と考えざる得ません。電子通信、携帯—MAILの使用で郵便物の減少があるとはいえ、この傾向の是非を考えていく必要があります。

長寿シリーズ切手の発行推移

長期にわたって発行続けられてきた年賀、国民体育大会、国土緑化切手等の発行推移を見たのが図4から図9です。どの図を見ても明らかなのが券種、枚数共に一貫性の無いことです。

券種にどうか一貫性が見られる国民体育大会(図7)、国土緑化切手(図8)にも基本的な混乱が見られます。それは両者ともふるさと切手として発行された経緯があり、記念切手に戻って再び、4.5年前よりふるさと切手になっていることです。そしてふるさと切手として発行されたときその発行枚数は4分の1から9分の1に激減してしまっています。国民体育大会も国土緑化運動も全国的な位置づけのものだと考えるならば、このよ

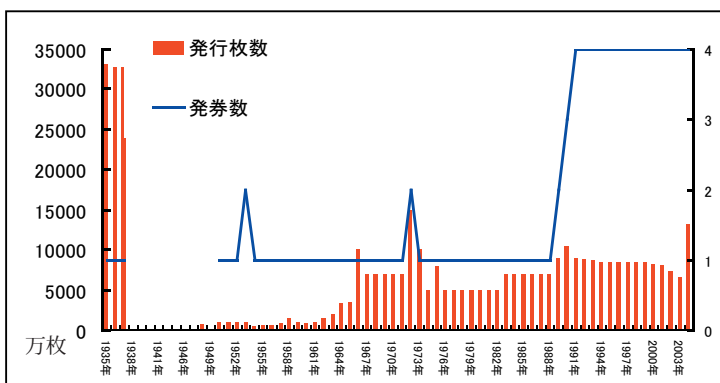


図4 年賀切手の発行推移

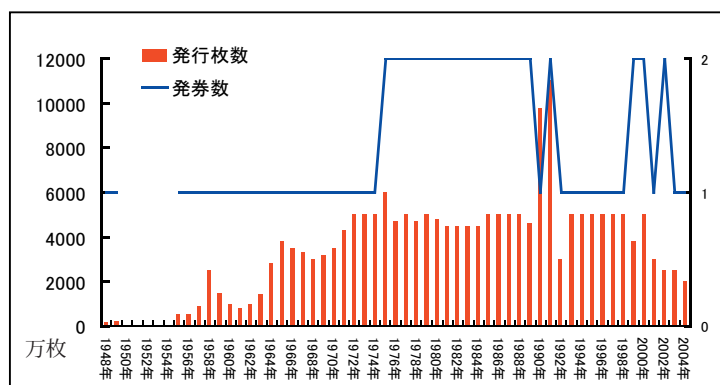


図7 切手趣味週間の発行推移

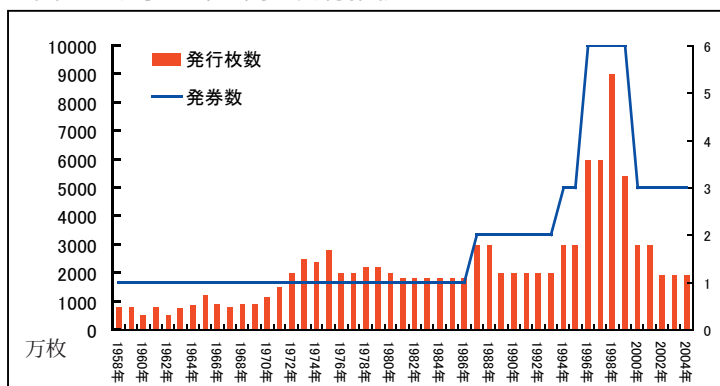


図8 国際文通週間切手の発行推移

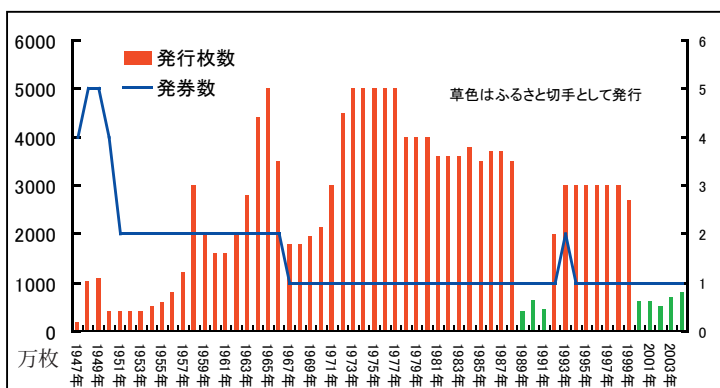


図9 国民体育大会切手の発行推移

うな発行のいいかげんさ、混乱は非難されてしかるべきでしょう。

さらに、この図の上に皆さんで切手に描かれた内容をメモしてみると、更に切手の発行に一貫性、統一性、発行方針がいかにか無いかを感じ取れるのではないのでしょうか。例えば、1991年石川国体切手のシリーズ切手イメージを損なっていること、更に、国際文通週間切手をみると12年間は五十三次、10年間は鳥日本画、6年間は日本人形、7年間は絵巻絵が連続していますがその途中で単年で浮世絵、花鳥画、歴史絵等が中に挟まり、再び、五十三次に戻ってきてます。切手サイズには目をつぶったとしても、いつになったら文通の便りが江戸に着くやら、思いやられるのは私だけではないでしょう。

ふるさと切手の発行推移

連刷シートに肩を並べる乱発の元凶ふるさと切手を見てみましょう。発行されてから15年で過去の記念切手発行券種3分の1を越えてしまう約700券種が発行されています。ふるさと切手の発行を図10に示しました。券種、発行枚数共に年によって大きく異なりばらつきがありますが券種と枚数は比例してきていました。しかし、2000年以降2種連刷から4種連刷が多くなり2004年には連刷シートとして20種連刷という収集家泣かせともいうものが発行されてしまいました。今後、ふるさと切手にまで連刷シートが発行されだすことはますます乱発を進めるのではと危惧せざる得ません。

収集家の財布への影響

最後に、収集家の立場から年毎に発行された切手を1枚ずつ購入するのに必要な金額を図13にしました。やはり、ふるさと切手の発行と共に必要金額も急増し2000年には2万円にもなりまし

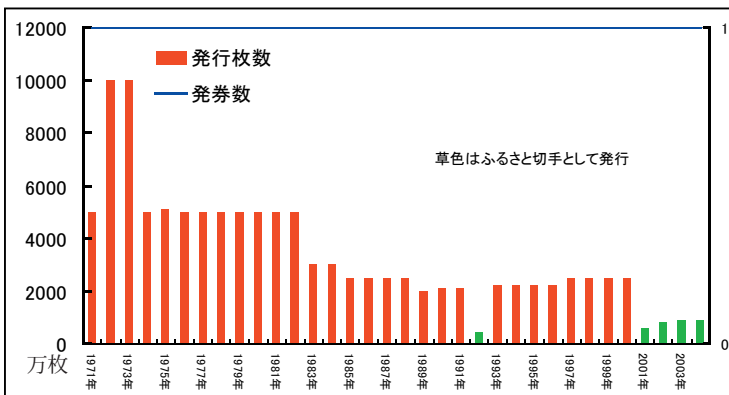


図8 国土緑化切手発行推移

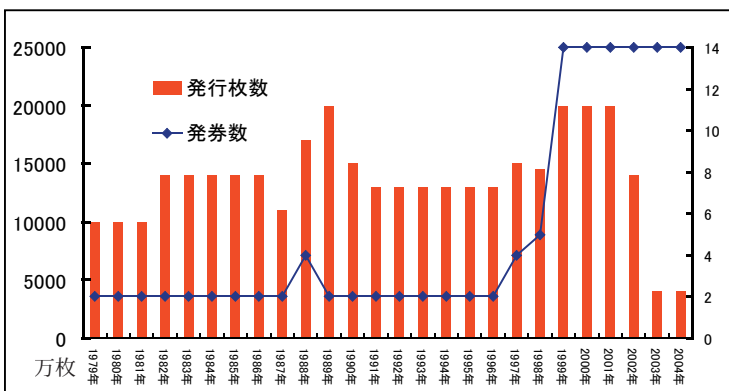


図9 ふみの日切手発行推移

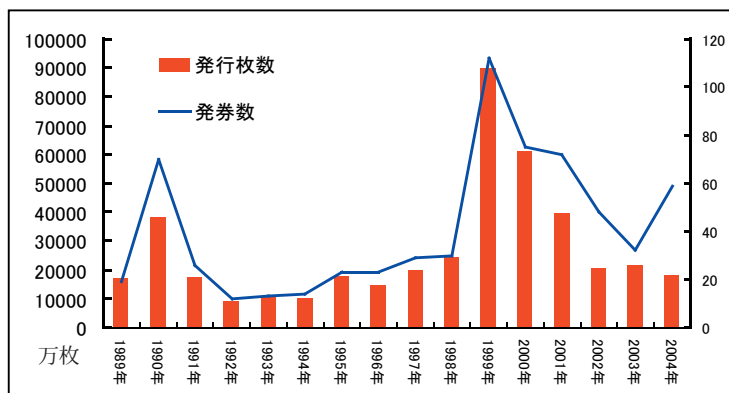


図10 ふるさと切手発行推移

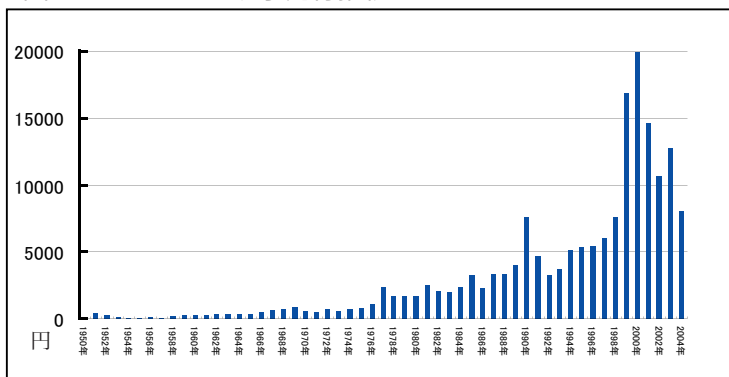


図11 年間発行切手購入必要金額

た。これでは収集家の切手ばなれをますます進めているようなものでしょう。

小型シートについては整理対象外にしましたが小型シートの発行基準は一体どこにあるのかという疑問を抱かざる得ない結果でした。

世界に目を転じると

会報 20 号で世界各国の切手の発行券種の数を検討しましたが、発行枚数は未検討でした。今回、限られた国ではありますが発行枚数を調べました。券種に加え発行枚数を知ることにより切手発行に関する見識を深めることが出来ればと考えます。

発行枚数を考えるとき留意しなければならない点があります。それは発行枚数を最初に決めて作成しすべてを売り切るまで窓口で発売する日本のような発行と発売期間を決めてその間に売れた量を発行枚数とするリヒテンシュタインのような国があることです。前者は細かくても万単位での数量、後者は一桁の端数をきちんとつけた数量が発行枚数として発表されています。ちなみに切手発祥の地イギリスは後者に属し特殊切手は発行日から 1 年で発売を止め、毎年 1 年後ぐらいに発行枚数（発売枚数）が発表されてきましたが 2000 年を最後に発表が無いようです。切手を愛する立場と発行を管理する立場とは自ずとどちらの発行姿勢が好ましいか判断が分かれるところだろうと思います。

さて、その発行枚数ですが外国の実態を知ろうとしても一般的カタログには記載されていません。一般的なものでは発行枚数が記載されているのは、Michel¹ のみでしょう。他に特定の国に限ってみれば Facit¹³(北欧) ツームスタイン²(スイス等)、SCOTT アメリカ版⁵ などがあります。しかしながら徐々に発行枚数が発表にならないのかこれらのカタログも発行枚数記載のない年が増加しているようですし、更に記載内容が異なることが散見されます。

発行枚数の比較方法

各国の発行枚数を比較するとき、単純に発行枚数を比較するのであっても発行目的、記念対象、祝賀対象等によってことなることは明らかなです。対象の異なる記念切手の発行枚数を国別に比較しても意味が薄れてしまうことになります。発行枚数を比較するのは同一事項に関して発行されたものであること

が求められます。更に、各国の人口、GNP、郵便利用状況等を加味して整理することが必要ですが、非常に困難です。

今回は経済状況が似通っていて、発行枚数が明らかにされているヨーロッパ諸国に限定し発行状況を検討してみました。対象とした切手は若干の価値付けは異なるとは思います但広く恒常的に発行されている Europa 切手（以下 E U 切手と略記）を対象とし、各国の人口、郵便利用状況をポイントに検討しました。なお、比較しやすさを考え、年に数種発行されている場合は低額切手を対象としました。

人口の観点から

対人口発行枚数の把握できた範囲での平均枚数は表 1 に示します。この表から人口 1000 万人以上の国の数値は 1.0 以下であるのに対して、人口 100

万人以下の国は 2.0 以上の数値であるように人口と反比例する傾向が明らかです。対人口発行枚数の推移を人口の規模で 2 分してあらわしたのが図 12,13(次頁) です。全体に発行枚数が減少してきていること、特に、切手に国家財政のかんりの部分を委ねてきた観光立国の小国の発行枚数の減少が明らかなです。発行枚数自体をわが国のそれと比較しようとするとき、E U 切手にふさわしい切手が見当たらないのでその発行期間と最も発行枚数が多いことから切手趣味週間を比較してみました。

その結果が表 1 下段の対人口発行枚数が 0.25 です。経済活動が緩やかな旧東欧諸国等を除く国はすべてわが国の 1.5 倍、北欧諸国は 4 ～ 10 倍の

表 1 対人口 E U 切手
発行枚数

国	平均	算出年数
Turkey	0.01	31
Hungary	0.02	1
Romania	0.04	1
Jugoslavia	0.09	21
Bulgaria	0.12	1
Poland	0.13	1
Spain	0.21	43
France	0.29	46
Italy	0.34	35
Greece	0.35	29
Austria	0.39	33
G.Britain	0.47	25
Portugal	0.50	30
Germany	0.75	35
Begium	0.83	37
Finland	0.98	35
Czech	0.98	1
Ireland	1.10	30
Sweden	1.33	22
Nederland	1.47	30
Norway	1.62	26
Cyprus	2.49	24
Denmark	2.80	18
Luxembourg	2.95	35
Switzerland	3.52	43
Malta	4.13	10
Iceland	5.34	37
Andora(FR)	9.53	33
Andora(Sp)	12.22	18
Monaco	23.55	28
San Marino	24.11	37
Faroes	35.84	11
Liechtenstein	73.34	42
Vatican	689.71	7
比較参考資料		
Japan	* 0.25	49
USA	0.47	1992 年平均

* 切手趣味週間切手を対象に算出 USA は 1992 年特殊切手の平均で算出

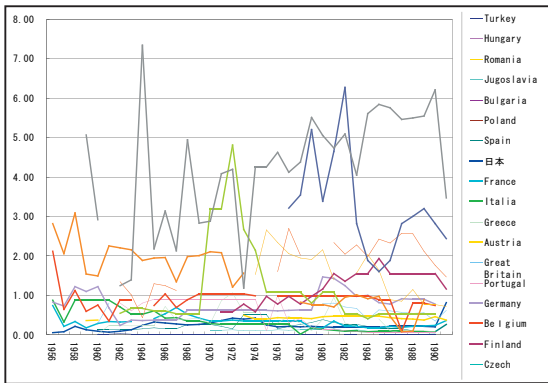


図 12 対人口 EU 切手発行枚数推移 (人口 500 万人以上諸国)

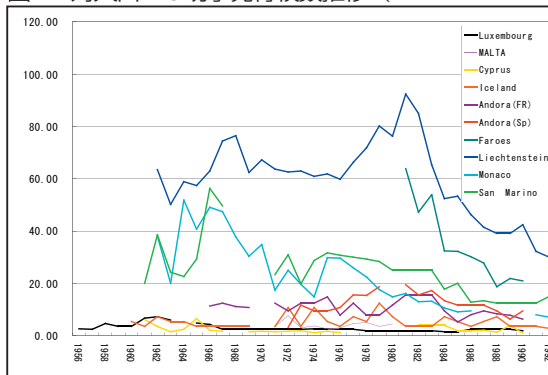


図 13 対人口 EU 切手発行枚数推移 (人口 500 万人以下諸国)

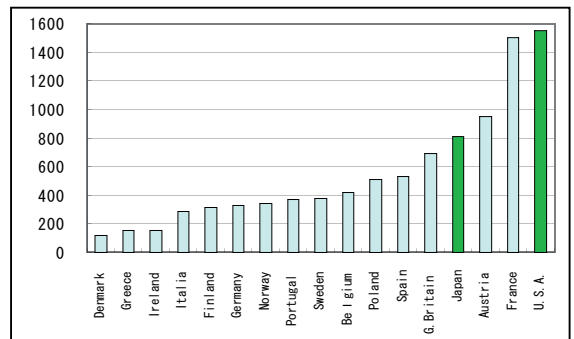
表 2 国民 1 人当りの郵便物量と切手発行量

	国民 1 人当たり量		通常郵便物 ÷ 切手枚数
	切手枚数	通常郵便	
Denmark	2.80	334.7	119.54
Greece	0.35	53.9	154.00
Ireland	1.10	170.2	154.73
Italy	0.34	98.5	289.71
Finland	0.98	304.9	311.12
Germany	0.75	248.6	331.47
Norway	1.62	555.0	342.59
Portugal	0.50	186.4	372.80
Sweden	1.33	502.9	378.12
Belgium	0.83	345.7	416.51
Poland	0.13	66.0	507.69
Spain	0.21	111.8	532.38
Great Britain	0.47	324.9	691.28
Japan	0.25	202.3	809.75
Austria	0.39	371.5	952.56
France	0.29	435.9	1503.10
U.S.A.	0.47	728.9	1550.85

切手を国民 1 人当たり発行している。また、アメリカと比較しても発行枚数は半分程度と考えられる。

郵便物量の観点から

次に、人口ではなく対人口発行枚数を郵便利用状況⁴から検討してみました。時期に多少のずれはあ



ヨーロッパ諸国は EU 切手、日本は切手趣味、USA は 1992 年の特殊切手の平均数値

図 14 対象切手貼付郵便物 1 通が見つかる数量

るが国民 1 人当たり年間通常郵便物差出数と表 2 の枚数を検討した図 14 です。この数値は理屈として何通の郵便物当り 1 枚の EU 切手等が貼られるかを示すと考えられます。日本の数値は 800 通の郵便物の中に 1 通の切手趣味週間切手が貼られた郵便物が期待できるということです。この数値を見る限りヨーロッパの国々に比較し日本の特殊切手の発行枚数はかなり少ないと判断せざる得ません。このような切手の発行状況でありながらなぜ日本切手の乱発、乱造と言われるのでしょうか。発行の種類は 20 号に述べましたように世界でも多く、乱発を指摘されることは明かです。しかし、乱造ということは何を持って乱造なのか。通常切手製造枚数との関係からか、売れ残りの窓口に残留する期間が長いからか、特殊切手類の発行数の全体量からか、質の悪い切手の多さなのか、そして一向に値上がりしないカタログ値の低さを嘆いてのことなのか。このあたりを乱造という観点からじっくり検討する必要があります。

わが国とアメリカの切手発行

わが国の切手発行券種数とその発行数の双方から比較したいと考えアメリカの特殊切手発行状況と比較しました。日本、アメリカの資料を同じ方法で整理したのが次頁の図 15,16 のグラフです。各年毎に発行数の少ない順に並べ、特殊切手発行開始年から一券種毎の発行枚数を日本は 2004 年、アメリカは 2001 年までを棒グラフに整理しました。横の幅が各年毎の券種数を表しています。縦の発行枚数の尺度は双方の発行数の実態にあわせてのものにしてあります。

発行枚数が桁違いに異なることが明確にわかり

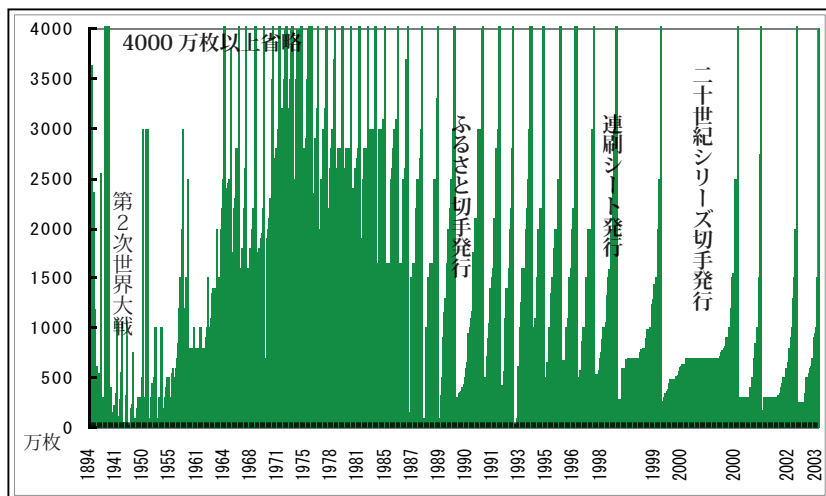


図 15 日本の特殊切手発行券種数と発行枚数

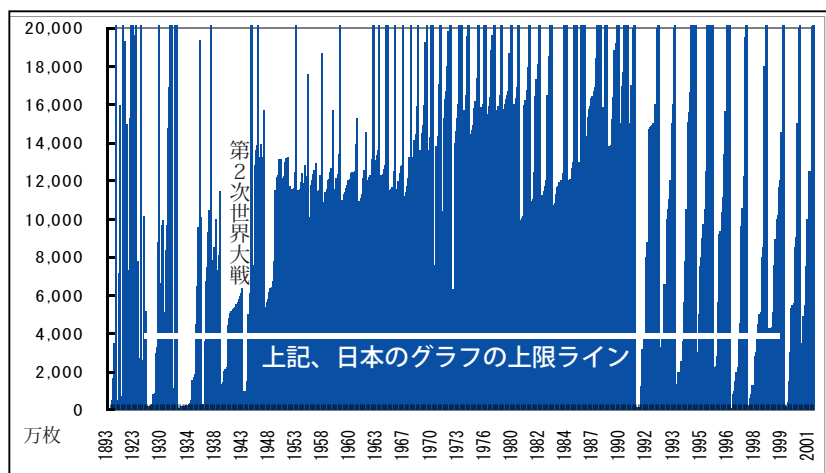


図 16 アメリカの特殊切手発行券種数と発行枚数
ます。国土の広さ、経済活動の活発さ等から当然とも思われますが、億単位の発行枚数を消化できるアメリカの郵便事業体制には一目をおかざる得ない思いです。

次に、発行券種数も明らかに違いが見られます。戦前の発行券種数でアメリカが日本の3倍程度多く発行しており、その差は60年代半ばまであまり変化がなかったのが1980年代に追いつき、90年代後半から日本の発行券種が過去100年の差をなくすまでの多さになったこと読み取れます。

両国とも、年度毎にグラフを見ると縦長のグラフが横に長く傾斜がみられるグラフになってきています。切手種類を多く発行し発行枚数を少なくしていくという発行方針が変わったことを示しています。

この発行方針変更は切手収集家の減少による切手

の売り上げ減を維持するためのように感じられます。シートブックに収蔵される切手の量を切手の種類を増やすことで維持しようとしていると考えざる得ません。

以上、情報量が少なくなりつつある切手の発行枚数という面から切手を考えました。郵政民営化が実施され、ITによる情報通信手段が進化する中、切手の将来を考える糧にいただければ幸いです。

参考文献

- 1) MICHEL CEPT/UNO-KATALOG 2000/01
- 2) Zumstein Schweiz Liechtenstein 2006
- 3) FACIT 2002 Special
- 4) 世界国勢図会 2000/2001 P452-453 国勢社
- 5) SCOTT 2006 CATALOGUE Specialized of United States Stamps & Covers P406-411 (第43回切手教室のレジュメを加筆、訂正しました。)

ヨーロッパ切手雑感

1956年ベネルックス3国、フランス、ドイツ、イタリアの6ヶ国でスタートしたEU。今日は加盟27ヶ国を擁するものとなっている。切手の方はもっと発展し、6ヶ国が約60の国、地域から発行されるようになり、統一デザインから建物、人物、芸術等を取り上げる一大テーマコレクションの対象である。こんななか気になる切手がある。

発行を中断する国を横目に、EU発足の2年後からEU切手を発行し続け、皆勤賞である国、トルコのEU切手である。イスラム圏でありながらケマル主義を選択し、西欧的アイデンティティを身につけようとし、ヨーロッパの仲間入りを切望するトルコの努力の切手。ギリシャに先を越された現在、その切手に託した願いが報われる日がくるのであろうか。



私とオーストリア切手

藤田 弘道

43 年間勤務した会社を 3 年前に退職して、昔、趣味にしていた「切手蒐集」を初心にかえて再開しようと「切手教室」に通いだしました。さすがに往年の「早大切手研」の残党が運営するだけあって、例会の講義はそれぞれ永年の蒐集と高度の研究に裏打ちされた素晴らしいものです。例会の帰途、参加者の方から「溜息が出る。もっと初心者に親しめるものがあったら。」との声を聞きました。この 2 月、「切手教室」で「初心者のオーストリア切手」と題して、拙いリーフをもとに話させて頂きました。この程度のものだったら私も出来ると思っていたら倅せです。

私がオーストリア切手の素晴らしさを教えて貰ったのは、1957 年秋の「創立 75 周年記念早稲田祭」で切手研は「切手の印刷の歴史」を展示することになり、私達のグループが「凹版切手」を担当した時です。仲間の一人、鈴木和雄さん(商学部から石川島播磨重工業に入社されましたが働き盛りの時、惜しくも病いで亡くられました)から藍蓄を傾けられてからです。

彼は、1951 年発行の作曲家 W. キーンツルの切手(図 1)を手にしながら、楽譜まで精巧に彫りこんだ凹版技術の凄さ、又、切手の下面に原画家、彫り師の名前が出ていること、国が切手を芸術として評価していることを力説しました。私も彼も音楽鑑賞を趣味としており勿論音楽切手もその範疇でした。各国の音楽切手を比較して納得しました。1954 年発行のカトリック教会音楽会議の切手(図 2)、1967 年発行の美しき青きドナウ作曲 100 年切手(図 3)は凹版切手の粋



図 1 作曲家 W. キーンツル
死去 10 年

な切手です。

又、当時鈴木さんが力説していたのがオーストリア政府の通常切手の発行政策です。1945 年第 2 次世界大戦直後から数年かけてシリーズで「風景」、「女性風俗」を紹介していることです。当時はこの 2 シリーズだけでしたが、45 種発行され、地方の衣装が紹介され楽しませてくれます。その後、「建物」、「果物」、「美しきオーストリア」等々、現在も一貫した姿勢で発行していますね。わが国の終戦直後からの一貫しないでたらめな通常切手の発行姿勢が浮かび上がります。

私は使用済切手を主に蒐集しています。昭和 30 年代は「ハウイドマウント」が無く、外国切手は梅雨など湿気の多い日本に馴染まず、又、私の保存技術が稚拙で大事にしている切手の価値を落としました。奨学金とアルバイトで学生生活を過している身には金は

かけられません。お金をかければコレクションが充実するのでは限界があります。

しかし、オーストリアの使用済切手を蒐集するには難関が二つあります。一つは通常切手シリーズの切手の種類の多さです。「女性風俗」は 37 種ありますが、どうしても 75 Groschen が見つからず手に入れたのは 3 年前です。「美しきオーストリア」も「切手教室」が縁で小川さんに 3.50 Schilling を譲って貰いやっと完集になりました。1 枚 1 枚の切手は廉価ですがシリーズを完成させるには根気がいります。これらの切手とオーストリアの地図で旅行者の気分になります。



図 2 カトリック教会
音楽会議記念



図 3 美しき青きドナウ
作曲 100 年記念



復活祭のウサギ



聖ニコラスの日



バースデーケーキ



クリスマス

図4 児童保護基金「幸せな子供の情景」 1949年

もう一つの難関は付加金切手の多さです。大戦後の復興資金の調達のためか 1948 年は発行数 41 のうち 36 が付加金つきです。わが国でも使用済付加金切手の蒐集は困難ですが異国ではなお更です。しかも、それらに素敵な芸術性の高い切手が多く見られます。その中で私の大好きな切手は 1949 年発行の児童保護基金「幸せな子供の情景」(図 4)です。作者の子供に対するほのぼのとした愛情が感じられます。

オーストリアの使用済切手も 1960 年の後半よりオーダーキャンセルが見られるようになり、私の蒐集意欲を萎えさせました。それでも、1945 年よりユーロに切り替わる 2001 年までを目標にコツコツと努力しようと思っています。現在、1981

年迄は JPS カタログ NO269、270、305、595、611、657、673、823 が欠けています。沢山の蒐友に助けられ、ここまで来ましたが、この文を眼にとめた方がスパーを譲って頂ければ倅せです。又、1960 年代までは音楽切手をやっていましたが現在はやっておりません。ご希望の方があればお譲りします。廉価ですが現在はなかなか集めにくいものもあります。

退職後、夢がかなってオーストリアを旅行しました。ただ、スイス、ドイツも含まれたツアーでしたので、観光名所のつまみ食いだったのが残念でした。発行された切手の背景を調べることでもっと知識を膨らませてもう一度ゆっくりオーストリアを旅したいなと思っています。



ザルツブルグ近郊

チロール地方



ウィーン市



ブルゲンランド地方



図4 切手で旅する美しきオーストリア(凹版とグラビア印刷の美しきオーストリア切手)

振り込め詐欺の話

野島 正顕

本誌第21号に馬場恒浩さんの経験談が披露されていましたが、この種の事件は当局やマスコミの度重なる警告にもかかわらず全国的な広がりを見せ、被害も巨額になっていることが報じられている。

手口もますます巧妙になっているようで、私も全く異なるジナリオで危うく被害を被るところでした。

いずれ郵趣に関わる新たな手口も出てくるかも知れませんが、恥じを忍んで会員諸兄のご参考に供したいと思います。

ある日の午後1時過ぎ、自宅の電話が鳴った。男「お父さん？」 私「ああ、太郎か…」と、答えたと思う。息子は企業の地方営業支社に勤務しており、久しぶりの電話だった。男「電話来なかった？」 私「誰から？」 男「タクシー会社から」 私「ないよ。どうしたんだ？」 男「いや、ちょっとタクシーに忘れ物してさ」 私「今、どこにいるんだ？」 男「品川…じゃあ、又」と、電話切れる。

30分ほどして再び電話有り。男「お父さん？ タクシー会社と連絡付いたからいいよ」 私「良かったな、それで忘れ物見つかったのか？」 男「うん。…ところで成田空港って遠いかな」 私「都心から車で1～2時間掛かるだろう。何で？」 男「忘れ物したタクシーが客乗せて成田空港に向かってるんだ」 私「2～3時間待てば帰って来るよ」 男「そんなに掛かるのか…困ったな」

続く問答で、息子は上司とタクシーに乗り下車の際、現金90万円余と携帯を置き忘れたという。現金は約束の時間内に取り引き先に渡さなければ損害賠償問題となる。自分のミスで、会社に迷惑をかけることになり上司も困っている、と言う。

風邪をひいて薬をのんでボーッとなっていたからとのこと。そういえば、上司から借りているという携帯の声は、いつもよりくぐもっている。風邪薬の効き目などしばらく無駄話もする。合間に

「困ったな。参ったな」の連発。

私「それじゃあ銀行からおろして立替えるから、ここの駅まで取りに來いよ」(都心から往復1時間半ほど掛かる) 男「いやあ、それでは間に合わないな。友達に頼んで借りるからいいよ」 私「友達といっても急な話で無理だろう」

いくら「地元の駅まで來い」と言っても、間に合わないの一点張り。しまいには「街のローンを借りるからいい」とまで言う。そのうち、相手の銀行口座に振り込むという方法もある、と言う。なるほど！「だけど、もう2時だ。今から送金しても翌日扱いになるだろう」と言うと、「3時までには振り込めば今日中に入る」と答える。私「そうか、それでは急いで振り込むよ。相手の口座は？」

男「うん、調べておく。銀行に着いたら電話して」と上司の携帯 No. を教える。

銀行に着いて、息子から聞いた携帯 No. に電話する。口座は意外にも地方銀行の地方支店で女性名義だ。「おいおい、女性問題かい？」 男「ちがうよ、間に入っている公認会計士だよ」「ふーん、それで振り込み人名義はおまえの会社名でいいな」

男「いや」と、知らない男性の個人名を言う。多少不審を持った私「おまえの生年月日は？」 ついでに、本人のエトも聞こうと思ったが…。男「お父さん、何いってるんだよ、太郎だよ。冗談言わないでよ。もういいよ、他で借りるから」と、怒る。緊急時だからと思った 私、「分った。分った…」と、電話を切る。あとから思えば、その時かすかな違和感を覚えた。

さて、振り込もうと思ったら銀行はかなり混んでいる。しかも、もう3時になる。これでは今日中の送金は間に合わないだろう。息子も「いいや」と言っているし、そのうちタクシーも成田から戻って来るだろう。取り引き先に少し待ってもらえば済む話だ。と思いつつそのまま帰宅した。

「切手教室」50 回を振り返って

宮鍋 益治

稲門フィラテリー分科会の切手教室が 50 回の開催が続けられたことを、新宿北郵便局、局との折衝をいただいた磯野様、多くの講師の方々に感謝申し上げます。

50 回を振り返ってみます。分科会活動としての切手教室には、二つの面がありました。

一つは、早大切手研究会 OB 会として切手趣味の普及に少しでも貢献できる機会であること、もう一つは、切手教室を開催することで局の会議室を借用して郵趣会の会場として利用でき役員会などに使えること。

切手教室としては、郵政省（日本郵政公社）は郵趣の健全な普及のために全国で切手教室を開催しております。東京地区も従来大手町の通信博物館（ていぱーく）4 階の研修室にて定期切手教室（A.B.C の 3 クラス）を昭和 45 年（1970 年）から毎年開催していました。会場の都合で平成 10 年度を最後に「ていぱーく」での開催が出来なくなり、他の場所で開催するべく受託団体の郵便文化振興協会が探しましたが適当な場所が見つからず、開催が危ぶまれる状況となりました。当時、私はこの定期切手教室 B クラスの講師を務め、又、関東郵趣連盟の東京地区の切手教室担当であったことから、東京下町の荒川郵便局と、足立郵便局にて継続開催を果たしました。

しかし、荒川・足立両郵便局とも、東京の東部に偏在することから、郵政担当部署より東京西部地区での開催を求められ、私はたまたま平成 13 年夏に新宿北郵便局主催の切手教室の講師として来局した経験から、新宿北局の保安状態（受付にガードマンが常駐）が良いことを知りこの場所をを使わせていただければ最適と思案しておりました。

稲門フィラテリーは結成以来、定期的な会合場所を持っておらず、当時銀座 6 丁目の「喫茶室ルノアール」2 階貸会議室を利用して毎回役員会を開催しておりましたので、会議終了後の帰途に磯

野さんに新宿北郵便局に切手教室並びに郵趣会の会場として使わせて頂けないか局との折衝をお願いいたしました。磯野さんのご努力で新宿北郵便局 4 階会議室での郵政省委託の切手教室が平成 14 年 4 月 14 日第 1 回が開催することが出来ました。

平成14年「東京地区切手教室」の開催

東京地区の定期切手教室が、下記のとおり決まりましたので、ぜひご参加ください。

募集人員	A B クラス（初めて） 多少経験のある方	50名 50名
開催日	(A B) 9月、10月、11月、12月、 2月の第1日曜日5回 (B C) 9月、10月、11月、12月の 第1土曜日4回	申込方法 電話で、郵便番号・住所・氏名・ 年齢・電話番号・希望クラス名を お知らせください。定員になり次第 締め切ります。
開催時間	(A B) 13時30分～15時30分 (B C) 14時00分～16時00分	申込先 〒169-8799 新宿北郵便局 (新宿区大久保3-14-8) 郵便文化振興協会 ☎03-3649-3630
		受講料 すべて無料です。

「切手」2002.7.20 発行に掲載された切手教室開催案内
新宿北郵便局郵便課は切手教室へ熱心に取り組んで下さり毎回、講義議題を提出しますとポスターを作製して、明治通りに掲示して下さいました。

切手教室は、一般公開で「切手誌」での募集、ポスター、一般参加者へのハガキ案内などで多くの方の参加を期待して開催しておりますが、参加受講者は毎回平均 20 人前後で稲門フィラテリー会員が 17 名前後、一般参加者が 3 名前後で落着いており、毎年 6 月頃に実施しています郵便仕訳区分機の見学の機会を除いては新しい受講者は殆ど無く新規受講者の増加に就いては寂しい状況です。

稲門分科会活動の切手教室として 50 回が開催されましたが、実は 3 種類の教室になっておりました。①年 4 回（9 月～ 12 月）の定期切手教室（B・C クラス中級者向け）、②年約 3 回の初心者向けの一回コース、③稲門独自の切手教室です。①②は教室修了後に出席者名簿、講師、講義内容を郵便文化振興協会経由にて郵政省（公社）に提出して講師謝礼金を受領しました。この謝礼金は③との公平を図るためプールして処理することを稲門内部講師の方にはご了解いただきましたので、18 年度は郵政公社の経費引締めで委託切手教室はなくな



第 50 回切手教室の様子 坂下講師

講義内容 手彫り切手の楽しみ ---- 手彫り切手カタログ改定をふまえて ---
国際的な切手展に出品されてもおかしくない手彫り切手のリーフが
回覧され、それを手にしながら講義内容を確認できたすばらしい教室。

り講師謝礼金の入金ゼロでしたが継続できました。

日本郵政公社の「郵便のディスクロージャ 2006」において、経営の取組→手紙の振興→「郵便の普及と文通の振興」→「切手教室の開催」として以下の文が掲載されています。

切手収集の楽しさを知ってもらうために、切手の基礎知識や切手の集め方などについての「切手教室」を実技指導を交えながら地元郵便会などと連携して、全国各地で開催しています。

稲門フィラテリーに定期切手教室をお願いしたもう一つの理由は BC クラスの講師をお願い出来ることでした。C クラスは切手展出品者クラスの受講者を対象としますので、全日展、国際展への出品経験の持つ講師にお願いしなければなりません。稲門には有資格会員が多く、内部講師で対応ができることが最大のメリットでした。

実際、50 回で 90 講義が行なわれましたが、多士済々な 30 人の講師の先生（稲門会員 25 人、外部 5 人）によって、日本切手では「手彫り切手の楽しみ」(37・41・46・50 回坂下講師)、「フランス横浜郵便局」(18 回小林)、「二つ折り葉書」(40 回西村)～最近の「写真付切手」(28 回五十野)まで、外国切手も様々な国のクラシック「英国王室と切手」(5 回小西)、「ローランドヒル」(44 回小西)、「西オーストラリア」(6 回根岸)、「ルーマニア初

期の不思議な切手」(8 回渡辺勝正)から「オーストラリア切手」(39 回藤田)、「カナダ・アドミラル」(11 回小林)、「タイの切手」(49 回甲斐)、トピカルも色々「郵便と電子通信」(6 回小熊)、「古代エジプト」(5 回池澤)、「アニメ切手」(13 回磯野)、「ボーイスカウト・ジャンボリー」(32 回五十野)、郵趣関連の楽しみ方として「映画と切手」(42 回甲斐)、「旅行と切手」(43 回池澤)、「切手貼り絵」(34・47 回奥山)、初心者向けの基礎講座として「切手の保存と整理」(宮鍋)、「外国切手の集め方」(9 回山崎)、話題の「切手のモーツァルト」(48 回黒川) などなど、レベルも国際展入賞作品～初心者向けの講義まで非常に幅広い内容が行なわれました。

これからも稲門フィラテリーがもてる郵趣知識の会員相互への拡大と、切手趣味の健全な普及と育成、及び新しい郵趣層の開拓に役立つことを目標に活動したいと思いますので会員の皆様の協力をお願い致します。

2007 年 4 月に切手教室が 50 回を迎えました。継続は稲門フィラテリーの力なりです。5 年間の切手教室を振りかえり、今までにも増しての切手教室の発展を期して、担当されている宮鍋氏に執筆をお願いしました。

宮鍋 益治氏

郵政公社総裁表彰を受ける。

切手教室の運営に献身されてきた本文章の執筆者宮鍋益治氏は第 74 回郵政記念日にあたり郵政事業の運営に多大の功績があったことを賞され個人として郵政公社総裁表彰を受けられました。4 月 20 日 10 時より表彰を受け、その後、皇居豊明殿で天皇、皇后両陛下に拝謁されたとのことです。

本文章からも理解できますように宮鍋氏の永年にわたり地道な郵趣会の育成発展につくされ、切手収集の楽しさを地域に広める活動が認められたものとお慶び申し上げます。に日ごろのご援助に感謝いたします。

本誌発行までの切手教室内容

編集担当

2002.4.14 第1回
切手の保存と整理
私流切手の楽しみ方

宮鍋 益治氏
甲斐 正三氏

2002.6.1 第2回
切手収集の仕方
郵便業務の自動化

宮鍋 益治氏
磯野 昭彦氏

2002.7.6 第3回
普通切手の楽しみ(日本)
アフガン紀行

宮鍋 益治氏
渡辺 洋氏

2002.8.3 第4回
切手整理(リーフ作り)の実践

甲斐 正三氏

2002.9.7 第5回
英国王室と切手
古代エジプト切手の世界

小西 邦彦氏
池澤 克就氏

2002.10.5 第6回
西オーストラリア
郵便と電子通信

根岸 昭二氏
小熊 忠三郎氏

2002.11.2 第7回
国際切手展出品
占領軍による検閲郵便

西村 寿一郎氏
宮鍋 益治氏

2002.12.7 第8回
トピカル収集の楽しみ
スポーツ切手を中心として
ルーマニア初期の不思議な切手

湯川 宗昭氏
渡辺 勝正氏

2003.2.1 第9回
前島密と早稲田大学
前島密と切手
外国切手の集め方

渡辺 洋氏
宮鍋 益治氏
山崎 哲夫氏

2003.4.5 第10回
切手を楽しく集めよう

宮鍋 益治氏

2003.6.7 第11回
郵便物集配自動化機械の現状について

カナダ・アドミラル・イシュー

磯野 昭彦氏
小林 彰氏

2003.7.5 第12回
普通切手(日本)の楽しみ
外国普通切手の楽しみ方

宮鍋 益治氏
甲斐 正三氏

2003.8.3 第13回
切手収集の楽しみ
アニメ切手

宮鍋 益治氏
磯野 昭彦氏

2003.9.6 第14回
昭和切手の楽しみ
砂糖の話

宮鍋 益治氏
野島 正顕氏

2003.10.4 第15回
パソコンで楽しむ切手収集
漁業、大空襲、そしてカーナジと切手(前編)

池澤 克就氏
府川 宏昭氏

2003.11.1 第16回
切手と印刷よもや話
切手のデザイン

吉沢 忠一氏
小西 邦彦氏

2003.12.6 第17回
漁業、大空襲、そしてカーナジと切手(後編)
年賀・年賀状解説

府川 宏昭氏
西村 寿一郎氏

2004.2.7 第18回
切手図案のいろいろ
フランス横浜郵便局

小西 邦彦氏
小林 彰氏

2004.3.8 第19回
切手も切れぬえにし
切手収集の楽しみ

黒川 清知氏
宮鍋 益治氏

2004.4.3 第20回
郵便物自動読取区分機の解説と見学会

磯野 昭彦氏

2004.6.5 第21回
私の中の切手
切手の楽しさ三題

中川 孝昭氏
甲斐 正三氏

2004.7.3 第22回
切手を楽しく集めるには
切手のウンチク

宮鍋 益治氏
小川 義博氏

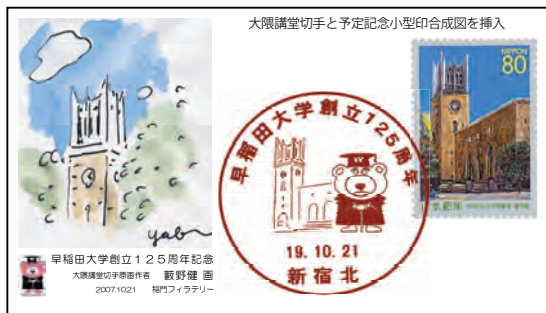
2004.8.7 第23回
切手のアルバムの作り方
消印

宮鍋 益治氏
大西 章夫氏

2004.9.4 第 24 回 ケアと切手 郵便で知る横浜洋菓子事始	甲斐 正三氏 小林 彰氏	2005.12.3 第 37 回 昭和切手各シリーズの特徴 年賀切手	宮鍋 益治氏 日比 茂春氏 (足立北郵趣会)
2004.10.2 第 25 回 モンゴルと切手 奈良の国宝切手	西村 寿一郎氏 諸田 志郎氏	2006.2.4 第 38 回 初心者のおオーストリア切手 飛ぶもの郵趣	使用済み切手を中心に 藤田 弘道氏 飯野 明氏 (葛飾郵趣会)
2004.11.6 第 26 回 世界の切手印刷事情 郵便料金の変遷と切手	小西 邦彦氏 宮鍋 益治氏	2006.3.4 第 39 回 手彫り二つ折り葉書	西村 寿一郎氏
2004.12.4 第 27 回 写真付切手 新・切手を整理する道具	五十野 和夫氏 甲斐 正三氏	2006.4.1 第 40 回 手彫切手 消印の楽しみ 通信教育郵便の変遷	坂下 泰一氏 宮鍋 益治氏
2005.2.5 第 28 回 老眼で切手を楽しむ P C で楽しむ切手収集	小川 義博氏 池澤 克就氏	2006.6.3 第 41 回 映画と切手 文化人切手	甲斐 正三氏 池澤 克就氏
2005.3.5 第 29 回 外国向け郵便料金の変遷	宮鍋 益治氏	2006.7.1 第 42 回 海外旅行と郵趣(アテネ)	池澤 克就氏
2005.4.2 第 30 回 新 中国観光事情 私製マウントの作り方	渡辺 洋氏 原口 辰夫氏 (葛飾郵趣会)	2006.8.5 第 43 回 ローランド・ヒルの追悼記事 目で考える切手の発行	小西 邦彦氏 小川 義博氏
2005.6.4 第 31 回 ボーイスカウトジャンボリー切手	五十野 和夫氏	2006.9.2 第 44 回 マダガスカルの郵便事情	小林 彰氏
2005.7.2 第 32 回 国立公園と国立公園切手 (松戸郵趣会) 電気通信と切手	岡田 格朗氏 小熊 忠三郎氏	2006.10.7 第 45 回 手彫り切手の楽しみ 製造面から	坂下 泰一氏
2005.8.6 第 33 回 旅と郵趣 切手貼り絵うちわ教室	甲斐 正三氏 奥山 初代氏 (葛飾郵趣会)	2006.11.4 第 46 回 切手貼り絵教室 年賀状を作る	奥山 初代氏 (葛飾郵趣会)
2005.9.3 第 34 回 文化大革命初期に中国で切手収集を始め 変った体験をした話 日本切手を集めるときに	渡辺 浩章氏 宮鍋 益治氏	2006.12.2 第 47 回 切手のモーツァルト	黒川 清知氏
2005.10.1 第 35 回 アフリカの自然と切手 外国の郵便料金の推移	渡辺 洋氏 甲斐 正三氏	2007.2.4 第 48 回 タイの切手	甲斐 正三氏
2005.11.5 第 36 回 手彫切手の楽しみ 世界の切手発行をふりかえる	坂下 泰一氏 小川 義博氏	2007.3.3 第 49 回 郵趣文献	小林 彰氏
		2007.4.7 第 50 回 手彫切手の楽しみ 手彫切手カタログ 改定版発行をふまえて	坂下 泰一氏
		(第 25 回以降の切手教室で配布されたレジュメ、資料は一部を除き 試行中の稲門フィラテリーのホームページでご覧いただけます) http://www.bekkoame.ne.jp/~y-ogawa/touphila1.html	

稲門フィラテリー 大学125周年 記念官葉(葉書)と記念カバーを作製

大学創立125周年を記念し、稲門フィラテリーは大隈講堂切手の原画作者薮野健画伯の描いた大隈講堂の絵を使用させていただき官葉と、記念カバー(下図)を作製することを決定しました。9月に受注案内をいたします。



見学旅行は三浦半島

2007年の見学旅行会は

9月30日(日)～10月1日(月)

「前島密墓参(浄楽寺)と近代史をたずねる」というテーマで横須賀を中心に三浦半島を訪ねる1泊2日の旅に決まりました。本会報と同封されました案内をお読みいただき、多くの皆様が参加されることを願います。

映画「早稲田大学」上映会実現

前号で黒川氏が紹介された映画「早稲田大学」が国分寺稲門会主催で上映されます。

日時 平成19年6月16日(土)午後3時～5時

場所 早稲田実業学校:小室哲哉記念ホール

席に余裕があるそうです。稲門フィラテリー会員で希望される方は事前に黒川氏(042-301-3581)に連絡の上、ご参加ください。

編集後記

里桜の季節から、青葉が萌える季節にかけて切手展が続きました。この切手展ではスタンプショウにおけるグランプリの池澤氏を始め、会員の方々も出品され、高く評価されています。

また、新宿北郵便局で開催している切手教室の世話人でもある宮鍋さんが、長年の郵趣に関わる功績に対して日本郵政公社総裁から感謝状を贈呈されました。この号では、切手教室を振り返る特集も組んでおります。いつまでも切手での楽しみを探していきたいものです。地域の切手展(ミニボックス類)も、出品されたときは、ご一報下さい。紙面に記録として残したいと考えています。(ゆ)

長谷部 晃氏 記録写真集

「養蚕のいま」を発刊

長谷部 晃氏は日本の養蚕が衰退していく姿を秩父地方を中心に写真集にすると稲門フィラテリー22号の記事「高窓のある家」で述べておられました。その貴重な記録が2007年4月に新風舎より記録写真集「養蚕のいま」として発刊されました。

また、2007.5.11～27、埼玉県寄居町の里山ギャラリー「ノア」において、記録写真展「養蚕のいま」が行われました。貴重な記録が多くの方の来場者に養蚕への新たな思いを憶えさせてくれました。

関西スタンプショー出展 2007.3.24～25

鎌倉 達敏氏 「英国2ペンスブルー」

切手博物館のミニボックス出展 2007.3.30～4.1

第3回震災切手と震災郵趣展

鎌倉 達敏氏 「震災1銭5厘 タイプⅡ

第2次版欠点」

全日本切手展2007出展 2007.4.20～22

和田 文明氏 銅賞受賞

「米国郵政の公用業務航空郵便史1911～1945年」

宮鍋 益治氏 「南極地域観測事業開始50周年」

スタンプショー

オープン切手展出展 2007.4.28～30

池澤 克就氏 金賞 特別賞

「都の西北～早稲田大学125年の歩み～」

市川 鴻之祐氏 銀賞 特別賞

「日本の野球 昔と今」一郵趣でふり返る

甲斐 正三氏 「お気に入りの映画10選」

住所表示変更(政令市移行による)

高橋 仁 〒9500145 新潟市江南区亀田早通
4-5-16

発行日: 2007年6月1日

発行: 稲門フィラテリー

発行人: 小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座:00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当: 湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎 小川 義博

稲門フィラテリー

第 25 号

2007 年 9 月 1 日発行

早稲田大学創立 125 周年記念 稲門フィラテリーの企画

1. 大学（早稲田大学創立 125 周年記念事業推進室）企画に協力

○早稲田大学創立 125 周年記念

フレーム切手発行

大学で製作、すでに 8 月 1 日から生協にて発売中

○「小型記念通信日付印」を新宿北郵便局が使用

・使用日：平成 19 年 10 月 20 日、21 日

・使用場所：大学構内、新宿北郵便局

（大学構内に新宿北郵便局臨時出張所開設）

2. 稲門フィラテリー独自企画

○記念絵入りカバー、記念絵入り官葉を頒布

・原画作者：藪野 健画伯（大隈講堂切手原画作者）

・頒布日：平成 19 年 10 月 20 日、21 日

・頒布場所：大学構内

○記念展「早稲田大学創立 125 周年記念

著名まんが絵はがき展 by 早大切手研」開催

・展示期間：平成 19 年 10 月 11 日～23 日

・展示会場：新宿北郵便局ロビー

・主催：稲門フィラテリー

協力：早稲田大学創立 125 周年記念事業推進室

稲門フィラテリー会員への記念官葉、記念カバーの頒布について

早稲田大学創立 125 周年を記念して稲門フィラテリーでは記念官葉、記念カバーを作成いたします。今回、会員の皆様全員に下記①の記念品一組をお届けします。

また、別途希望される方には下記②の通り頒布品のご案内をいたしますので、同封の注文専用振替用紙にてお申し込み下さい。

① 125 周年記念官葉、記念カバーを会員全員にお楽しみいただきます。

お届け品

【官葉】 ・小型記念印押印付 1 枚

【カバー】 ・大隈講堂切手 2 枚

小型記念印と黒活押印付 1 枚

12 月の会報 26 号発行時に同封してお届けします。

② 125 周年記念頒布品の販売について

【官葉】

・小型記念印押印付 1 枚 100 円

・小型記念印なし 1 枚 100 円

・小型記念印なし 3 枚 200 円

【カバー】

・大隈講堂切手 2 枚、小型記念印と黒活押印付 1 枚 300 円

・切手なし 1 枚 100 円

小型記念印、黒活の日付

19.10.21（125 周年記念日）

◆申込み 9 月 14 日（金）振込〆切

◆商品発送 10 月末（送料は会で負担）

記念頒布品は稲門祭（10/20、21）当日大学構内稲門フィラテリーテントでも販売いたします。期間中は郵便局も出店し切手販売、押印サービスを行います。



都の西北 ～早稲田大学 125 年のあゆみ～ スタンプショウ '07 出品作品から

池澤 克就

早稲田大学の前身である東京専門学校が開校したのは 1882(明治 15) 年、今年 2007(平成 19) 年 10 月に創立 125 周年を迎えます。本稿では、これまで私が集めてきた早稲田ゆかりの作家の書簡や各種資料などを用いて、早稲田の 125 年をふり返ってみたいと思います。

(1) 作品について

今回紹介するものは、2007 年 4 月に浅草で開催されたスタンプショウ '07 のオープン切手展に出品した 4 フレーム (64 リーフ) の作品です。オープン切手展では、郵趣品だけではなく切手以外の材料も展示可能で、私製絵葉書や冊子、チケット、カード等、さまざまなマテリアルを配置することができます。早稲田に関連する切手は決して多くありませんが、このような切手以外の資料も加えることで切手展の展示作品としてまとめることが可能になります。

図 1 は作品のタイトルリーフです。早稲田を象徴する大隈重信の銅像と大隈講堂がフレームにおさまるアングルを捜し、自分で撮影した写

真を画像処理してバックにアレンジしてあります。図 2 は目次になります。全体を 5 章に分割して構成してあります。

この作品は、本切手展にて最高賞のグランプリを獲得することができました。せっかくの機会ですので、表彰式には角帽をかぶってのぞみました。

(2) 書簡の展示

作品の目玉として、大隈重信、坪内逍遙、會津八一、正宗白鳥、野口雨情、尾崎一雄など、早稲田にゆかりの人物の直筆書簡を展示に用いました。直筆書簡は、その人物が生きた時代や交友関係を知ることができる興味深いマテリアルです。図 3 は大隈重信の書簡です。この書簡は大正 4 年、第二次大隈内閣時代に差し出されたものです。大隈の直筆資料は二点しか残されていないと言われており、現在こうして我々の目に触れる書簡も多くは代筆と考えられています。この封筒の裏面にある署名は印刷ですが、書簡

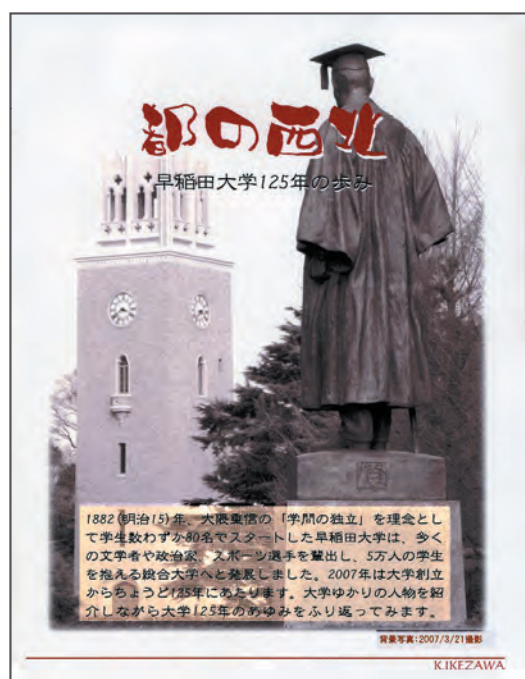


図 1



図 2

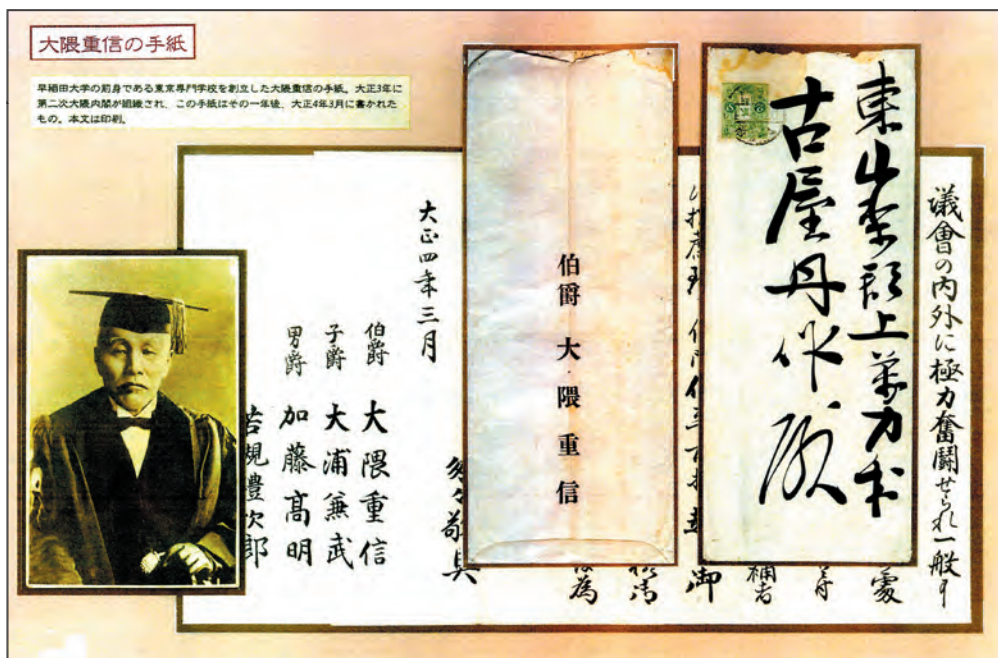


図 3

本文も残されており、大隈が生きた時代を感じさせる貴重な資料です。本作品では、もう一通、大隈重信の書簡を展示しましたが、二通とも同時期に出されたもので、大正期の大隈の書簡は比較的数量が残されているのではないかと思います。

図 4 は坪内逍遙の直筆はがきです。このはがきは、坪内逍遙の本名「坪内雄蔵」の署名で書

かれたものです。大正 12 年 11 月 11 日の早稲田局の消印があります。はがきの裏面の文章は「旅行中拙稿二対する報酬お送り下されここに入手候 早々」となっており、原稿料送付に対する礼状のようです。あわせて展示した「役の行者」の原稿は複製ですが、中央に「逍遙用紙」と印刷された専用の原稿用紙を使っていたことがわかります。

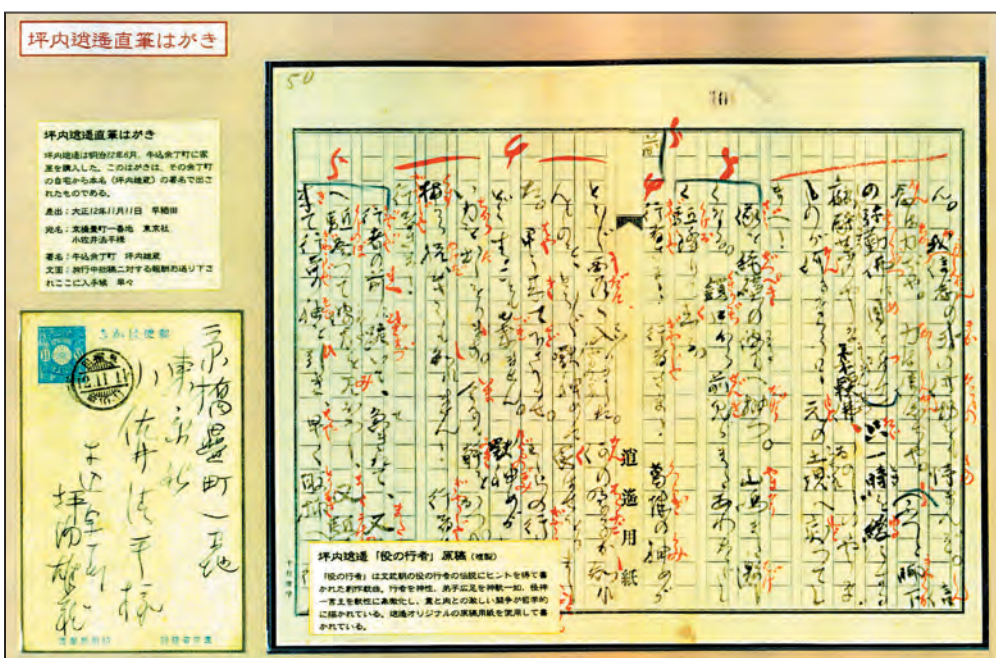


図 4

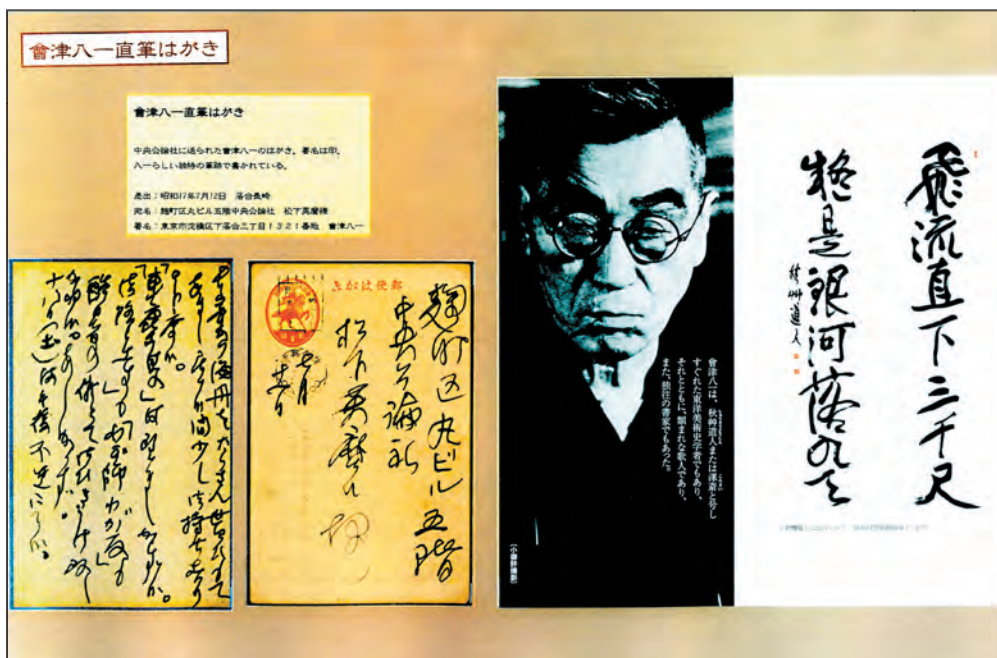


図 5

図 5 は會津八一の直筆はがきです。住所と署名は印でかなり薄くなっていますが、「東京市淀橋区下落合三丁目 1321 番地 會津八一」と読めます。八一独特の癖のあるペン書きの筆跡が目を引きます。

以下、作品の構成にしたがって、早稲田の歴史を振り返ってみたいと思います。

(3) 第 1 章 東京専門学校の設立

ここでは、早稲田大学成立以前の 1882-1901 年(明治 15～34 年)をとりあげています。明治 14 年の政変で政界・官界から排除された大隈重信は、翌年、早稲田大学の前身である東京専門学校を設立します。早稲田の建学者や二代校長前島密をとりあげました。

タイトルリーフには、1890 年の東京専門学校創立当時の景色を描いた絵葉書を展示しました。また、図 6 は、1967 (昭和 42) 年に開館した佐賀の大隈記念館のパフレットを展示しました。このパンフレットはネットオークションで購入したのですが、たまたま 1978 (昭和 53) 年の入場券が挟まっていたので、これも展示しました。建学者のうち、切手になっているのは坪内逍遙のみですが、ゆかりの人物ということでは東京専門学校の二代校長である前島密が多



図 6

く切手にとりあげられています。以前、稲門フィラテリーの新潟旅行で入手した、前島記念館のゆうペンや写真などを作品に活用しています。

(4) 第二章 早稲田大学の誕生

東京専門学校は 1902 年、創立 20 周年を期に、早稲田大学に名称を改めます。この章では、その後 10 年間、1902-1912 年(明治 35～45 年)

のエピソードをとりあげました。この時代は、早稲田大学出版部の創設、早稲田文学や早稲田学報の創刊、校歌「都の西北」の誕生など、今日の早稲田文化を形成する時代であったことがわかります。また、明治後期は国木田独歩や種田山頭火、若山牧水など後年文学で名をあげる若者たちが集い青春を謳歌した時代でもあります。

校友会誌「早稲田学報」は1897(明治30)年創刊、現在も隔月で発行が続いています。古書市でなるべく古い「早稲田学報」を探しましたが、展示した昭和8年の号が私の所有している中で一番古いものになります。

早稲田建学の一人、市島謙吉の本家は北陸有数の豪農でした。新潟県新発田市にある本邸では現在も8,000坪の敷地と風雅な純和風住宅建築群や回遊式庭園を見ることができます。数年前、この邸宅を見学し、大隈が大正2年にここを訪れた際の写真が残されているのを見つけました。大隈重信の年表でも扱われていない訪問であり、どのような経緯で新潟まで足を運んだのか、興味深い写真ですので作品の中でも紹介しています(図7)。

文芸誌『早稲田文学』は、1891(明治24)年に創刊され、坪内逍遙や幸田露伴、国木田独歩、島崎藤村などが執筆陣として名を連ねました。できるだけ古い『早稲田文学』を捜し、神保町の古書市でやっと見つけた一冊(大正14年

6月号)を展示しました(図8)。

早稲田大学が創立25年を迎えた1907(明治40)年、相馬御風の作詞になる校歌「都の西北」が誕生しました。御風作詞当初は各フレーズの最後に「わせだわせだ」のリフレインはなかったそうですが、坪内逍遙が最後に付け加えたといわれています。相馬御風を紹介したページでは、新潟県糸魚川の相馬御風の旧宅を訪問した際に作成したカバーなどを展示しました。旅行



図8



図7



図9

当日は土曜日で郵便局も閉まっていたので、風景印などはあとから郵頼して押印してもらったものです(図9)。

會津八一は1902(明治35)年に東京専門学校高等予科に入学しました。翌年、早稲田大学文学科に入学し英文学を学びました。1926(大正15)年から早稲田大学で東洋美術史の講義を担当、美術史の研究と教育には実物に接することが不可欠と考えた八一は、私財を投じて明器や銅鏡などを集めました。1925年(大正14)年に竣工した早稲田大学2号館(旧図書館)は、私が大学に入学した1991年にはすでに図書館としての役目を終えていましたが、八一のコレクションをもとにこの建物内に作られたのが會津八一記念博物館です。私も機会あるごとに足を運びますが、東洋美術の研究者であると同時に、個性あふれる高雅な書家として、また奈良の風光と美術に魅了された歌詠みとして知られる八一の豊かな感性に触れることができます。今回の作品では、新潟の會津八一記念館のパンフレットと肖像写真とともに、八一の墓にお参りした際の写真も配置してあります。墓は新潟市の繁華街、アーケードの中にある瑞光寺境内にあります。(図10)

(5) 第3章 大正から昭和へ

創立30年を迎えた1913(大正2)年から、



図10

演劇博物館が開館した1928(昭和3)年までを第三章としました。大正期に活躍した野口雨情、昭和初期に落成した大隈講堂や演劇博物館にまつわるエピソードを中心にまとめてあります。

図11は野口雨情の直筆はがきです。野口雨情は東京専門学校中退組ですが、漂泊の時代をすごした後、大正期に童謡作家として活躍しました。このはがきは、大正15年、知人の歌人安成二郎宛に書いたものです。「雨」の点々を省いた署名やひらがなの崩し方に、雨情の筆跡の特徴がよくあらわれています。

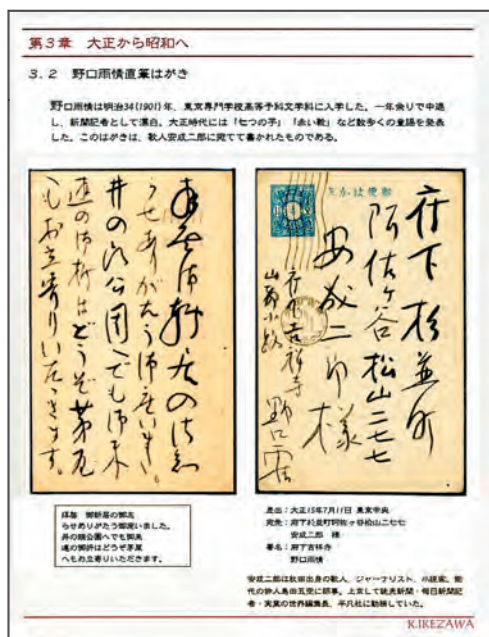


図11

文面は「拝啓 御新居の御志らせありがたう御座いました。井の頭公園へでも御来連の御折はどうぞ茅屋へもお立寄りいただきます。」とあります。

図12は舟木重信あて斎藤茂吉直筆はがきです。もともと斎藤茂吉のはがきということで購入したのですが、宛名を調べてみると早稲田のドイツ文学の教授であることがわかりました。茂吉自身は早稲田出身ではないのですが、早稲田人の交友の広さを示すマテリアルとして展示しました。35歳の茂吉が単身長崎に赴任して三ヵ月後に書いたはがきで、文面には「東京が恋しい」旨の記述があり、歌人の孤独を感じさせる興味深い一枚です。舟木重信氏とどのような交友があったのか、詳しいことはわかりませんので、どなたかご存知の方がおりましたら一報お願いします。



図 12



図 13

図 13 にある大隈重信の追悼絵葉書は、大正 11 年に大隈が死去した際のパレードの様子などを題材にしたものです。絵葉書の袋を見ると、新潟県早大学生後援会が発行したことがうかがえます。

大隈講堂は、大隈の没後、大隈の業績を記念する事業の一環として建設が進み、1927(昭和 2)年に竣工しました。早稲田に直接関連する切手

は、この大隈講堂を描くふるさと切手のみです。SF レオカードと、大学発行の絵葉書ケースに風景印を押印したもの、入学試験期間に限定して発行されていたバス乗車券などを展示しました。コピーカードは、私が現役時代、大学図書館で実際にコピーに使っていたものです(図 14)



図 14

演劇博物館は、坪内逍遙の古稀を記念して、昭和 3 年に竣工しました。イギリスエリザベス朝時代の劇場をモデルとして設計されています。館内には、この博物館のモデルとなった劇場の一つ、イギリスのグローブ座の模型が展示されています。また、作品の中に用いた、アメリカ宛実通初日カバーに押された「第十五回逍遙祭記念」の印にも、博物館がデザインされています。

たまたま古書店で見つけた「早稲田学報」のバックナンバーに、坪内逍遙の文化人切手に関する記事を発見したので展示しました(図 15)。涙を飲んで、ページを切り取って展示しています。記事によれば、「式典には朝野の名士七十名が参列し、... 郵政大臣(代理大野次官)から記念切手第一号を坪内家に贈る...、館前に移動郵便局がスマートな姿を現して記念切手並びに封筒の処女発売にあたった」などとあり、式典当日の様子を知る貴重な資料となっています。



図 15

(6) 第4章 戦争への道

早稲田と第二次大戦に関するエピソードでまとめました。

図 16 は、リトアニア国日本領事館で領事代理をつとめ、ユダヤ人に命のビザを発給した杉原千畝を紹介したリーフです。日本切手としては、



図 16

20 世紀シリーズでとりあげられており、それを 4 枚集めてブロック状にして展示してあります。他に、リトアニア、イスラエルから発行された千畝にちなむ切手を展示しました。

早慶戦は、戦時中、1942 年秋季リーグを最後に中止に追い込まれました。1943 年 8 月には、それまで学生に与えられていた徴兵猶予の措置が解除され、学徒出陣が迫ります。慶應野球部から「もう一度早慶戦を」という声があがり、慶応義塾塾長であった小泉信三氏が奔走、1943 年 10 月 16 日、非公式戦として早慶戦が実現しました。このエピソードは映画にもなっています。その映画の主題歌「英霊たちの応援歌」のサウンドトラックジャケットを展示しました。

(7) 第5章 新しい早稲田へ

最後の章は、戦後の早稲田の発展をまとめました。

文学部キャンパスに立つ記念会堂は、創立 75 周年記念事業として計画されたものです。大学発行の絵葉書を展示しました。東京オリンピックでは、ここがフェンシングの会場になりました。

図 17 は、芥川賞作家、尾崎一雄の直筆書簡。「潮」編集部宛ての手紙です。運良く手紙本文が入った状態で入手できたので、封筒の表裏と書簡本文をアレンジしました。今回の作品では、



図 18

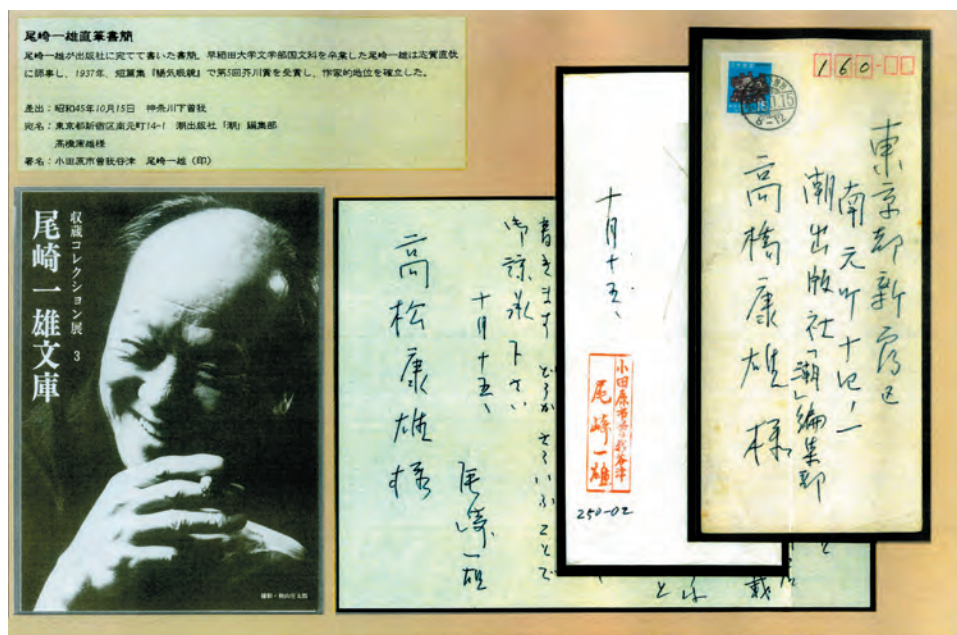


図 17

直筆書簡など、特に目立たせたいマテリアルは、厚みのあるイラストボードをくりぬいて、リーフの2倍サイズのボードを自作して展示しています。

早稲田のスポーツとして、野球とラグビーは欠かせないテーマです。今回の作品でもなるべく古い時代の早慶戦の資料を探し、やっと見つけたのが1953（昭和28）年の秋季リーグ戦の入場券です（図18）。このようなチケット類は、その場で捨てられてしまうことが多いのでなかなか残っていません。神宮球場の絵葉書も古いものですが、球場周辺の景色が現在とはかなり変わっていることがわかります。

早慶戦の応援などに欠かせない、「紺碧の空」を収録したソノシート（図19）は、真ん中の穴が学生の口に見立てられている、遊び心のあるデザインになっています。これは1961年の政経学部の卒業記念品として作られた三枚組みのソノシート一枚ですが、私はレコードを再生する装置を所有していないので、まだ聴いたことはありません。

【おわりに】

今回の展示作品をまとめるにあたって、まず全体の構成をどのようにするかいろいろ悩みながら、改めて早稲田大学の伝統の重みを感じることができました。また、リーフ制作中は気がつくど頭の中で「都の西北」が流れており、楽しみながら作品をまとめることができたのは嬉しい限りです。

今回の作品では、政治やスポーツ界で活躍している早稲田OB、OGなども紹介しきれませんでしたし、東京専門学校時代の資料など、まだまだ早稲田関連のマテリアルはあると思いますので、いずれスケールアップしたいと思っています。



図 19

なお、作品の全貌と各リーフの解説は、Web(<http://www.bekkoame.ne.jp/~y-ogawa/stamproom/waseda125.html>) で見るができますので、興味のある方はご覧ください。

ウラジオストクからハバロフスクまで シベリア鉄道の旅

西村 寿一郎

今だから行ける。今でなければ行けない。こんな合い言葉のもとに、数年前から、一味違った旅をしている仲間がいる。

一昨年は、仲間の一人がモンゴル大学の教授として赴任したのを頼って、7月中旬のお祭り「ナードム祭」を見にモンゴルへ行った。

今回は、だれいうとなく「シベリア鉄道に乗ろう」

当初、バイカル湖までの旅を企画したが、列車で片道4泊5日との話に頓挫。なんとか実現出きる方法がないかと、コースを変更し、最短距離のウラジオストクから、ハバロフスクまで、妥協することにした。それでも4泊5日の旅程になる。

日程は、次の通りである。

- 8月10日1日目 新潟空港→ウラジオストク
- 11日2日目 ウラジオストク→ハバロフスク
- 12日3日目 ハバロフスク
- 13日4日目 ハバロフスク
- 14日5日目 ハバロフスク→新潟空港

旅行社の説明・案内ではホテルにシャンプー・歯ブラシ・スリッパはなし。昼間は半袖、夜は長袖。蚊・虻が多いので防虫対策は必要。外貨はUS\$以外は通用しない。日本円もダメ。

ウラジオストクへ

新潟からの機内で隣のロシア人との会話。
「ウラジオストクでの楽しみは何か？」
「自由市場をぜひ見てくると良い」
「車が多いので気をつけること」
「乗用車は100% 日本車の中古」
「空港から市内まで交通渋滞がひどいので、時間がかかる」
「日本人にロシアの食べものが合うかどうか？」



ウラジオストク駅

とりとめのない会話のうちに、着陸、わずか1時間強のフライトである。

近くて遠い国「ロシア」である。

空港から市内まで、しばしば渋滞に巻き込まれ、明るかった日差しも夕暮れを迎えていた。

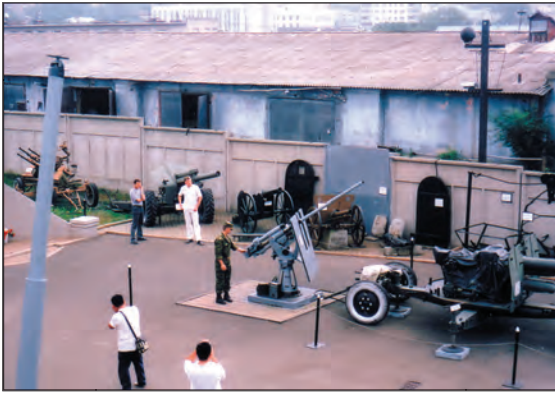
日本との時差2時間。現地時間9時、あたりが暗くなりかかっていた。レストラン「ノスタルジア」での夕食。店は「停電」、外で待つこと15分、その間、蚊に食われる。

店内に灯がもどり、いよいよロシア料理の始まりである。第1日目は無事であったため、これからの旅もこんなものかと、誰しもたかをくくっていた。

ガイド曰く「ウラジオは森と緑と坂の街」と表現した人がいたそうであるが、私だったら「ウラジオはゴミと車と坂の街」

市内の到るところ廃虚に近い空き家が目立ち、車と人の雑踏に反した雰囲気である。

要塞博物館で、正午に大砲を1発撃つとのこと。丘の中腹の野外博物館に入館、コンクリートの要塞の屋根に登り正午を待った。3分前、兵士が一人中庭に設置してある大砲に近寄り時報を待つ。時報と同時に音と地響きのすごさに、



軍事博物館 大砲発射

構えていたカメラのシャッターが、体ごと震えた。軍事資料に興味のある人には、格好の場所ではないだろうか。

「自由市場」見物。機内での話から期待していたが食料品を中心にした市場で、特に魅力は感じられなかった。

シベリア鉄道

シベリア鉄道・オケアン号の発車は午後7時15分。ウラジオストクとハバロフスクの往復のみに使われている専用列車である。

これから一晩、朝8時までの旅が始まる。行程800キロ。13号車2人1室のコンパートメントを8室使用、ほぼ1客車貸切である。

私のコンパートメントは、写真家と同室。ほぼ定刻、列車は静かに動き出した。「ほぼ定刻」と書いたが正確には7時13分だったそうである。

次第に暮れなずむ夕日を背に、白樺林の中を進む景色に、しばし見とれていた。時間が経つにつれて、背景のシルエットがピンクから紫色に変わり、樹木も密度を増してくる。密度が増すにつれて、自然に背景の色も変化してくる。

言葉では表現出来にくい色から、順次漆黒の闇まで変わって行く景色は、色彩・色を追求している人の感覚にはかなわない。

いつまで経っても、景色は同じ。

時間的には、いささか早いのが、促されるまま食堂車の席に着くと、昨晚や昼と同じような料

理が並んでいる。一行の胃袋は、少々くたびれかけてきたようで、あまり食は進まない。

ものの1時間も席にいたであろうか。後続の人のためにと退席を促され、それぞれの席へ戻り2等寝台の住人になる。まだ、寝るには早いのか、私のコンパートメントが談話室に変わり、続々と集まってくる。詰めて8人「シベリア鉄道・談話室」である。どのくらいの時間が経過したかわからない。

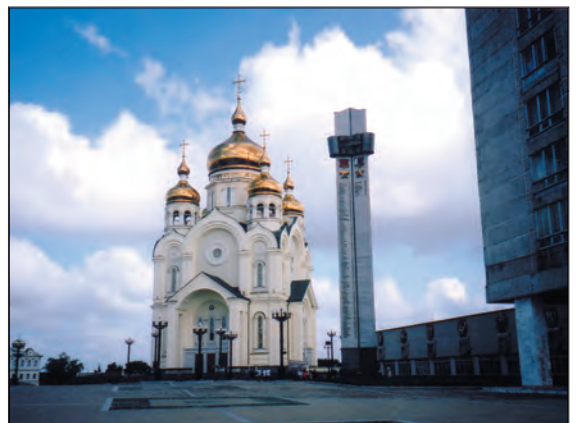
列車のトイレは停車寸前に、車掌が鍵をかけ、動き出すまで使用できない。案内では、汚くて女性には特に不向きであると書かれていたが、思ったほどのことはない。

4～5時間は、寝たであろうか、6時過ぎに車掌が紅茶を運んできた。残念ながら夢うつだったので返事もせぬままにいたら、置かずに出ていった。

聞いた話に、1杯10ルーブルとのこと。

7時30分、起きかかって窓を見ると、ガラスに叩きつけるような水滴。定刻、ホームに降りたつも、ドシャ降り。屋根のあるところまでやっとのことで荷物を運び、外に出るまでが一苦勞、暗い地下道を抜け狭い階段を昇り、駅頭に立った。

ウラジオストクからのガイドは、ホテルへわれわれを送り込み、ハバロフスクのガイドに交代したところでお役目御免である。



ロシア正教会

寝台列車に慣れていないのか、体調不良を訴える人が出てきた。

ハバロフスク

宿泊はアムールホテル。ロビーで待っている間も、電気は消えて満足に字も読めない暗さである。頼んで電気をつけてもらうも、終わるとすぐ消してしまう。よほど、電力事情が悪いのであろう。ウラジオストクの停電を思い出した。

5階建てのビル、エレベーターは1基で4人乗り、今どき信じられない風景である。行き先階の番号を押すだけ。動き出してもどの辺を通過しているのか、皆目わからない。想像を絶する代物である。何人かは、絶対に乗らず1階から5階まで自分の足に頼っていた。

アムール河畔の北方少数民族ナナイ族の村シカチアリャンを訪ねる。

バスに乗ること1時間40分、街道からそれて森の細い道の行きつく先は、ささやかな広場に数軒の木造家屋。われわれ一行のほかには日本人のグループ4～5人が到着、ここは日本人観光客専用の施設ではないかと思われる。

どこでも決まりの、最近作られた郷土の民族衣装・道具類・パネル説明を聞き、民族舞踊を見物する。アムール河畔のためか、蚊の多さは想像を絶するものである。虫除けシールに蚊が止り、飛んでいる蚊をいとも簡単に片手でつぶすことができる多さである。竪穴式住居の人口は蚊の大軍のカーテン。虫除けスプレーも役にたたない。

ここでも食事が「肉・トマト・キュウリ・スープ・紅茶」の決まり文句である。一行の何人かは、ほとんど手をつけない人が出てきた。

だれいうとなく、新潟へついたら「すし」を食べよう。

好天と蒸し暑さが、帰路につくバスに思わぬハプニングをもたらした。クーラーが効かず後部座席は蒸風呂。たまりかねて走行中の乗降ドアを開け、後部座席の窓を開けて風を通す苦肉



日本人墓地

の策をとった。エンジン音は昨日のバスと同じ。窓を開ければ音がうるさくマイクの声は聞こえない。

昨日行けなかったアムール河遊覧を最後に組み込んでもらって、河風にあたる。対岸が遠く、とりたてた風情無し。

帰路

空港への途中、日本人墓地へ。入口に数軒の花屋が並んでいる。色とりどり、華やかさを感じず品揃えはやはり日本との違いを思わせる。

入口から近いところに「墓地」はあり、単に戦争犠牲者以外に現地で亡くなった人々も埋葬されていた。

一同、花を供えてお参りした。

前々日、ロンドンでのテロ未遂事件が影響してか、空港での荷物検査が厳しい。持参した、虫除けスプレーが全員引掛り、その場で没収。

金属探知機場では、全員靴を脱ぎ機械にかける。アメリカ旅行以来のことである。空港内に免税売店があるが、すべてUS\$か日本円しか通用しない。ループルを沢山持っている人が買物を拒否されていた。

気流の関係か、予定のフライト時間より早く新潟空港へ着陸、はや気持は新潟駅へ向かっている。急を要さない荷物を宅配便に託して、身軽な出で立ちで新潟駅へ。待ちに待ち、夢にまで見た「すし」。ヤット人心地つく。

2時間後、一行は上野駅に降り立ち三々五々家路へ向かった。

国際切手展 Washington 2006 への出品と参観メモ

和田 文明

レッドソックスの松坂が中学生の時から大リーグでの活躍を夢んでいたように私も今から30年前の早大切手研在籍中からアジア国際切手展やF I P国際切手展への出品とメダルの獲得を夢みていました。

最初の国際展の出品は、India' 77 という第一回アジア国際切手展で、在学中、“青年部門”でフィリピン占領切手を出品し、なんとか「銅賞」を獲得しています。このコレクションは1982年の結婚の時に売却してしまいました。

その頃アメリカの郵政の公用郵便の歴史に関心を持ち、フィリピンのコレクションを売却後の資金もあったので、1983年頃からコレクションをスタートさせ1990年代に全日展やJ A P E Xへの出品を試みてきましたが、「銀賞」どまりで、なかなか国際切手展への出品資格を得ることができませんでした。

そこで、私のコレクションの“母国”であるアメリカの国内切手展“スタンプショウ”へ出品してみることにし、そこで国際切手展の出品資格である「大銀賞」を見事獲得しました。“スタンプショウ”(Stamp Show)は、A P S (アメリカ・

フィラテリック・ソサエティ)が毎年8月に開催するアメリカ最大のナショナル展です。アメリカの国内展のメダルでは日本からの国際切手展への出品資格とはならないので、当時のコミショナーに事情を説明し、コミショナー推薦で、Pacific' 97 (アメリカ)とIstanbul' 96 (トルコ)へ出品申込みをしましたが、Istanbul' 96のみ出品が認められました。

同展ではポスタルヒストリー部門の審査は厳しかったとのレポートがありましたが、私のコレクション「Official Mail of U.S. Post Office」(5フレーム)は、何といきなり「大金銀賞」(L V)の評価を得ることができました。その後は、この私のコレクションは8フレーム出品となり、(表)の通りF I P国際切手展やアジア国際切手展への出品を繰り返しましたが、「金銀賞」(V)と「大金銀賞」(L V)のみで、「金賞」(G o l d)の大きな壁を越えることは終にできませんでした。

今回のコレクションは、ワシントンD. C.で開催されたF I P国際切手展Washington 2006への出品後、取引のあったアメリカのオークション会社(ナスダック上場会社)を通じて売却してしまいました。

今後はサブコレクションで国際展の出品資格を得ている“アメリカの書留業務郵便史”や今後国際展への出品資格獲得を目指している“米国郵政の公用航空業務郵便史”の2つのコレクションの充実を図っていこうと考えています。ちなみに前者は“ポスタルヒストリー”(郵便史)で、後者は“エアロフィラティリ”(航空郵便)のセクションに属します。

私は、サイドワークとしてクレジットカードやデビットカード、電子マネーなどの海外情報を20年来業界専門誌に寄稿したり、これらに関する専門書を出版したりしており、その取材



Washington 2006 記念小型シート

表 「Official Mail of The U.S.Post Office 1778～1900」の主な受賞歴

(国内展)	フレーム	iBra 1999 (ドイツ)	⑧ 金銀
全日展' 9 0	③ 銀銅賞	World Stamp Show 2000 ^{*1}	⑧ 金銀
全日展' 9 2	③ 銀銅賞	Hong Kong 2000 ^{*2}	⑧ 金銀
全日展' 9 5	③ 銀賞	Phila Nippon 2001	⑧ 金銀
J A P E X' 9 0	⑤ 銀賞	Phila Korea 2003 (韓国)	⑧ 金銀
J A P E X 2 0 0 0	⑧ 金賞	Hong Kong (香港) 2004 ^{*2}	⑧ 大金銀
J A P E X 2 0 0 2	⑧ 金賞	Singapore 2004	⑧ 金銀
APS Stamp Show	大金賞	Washington (米国) 2006	⑧ 金銀
(国際展)			
Istanbul 1998 (トルコ)	⑤ 大金銀賞	※ 1 はアメリカの北米国際展	※ 2 は F I A P の
MOCKBA 1999 (ロシア)	⑧ 金銀	アジア国際展	は、その他は全て F I A P の国際
China 1999 (中国)	⑧ 金銀	切手展	

を兼ねてこれまで中国、香港、シンガポール、ソウル、台北、アメリカ（ワシントンとカリフォルニア／アナハイム）、ロンドン、パリ等を訪問して来ました。その中のいくつかの訪問においては F I P 国際切手展や F I A P アジア国際切手展へ出品と参観を兼ねておりました。

今回の Washington 2006 が、本コレクション最後の出品となると予め心に決めておりましたので、五年前から参観することを決めていました。ANA のマイレージポイントが 8 万マイルたまっていましたので、これを使って成田ーワシントン D. C. 直行便のビジネスクラスを利用することができました。仕事の関係から 2 泊 4 日の極めて短いスケジュールでしたが切手展の参観とアメリカのクレジットカード等の取材をこなして頂くことができました。

ワシントン D. C. は、J R 東日本の”スイカ”と同じ、コンタクトレス I C カードを用いた交

通カード”Smartrip”が導入されているのですが、これも実際に購入し、地下鉄に乗ってみました。またワシントンにはスミソニア博物館が有名ですが、郵便史についても、旧ワシントン郵便局を改装した”スミソニアンポスタルミュージアム”があり、あらかじめこの博物館のサポートメンバーのメンバーシップを得ておいて、事前に情報を収集しておいて、ワシントン滞在中にこの博物館をじっくりと参観することができました。

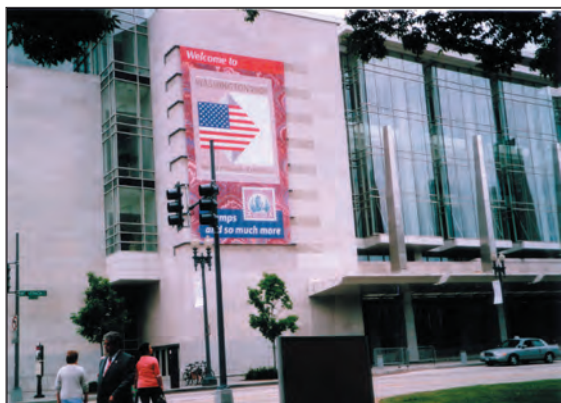
今回のワシントン訪問で、ミズーリ州に住む 10 年来の知人である U S P S (米国郵政サービス) の郵便局長と連絡を取りましたら、「ミスターワダがアメリカに来るのなら」といって自分で車を飛してワシントン D. C. まで来てくれました。彼は切手収集家ではないのですが、他の趣味で 10 年来の知り合いでいっしょに Washington 2006 参観後、今回泊まったグランドハイアットワシントンホテルの近くの

“スシ (寿司) バー”で談笑したのは今回の思い出の一つです。

“Washington 2006”は、昨年の 5 月 27 日より 6 月 3 日までワシントン D C の新しくオープンしたコンベンションセンター開催されました。会場は、PhilaNippon の会場の 3 倍位の広さに、3,600 フレームのコレクションと、200 以上のデ



Washington 2006 記念カバー



Washington 2006 の会場

ワシントンコンベンションセンター入口

イラストレーターブース、オフィシャルブースが並ぶ巨大な切手展でした。日本からは私を含め9名が出品し、文献も5点程出品されていました。F I A P のアジア切手国際展は出品することは容易ですがF I P の国際切手展は関係が少なくなり、

エントリーは狭き門となっています。今回18の日本からのエントリーに対して出品ができたのは9点と半分の状況です。

米国における国際切手展ですので、アメリカ関連のすばらしいコレクションを沢山見ることができ、今後のコレクション作りの参考となりました。ちなみにグランプリインターナショナルとナショナルグランプリは、ともに米国人が獲得しています。ディラーブースには、あらかじめ作成しておいたウォントリストを持参し、20程廻りましたが、従来から通信販売やオークションを利用していた切手商の「おやじさん」や「おばさん」から「ウェルカムミスターワダ」と迎えられました。

10年後の「New York 2016」にもぜひ出品と参観をしてみたいと思っています。

早稲田大学 創立 125 周年記念フレーム切手発行

かねてより稲門フィラテリーが発行準備に協力してきました創立 125 周年記念フレーム切手



を早稲田大学は8月1日に発行しました。

フレーム内は人物(大隈重信、小野梓、高田早苗、坪内逍遙)、建物(演劇博物館、大隈総長銅像、東京専門学校、旧図書館、大隈記念講堂、旧大隈会館)が配され、台紙には「早稲田大学発展の歴史と記念事業の歩み」という表題で1882年～2007年の主な大学関連事項が記されています。

1シート2000円で 限定1250部を発行
申し込み先: 早稲田大学生協ライフセンター
詳細は <http://www.wcoop.ne.jp/wgoods/>



TEL : 03-3202-3235
FAX : 03-3202-3232
Mail: wgoods@wcoop.ne.jp



フレーム切手の台紙(表紙)
画像一部補正

第8回稲門フィラテリー総会開催

稲門フィラテリー総会が下記のように開催されます。

記

平成19年10月20日(土) 午後1時～2時
大学7号館 205教室(予定)

総会後、宮鍋 益治会員による講演「切手教室で20年」があり、その後 高田牧舎での懇親会が予定されております。

切手教室中止のお知らせ

郵政民営化による組織改正に伴い、新宿北局の施設利用の確定が得られないため **9月、10月の切手教室は中止**になります。11月以降に関しては決定しだい連絡いたします。

藪野 健 画伯個展 開催

大隈講堂切手原画作者 藪野 健画伯の個展「記憶の都市 行きたい風景、生きたかった時代」が開かれています。

7月28日から10月8日まで
府中美術館 (京王線府中駅よりバス)



竹生春宵 II

府川 宏昭氏 木版画を銀座で出展

府川氏は7月30日から8月5日まで銀座8丁目銀座アートギャラリーで開催された木版画展に出展されました。氏は過去にも数々の展覧会に出展されています。筍をモチーフに生まれてから成長する過程を描いているようです。大きさは6裁(1畳の1/6)。

住所変更

木元 淳一郎 〒222-0032
横浜市港北区大豆戸町176小泉荘2号211号室
TEL 080-1236-7892

住所表示変更(政令市移行による)

西村 俊男 〒951-8136
新潟市中央区関屋田町1-124

編集後記

10月1日の郵政民営化が目前となりました。順調(?)に行けば今号が郵政公社時における最後の会報となります。1ページにご案内しました記念カバーも、郵政公社の切手に郵便事業株式会社の小型印が押されるということになります。

そのような中、参議院選挙が終わり、与野党逆転が起こり、野党の連名で郵政公社民営化を凍結するための法案の提出が検討されるなど、もう一波乱ありそうで、その行方が気になるところです。

いずれにせよ、郵趣家である我々にとっても一つのターニングポイントとなりそうです。(き)

長谷部 晃氏の写真 「日本の絹展」に展示される

前24号会報でお伝えしました長谷部氏の秩父地方の養蚕業を記録した写真が7月25日から31日まで東京日本橋高島屋で開かれた「日本の絹展」に請われて展示されました。中には農業関係機関にも残されていない貴重な写真が含まれ、氏は郷土史研究者として紹介され、秩父での御活躍を感じさせます。長谷部氏は生きた蚕の前で来訪者に養蚕作業と養蚕業の現状を分かりやすく説明されていました。



動く蚕の前に説明する長谷部氏

池澤 克就氏 「サマーベックス'07」で活躍

7月28、29日通信博物館で開かれた「サマーベックス'07」の実行委員長として池澤氏がその開催と運営に尽力されました。「なつかしの昭和」をテーマに戦後発行された記念切手の原画、試刷が展示され、切手が芸術品としての意味を持つこと、色彩の採用如何による切手のイメージの変化にあらためて考えさせてくれる展示があり、多くのシニアの来館者の興味を引いていました。



切手原画の展示と試刷が並べられた会場

発行日: 2007年9月1日

発行: 稲門フィラテリー

発行人: 小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座: 00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当: 湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎 小川 義博

稲門フィラテリー

第 26 号

2007 年 12 月 1 日発行

早稲田大学創立 125 周年記念事業に 稲門フィラテリーが大きな役割果たす

磯野 昭彦

○稲門フィラテリーが関わった事業

- 1 記念フレーム切手発行
大学生協が 8 月 1 日から発売
- 2 新宿北郵便局が小型記念通信日付印使用
- 3 新宿北郵便局、大学周辺郵便局が大学構内に臨時出張所を開設
 - ・大隈講堂切手発売
 - ・早稲田大学創立 125 周年記念小型記念通信日付印押印サービス
 - ・早稲田大学前郵便局、新宿馬場下郵便局が風景入通信日付印押印サービス
- 4 稲門フィラテリーも隣にテントを開設
- 5 記念カバー、絵入り記念官葉発行
- 6 記念展「著名まんが絵はがき展 by 早大切手研」を新宿北郵便局で開催

○これら事業の事前PR

- ・早稲田学報 6 月号（フレーム切手発行案内）

- ・早稲田学報 10 月号（稲門だよりの扉にカラーで紹介）
- ・早稲田大学ホームページ
- ・郵政公社ホームページ
- ・郵趣ウィークリー（日本郵趣協会発行）
- ・稲フィラ機関誌「稲門フィラテリー」
- ・高等学院ホームページ（活躍卒業生の話題）

○藪野健画伯が記念カバー、記念官葉の原画を

藪野画伯が稲門フィラテリーのために、今回の 125 周年の記念カバー、記念官葉の原画を 8 月猛暑のなかで描いて下さいました。藪野画伯が新装大隈講堂を初めて描いた画です。大隈講堂切手原画を描いた場所と同じ位置から描いた原画です。特筆は、時計が大隈講堂切手と同じ 1 時 25 分を指しています。また、藪野画伯の署名日付は、125 周年記念日の 10 月 21 日になっています。



○大隈講堂切手の原画を記念展で展示

10月11日～23日、新宿北郵便局ロビーで開催された記念展では、新宿北郵便局員信夫氏が格別に骨を折ってくださった結果、藪野健画伯が描いた大隈講堂切手の原画を展示することができました。二度と見ることはできないでしょう。今まで大隈講堂切手発行記念展などで原画展示を試みましたが、郵政から許可いただけませんでした。

また、創立125周年記念カバー、記念官葉の藪野健画伯作原画も展示しました。



大隈講堂切手原画も展示された
記念展「著名まんが絵はがき展 by 早大切手研」



収納ケースに納められた大隈講堂切手原画

○切手研の歴史・著名まんが絵はがきを展示

記念展では、ほかに、切手研の歴史を飾った昭和30～40年代早稲田祭で爆発的人気呼んだ著名まんが家13名（横山隆一、長谷川町子、手塚治虫・・・）原画による早稲田祭記念まんが絵はがき、早大切手研50年記念郵便品、大隈講堂切手発行記念郵便品、創立125周年記念カバー、記念官葉、大隈講堂を描いた大学周辺局の風景入通信日付印など、24リーフを展示しました。



新宿北局ロビーの「著名まんが家絵はがき展」

○大学1号館前にテント設営

ホームカミングデー、記念式典当日、大学が稲門フィラテリーと郵便局臨時出張所のテント設営場所を、正門階段を上った最高の場所にしてくれました。



1号館前に設営された稲門フィラテリーと
郵便局臨時出張所テント前の賑わい

○記念カバー、記念官葉、大隈講堂切手の人気

藪野画伯の原画であったこともあり記念カバー、記念官葉はすごい人気で、カバー1000枚、官葉2300枚は完売になりました。

郵便局臨時出張所でも大隈講堂切手が完売となりました。販売枚数はおよそ53000枚強との



枚数制限をするほどの売れ行きを見せた
記念カバー、記念官葉と大隈講堂切手販売の混雑

ことでした。郵便局としても、予想外の販売量となり、郵便局が持参した領収書も全部使い切ってしまう、21日午後には領収書発行ができなくなりました。

これらのことは郵趣ウィークリー10月26日号にも紹介されました。

○小型記念印原画は稲門フィラテリー提供

切手研50年小型記念印をデザインした当会会員鎌倉氏が今回も原画を作成しました。50年前切手研発行の早稲田祭記念まんが絵はがきの絵もちょっと借用しました。

○記念フレーム切手発行の発端

平成18年3月、大学に対して稲門フィラテリーが各種事業を提案した際、当会が作成した記念の切手案がきっかけになりました。これを見た大学首脳陣がその気になったのでした。デザインについては稲門フィラテリーの意見もとりにていただきました。



切手発行具体例説明に使用したP-STAMPシート
フクちゃん、クリちゃん、サザエさん、アトムそして
なつかしきベビーギャング等の漫画絵はがきを利用

○記念フレーム切手完売

10月3日付朝日新聞が、早稲田大学創立125周年記念の「125」にちなむもののひとつに記念フレーム切手1250部発行、と紹介したからでした。



1250部が完売してしまったフレーム切手

○創立記念日当日大隈講堂切手発売禁止の危機

10月1日郵政民営化に伴い特殊切手類の在庫を焼却処分するとして大隈講堂切手も5月で発売停止とされましたが、早稲田大学の後押しで9月末まで延期になりました。それでも我慢できない大学と新宿北局、大学周辺局（まとめ役は高田馬場局長）、それに稲門フィラテリーの努力と請願で郵政公社が9月になって発売期間延長指令を出しました。おかげでホームカミングデー、記念式典当日には大隈講堂切手フィーバーになりました。

○事業成功に感謝

稲門フィラテリー企画の本事業が大成功したのは、大学、特に早稲田大学創立125周年記念事業推進室（室長関口氏）のおかげです。また、新宿北郵便局、大学周辺郵便局（特に前新宿馬場下郵便局長、現高田馬場郵便局長）の格別な支援があったからです。その他、ご支援、ご協力くださった皆様に深く御礼申し上げます。

総会報告＋雑感少々

青柳 次男

「まだ先ですか？」

「この辺を曲がったと思うんだけど」

私の前を行く老夫婦（年齢は私と大差ないかもしれない）らしき二人連れ。

「あなたの通った学校でしょ？」

女性の口調は、多少イラついている。

二人を追い越して、私は角を左に折れる。目の前に学校。

「すみません。ワセダイガクは、どの辺でしょうか」

女性の声が追いかけてきた。

高田牧舎の横を通り構内に入る。空は高く、秋を感じさせるものの、樹木の葉は緑が濃く、色づくにはまだ時間がかかりそうな気配。これも「異常気象」のせいだろうか。角帽を被り、大隈講堂を背景に記念撮影する人。「125」の数字を記したスクールカラーの小さな三角旗を胸に、多分、昔よりかなりゆっくりしか歩けない人。後輩たちの呼び込みの声。人々々々々々々。声々々々々々々。サラリーマンを卒業してからすっかり忘れてしまっていたラッシュアワーを思い出す。人混みを掻き分け、稲門フィラテリーのテントに辿り着く。絵入り官葉が売れている。125周年の威力か、デザインの勝利か。当日分は品切れ間近との嬉しいニュースを耳に、再び人波に。そのうねりに身を任せ漂うこと暫し、7号館に打ち寄せられる。

ここ数年、稲門フィラテリー様御席となった観のある205号室。窓を開けると、丁度昼時、旨そうな香りが飛び込んできて、すきっ腹が反応する。眼下の大隈候の頭に雀が一羽、125年前には想像もできなかったであろう喧騒を見つめている。

「ここよ！」突然、妙齢のご婦人が二人、入ってきた。

「チョッと広すぎない」

「丁度良いわよ」

全く面識が無い。「会員の方ですか」と声を掛ける。

「いいえ。来週使わせてもらうので下見に来たの」
ああ！我が母校は、教室を貸し出すまで困窮しているのだろうか？それとも、単なる地元住民へのサービスか？ 確かめる間も無く、二人は部屋を一回りすると、風のように去っていった。

教室のそこここに、小さな談笑の輪ができています。午後1時直前。総会の開始時刻だ。

「ただいまより、稲門フィラテリー第8回総会を開会いたします。」1時丁度、司会進行を任された私は開会を宣言した。

先ず、小西会長が壇上に上がり、慶応郵券クラブOBの参加に謝辞を述べた後、「確かに早稲田は創立125周年。でも、稲門フィラテリーの前身、早大切手研究会だって、もう直ぐ60周年を迎えるし、イギリスのエリザベス女王もダイヤモンド婚（結婚60年記念）を迎えた。」と、ユーモアを交えた開会の挨拶。続いて議事に進む。

第一号議案「平成19年度活動報告および平成20年度活動計画」は、小西会長から説明される。郵政民営化で新宿北局の使用が難しい。しかし、何処か場所を確保し、平成20年度も切手教室を継続する方向で検討する。

第二号議案「平成19年度会計報告および平成20年度予算」は、石井幹事が説明。予算に余裕があるので、多少の支出増加は問題ない。

第三号議案「平成19年度会計監査報告」については、住吉幹事から、問題なしと報告された。全ての議案が出席者全員の拍手により承認された後、黒川会員から、国分寺稲門会での映画「早稲田大学」の上映に関するエピソードが次のように紹介された。

同稲門会では、早稲田大学創立125周年を記念して、かつて、東映が製作した「早稲田大学」という映画を上映することを計画した。しかし、古いことなので、その映像フィルムが見つからない。その状況を耳にした稲門フィラテリーの小川会員が四方八方、手を尽くし、ついに早稲田大学図書館に所蔵されていることを突き止め、

そして、6月12日、無事上映に漕ぎつけることができた。そのことで、稲門フィラテリーは、国分寺稲門会から大変感謝されている。

余談ですが、私は、このエピソードを聞き、小川会員が、このような「真面目？」な映画にも造詣が深いことを、初めて知りました。

午後1時45分、私は閉会を宣言し、総会は滞りなく終了した。出席者、28名。

午後2時。窓を閉じていても外の様子が響いてくる。そんな中、講演会が始まる。今回の講師は宮鍋会員、演題は「切手教室で20年」。永年にわたる切手教室の開催で、郵政事業への多大な貢献が認められ、この4月、日本郵政公社から感謝状を贈られた。ホテルでの授賞式の後、皇居へ参内し、天皇陛下のお言葉を頂戴する栄に浴したことを、その時の様子を含め楽しく、そして興味深く話された。郵政公社は、10月1日に公社から事業会社に移行したため、今後は、表彰されても天皇のお言葉は頂戴できないらしい。最後のチャンスに恵まれた、と講演を締めくくられた。

この講演会には、慶応郵券クラブから4名の方が加わり、合計32名のメンバーが耳を傾け、午後3時少し前に終了した。

1年に1回しか顔を合わせないのに、高田牧舎の若いマスターは、ありがたいことに私のことを憶えていてくれる。ただし「顔」だけである。名前までは難しいらしい。

「エーと。ワセダの切手????」

「ハイ！ 4時から予約を入れている稲門フィラテリーです」

「ああ！ 稲門フィラ・・・・・・」

講演会の後、1時間ほど思い出の構内を散策した面々が三々五々集ってくる。さほど広くない会場は、すぐに一杯になってしまう。今回は、慶応郵券クラブから7名の方に参加頂いたため、いつもより狭く感じる。

小西会長の挨拶で懇親会が始まった。その役を果たすだけのために会に所属しているようで恐縮だが、私がまたまた司会を勤めさせて頂く。乾杯の発声を慶応の安川氏にお願いし、早慶（慶早）仲良く盃を上げた。出席者全員、かなり空腹だったのだろうか。何故か今回は、料理、飲

み物共にテーブルに供されている時間が短い。「オイ、料理が無いぞ」「酒は？」「ワインがイイ」「水割り」・・・・・・・・・・

合間を見計らって若手会員の池澤氏に、「郵趣」誌に紹介された記事について、解説してもらう。残り時間少々になった頃、先輩会員から私に、慶応とエールの交換をせよとの命令。全く経験なし。どうすりゃいいのさ思案橋♪。後は野となれ山となれ。

フレー、フレー、ケ・イ・オー フレフレケイオ、フレフレケイオ

喉はゼーゼー、汗びっしょり。

慶応側は、西條氏。若々しく、正しい形で勤めてくださった。謝謝。

やがて約束の6時。来年の今月今夜を約して集まりが散じていく時間になる。在所が小江戸（川崎市）の小熊会員が、江戸の一本締め（ご本人の解説）でお開き。

懇親会担当幹事？の私は、来年の予約をしつかりと済ませ外に出ると、大隈講堂方面からは、まだまだ大きな声が響いていました。そうだ、大隈講堂は、重要文化財に指定されましたね。



総会会場の外、稲門フィラテリーのテント前を行く、たくましく早稲田大学チアガールとプラスバンド。時代が移り、人は変わり、早稲田も変わり、時と歳を感じざる得ない場面を多く目にする1日でした。

『雨が降る、降る…』

三浦半島周遊平成 19 年度 稲フィラ見学旅行記

上田 克己

早稲田大学は、今年迎えて 125 周年。文字通り抜けるような青空の下、記念行事が執り行われた。我が“稲門フィラテリー”も、その前日、ホームカミングデイの開催日、10 月 20 日に第 8 回総会が開かれた。それにしても、あの時、どうして、このような晴天に恵まれなかったのだろうか、恨み言の一つもつい口に出る。

平成 19 年度の稲フィラ見学旅行会は「三浦半島周遊旅行」となった。9 月 30 日(日)から一泊二日の予定で、初日は午前 10 時、J R 横須賀駅集合。参加者は小西会長以下 15 名と、これまでに比べてやや少な目。

「雨が降る、降る、城ヶ島の磯に、利休鼠の雨が降る…」に因んでのことではないだろうが、残念ながら当日は朝から雨。いくら城ヶ島を訪れる予定があるとは言っても、のっけからの雨とは洒落にもならない。

一年ぶりに顔を合わせての旅を楽しみにしておられた参加者の皆さんに、更に不快な思いをさせてしまったのが、私メの大幅な遅刻であった。集合時間を TEN から 10 時 30 分と勝手に思い込んで、車中で高橋氏から「今どこに居るんだ?」との電話を受けて気がついたが、最早どうする術もない。駅の階段を駆け上がり、駅に出迎えてくれた占野氏に案内されて既に最初の見学地・横須賀駅前にある“ヴェルニー公園”で追いつき、ひたすら頭を下げてお詫びするばかり。(ここで、もう一度、改めてお詫びの言葉を申し上げます。)

海を臨む公園には日本に造船技術を伝えたフランス人フランソワ・レオンス・ヴェルニーと横



須賀製鉄所(造船所)を設立した小栗上野介忠順の胸像が並んで港に向かって立ち、ヴェルニー記念館もある。

駅前からはマイクロバスに乗り込み、三笠公園へ向かう。見学するのは日本海戦の旗艦“三笠”である。東郷元帥が乗り組み、「皇国の興廃この一戦にあり」と連合艦隊を勝利に導いたことで知られ、今は記念艦として係留されている。ゆっくり館内を見学。館内では三船敏郎扮する東郷平八郎が登場する映画のダイジェスト版上映もあり、バルチック艦隊を撃破した日本海戦を見ることが出来る。



さて、名幹事府川氏が昼食に案内してくれたのは横須賀名物“海軍カレー”。それを“横須賀海軍カレー本舗”にて頂く。入り口には「歓迎

稲門フィラテリー御一行様」の張り紙があり、他愛なく喜ぶ。カレーは懐かしい家庭料理の味。野菜サラダと牛乳がセットになっている。話に聞いていた海軍カレーを初めて味わうことが出来、一先ず満足。

《余談；海軍が艦内でカレーをメニューに加えたのは、栄養のバランスの外、毎週定期的に提供することによって一週間経過したことを自覚させる目的もあったとのこと。》



食事を済ませて次に向かったのは、三浦半島の東端にある国内初の洋式灯台である“観音崎灯台”。途中、三方を緑に囲まれ



海に向かって立つ白い「横須賀美術館」を通過。個人的にはぜひ立ち寄りたかったが、残念な



がらこれは時間的にも無理な相談。バスを降り、坂を上り切り通しを抜けて、海添いの細道を辿り降りしきる雨の中、「天気が良かったら、さぞ気分が良いだろうな」等とボヤキながら灯台へ向かう。この灯台も今朝程お目にかかったヴェルニーが建設したもので、現

在のものは大正 14 年に再建された三代目との由。

雨は降り続いていたが、灯台の上からの眺望は素晴らしい。また、また、「晴れていればなあ」と青い空と海を背景に建つ白亜の灯台を思い浮かべ嘆息する。

バスは三浦半島を南下し、久里浜のペリー上陸地に造られた“ペリー公園”建立されている“記念碑”と“記念館”を見学し、歴史の授業で「人はいつ見た黒い船」＝ 1853 年と覚えたことや「泰平の眠りを覚ます上喜撰たった四杯で夜も眠れず」との狂歌を思い出した。ところが、このときペリー提督が率いた四隻の軍艦のうち、蒸気船は二隻の



みで他は帆船であったことを、ここで初めて知った。いや、勉強になりました。



この後、いよいよ、今回のメインテーマの一つである“日本郵政の父、前島密翁”の墓参に赴く。折りしも明日から郵政民営化がスタートする。そんな日に前島翁の菩提寺、常楽寺に詣でるとは、さすがに名幹事の心憎い演出である。その上、民営化の仕掛け人、小泉前総理大臣宅前を今朝ほど通っている。翁は 1919 年(大正 8 年)4 月、横須賀市芦名の別荘「如々山荘」で永眠、束帯姿の翁が立つ立派な墓碑が建立されている。線香を手向け、一同冥福を祈る。この稲フィラの第一回目の見学旅行では上越市へ出掛け、「前島記念館」や「前島記念池辺郵便局」を訪れている。



浄楽寺は「金剛山勝長寿院浄楽寺」と言い源頼朝が父、義朝を弔うため建立(1185 年)したが、後(1206 年)に北条政子と和田義盛が当地に本尊を移したと言われる。ここには阿弥陀三尊(阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩)と毘沙門天、不動明王が納められており、共に仏師運慶の作と伝えられ毎年、3 月 3 日と 10 月

19 日に一般公開される。従って、今回はお目にかかることが出来なかった。

これで第 1 日目の予定は、雨の中ではあったが、すべて完了。郵政民営化初日のファーストデイ・カバー作成騒ぎと城ヶ島訪問記は、次の機会に。

六十余年 切手を集めた人生は

—— 鉄鋼マンの軌跡 ——

田中 駿一

早大切手研 50 年の記念誌及び高馬氏の切手蒐集物語などによると市田左右一氏は郵趣界の大御所で切手界ではドクターと呼ばれていた。氏は元 尼崎製鋼の常務取締役、鋳物研究の工学博士であられた。一方、私は早大の鋳物研究所で卒論を終え、日本鋼管へ入社し、現在は年寄り貧乏の趣味人と称している。

高馬氏によれば大コレクターになりにくい人の条件として 1. 経済力のない人 2. センスの悪い人 3. 執着心のない人 4. 仕事が忙しすぎる人 5. 恐妻家の人 とある。

以下は私の動機、出来事、入社後の蒐集についての考え、若干の切手、記念カバー及び郵便に関係する写真等を披露する。

〔Ⅰ〕動機

終戦の年（小学 6 年生～中学 1 年生）親から葉巻タバコの空き箱に入った丸まった記念切手をもらった。これをストックブックに並べたのが始まりである。それから 2 年後、通学の帰路、郵便局に入り民間貿易再開記念切手を買ったのが郵便局との出会いである。特定郵便局なので局舎は自分の家で次の日曜日に二階で同好会を開催するから来ないかと誘われ、参加した。内容は見せっ程度であったが、かなり刺激された。その後、記念切手の価値が高騰するので次第に購入枚数を増やした。

〔Ⅱ〕1951 年 3 つの出来事

その一 市田左右一氏宅訪問

早大入学が決まった春休み、父の紹介で市田氏を訪問（冒頭のことは何も知らずに）コレクション拝見、真の切手蒐集方法を教わった。そして、これからの蒐集は英領が良いといわれ、私にセントヘレナの初期クイン・ビクトリア肖像の高価な切

手を 58 枚下さり、これを元にはじめたら良いと指導して下さった。現在このセントヘレナ切手（初期のビクトリア肖像）だけでも 100 枚ぐらいになっている。市田氏の意を継いで英国及び英領アルバム最初の 10 頁に収めた。

その二 石山寺 80 銭小型シート購入

外国切手購入の資金作りを目的として、石山寺小型シート 6000 枚購入を試みた。発売日当日、親から五千元借り、授業の帰り途、飯倉にあった郵政省切手普及課を訪れ、申し出たところ、OK で官封 60 包みをカバンに入れ持ち帰ったが大変重かった。

その三 ニューギニア極楽鳥 2 シリング切手

新橋の吉田スタンプで同切手を 100 円で買って外へでた。同時に店内にいた中年の男が私を追いかけてきて、私に「どうしてあの切手を 100 円で買ったのか」と質問され戸惑った。「実は私

これらニューギニア切手を沢山持っているので差し支えなければ家に来てくれないか」と言われ、住所氏名を教えてくれた。後日 親に 1 万円借りて訪問、約数十倍の価値の切手を求めた。

これら石山寺 80 銭とニューギニア切手は外国のニューイッシューとの交換、購入に消えていった。

現時点で考えると以上の偶然の出来事もあり、大学時代（1951－1955）が一番収集に熱中していたと思う。

〔Ⅲ〕49 年間の会社生活時代

人生の大きな節目なので、当初、会社と人生を次のように考えた。当時の会社は 55 才定年時代、想定として 22 歳から 55 才まで 33 年間働いて定年後 10 年ぐらい優雅に切手を楽しみ 68 歳で没すると公言して働いた。（理由は祖父も父も癌で 68 歳で没している。）そして万一、会社を途中で

辞める破目になったら切手商になるつもりであった。実際には会社生活が終わり自由になったのは71才で計画と16年もの差が出てしまった。

昭和30年(1955年)入社、入社教育を受けて製鋼課に配属された。その翌日から現場に出され、平炉の炉前工を半年実務実習、続いて5年半、三交代勤務でA組を担当、作業員400名の監督として働いた。業務内容は当番時間内で発生する事故、災害それに生産など全てを処理する責任があった。三交代勤務はご存知だと思うが、朝番、昼番、夜勤を一週間づつ、勤務をずらすため朝番の日曜日は連勤と称して午前7時から午後9時までの勤務である。この6年間は日曜休、祝日休、年末年始休みはなく、私の休日は平日代休であった。したがって同僚、同期生との一寸一杯の機会もなかった。

これ以降22年間製鋼畑の第一線で勤務したが、詳細は略し、1955年以降22年間の全国粗鋼生産量推移は下記表の如くで増産につぐ増産で多忙を極めた。

日本全国粗鋼生産量推移 単位万トン			
年度	粗鋼生産量	年度	粗鋼生産量
1955	979	1967	6372
1957	1231	1969	8703
1959	1824	1971	8844
1961	2940	1973	12002
1963	3408	1975	11404
1965	4130	1977	10065

特に忙しかったのは1973年で最初の9ヶ月7時～23時、残り3ヶ月6時～1時勤務した。生産量は1億2千万吨を超え、入社時の12倍強であった。

また1963年ブラジル、ウジミナス製鉄所で2年間、1979年ブラジル、プロモン社で4年間勤務もあり国内含めて9年半の単身赴任もこなした。

この様に会社生活は多忙で不規則であったが、周囲の方々の協力を得て全うできた。この間、唯一癒してくれたのが切手であった。

この時期の切手入手方法として高馬氏経営のサ

ンフィラテリックセンターから外国オークションカタログを送ってもらい分相応の切手と雑切手(コレクション単位及びダンボール詰め)を入札取得、また外貨制約が緩和後は直接にアメリカ、イギリス、スウェーデン等のフィラテリック・センターから新切手をクレジットカード可の販売を利用した。日本切手は1990年頃まで通販購入した。

[IV]切手・カバー等の紹介

(1) ブータン製鋼の歴史シリーズ切手

この国は仏教国で、日本の丹前に似た民族衣装とともに、GNH(国民総幸福)という国策で知られている貧しい国である。1969年外貨獲得用切手として、鉄ホイルの上に印刷したことをキャッチフレーズに、製鋼の歴史シリーズ12種類を発行した。切手の図案はダマスカス刀の市場で刀の重さと金塊がバランスしており鋼は高価なものだったことを示す。裏に.001 USS STEEL FOIL とラベル印刷してある。



(2) オーストリアLD転炉40年記念

下カバー切手図案は、LD転炉の断面図である。炉体は簡単なもので、上から純酸素を吹き込む方法なので上吹き転炉とも言われている。250トンの自動車用鋼も30分で精錬生産する優れたものである。現在、世界の鋼の大半はこの方法で作られている。日本では1958年に導入され生産に加わった。



(3) 日本と西ドイツの交通安全、作業安全の切手
入社以来、全ての作業について安全第一、品質第二、生産第三の方針で仕事をしていたが、特に安全問題は難しかった。

安全問題を常に考えていたときに、西独、日本で交通安全と作業安全の切手が発行された。写真に見られる如く西独切手は飲酒運転と道路でのボール遊びは危険と一目でわかるようデザインされている。一方、日本の切手は多色刷りでのどかである。どちらが良いか判断は皆様で。

安全切手について

①日本は働く人々であるが西独は安全帽をかぶった作業員、②高層建築作業であるが西独は直接落下で喚起している。③荷役作業であるが西独のは吊荷から目を離さない。(これが原則)④機械作業、



回転体作業には手が触れない様、安全カバーを取り付ける。西独切手は一目で分かるよう注意を喚起しているが、日本切手は呼びかけだけで具体的な事は何も浮かんでこない。



(4) 日本南極観測隊上陸記念カバー

1957年の地球観測年に当たり、南極地域の観測が国際的規模で行われ、わが国もこれに参加するので、郵政省ではこの画期的壮挙を記念して、「宗谷」がプリンス・ハロルド海岸に接岸中、同船内に郵便局を設け、観測上記念すべき日と記念日付印を押捺することになった。(以上は公式声明)

この「宗谷」は私の勤めている会社建造であり、これに使用した鋼板は私どもが作った鋼であるので人一倍、親近感を持った。下のカバーは三度南極を往復したもので、更に観測が続くので打ち切った。中途半端なカバーとなったので片隅においていたが、2007年1月、乱発切手第1号として南極地域観測事業開始50周年記念切手20種が発行された。切手はともかくとして記念印が押されるので、発行日ではなく最初に接岸した1月29日に押捺して、50年かけた記念カバーは完成した。



[V] 最近の年賀状

(1) 2007年の賀状(主文省略)

添書 私の趣味はご存知のように郵趣で中学生の頃から現在に至るまで60余年続いています。止めるに止められずに困ったものです。この記念カバーは私が12年かけて作成したものです。しげしげと作品を見ていただければ幸いです。私の推定では1500年に1度の機会だったと思います。年寄り貧者の趣味より 右ページ上捺印カバー

(2) 2006年の賀状(主文省略)

添書 昨年ベルン駅近くの公園にある万国郵便連合75年を記念して建造された記念碑(万国郵便連合の象徴で郵便事業の象徴)を再訪した。発足から130余年過ぎた現在、各国とも民営化、合理化に努力し、我が国も昨年郵政民営化法案成立、私の興味は郵便の歴史から郵便の未来像となった。追記、再訪の主な目的はこの記念碑について三井高陽著「切手で知る世界」に「地球の周りを世界の各人種が手をつないで踊っているところ」と記してあるのが解せなかったためである。



このポストは中央郵便局の前の公園内通路に設置されている。この他、街の多くの場所に鋳物の芸術品が展示されている。

〔VI〕 未整理の切手・アルバムを抱えて

完全に会社生活から開放され、毎日が日曜日の生活になったら、家では粗大ごみ、濡れ落ち葉の扱い、家内に死ぬ前に切手を整理しろとわめかれている毎日である。

対策として自分の寿命を日本男子平均寿命（79.0才）まで延命し、自分自身の目で切手を一枚一枚チェックし今迄に何枚切手を買集めたか調べ整理することにした。

買う切手をゼロにすべく20世紀の終わりに



再訪してじっくり見た結果、個々の人の動作は片手で先方の人に信書を渡し、後ろ手は後続の人から信書を受け取っている姿であった。手を握っていないところに意義があり、いつの時代も国同士は仲が悪くとも信書を伝達する姿こそUPUの存在意義を感じた。

(3) 2004年の賀状（主文省略）

添書 昨年は東欧の旅に出かけました。スロヴァキアの首都ブラチスラヴァの町で珍しい芸術品を見ました。右写真は実際に使われている郵便ポスト、鋳鉄鋳物製で芸術品として製作されたものと思う。



21世紀の切手は一切買わないと誓い臨んだが、日本及び外国切手も図柄が良いと求める始末である。結論として、切手には愛着があり麻薬的存在になってしまったと思う。

SCOUT運動100年に寄せて

五十野 和男

今年は、イギリスでスカウト運動が始まってちょうど100年を迎え、イギリス・ロンドン郊外チェルムスフォードで第21回世界ジャンボリーが7月27日より開催され、世界150ヶ国より40000人のスカウトが参加した。日本からは1500名もの派遣団並びに数千人の見学者が渡英し、世界のスカウトと友好をはかった。



スカウト運動100年記念イギリスFDC

E.U 諸国では、今年度のヨーロッパ切手のテーマ (Europe2007) として、スカウト運動100年を取上げるなど、イギリスを始め世界約50ヶ国・地域でスカウト切手が発行された。

第二次世界大戦後、ソビエト連邦はじめ共産圏諸国は、宗教を排除した関係で、ボーイスカウト世界連盟から脱退し、ピオニールなど別の組織で活動していたが、ソビエト連邦の崩壊で東欧諸国は再度ボーイスカウト世界連盟に復帰しスカウト切手を今回各国で発行した。

この機会に、スカウト運動の歴史を探ってみようと思います。

ボーア戦争

南アフリカ連邦のトランスバール共和国で起こったボーア戦争 (1899年10月11日～1902年5月17日) で、イギリスの陸軍大佐バーデン・

ポウエル (以下B-Pと略す) は、人口1700人周囲5マイルの小さな国境の町メフェキングで駐屯隊長の任にあった。

この町での兵力は700人しかおらず町民にも武装させ300人を加え1000人足らずであった。

戦端が開かれると、多数の敵兵に包囲され、実に217日間もの籠城戦となった。このとき正

規兵の足りない力を補うため、少年18人に斥候や郵便配達をさせることになったが、ここで困ったことに使用していた切手が底をついたことであった。

まず郵便事務を取り扱うことで少年達の士気を鼓舞させるためには極めて重要なことであり1900年4月10日に切手が現地で発行された。

切手が発行されて驚いたのは、B-Pその人であった。なぜならばイギリスの切手は原則として元首であるビクトリア女王の肖像を使用すべきであるのに、彼自身の肖像が写真から切手が作られたのであった。



B-P切手 (小) B-P切手 (大) グッドイヤー少年

この切手を準備したのはグリーンナー大尉で、3ペンスの濃青色切手・大小2種で、B-Pはこの切手の使用に反対したが、戦時中包囲されている陣内でしか使用されない地方切手であるから、使用することになった。

少年達は、最初はロバを使用したけど、戦局が悪化し、食料が窮迫しロバも食用に供せられ、

彼等は自転車を使用するようになり、自転車が彼等のシンボルになった。

B-Pの肖像切手とともに、少年隊のリーダーとなったグッドイヤー少年が自転車に乗って活動している1ペンスの切手が4月7日に発行された。この少年達の非常な活躍により、遂に勝利をもたらす一因となり英国の名誉を守ることができた。

発行枚数

1ペンス	自転車の少年	9476枚
3ペンス	B-P (小)	6072枚
3ペンス	B-P (大)	3036枚

ボーイスカウト運動の起こり

ボーア戦争が終わり、1903年救国の英雄となったベーデン・ポウエルは英国に帰還した。

英国には1883年に教会の日曜学校教師をしていたスミス会長が創設したボーイズ・ブリゲード（会員約10万人）があった。この団体は軍服をつけ玩具の武器を持たせることにより、少年達に興味を引かせ、訓練をすることであった。



1982年青少年団体記念切手 イギリス発行
ボーイスカウト ガールガイド ボーイズブリゲード

ベーデン・ポウエルは1日も早く、少年達のために、新しい訓練方式を考案し“少年のための斥候法”の本の作成に取りかかった。

ベーデン・ポウエルは、1907年50歳で（陸軍中將後に男爵）引退し、年来の構想を試すため、同年8月に21人の少年を集めて実験キャンプをイギリスのドーバー海峡にあるブラウンシー島で行ったがこれが“スカウト”を意識して行われた、史上初めての青少年活動である。

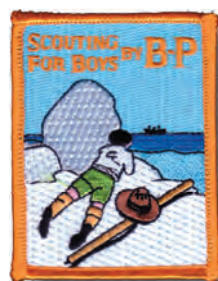
この実験キャンプ訓練の基礎となったものはもちろんベーデン・ポウエルが大佐で活躍したボーア戦争や、治安維持のために創設に尽力し

た南アフリカ警察隊で試みたものであった。

またアフリカ東南岸のズール族や他のアフリカ原住民が子供を鍛錬している方法や、キップリングの“キム”や“ジャングルジム”また、アメリカのシートンが少年教育法として考案した“森のインディアン”・日本の武士道精神などから少年の訓練に必要なものを集め、キャンプに参加した少年達に試してみた。

ベーデン・ポウエルは、翌1908年にScouting For Boys（少年のための斥候法）を刊行した。これがイギリスのスカウト運動を組織・発展させたばかりでなく、瞬く間に世界の舞台へ広がった。

スカウト切手が最初に発行された国は、第1次世界大戦が終わった1918年10月、チェコスロバキア共和国で、建国に伴っ



Scouting for boys
初版本の表紙

て多くの困難が生じた。混乱の中で解放委員会と新政府当局との間の連絡にスカウトの組織を活用した。

11月7日より25日まで、政府関係の主要書類の配達の任務に服した。この時スカウト郵便

と称する2種の切手を使用した。

10ヘラーは青色・20ヘラーは赤色であるが、切手の刷色は多種類ある。

重要文書の配達に際し、消印には手書きで日付が記入され、封筒には配達したスカウトのサインと受取人のサインをするゴム印が押されている。NVの消印は政府委員会の略号である。

1920年と25年にシャム（タイ）で、スカウト運動資金捻出のため寄付金付切手を3回に分けて19種類の加刷切手を発行した。加刷は虎の笑ったような顔で、印刷されたものと、ゴム印で押されたものがあり、偽造品がかなり出回っている。



チェコスロバキア 1918年のNV消印のある封書



1920年 タイ発行 SCOUT FUND 3シリーズ

このほか、戦前はハンガリー・ルーマニア・リスアニア・ポーランド・リヒテンシュタインなど東欧諸国で多く発行されたが第二次大戦後共産圏に属したため、スカウト活動は最近まで水面下で行われていた。



イギリスで使用されたポーランド亡命スカウト小型印とウクライナの亡命スカウトシール

ジャンボリー

ヨーロッパで起こった第1次世界大戦が終わり、世界各地のスカウト運動の気運がようやく盛り上がってきた。青少年教育にこの運動の持つ意義の大きいことが認識されるに伴い、ベーデン・ポウエルは、国際大会を催してスカウト

の心の中に燃え上がる兄弟愛を通じて、新しい世界的運動を展開して行くことを考えた。

ジャンボリー (Jamboree) とは、もとは米語で“お祭り騒ぎ”を意味する言葉であり、ベーデン・ポウエルの発案であった。

1920年に、第1回国際ジャンボリーが(以下WJと略す)イギリスのロンドン・オリンピックで33ヶ国・8000人のスカウトが集まり、人種・宗教・言語・習慣の違いを越えて広く世界中のスカウトたちが、交流と親善を繰り広げた。

日本から東京少年団小柴・北海道岩内少年団下田の2名(いずれも指導者)と、イギリス人グリフィンが横浜で組織したスカウト隊より鈴木(英名リチャード)少年が参加した。



岩内少年団の参加したスカウトジャンボリー

世界ジャンボリーは以後4年ごとに世界各地で開催されることになり、1924年の第2回WJは、デンマークのコペンハーゲン近郊で行われ日本より三島通陽団長(戦後最初の総長)ら24名が参加した。

第3回WJより世界ジャンボリーと改称し、ボーイスカウト創立20周年を祝う大会で、1928年に催す予定であったが、オリンピックと重なったため翌1929年にイギリスのバーケンヘッドで開催され日本からは、佐野団長以下28名派遣した。このジャンボリーでベーデン・ポウエルは、ジョージ5世より男爵を授与された。

1933年のハンガリー・ゲテロで開かれた第4回WJで初めてジャンボリーの切手4種が発行された。日本から小尾団長以下9名派遣した。



初のジャンボリー切手を貼った封書

太平洋戦争が1941年に開戦したため1937年のオランダで催された第5回WJが戦前の最後となった。日本からは10名参加した。

1941年バーデン・ポウエル卿は、アフリカのケニヤで帰らぬ人となった。



B-Pの墓を描いた切手を貼った記念カバー

戦後いち早く1947年にはフランスのモアッソンで第6回WJは開催され、世界33ヶ国から、25000名ものスカウトが集まった。フランスは1941年に開催することになっていたが、第2次



フランス・モアッソンジャンボリー

世界大戦のため中止になっていた。日本からは、この大会だけ参加出来なかった。

1957年にはスカウト運動50周年・B-Pの生誕100周年を記念しジュビリージャンボリーとして盛大に、イギリス・サットンパークで催された。

この第9回WJの記念大会には、世界88ヶ国から34000人も多くのスカウト達が集まり、日本から22名参加した。



ジュビリージャンボリーのFDC

日本のスカウト運動（戦前）

スカウト運動が最初に日本に伝わってきたのは1908年（明治41年）、ロンドン駐在の秋月全権公使の日本政府への報告であった。

秋月公使はその報告の中で「ボーイスカウト運動は、騎士道の精神に則っていること、特に日本の武士道も取り入れている。」と伝えた。

1911年、イギリス国王ジョージ5世の戴冠式に、明治天皇のご名代として東伏見宮依仁殿下が渡英されたが、随行した乃木大将はロンドンのスカウト集会で、武士道について講和した。

帰国後、スカウト運動に強い感銘を受けた乃木大将は、院長に就任した学習院の生徒を連れて江ノ島の片瀬海岸で3週間のキャンプ生活を実施している。

日本では1913年に東京少年軍、翌年に静岡少年団・大阪少年義勇団が創設されるなど、1915年をピークに少年団の設立気運は全国的に起こった。正に第1次世界大戦のさなかであった。



皇太子訪欧の記念切手付絵葉書

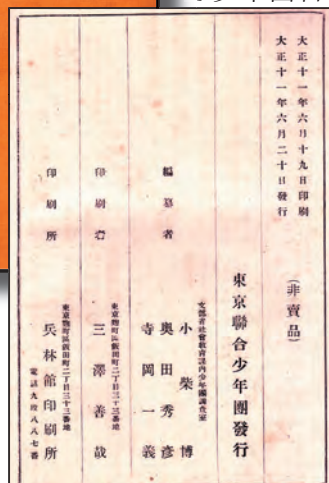


皇太子殿下 英国エジンバラでスカウト隊を御親閲

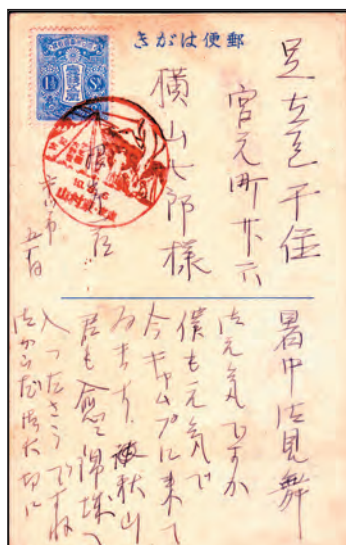
1921年（大正10年）皇太子殿下が、お召艦香取で渡英中、ボーイスカウトと接し、バーデン・ポウエル卿ともご引見になり、格別深いご関心をもたれた。



少年団指導書と
同書奥付



翌1922年4月静岡で第1回全国少年団大会を開き、引き続き東京で少年団日本



スカウト最初の小型印

ジャンボリーを日比谷公園で開催し全国より72名の団員が集まった。

少年団日本連盟はこれらの大会を機に結成され、初代総長は東京市長後藤新平（男爵）がなった。

その後、1935年財団法人に組

織を変更し、同時に大日本少年団連盟と改称した。また第2代総長に子爵斎藤実を推戴した。斎藤総長は翌年起こった2.26事件の犠牲となり不帰の客となり、第3代総長は海軍大将竹下実が就いた。

この年東京・東村山で開催した全日本少年団大野営には、全国より3141名が集まった。この大会で、スカウト関係では日本で初めての記念小型印が使用された。

戦争の気運が高まる中、国家の圧力が強まり1941年大日本少年団他3団体は財団法人健志会を設立し、大日本青少年団（団長文部大臣橋田邦彦）となった。

1945年、日本本土に対する米軍の戦略爆撃はますます激しくなり、この年5月に戦時教育令が公布され、すべての青少年が文部大臣統率のもとに大日本学徒隊を組織し、兵力の一翼を担うことになり、大日本青少年団本部もついに6月16日解散式を日本青年館で行った。

日本のスカウト運動（戦後）

1945年8月15日第2次世界大戦の終結を境に日本の政治・経済・社会は、連合軍総司令部（GHQ）の指令に従いながら大きく転向していったが、教育もまた例外ではなかった。

これらは国家主義的・軍国主義的な教育・思想を禁止し、基本的人権の思想に合致する教育内容の実践の確立を勧告したものでありその後日本の教育改革の基礎を作った。

ボーイスカウト再建の動きは、終戦と同時に起こり、第3代総長であった竹下勇はアメリカでスカウト活動をしていた村山有（元早稲田大学政治経済学部新聞学科講師）や鳴海・内田等に、GHQに再建を要請させた。

1949年（昭和24年）、GHQの設立認可を受け、財団法人ボーイスカウト日本連盟として再発足し第4代総長に三島通陽が就いた。

同時に、社団法人ガールスカウト日本連盟が誕生した。



三島 通陽 総長サイン入り記念カバー

同年9月、天皇・皇后両陛下の来臨を仰ぎ戦後初の全日本ボーイスカウト大会を、皇居前広場・日比谷公園で開催し、3500名のスカウトが全国より集まった。郵政省より初めてボーイスカウトの記念切手が発行された。

翌1950年8月に新宿御苑で国際復帰を記念して8000名ものスカウトが集まり、第2回全日本ボーイスカウト大会が開かれた。

この年、世界のスカウトは72ヶ国400万名



ボーイスカウト記念切手カバー

を数え、日本では25000名の少年達が訓練を受けていた。記念小型印が発行された。

1951年山形県蔵王山麓で全国7000名のスカウトが集い、オーストリアで開催中の第7回世界ジャンボリーに呼応して、第3回全日本ボーイスカウト大会（全国野営大会）が開催された。

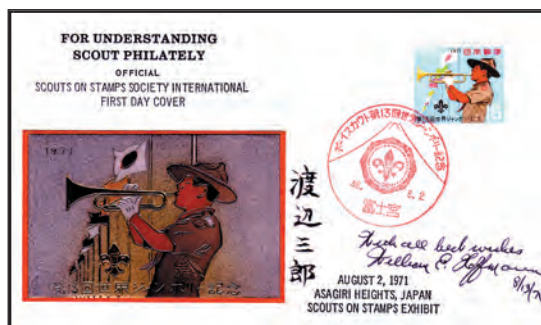
1949年（昭和24年）以降3カ年継続した全国大会は、1956年より日本ジャンボリーとして4年に一度開催されることになった。

第1回大会は皇太子殿下をお迎えし世界13ヶ国13000名のスカウトが軽井沢に集まった。私は中学2年生で、芦屋より夜汽車に揺られて参加したことを今でもはっきり蘇ってきます。

1971年念願の第13回世界ジャンボリーが、日本の静岡県朝霧高原にやってきました。

世界87ヶ国・23758名のスカウトが、“For Understanding(相互理解)”をテーマに野営生活を共にし、国際理解と善隣友好を身をもって実践することができました。

現在ボーイスカウトの規模は、世界150ヶ国2千8百万人に達しています。しかし日本では1983年（昭和58年）の33万人をピークに減り続け現在は20万人の少年達が活動している。



第13回世界ジャンボリー FDC
渡辺三郎デザインの切手

青少年を取り巻く社会環境の変化がスカウトの減少に影響しているようです。日本では1995年（平成7年）から女子もボーイスカウトに入隊し活発に活動している。早稲田大学には青年スカウト隊のサークルがあり、学連の公認団体（早稲田ローバス）として活動しており、今年50周年を迎えた。

趣味の王様

中川 孝昭

裕福な家庭に育ったわけでもなくせに、金と時間の無い奴には縁のないと言われている趣味の王様・切手にとり憑かれてしまったのが、言わば運の尽きであった。いかに自分のコレクションを、安上がりで充実したものにするのか、それがスタート直後からの命題である。しかし、そういう環境の中で我慢する術は、子供のころから身についていたことなので、傍で見るほど本人にとっては深刻な問題とはならない。選択した道は、使用済み外国切手と日本の記念切手である。それもひたすら、「貰う」のがポリシーである。時によると、女の子から強奪するなどという破廉恥なこともやった記憶がある。



写真1 るりかけす 初日印

おやじも結構協力してくれた。会社へ来る郵便物の切手や、業務用の切手の中から横流ししたと思われる未使用通常切手、螺鈿の10円、塔航空25円、金魚の35円などであった。悲しいかな、宮鍋先輩に出会うズーッと以前のことである。通常切手の魅力など分けるわけがない。多分使用済みの外国切手と

の交換用に全て消費されたのであろう、手元にはなにも残っていない。親父がらみの貴重品といえ、オン・ペーパーの「るりかけす」8枚ブロック初日印付使用済み(写真1)くらいのものである。つまりかなり高学年になるまで、親父は、私のコレクションに協力してきたことになる。

旅役者よろしく北海道から沖縄まで私は年に60回を越すドサ周りをこなす。それは我が家系なのかも知れないが、出張とお客様接待で普段はほとんど話もできない親父であった。それでも、たまには日曜日に家にいることがあった。そんな時には、青梅街道の新宿・荻窪間を結ぶ背番号14番の路面電車に乗り、30分ほどで行かれる新宿へ、よく連れていってくれた。もちろん伊勢丹の切手売り場へ一直線である。当時の伊勢丹は、3階か4階がスケートリンクになっていたのを覚えている。その帰り道には、もう一つの楽しみがあった。確か当時一皿25円だったと記憶するが、中村屋のほかほかの肉まんとアンまんを食べさせてくれたことである。今では東日本のセブン・イレブンへ行けば、どこでも手に入るものであるが、当時は当然のことながら、ここに行くしかチャンスはなかったのだと思う。たまには、交差点の角にある追分団子ということもあった。先日なにかの番組で、あの吉永小百合さんが子供のころに、同じような体験をされていたことを知り、サユリストとしては同じお店の中で、同じ空気を吸っていたのかもしれないと妙に嬉しかった。彼女の家は代々木上原にあった。

小百合さんといえば、OB会の皆さん是非私を誉めてやって欲しい。実は、彼女に「早大切手研50年」誌を贈呈してしまったのである。ある日のこと、日本橋三越でサイン会があることを、会社の女の子に教えられ、昼休み時間を利用して、のこのこ出かけたのだ。直接ではなくマネージャーを通してであったのは、残念至極であったが、今

でも間違い無く彼女の書斎に収まっていると思う。多分発行した翌年2000年の夏7月の出来事であった。誰か読後の感想でも、彼女から聞き出してくれる御仁はいないかな？

あらぬ方向へ行った話を元へ戻すことにしよう。私の子供時代における切手コレクションの最大の功労者は、神戸のまた従姉弟(いとこ)達であった。弟の方がナショナル金銭登録機、今のNCRに当時勤務しており、野球部に所属していた関係で、野球少年であった私のキャッチボール相手でもあった。恥ずかしながら、私は学院軟式野球部の背番号「1」元祖ハンケチ王子であります。なに！「半ケチ」とは何事だ。そういう悪いことを言う後輩は、厚かましい尾内君達の年代だな！

ところでキャッチボール相手は、私とのキャッチボールなどは上の空であった。月に1度は我が家へ泊まりに来ていたのだが、どうやら私とは5才違いの姉が目当であったらしい。数年後に、今度は6歳下の妹目的で、我が家に遊びに来た青柳君と同様、動機ははなはだ不純なものであったと学術的に断言できる。彼のお土産はいつも決まっています、文明堂の三笠山。ここにも、彼の標的は誰だったのかが明確に現れていたわけだが、当時の私にはまったくわからない世界であった。文字通り「色気より食い気」の世界である。3日間ぐらいいは続けて食べられるこのどら焼きは、姉でも妹でも勝手に連れて行ってくれと、叫びたくなるほど美味し

かった。その彼が時々、沖縄工場から送られてくる会社宛ての郵便物の封筒を、時々持ってきてくれた。今思えば、当時からすでにメータースタンオブが使われていた

ことが少し驚きである。半分はそうした封筒であったので、木内君に怒られるが、面白くも何とも無いので全部捨ててしまった。切手はほとんどが青い色の13円天女の切手(写真2)ばかりであった。時には改訂10円加刷のピンク色の切手が貼ってあったようである。ようであると書く理由は、



写真2 琉球 第2次航空切手

天女の魅力に魂を奪われたせいである。ただでさえつまらない通常切手の印面に、デザイン台無しに加刷が施され、その上満月印では目も当てられない?! 貰った封筒の数はかなり沢山あったが、当時エンタイアなどというハイカラな知識は無いものだから、貰うそばからお湯ではがしては、友達との交換用に使ってしまったので、実にもったいないことをしたと今では思っている。それでも先の推理が働く材料が、奇跡的に私の手元に残っていた(写真3)。この10円加刷は一番安いやつだが、剥がして人にくれてやったものの中には、もしかしたら、タイプIIが混じっていたのではないかと、今でもこのエンタイアを見るたびに、悔しい気持ちになる。

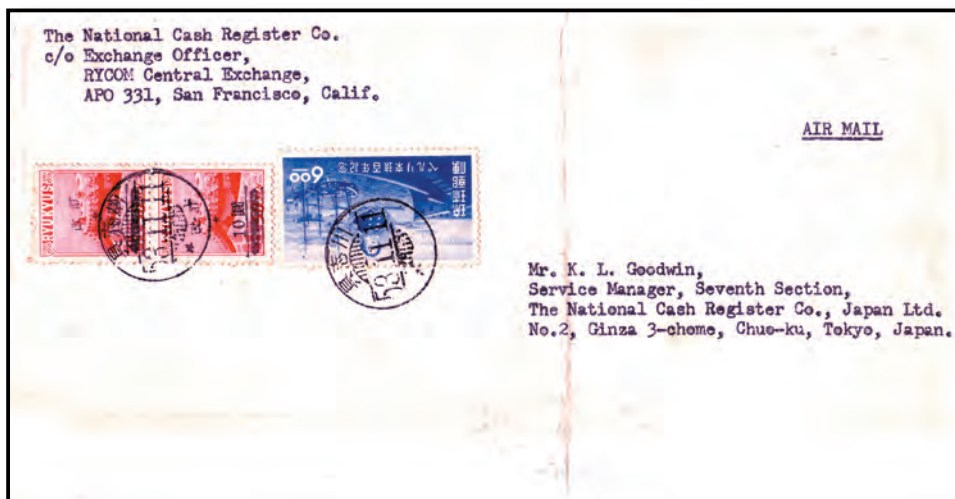


写真3 辛くも手元に残った琉球実通便

彼がこうして、我が家の厄介になる返礼ということなのであろう、私は小学校の4年から高校生になるまで、毎年彼の神戸・三宮にある実家の2階で、夏休みを過ごすことになった。木造2階建てのこの家は、あの阪神淡路大震災までそのまま残っていたが、倒壊してしまい今は無い。不幸中の幸いであったが、当時はお店としてだけ使っていたので、誰も住んでいなかった。何しろ場所は、地震発生当日に傾き、翌日には倒壊して国道を塞ぐこととなったあのビルのすぐ北側だったのである。

そこには少し暗めの兄さんと、それとは正反対にサザエさんのように陽気なお姉さん、そしてキャッチボール相手、彼らの両親の5人暮らしであった。暗めの兄さんのほうは幸いなことに勤め人で、めったに顔を合わすことが無かった。お姉さんのほうは、当時から、とても可愛らしかった私を、ことのほか可愛がってくれた。毎朝私を連れて、生田神社の裏通りを抜けた突き当たりにあるパンやさんへ、出来立ての食パンを一本買いに行くのが日課となっていた。我が家では、毎朝ご飯と味噌汁であったから、レモンティーとトーストはまさしく私にとっての“KOBE”そのものであった。いよいよ私が東京へ帰るという前日には、お姉さんは決まって元町のアーケードを通り抜けて、三越デパートまで私を連れて行ってくれた。切手売り場で国立公園や観光切手を買ってくれたのである。思い出のそのデパートも地震とは別の事情で今は無い。しかし、その時に買ってもらった切手の数々はコレクションに残っており、吉野熊野



写真4 吉野熊野国立公園 ところ八丁

の10円切手(写真4)は、今でも一番のお気に入りである。

切手研に入ってから、グラビア印刷の美しいスイスの切手に秘かに憧れながらも、ご予算少々のが身には未使用の新村切手にすら手を出すことが出来なかった。今は亡き横山先輩の影響もあっただろうが、ドイツ切手の使用済みに熱が入った。何せこの先輩は我々1年の時に最上級生。そして1年後2年後も最上級生のままである。とうとう一緒にご卒業とあいなったのであるが、後に奥様となられた方とアパートに同居されたので「そんなの有り!？」とということ、その後の私はそちらの方により大きな影響を受けた気がする。いずれにしても、切手研では、当時の小川君ほど道を外れたわけではないが、不運なことに同級生に恵まれなかった。なぜか4人になると、すぐに19号室から拉致されてしまう。従って研究は一向に捗らず、とうとう”Philatelist”にはなれず、このような記事しか提供できないことが読者の方々に對して、申し訳なくまた真に残念である。

The Alma Mater

Northwest of City great and fair,
In the wood of Waseda,
Rise proudly high up in the air
Our old college dome and tower.
Our high-aspiring,cherished plan,
Fond ambitions,know ye not?
The torch of Progress in the van,
Glaring fire of freest thought;
The infinite Etemal Aim,
Careful,too,of present need.
How brightly on ward,at its name,
See our steady ranks proceed!
Waseda, Waseda, Waseda, Waseda,
Waseda, Waseda, Waseda.

From East and West,from age to age,
All tides of civilization
In one huge whirlpool ever surge
Round this great island Nation.
Whose lofty mission are we not
Canying on ours houlders strong,
Through hardships of the vast untrod,
Endless as we march along?
Yet soon our hoped Etemal Goal
May its gleaming shadow cast
And with its all-embracing soul
Illumine the World at last!
Waseda, Waseda, Waseda, Waseda,
Waseda, Waseda, Waseda.

And look on yonder wooded hill
Decked with evergreen, for there
We have our home for heart and will,
School, with kind maternal care!
Her students change from year to year,
Meet and part with youth's delight,
Yet all alike we seek to share
These ideals and their light.
Come, let us sing in all accord,
And with raptures ring the air,
To praise the honored name aloud
of our Alma Mater dear!
Waseda, Waseda, Waseda, Waseda,
Waseda, Waseda, Waseda.

早稲田大学創立

125周年

ご存知でしたか

国際化は進んでるようです。

2007年9月 卒業式、学位授与式 式次第印刷文書より 校歌

外国の国名や都市名の漢字表記

小林 彰

某月某日、「切手教室」に続く懇親会の席で、戦前の書物では外国の国名や都市名が漢字表記されることが多かったが、われわれ若い(?)世代は漢字表記となると、どの国か、あるいはどこの都市か理解できない例が多いという話になりました。

この懇親会に参加されていた吉沢忠一さんから、漢字表記の国名、都市名満載の日本郵船「渡欧案内」(昭和6年改定新版発行)と「桑港航路案内」(昭和12年改定4版発行)が筆者の手元に届きました。

郵便史では、料金のほか通送経路・郵便船が主要要素であり、漢字表記は別にしても、海外旅行が「洋行」と称された時代のこれら案内書は貴重な史料です。

「渡欧案内」には、①日本から欧州への経路、②欧州航路使用船と寄港地、③乗船運賃、④渡欧船客一般心得、⑤渡欧船客の特典、⑥寄港地案内、⑦乗船御注意、⑧手荷物積卸方などが懇切丁寧に90頁にわたり紹介されています。中でも次の説明が特に印象的でした。

船内の服装は便利の点からも又国際的である点からも洋服が最も適当であります。和服を着用せらるる場合男子は袴を、婦人はペチコートとスットンキングス(靴下)を併用せらるる事をお勧め致します。晚餐には更衣するのが一般の習慣であります。殊に一等食堂に於いて男子は大抵スモーキング・ジャケット(タキシード)を着用されます。

映画「タイタニック」でも大かたこのような服装でしたが、現在の船旅でも同じなのでしょうか。

開港当時の欧州航路は「海のシルクロード」と呼ばれたように、欧州系商社によって、わが

国から彼の地に蚕種(蚕の卵)や生糸が輸出されていました。

当時の欧州航路での使用船は照国丸、靖国丸、箱根丸、榛名丸、宮崎丸、白山丸、伏見丸、諏訪丸、香取丸、鹿島丸の10隻が挙げられています。寄港地は、横浜、四日市、大阪、神戸、門司、上海、香港、新嘉坡、彼南、古倫母、亜丁、蘇士、ナポリ(漢字が当てられなかったのでしょう)、披西士、馬耳塞、ジブラルタル、倫敦。

査証不要の国として、伊太利、仏蘭西、白耳義、瑞西、和蘭、西班牙、瑞典、リヒテンシュタイン、独逸、丁抹、諾威、芬蘭、填太利、匈牙利、チェッコ・スロバキア及び加奈陀。

寄港地案内の中から、まだ出ていない国名・地名を列挙します。孟買、馬拉加、亜刺比亜海、埃及、金字塔(建造物です)。

他方、「桑港航路案内」では、①日米間を往復した最初の日本船、②桑港航路、③船賃、④北米合衆国入国税、⑤北米合衆国入国法、⑥渡米の手続きなどが全51頁に紹介されています。

日米間を往復した最初の日本船については以下のように説明されています。

軍艦・成臨丸で、米艦ボーハットン号に便乗して米国に派遣された徳川幕府の遣外使節新見豊前守一行の海路警護と航海練習のため、萬延元年(1860年)正月19日浦賀を發し、2月26日36日間を費やして桑港に到着、同3月19日桑港を發し布哇經由5月5日に浦賀に帰着した。

さて、本稿のすべての国名・地名がお分かりですか。懇親会での話題だった国名や都市名の漢字表記を、吉沢さんの蔵書を通じて紹介させていただきます。

このように話題豊富な懇親会に「切手教室」と合わせ、ぜひ一度ご参加ください。

リニアモーターカー時速503Km 体験記

小川 義博

5月のさわやかな風に誘われて外出したとき、ふと目に留まった車内ポスターがあった。リニアモーターカー（以下リニアと略記）試乗会開催の文面であった。帰宅後、早速、HPに参加希望を記載した。老化現象の成せることまったく記憶の中から消えていた7月中旬、J R東海からの封書、開けて見ると見慣れないチケットと参加案内が同封されていた。リニアの乗車券（図1）であった。まあ、話の種にするかと娘婿に声をかけ参加することにした。

乗車当日、真夏の太陽の照り返しがきつい中央線大月駅から車で10分の実験線実験センターが集合場所であった。中央高速から目にするのできるアーチ型の高架橋の場所である。

折角の機会、少しリニアを調べてみましたので蒞蓄を。リニアには基本的に2方式、常電動磁石使用、超電動磁石方式が存在する。前者はドイツ方式（日航方式）といわれHSST（High Speed Surface Transport）の略語が使用される。常電動磁石を使用しているため最高時速は400km程度、浮上も1cmということでトラブルが多いという。後者はJ R方式（マグレブ）。超伝導を使用のためスピードは理論的にはいくらでも可能、浮上も10cmと超高速鉄道に向いているが超高額なものとなるという。日本ではJ R方式が新幹線開通の2年前1962年に研究が開始され、宮崎に実験線ができ1987年有人走行400kmを達成、1997年山梨実験線ができ



図2 日航のHSSTを描いた LIBERIA 切手 (1.5 倍図)

8人分の客席を持つ実験車。懐かしい鶴のマーク、HSST-02が見られるように日航が試作した2番目の車両、110kmを記録。1978年川崎東扇島で公開試乗を行った。HSSTの特徴である軌道を跨いで浮上する形式のドイツ方式をよく示している。

2003年有人走行581kmを達成した。一方のドイツ方式は日航が1974年ドイツから技術導入し、1977年110kmの有人走行し、さらに加速用ロケットエンジン搭載で310km走行に成功した。この方式のリニアが科学博、愛知博で運行され、2005年愛知高速交通東部丘陵線として営業運行している。しかしこの間、日航はとくに開発から撤退した。

試乗会に参加してリニアの浮上方法が根本的に異なることがわかった。HSSTは停車中であっても車体は浮上していたと記憶するが、J R式は停車中は車輪が接地しているということである。これはHSSTは凸型レールに凹型を逆にした列車がまたぎその上下の間の磁力の反発で

浮上しているのに対して、J R式は上下間ではなく左右の側壁と車体左右の磁力の反発で浮上するのだ。左右からの磁力の力、S,N変換頻度を操作することで上方向への浮上の力を生じさせ一定速度で支持車輪を引き上げて走行する。実験線の軌道(?)の



図1 リニアモーターカー乗車券 (実寸8cm×20cm)



図3 軌道両側に設置の地上コイル

このコイルが車体の超電導磁石と反発、引っ張り合って浮上、案内、推進の力を生む。

両側面には車両が近づいた時だけ電磁石となるコイルが設置されており(図3、4)、液体ヘリウムガスで超低温、超電導状況(−269℃)で車体に設置された超電導磁石で構成されるモーターと作用しあって浮上・案内・推進の力が生じる。

試乗は最新型の MLX01 という 4 両編成の車両であった。重量を軽減するため新幹線より小さく左右各 2 座席の車体 2 両が試乗用に用意されている。車両のスタイルは図 5 に示すように前後で異なるもの“のぞみ”よりはるかに流線型、運転席の窓は無く高感度電子カメラがあるのみ。乗り心地は飛行機を連想させるものであった。時速約 120km までは支持車輪が接地しているので離陸時に似た振動、その後は上昇・傾斜を感じないのと少し横揺れを感じることに、加速時より減速が飛行機より急激なのか多少不快感があったことの 2 点が異なるぐらいである。

問題は時速 500km で過ぎ去る景観を期待したことであった！まったくの期待はずれ、実験線は 42Km だが走行区間は 18.4km、その 16.5km がトンネルである。時速 500km では「トンネルを抜けるとそこはトンネルであった」の連続になってしまい車窓は瞬時に電灯の流れる線に変わってしまう。実験線を 1 往復半、あっという間の試乗は 20 分程度で終了、下車後氏名の記入された乗車証明書なるプラスチックのカード(図5)をうけとり、見学センターから戸外へ。戸外で目の前を時速 500 km で疾走する姿はさすがに迫力のあるものであった。

このリニア、某大物政治家の力か 1973 年東京、



図4 国鉄民営化発足の記念切手 Magnetic Levitation 略して Maglev 方式の M を頭文字に MLU002 が先頭に見える。軌道両側に地上コイル壁が正確に描かれている。この方式のリニアが上海で最高時速 430Km で営業中

甲府、岡谷、名古屋、奈良、大阪を結ぶ全国新幹線鉄道整備法の基本計画として位置づけられているという。しかし現在の新幹線網がある程度実現しない限り、政治はゴーサインは出さないであろうことは確実視されているという。私も疑問に感じる膨大な予算が必要なようだ。それにちょっと気になるかつての宮崎実験線、東北大のエアロトレイン(翼付き高速鉄道)の実験線になっているという。

帰路、お子さん連れとタクシーを乗合い、「何回申し込んで当たったんですか?」「いや〜 初めて申し込んでみたんです」「えっ、そんな!、私なんて 7 年間、年に 4、5 回申し込んで、やっと当たったんですよ」

今回のチケット、とんだプラチナチケットであったことが判明。

帰宅後、ご近所の知人の名前が“磁郎”、この方の父上、年長の会員はご存知、『トイレット部長』(文藝春秋社刊)の著者、国鉄の技術屋さんの戦中の夢をのせたお名前だとお聞きし技術屋さんのロマンに思いをはせる。

(この試乗会、リニア実現に向けて実験線延長工事が始まり、H19 年 3 月で打ち切られた。)

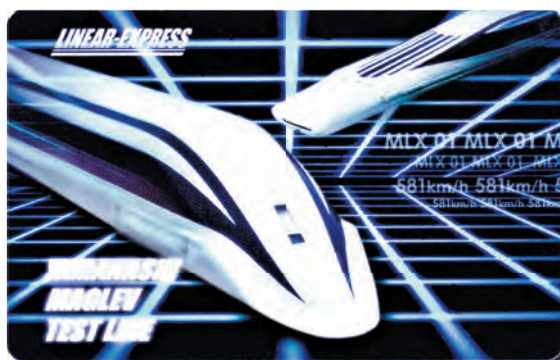


図5 リニア乗車証明書 試乗会で乗車した MLX01 の先頭車両。時速 503km は上の青筋車先頭で体験。

< JAPEX'07 > 会員の出品と内容

震災 1 銭 5 厘切手 鎌倉 達敏氏

関東大震災により被害を受けた通信省の切手製造の緊急的な民間委託により、切手製造面からは大阪印刷 9 種、東京印刷 7 種の震災切手が世に出ることになりました。

本展示は、その中でも最も多く製造され、バラエティが豊富な 1 銭 5 厘切手に関するものです。大阪印刷 (タイプ I・II) については、最新の研究に基づく実用版別分類に従い、第 2 次版欠点、第 3 次版欠点及び版別キーポジションを拡大写真を使って、その使用例とともに紹介しています。また、東京印刷については使用例を中心に展示しています。

金銀賞、特別賞、審査員賞詞

審査員賞詞とは、JAPEX 一般規則の第 21 条に「特に研究成果の高い出品物には審査員賞詞 (賞状) を授与することがある」と記載。今回は鎌倉氏のほか 1 名に授与された。

東京・深川郵便支局のボタ印と日付印 鎌倉 達敏氏

明治 18 年 9 月 1 日、南深川と北深川の両支局が改局統合され、深川支局が誕生しました。改局前の両支局と同様に、東京支局ボタ印が使用され、証示印として二重丸型日付印が併用されました。型式は N3B3S のみですが、文字の大きさ、内リングの線幅、年号表示等により 5 種類に分類することができます。本店時では、南深川、北深川両支局の 3 種類の二重丸型日付印の使用例を示し、次に、深川支局の同日付印タイプ変遷を初期バラエティとともに、各タイプの移行期間が判る使用例を中心に時系列的に展示しています。 金銀賞

ラーマ 9 世普通切手 甲斐 正三氏

ラーマ 9 世 (プミポン国王) 1946 年に即位、世界で在位期間の最も長い、国民の敬愛あつた国王です。翌年発行の第 1 次普通切手から 9 次に至るまで、印刷は世界のさまざまな印刷所で行なわれ、多くのバラエティを生み出しています。今回は印刷所による変化を、最近の四半世紀を主な対象とし、銘版や表を用いながら分かりやすく紹介します。あわせて切手と同図案の葉書もシリーズの一員としてここに加えました。

内容の記述は JAPEX 公式ガイドブックからのものです。

編集後記

10 月 21 日の創立 125 周年記念イベントは大変な人出でした。郵便局の臨時出張所も長蛇の列、収集家だけではなく、記念品として切手を求めている一般の方も多数おられたようです。今号で、この記念すべき 125 周年の盛り上がりを少しでも伝えられたらと思います。電子メールや別納郵便が増え、切手を貼った手紙を受け取る機会がますます減ってゆく昨今ですが、一枚の切手から、各国の歴史や芸術や文化に思いを馳せる楽しさは、これからの世代にいつまでも伝えていきたいものです (克)。

< JAPEX'07 > 見学会

11 月 3 日午後 東京池袋で開催された「第 42 回全国切手展」(JAPEX) の見学会が行われました。当日は 15 名の会員が参加、この会に出品された会員の甲斐氏、鎌倉氏の作品説明を熱心に聞き入りました。



深川郵便支局のボタ印について熱心に説明する鎌倉氏

分科会活動報告 (切手教室)

第 49 回 (3 月 3 日)

郵趣文献

小林 彰氏

第 50 回 (4 月 7 日)

手彫切手の楽しみ 手彫切手カタログ 改定版

発行をふまえて

坂下 泰一氏

第 51 回 (6 月 2 日)

切手に聞く 厠の香り

小川 義博氏

第 52 回 (7 月 7 日)

早稲田大学創立 125 周年

池澤 克就氏

原稿募集

会報の原稿を募集しています。切手、郵便に限らず皆様の日々、旅行、趣味等を綴ったどのような文章でも結構です。気楽にお考え下さい。皆様の楽しく、面白い原稿をお待ちしております。

郵送先 会事務局

FILE 送付先 y-ogawa@bekkoame.ne.jp

発行日: 2007 年 9 月 1 日

発行: 稲門フィラテリー

発行人: 小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F

(株) 英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座: 00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当: 湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎 小川 義博

稲門フィラテリー

第 27 号

2008 年 3 月 1 日発行

日本の野球 昔と今 — 郵趣でふり返る

スタンプショウ 07 オープン展作品から

市川 鴻之祐

私の野球とのかかわりは本誌第 10 号「野球とともに…」で紹介した通り吾ながら不思議な縁を感じます。生後 4 カ月の昭和 6 年、わが家から中京商業に通学していた球児（鈴木外野手・W 大）が甲子園で初優勝。翌 7 年もわが家に寄宿していた林外野手が連覇ナインとなり 3 連覇の偉業に貢献したのです。ともに名古屋・橘小教員で監督だったオヤジが大正 15 年全国小学生野球（高等科）で優勝した時の選手。指導した球児たちが次々に中等野球や東京六大学で活躍、「橘小の父兄が謝恩会を開く」（S11.10.11・名古屋新聞）との記事、無名の野球先生だったようです。こんなわけで、私も野球にのめりこむハメに。

幸いオヤジが遺した少年野球の絵はがきや中京商業 3 連覇当時の甲子園招待券、戦場の教え子から届いた軍事郵便などの「お宝」が作品作りに役立ちました。私が収集した古い実郵便や絵はがきも動員しましたが、昔の野球を知る上で、古い絵はがきは面白い。百年前に始った東海 5 県中等野球の絵はがき（図 4,5）には応援団を「弥次団」。熱い応援ぶりがうかがえます。

作品は 3 フレーム 48 リーフで展示

- ①フレーム 明治から昭和初年にかけて発行された絵はがきや実郵便を中心に
- ②フレーム 戦後の高校野球、六大学、都市対抗、プロ野球発展を切手やカバーで展開
- ③フレーム 外国の野球切手は WBC 出場国を主にミッキー切手やマテリアルも



図 1



図 2

タイトルページには正岡子規のユニフォーム姿のふるさと切手を使った。子規の投書から日本野球のはじまりは遡り、現在では明治5年(1872年)が野球元年とされている。竜切手が発行された翌年にあたる。野球はいまわしい戦争の時代を超えて、ますます盛んになっている。戦場に散った多くの球児のおかげ。平和の素晴らしさをかみしめたいものです。

＜リーフの説明＞

図1 早大初の米国遠征 102年前の1905年(M38) 安部磯雄部長の英断で渡米。4月に横浜港から汽船でシスコに着き、全米各地を転戦して26戦8勝。6月にシアトルから帰国した。写真はロスを訪れた早大野球チームを伝えるロス・サンデー・タイムズ紙1905年4月30日付(部分)= 船橋◎吉澤野球博物館蔵

図2・図3 百年前の交流戦実通 1907年(M40) ハワイ・セントルイス大、慶大、早大の3大学対抗戦記念絵はがき。江田島の加治木氏宛に送られた5通。よほど熱心な野球ファンだったようで、4通は弟さんから。この大会の経過が克明に書かれている。対ハワイ戦は慶大5戦2勝、早大3敗。「足が見えないほど速い選手もいた」。慶大対セ大第1戦(図2.中)の球審は投手の後ろにいる。この試合は慶大が延長の末にセントルイス大を下したがそのスコアカードの絵はがき(図3.右)も大変興味深い。



図3



図4 百年前に東海5県聯合中等野球大会

全国中等野球大会が鳴尾で開かれる前の1902年(M35)から始まった大会の第8回記念絵はがき。「弥次団大イニ弥次ル」と応援団の説明文ある。



図5 審判はどこに？ 愛知、岐阜、三重、滋賀、静岡から参加、岐阜中学で開かれた大会には当時球審は投手の後ろにいた(丸ワク内のはかま姿)。岐阜・瀬古写真館が発行



図6 大観衆にわく甲子園 1924年(T13) 中等野球は10回大会から甲子園球場に移った。翌14年夏の実通。下; 中京商業の3連覇記念絵はがき(S6~S8の17,18,19大会を表示)と招待券。



図8 少年野球全国大会優勝記念 絵はがき 1926年(T15)。野球統制令(S7)で少年野球全国大会は禁止。下; 陸軍病院に入院中の球友から届いた軍隊生活マンガ絵はがき© 32枚組(S13.3)。



図7 少年野球も盛況 澄宮殿下ご台覧試合、使用球公認記念絵はがき(S4) 下; 出場校の誓約書。殿下撮影は禁止。軟式とはいえ当時は捕手も球審もマスクなし。「ミットがあれば大丈夫」と



図9 中支で野球と軍事郵便 戦場に行った球児らからオヤジに届いた軍事郵便の中には「中支で野球の腕を振るった」(S18)、「生きて親孝行したい」(S16)。手紙の主は二氏とも生還。



図 10 東京六大学野球の切符いろいろ 昭和 5 年、6 年の春期、秋期の入場券（上段）昭和 11 年春期、13 年秋期（下段左）、戦後間もない昭和 21 年秋期の招待券（同右）。その時々によって対戦校の表記や紙質が違い改札方法も異なっている。戦後の切符は回戦を表す角の数字をちぎった。左の絵はがきは野球場など完成記念＝外苑管理局版



図 11 球児ら次々戦場に散る 甲子園球児 55 人、早大部員 34 人など戦争の犠牲となった球児は多い。日米野球で活躍した沢村投手（20 世紀 S）も。上、赤福のしおりで作ったカバー。



図 12 復興期の甲子園 1949 年（S24）甲子園大会記念の西宮郵便会発行台紙に長崎文化、広島平和都市記念切手貼り押印と指定席券カバー。鉄傘がに供出され、たまたま屋根なしだった。



図13 絵入り官葉 地元西宮郵趣会は西宮東郵趣会とともに41回選手権(S34)から70回選抜まで藤田卯三郎会長らの尽力で発行。一時は5枚組套紙入りで頒布。(60回、66回官葉)



図15 再試合で早実初栄冠 2006年の88回選手権は37年ぶりの決勝再試合。駒大苫小牧の3連覇を阻んで早実が初優勝。官白と朝日新聞速報号外、応援席券、Vナイン。



図14 燃える神宮復活を 寂しい球場に胸が痛むと藪野健教授の自作早慶戦絵はがき(2002年)。原画作者の藪野教授に野球部百年式当日大隈講堂前で戴いたサイン入り稲門フィラカバー。



図16 外国の野球切手 WBC参加国と盛んな中南米などにしぼった。野球一番切手は意外にもフィリピン(1934、10回極東大会)、図2・3の三大学交流絵はがきより27年もあとのこと。



図 17 素晴らしいクーパースタウン 米野球殿堂 60 周年記念カバー (1999 年 12 月) 殿堂入り選手の顕彰レリーフ絵はがき。左: イチローに年間安打記録を譲ったシスラー。(約 140 種のうち)。ニューヨークから車で 5 時間ほどの美しい町。殿堂近くの球場ではリスが遊びスタンドは昔ながらの木製。米国切手とモンローとディマジオ切手 (ソマリア) も紹介。



図 18 楽しい米殿堂グッズ 殿堂内のグッズ売り場には絵はがきをはじめ様々な土産物が並ぶ。ここで紹介する大型マテリアルは筋向かいの郵便局で入手した。記念切手に押印されていて最もお気に入りの記念品となった。私が訪れた 1995 年 6 月の入場券も紹介。日本の博物館や殿堂でもこのような楽しい郵趣グッズがあればきっと喜ばれるでしょう。



図19 戦前と戦後の日米野球 1934年(S9) ベーブルースらの全米チームに歯が立たず17戦全敗。中学生・沢村投手が力投して0-1で惜敗。下;戦後の親善野球はショウも楽しませた。



図21 ミッキー奮闘 子らにも親しめるように野球マンガ切手を紹介。投打に捕手にと活躍するミッキー君。絵はがきは早大からUSCに交換留学した次男からの実通(1991年3月)



図20 本場で活躍 イチロー展示室(豊山町)父宣之氏の挨拶とWBC優勝記念電話カード、松井ホームランカード。切手は王・ベーブルースら日米選手(ラスアルカイマ・8種のうち)

<後記> スタンプショウ・オープン展8度目の挑戦で銀賞を戴いた。賞というものにはまるで縁がない身ですが、手放して喜ぶわけには行きません。上位の金銀賞、金賞には、ほど遠い作品なのですから。でも野球を愛する皆さまには新たな発見があるかとも思い、拙い作品を披露させていただきました。

ハンカチ王子・斎藤投手らの活躍で強い早稲田と神宮のにぎわいが戻って野球部OBとしてもうれしかぎりです。このリーフ(図15)、簡単に済むと思ったが、新聞社に許可を求めると、知的財産権がらみでダメ。幸い中学時代の友人が大の早実ファンだった。素人写真や応援席券を入手、彼の応援手記をのせた同期会報もあしらい数日かかってしまった。知的財産権とか難しいご時世ですね。

奨励賞をもらったつもりで野球資料の収集にもいっそう精進したいものです。

市川氏は今年、90回を迎える高等学校野球連盟の愛知県連盟史編集委員として活躍されます(編集)

人との出会いと切手人生

慶應大学 OB 正田 幸弘

編集者からのご依頼もあり、大学時代前後の思い出話を書きます。

私は神奈川の公立高校の出身ですが、中学時代はクラス内の友人と切手の活動をしていたものの、高校ではその余裕がなく、大学では思う存分に切手をやりたいと考えていました。従って大学は切手研のある所だけを受験し、結果は1勝3敗。日吉で入学直後に郵便切手研究会に入り、部室も使いましたが、収集家は2年生と4年生に一人ずついるのみ。11月の三田祭はその3名+コンパ要員での参加。結局、大学内での日常活動はなく、5月の駒場祭に始まる他大学での学園祭への押しかけ参加、あとは大郵便メンバーとのアルバイト（東京中郵地下での郵趣サービス社の初日カバーの切手貼り、即売会での切手商の店頭販売）程度の1年間でした。早大3年の中山定則氏が手配師だったので、お世話になりました。新橋のサンフィラテリックセンターでのバイトを、中山さんと2人でやったこともありますし、客としても社員の高馬さんや猪狩さんにはお世話になりました。

地元のJPS横浜第一支部の先輩（明治大の高崎氏、専修大の伊藤氏）が日本郵趣出版で「原色日本切手図鑑1975年版」の制作をされた関係からか、夏休みはここで「新日本切手カタログ1976年版」の編集のアルバイトをし

した。雇い主は日下部さんで、田辺猛氏が毎日の様に来ていたので、よくお話をしました。大学1年の私はどこか外国切手をやりたいと思っていたのですが、小岩の浅岡スタンプで19世紀ブラジル切手のコレクションがあり、夏のバイト代全てをつぎ込んでこれを購入したのが、いまに続く始まりです。その時は店主からは「旧中国」も勧められたのですが、そちらを選んでいたら、その後の切手人生も今とは異なるものとなったことでしょう。

当時、ブラジル切手では渡辺勝正氏が有名で、早大切手研のOBなので、当時4年生だった稲葉さんに渡辺氏への紹介をお願いしました。初めてお会いした時は、まだ三田にある森永アドにお勤めで、もらった名刺の肩書きが「アートディレクター」と書いてあり、良くわからないけど「かっこよさそうな仕事だなあ」と思った事を覚えています。

ブラジル切手は11月の三田祭、1月の大郵便切手展をへて、JAPEX '76に競争展初出品します。その間に渡辺さんに、何か外国切手のグループに入りたいので紹介してもらいたい、とお願いしたことがあります。そこで郵趣会館で例会をやっていたコレクターズ・クラブ？に相談してみると言うことになり、渡辺さんがウルグアイ切手の発表をする時に、別室で待った事がありました。

結果は入会が認められず、そこで渡辺さんは、町田好美氏（早大OB）がIBMの職場の切手同好会を母体として作った「とつくに会」に紹介してくださいました。また、渡辺さんから鎌倉在住の大家・荻原海一氏を紹介頂き、「切手研究会」へも入会して、三井先生



とも直接お会いできるようになりました。

「とつくに会」では、お医者さんの伊東由巳氏や文献に詳しい牧野正久氏、長谷川達郎氏等のお世話になり、私にとっての「切手の大学」課程でした。大学卒業後のことも色々心配していただき、「もしも切手をやりたいのなら、医者か坊主か教師だ」「はやらない医者ほど楽な商売はないぞ」等の伊東先生のアドバイスは真剣に考えました。私は法律を勉強していたので、大学入学時点では教職という発想はなかったのですが、結果職業としては高校教師を選ぶに至ります。これは正解であったと、人生の先輩方の慧眼に感謝の念でいっぱいです。

一方、町田氏は関西に勤務していた際に、金井宏之氏（早大切手研創立者）の「外国切手研究会」に所属していたので、有馬温泉の古泉閣での合同例会等で金井氏をはじめ関西の外国切手収集家とお知り合いになりました。また、関東では、1981年の国際切手展にむけて実行委員長予定の石川良並氏を会長とする Collectors Club of Tokyo という収集团体が作られ、「とつくに会」のメンバーは殆どがこれに加入しました。毎月の例会では、市田左右一、小泉達之助、谷喬、山本謹一、近藤一郎、松本純一といった方々のコレクションを拝見し、ご本人の解説を聞いていました。

Phila Tokyo の実行委員会は、社会人となった1979年に作られ、各部長による毎月の会議は銀座の帝産ビルで行われていました。私は伊東先生のコミッショナー部と松本氏の渉外部に属していましたし、開催直前は作品部員として町田さんと2人で郵送作品を保管場所に受領

に行ったり、会場でひたすら海外からのコミッショナーの到着を待ちたりしていました。町田さんが伊東先生の代理、私が松本さんの代理で出席していた時の会議の席上、空席だった作品部長のポストが、委員長の発言で町田さんに押しつけられる光景を目の当たりにしました。

10年前の Phila Tokyo' 71 は普及協会が事務局となって仕切ったが、あまりに大変だったので今回は降りてしまった、という話でした。帝産グループが事務局とはいっても、専任は古屋さん位といった印象でした。実行委員会のメンバーには皆さん本職があって、趣味として切手に時間を割いているわけで、末端にいる私から見ても???の連続でした。結局、開催の半年くらい前から、金井重要工業の社員数人が東京で事務局として仕事をこなして、開催にこぎ着けたという印象でした。

その後の収集界で私がやって来たこと等は、既に『文献に魅せられて』(2004) で書いているので、そちらをご覧くださいと思います。私の活動母体であった「とつくに会」では、根岸昭二氏や西村寿一郎氏のお世話になりました。

1975年の大学入学以来、もう30年以上になります。収集界でお世話になった方のお名前をここで思いつくままに挙げてみましたが、慶応の方に比べ、早稲田の方が圧倒的に多いことに改めて気づきました。どの世界でも、人を色分けして派閥を作り、排除の原理を振りかざしたがる方がいますが、私はどうしてもそういう人は好きになれません。勿論私は、収集家以外の慶応OBの方々にも、色々とお世話になっています。ただ、切手収集家としての今現在を

考えると、出身大学といった派閥など気にしないで、慶応出を指導してくださった早稲田OBの方々の度量の広さに感謝の気持ちで一杯です。自身の行動原理としても、かくありたいと思っています。

早稲田大学125周年を機会に慶應、早稲田大学の切手研OB、OGが久しぶりに懇談しました。今後の交流の礎に購読会員の正田様に筆を取っていただきました。（編集）



朱 鷺 ～ 再び大空へ ～

高橋 仁



2008年1月1日、読売新聞・新潟版に朱鷺（トキ）が大きく羽ばたいている写真が目に飛び込んできた。記事のタイトルは「朱鷺～再び大空へ～」。今年の秋に予定されている、佐渡の空へのトキ試験放鳥の特集記事である。

朱鷺（トキ）。*Nipponia nippon* という学名をもつこの鳥は、国の特別天然記念物であり、国際保護鳥でもある。1981年、終の棲家となった佐渡島での生存数が5羽だけになったとき、人工繁殖を目指して全数が捕獲され、日本の空から姿を消した。しかし、人工飼育、人工繁殖は失敗に終わり、2003年には、佐渡トキ保護センターで飼育されていた最後の1羽「キン」の死によって、日本種のトキは絶滅してしまったのであった。

ところで、トキに関する郵趣材料を調べてみると、日本切手では、1960年発行の国際鳥類保護会議記念と1981年発行の自然公園50年記念、及び1999年発行のふるさと切手（新潟版）2種があり、他に通常ハガキの印面にも採用されている。消印では、佐渡・新穂局の風景印や21世紀記念年賀印の新潟版に描かれている。また、中国やモルディブからも切手が発行されていた。

その過程の中で、絶滅が危惧される貴重な鳥としか認識していなかったトキに、さまざまな物語があることが分かってきた。

まず、伊勢神宮で20年ごとに行われる「式年遷宮」の際、新たに奉納される御神宝の一つの「須賀利御太刀」という剣の柄の飾りに、トキの羽が使われる。これは、927年に定められた「延喜式」に「トキの羽を使うこと」と記述されているからである。



トキの切手（下右は中国切手）



伊勢神宮式年遷宮と須賀利御太刀

一方、新潟県の魚沼地方に伝わる「鳥追い（田畑の害になる鳥を追い払う行事）」の歌の中に、カラス、スズメやサギと共に、トキも歌われている。害鳥として扱われるほど、数多く生息していた時期もあったということである。

また、東アジアにのみ生息していたトキが国際的に周知されるきっかけとなったのは、ドイツ人医師シーボルトが日本から持ち帰った動植物の標本の中に、トキが含まれていたからということも目新しい話であった。

トキといえば、*Nipponia nippon* 種だけと思われがちであるが、世界中には23種のトキの仲間がいる。全身が赤いショウジョウトキや白いシロトキ、顔から首までが黒いクロトキ、オーストラリアに分布するムギワラトキなどは、国内でも飼育されている。

これらの中でもクロトキは、古代エジプトで、神の鳥として尊敬されていた。下図中央の鳥の木彫は、古代エジプトの遺跡から発掘されたクロトキの像である。人々は、トキの頭を持った神を「トト神」と呼んで知恵の神として崇拝していて、この木彫は、トキの姿で「トト神」を表しているのである。



トト神とクロトキ

さて、日本種のトキは絶滅してしまったが、中国でも一時は絶滅したと考えられていたこともあった。しかし1981年、陝西省で再発見され、1983年には、中国政府は「めずらしい野生動物を厳格に保護するための通達」を出し、希少野生動物の保護に積極的に乗り出した。勿論トキもその中に入っていて、現在では、野生と人工飼育の個体を合わせて、1,000羽を超えているといわれている。



中国陝西省を飛翔するトキ

1999年1月には、中国からわが国へ2羽のトキが贈られ、佐渡トキ保護センターに到着した。「友友」と「洋洋」である。そして、同年5月には最初の子「優優」が誕生した。

以降順調に人工繁殖が進み、放鳥が計画されるまでに個体が増えた。自然への順化施設も完成し、現在は5羽が訓練中で、間もなく野生復帰の夢が実現しようとしているのである。

2006年、このような物語を取り上げて、非郵趣材料の使用も認められている「スタンプ・ショウ・オープン切手展」へ作品を出展した。タイトルは「朱鷺～再び大空へ～」で、奇しくも前述の新聞記事のそれと同じであった。

『雨が降る、降る…』 そのⅡ

三浦半島周遊平成 19 年度 稲フィラ見学旅行記

上田 克己

さて、前回に続いて稲フィラ見学旅行の顛末記をご紹介させて頂く。

第一日目のスケジュールは前島密翁の墓参で無事に終了、一行を乗せたバスは今夜、宿泊予定の「佐島マリーナ」に向けて出発する。久しぶりの三浦半島観光で興味深く、あちらこちらと見学、見物させていただいた。

先程の最終訪問先である「浄楽寺」は、三浦半島の中程を占める横須賀市の西にあり相模湾側にあり、「ペリー上陸地点」からは半島を横断することとなる。朝からの旅程は東京湾から浦賀水道を望んで進んだが、内陸に入ると山間を縫って上り下りの多い道路を走る。眺望が開けた大地には一面に畑が広がっており、ここは“三浦大根”の産地であったことに思い至る。平均気温 15 度という温暖な気候に恵まれ、有数の路地野菜の産地で大消費地域の東京などへ供給されている。

ところが、この“三浦大根”は、今では“幻の大根”でもあると言う。練馬大根を改良して作られ、中央部が太くて長さ 5 ～ 60 cm、直径 15 ～ 16 cm もあり、重さが平均 2 ～ 3kg と大きい。中には 5 ～ 8kg に達するものもあるそうだが、その大きさが仇(あだ)になり核家族化した今の家庭には向かなくなったこと、更には昭和 54 年の台風 20 号で壊滅的な打撃を受けたこともあって、殆どが“青首大根”に取って代わられた。三浦大根は煮ても崩れず、適度な辛味もあることから、おでんや大根膾(ナマス)には他に代え難い味わいがあった料亭、料理店からの注文も多く、このところ再び生産が増えてきたそうである。

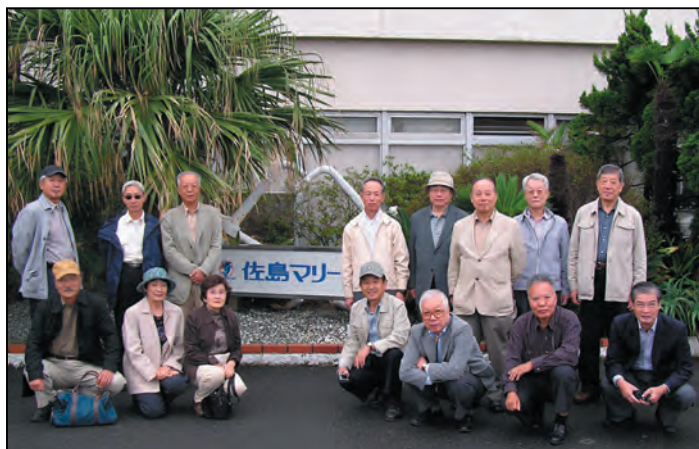
横道にそれだが、海岸沿いばかりが三浦半島ではないことに、緑の作

物が植えられた畑やビニールハウスが並ぶ風景を見て思い至ったことである。

墓参を終えて、一行を乗せたマイクロバスが「佐島マリーナ」に到着したのは午後 5 時前。それにつけても、この雨が恨めしい。雨の三浦半島もまた乙なものなどと粋がっている余裕はなく、無事に初日の予定を終え割り当てられた部屋に落ち着いて一息吐く。ここは名前の通りヨットの係留所で、それに併設されたリゾートホテルである。窓の外は相模湾。天気がよければ見事な夕日と霊峰富士山が眺められる筈。夕日を浴びて大浴場の湯船に浸かることも出来たのにと、またまた天候の悪さに愚痴が出る。そんなことを呟きながらも、目の前に広がる海と寄せる波を眺めると、ゆったりとした気分になり疲れを忘れる。

夕食は海の幸を酒肴に美酒を堪能し、昔話に数十年の時を超えて心は一気に早稲田の杜に飛ぶ。互いに健康で、ここに集うことが出来たことを喜び、また次の催しにも無事に参加したいものだとの想いが頭を過(よ)ぎる。

宴の途中、諸田氏から横須賀に縁の深い小栗上野介と大隈重信侯の関係について、物の本を読んでいたところ面白いことを知ったとの話が



二日目の朝 記念すべき郵政民営化初日です。さてどんな旅が

定例 夜のお楽しみ会資料

相模国の初期消印 不統一印



相模国の初期消印 不統一印



坂下氏配付資料



2007 年 8 月 オープンキャンパスでのチアガール



2007 年秋 早慶戦でのチアガール

あった。小栗家と大隈家は姻戚関係にあるとのが紹介されたのだが、真に申し訳ない次第ながら詳細は記憶にない。本誌に是非とも執筆すべきだとの声も多かったので、近々、同氏が発表されることを期待したい(との言い訳でご勘弁願いたい)。

食事が終わると、全員が一室に集まって定例のお楽しみ。先ず、坂下氏が今回の旅に因んで、同氏のコレクションから“相模国の初期消印”と題して纏められ、横須賀、藤沢、小田原、更には厚木、平塚など様々な消印の実例を、切手とエンタィアのカラーコピーで資料を作成、配布された。何時ものことながら労作に一同感心して拝見、眼福を養わせて頂いた。

次いで大層な前口上で小林氏が後生大事に取り出だしたのは、日頃努力を重ねて撮り貯めた写真のコレクション。コレクターとして名を知られた小林氏の作品だけに注目したが、現れたのは“チアガール”の写真集。一同これには啞然とし、続いて大爆笑。それと同時に驚くべき情熱(?)に感心させられたものである。ここまで打ち込めるのも、日頃鍛えた収集癖によるものか。

最後に今回も野島氏と共に幹事役を勤めてくださった府川氏から全員に思わぬプレゼントがあった。この見学旅行に参加するに際して、幹事から生年月日を尋ねられた。その時は海外旅行でもあるまいに何で必要なんだろうと思ったが、そのプレゼントを頂いて初めて合点が行った。頂いたのは参加者一人ひとりの誕生日に因む歴史上の様々な出来事や事件を調べ上げたものである。

小林彰氏
チアガール
コレクションより

プリントを眺めると、先ず誕生日の花とその花言葉に始まり、小生の場合、西暦 756 年から 2006 年までの誕生日における出来事が 7 頁に亘って記載されている。何とまた随分根気良く、ご本人を除く 14 人分を調べ上げ纏められたことかと、その熱意とホスピタリティに全員大いに感激した次第である。

一夜明けると幸い雨はほぼ上がり、このまま良い天気になって欲しいと願いつつ朝食を済ませ、ホテルのバスで三崎口駅に移動。ところが、当日は 10 月 1 日、「郵政民営化」の初日である。稲フィラー一行が、このまま徒に走って駅に向かえる訳がない。ドライバーの方に無理をお願いして郵便局を探す。辿り着いたのは長井漁港に近い「長井郵便局」で、ここには風景印もある。静かな局の窓口でドヤドヤと怪しげな一行が闖入し、切手やハガキを買い求める。最初出て来たのは前日まで売られていたもの。“これではなく、今日発売のハガキと切手が欲しいんです”とお願いする。通常ハガキや持参の絵葉書などに買い求めた切手を貼り付け、窓口で殺到していろいろと注文を付けて風景印や日付印を押してもらう姿に、事情が飲み込めない人達は“一

体何事ですか？”と眺めている。厭な顔一つせず、希望を叶えてくださった長井郵便局の局員サンに心からお礼の一言を伝え、ひとまず満足した一行は、バスに戻って駅に向かう。

三崎口駅からは路線バスに乗り換えて、目指したのは“雨が降り止んだ”「城ヶ島」である。「城ヶ島」は三浦半島の南端に突き出た小さな島で、古くは「尉ヶ島」と呼ばれたが、中世以降、現在の呼び名となった。最初に向かったのは早稲田と縁の深い北原白秋が、“雨は降る、降る、城ヶ島の磯に 利休鼠の雨が降る”と詠った、あの「城ヶ島の雨」の記念碑である。

この歌は大正 2 年 (1913 年) に白秋が作詞、当時の名テナー梁田貞が作曲し歌ったもので、歌碑は白秋の希望で帆型の自然石で造られているが、建立は島が軍事要塞であったため叶わず戦後の昭和 24 年になって漸く実現したものという。歌碑を見上げて、早稲田を卒業する年の九州旅行で、途中柳川を訪ね、白秋の生家や“山



郵政民営化初日 郵便局に殺到
押印を依頼する気持ち若き方々



郵政民営化初日 長井局をお騒がせて
押印した黒活印と風景印



「城ヶ島の雨」 記念碑



梁田貞 の碑

門(やまと)は我が産土(うぶすな)——”に始まる“帰去来の碑”などを見て回ったことを懐かしく思い出した。白秋は「邪宗门」から「水墨集」を経て「海豹と雲」「新頌」まで多くの詩集のほか、歌集や童謡、更には校歌などおびただしい作品を残した。あの“唄はちゃっきり節、男は次郎長〜”の「ちゃっきり節」も白秋の作。

「城ヶ島の雨」の歌碑は当初、遊ヶ崎に置かれたが、城ヶ島大橋の工事が始まって現在の浜に移されたそうである。作曲者である梁田貞の譜碑も隣に置かれている。また、近くには「白秋記念館」もあるが、残念なことに今日は月曜日で休館日。混雑する週末を避けたのが仇になることもある。

歌碑を後にして、今度は島の西端、長津呂崎の崖上に立つ城ヶ島灯台へ歩く。城ヶ島灯台は江戸時代に安房ヶ崎の烽火台を移した灯明台が元で、明治3年(1870年)に日本で3番目となる洋式灯台として建設された。その後、関東大震災で倒壊したが、昭和2年に建て直されたもので2代目である。目の前に広がる太平洋を眺め、灯台の周りを散策し終えたところで昼前になる。

今日の昼食は“マグロ料理”の予定とあり、幹事の気配りに「さすがに名幹事!」と、適度な散歩で丁度お腹も空いたところでバスに乗り三崎港に向かう。数ある“マグロ料理店”の中から、予約されていたのは「たちばな」という店。並んだ料理は“マグロ一匹コース”で、梶(かじ)取り(=尾ヒレの軟骨)、皮、ホシ(=心臓)、

胃袋、たまご等からハチ(=頭)、中トロ、赤身の刺身、更に角煮からカマの陶板焼きと続く。美味、珍味に満足しているところへ、最後には内臓など様々な部位の串焼きまで味わった。明るい内からのビールに、皆々いよいよ大満足の昼食であった。

これで2日間に亘った今回のスケジュールは完了の筈だったが、稲フィラの見学旅行としては、もう一つ追加があった。近くの三崎水産地方卸売市場にある“三浦三崎郵便局”訪問である。こちらにも風景印がある。今朝ほどと同様に再び窓口に押し寄せ、“あちらだ、こちらだ”と押印場所に注文をつけ、初日印を獲得し引き



稲門フィラテリー会員が一時占拠して押印騒動を呈した三浦三崎郵便局の黒活印と風景印

上げた。三崎郵便局員サンにも感謝。

最後は我が家へマグロを土産にしようと、府川幹事の推薦で「マグロ漬け」を買い求めるため「羽床総本店」に立ち寄ったり、近くの魚屋で干物を買うなどしてバッグをいっぱいにして旅を締めくくった。

出発は雨に祟られ、愚痴をこぼしながらの旅であったが、終わってみれば大いに満ち足りた2日間であった。平均年齢は高いものの天候にも負けず、どなたも体調を崩されることなく、数々の思い出と土産で膨らんだ荷物を抱え、元気で帰途に付くことが出来たのは何よりであった。東京から近い三浦半島だが以外に知らないことも多く、今回の旅で再認識させられた事柄も多かった。これも旅の効用である。また一つ、楽しい記憶が脳裏に刻み込まれた。

ではまた、次回の旅でお目にかかりましょう。



府川幹事 気配りの昼食

渡辺勝正氏 ミュージカルを監修

～日本のシンドラ 杉原千畝物語～

ミュージカル SE M PO

永年に渡り、杉原千畝の業績を研究し、日本における正しい杉原千畝評価の確立と普及に努められてきた渡辺勝正氏がこのたび、書籍、テレビドラマ、オペラに続き杉原千畝を取り上げ

たミュージカル監修することになりました。この中島みゆきが作詞、作曲したミュージカル SEMPO は4月4日から新国立劇場中劇場をかわきりに名古屋、神戸と公演されます。

“日本のシンドラ”杉原千畝が世界で初めてミュージカル化!!
吉川晃司 ミュージカル初主演!!
中島みゆき ミュージカルへ初の作品提供!!

ミュージカル
SE M PO
～日本のシンドラ 杉原千畝物語～

吉川晃司 愛華みれ
今 拓哉 彩輝なお 井料瑠美 森奈みはる 泉見洋平 辛島小恵 田村雄一
徳垣友子 池田祐見子 宇都宮直高 川本昭彦
宮本竜圭 水澤心吾 あぜち 守 河内喜一郎 沢木 順 他

作詞・作曲:中島みゆき 作曲:Peter Yarin 演出・脚色:大谷真智浩 音楽監督:池田雄一 脚本:川崎 登(ライズ・プロデュース) プロデューサー:川崎 登(ライズ・プロデュース)、山田修爾(CMA) 企画・制作:株式会社ライズ・プロデュース
主催:新国立劇場 株式会社東京放送 株式会社TBSラジオ&コミュニケーションズ

東京公演 新国立劇場中劇場 名古屋公演 名鉄ホール 神戸公演 新神戸オリエンタル劇場
2008年4月4日(金)～22日(火) 2008年4月26日(土)～27日(日) 2008年5月2日(金)～8日(木)



中島みゆき



吉川晃司



愛華みれ



今 拓哉

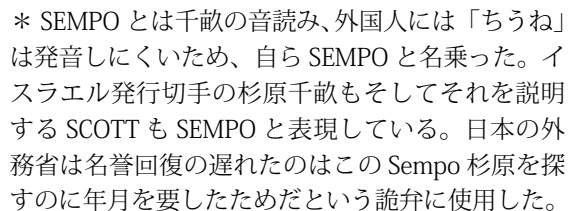


彩輝なお

STAFF

作詞・作曲:中島みゆき 作曲:Peter Yarin 演出・脚色:大谷真智浩 音楽監督:池田雄一 脚本:川崎 登(ライズ・プロデュース) プロデューサー:川崎 登(ライズ・プロデュース)、山田修爾(CMA) 企画・制作:株式会社ライズ・プロデュース
舞台装飾:南 雅之(セントラルサービス) 舞台監督:大谷真智浩 美術製作:株式会社エーゼット 監修:渡辺勝正(大正出版)
顔面制作:矢次忠恵 特別協力:杉原千畝 演出:川崎 登(ライズ・プロデュース)、山田修爾(CMA) 企画・制作:株式会社

4月5日の土曜に会員有志で鑑賞しようという計画があります。



大学 125 年記念写真記録集作製

大学創立 125 周年を記念して大学は写真記録集

PICTORIAL HISTORY OF WASEDA UNIVERSITY

「WASEDA 125 1882-2007」

を発行しました。A4 版 125 ページに初めて目にする写真をふんだんに使用し、日本語、英語で解説をした写真集です。大学発展の道が一目で理解できる装丁も凝った美しい写真集です。残念ながら非売品、ぜひ機会を見つけて、大学図書館、校友会、大学施設等で目にさせていただきたく紹介します。

目次と内容の一部を紹介し、皆様の大学の歴史理解を深める材料にいただければと考えます。

目次

Chapter1 東京専門学校から早稲田大学 1882-1920 年

大隈重信と小野梓	政官界から在野へ
東京専門学校の誕生	学問の独立
政経・法・理	私学の矜持
文学科創設と学科再編	大学への飛躍を目指して
早稲田大学開校	学問の活用
都の西北	躍進する早稲田
商科、理工科、高等師範部の開設	学識と実業理論と応用
教旨の宣言	創立 30 周年を迎えた私学の雄
早慶戦	早稲田スポーツの隆盛
早稲田騒動	教育と研究のはざま

Chapter2 旧制大学時代 1920-1945

大学令と早稲田	帝国大学と比肩する正規の大学へ
大隈重信の逝去	
大正デモクラシーと岐路に立つ早稲田	
	軍事研究団事件と大山事件
聳える薨	東洋一の図書館とキャンパスの一新
大隈講堂	百二十五尺の時計塔
演劇博物館	逍遙の夢を実現
演劇博物館の収蔵品	
早稲田式テレビジョン	理工学部の実現
早稲田半世紀	創立 50 周年
アインシュタイン、バーナードショー、ヘレンケラー	海外からの要人來訪
日本スポーツの牽引車	
	日本人初の金メダルから早慶戦の熱狂
門戸開放の門	大学と学生と早稲田界隈
角帽の青春	土門拳の撮った早大生
戦時下の早稲田	苦悶する大学
空襲、そして終戦	荒廃した学舎



記録集の表紙

Chapter3 新制大学の発足と発展 1945-1982 年

廃墟から再出発	帰ってきた学生たち
新制早稲田大学の誕生	大隈精神の継承
学生自治会と早稲田祭	復興日本の早大生
宰相と人間機関車	早大卒初の首相石橋湛山と浅沼稲次郎
拡充する早稲田	キャンパスの整備拡大と教育機構の改革
変貌する学生街	高度成長下の早稲田
早稲田の国際力	広がる海外ネットワークと要人の来訪
反乱の嵐	早稲田闘争から全国規模の大学闘争へ
トップアスリートたち	伝統を背負って
早稲田の再編	新たな出発への始動

Chapter4 早稲田第二世紀へ 1983-2007 年

人間科学部の開設	新たな「学」のバースペクティブ
総合学術情報センター	「知」を導く先端施設
図書館の収蔵資料	
「都の西北」の再創造	キャンパスの拡充整備
世界への視座	Think Global, Act Local
知の共創	研究機能の強化とネットワーク
開かれた大学	拡張する早稲田のフィールド
諸科学再編と創造	学部・大学院の改革
21 世紀の早稲田キャンパス	生成の回路
次代へ	多様の個をつなぐもの



明治末期の早稲田大学前通り



図書館閲覧室



明治 35 年竣工図書館と書庫



明治末期の授業風景



恩賜記念館

記録集 22 ページ
都の西北
躍進する早稲田より

懐かしきキャンパス 2

学生会館の部室から一番近い校舎がこの 8 号館。1931 年～2002 年の間、文学部、教育学部、法学部と 3 つの学部が使用した。

この校舎の地下室には学生生協があり、書籍と確かクリニングの匂いの混じった独特の空気を嗅ぐ場所であった。

昭和 30 年代後半そこでの高嶺の花は 2 万円? の洒落たオリベティのタイプライターとモンブランだかパカーの万年筆であったことが思い出される。



戴野 健画伯描く商学部建物再建安全塀壁画より

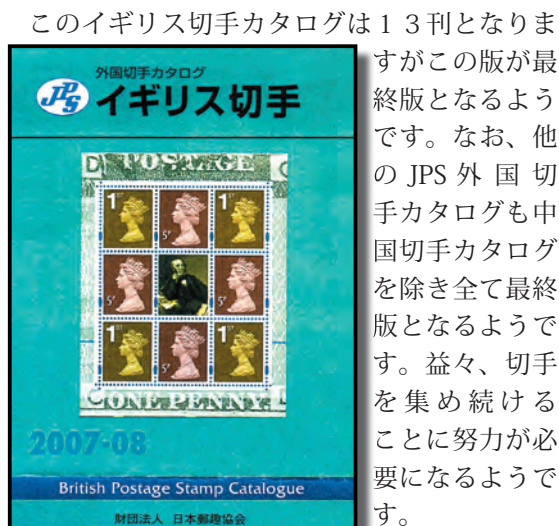
2008 年稲門フィラテリー見学旅行 琵琶湖畔周遊を計画

2月の定例幹事会で2008年の見学旅行に関して検討され、石山寺、彦根城など琵琶湖周辺を巡る案が決定しました。時期は昨年と同じく9月下旬を予定、具体的計画内容は上田会員を中心に検討をお願いし6月の稲門フィラテリー28号発行時に皆様にお知らせする予定です。日ごろ、お会いできる機会の少ない名古屋以西の会員のご参加をお待ちします。

最後になる

イギリス切手カタログ発行

2007年10月、永年にわたり小西会長が編集されてきたJPS外国切手カタログ「イギリス切手2007-08」日本郵趣サービス社(2100円)が発行されました。会員の皆様には小西会長の御好意により1800円で送っていただけます。



最終版となる13版2007-8年イギリス切手カタログ

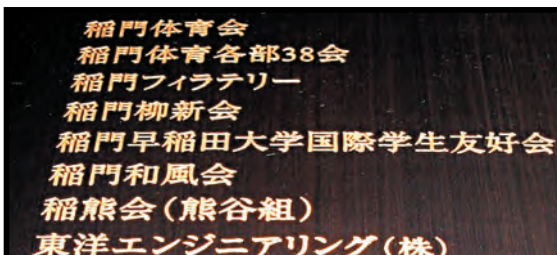
編集後記

箱根駅伝、ラグビー、サッカーと年明けから若い方にOB、OGは元気を貰ったことでしょう。スポーツ科学部の存在の力強さをあらためて感じざるを得ないのは致し方ないところか。指導者、指導方法が変化して、今後、力強さに、何かが加わることを期待したいと考えます。

編集を担当しての一年をふり振り返り、会報「稲門フィラテリー」が会員皆様の充実した日常に僅かでも糧となることが出来たか、皆様の意見を汲み上げてこられてたか反省します。加えて、原稿をお寄せいただいた会員皆様に深く感謝いたします。(お)

大隈講堂の銘板に 稲門フィラテリーの文字

創立125周年記念事業による講堂改修に伴い、行動内に記念事業募金寄付者銘板が設置されました。稲門フィラテリー会員46名は平成16年4月大学創立125周年記念事業募金に協力しました。その証が他の約1万9000の法人、団体、個人の名と一緒に銘板に刻まれました。



電子カラー版「稲門フィラテリー」の 送付をはじめます

22号から電子fileでの印刷出しをはじめて1年、一部の会員から折角カラーで出来上がっている会報を眠らせてしまうのはもったいない。費用面で紙ベースのカラー化が無理であるのなら電子版でのカラー版を配付したらというご意見がありました。

幹事会での検討、決定をうけて27号からMAILアドレスをお持ちの会員には従来の会報に加えてPDFのカラーの会報を4、5日遅れて電子MAILでお届けします。

住所録にmailアドレスが記載されている全員の方に送付いたします。アドレスをお持ちながら住所録に記載されていない方で配付を希望される方はご連絡ください。なお、配付を希望されない方もその旨連絡をいただきたいと思います。

会員名簿訂正

和田 文明 823-0003 福岡県宮若市本城 376-1
Tel 090-2854-0359

発行日: 2008年3月1日

発行: 稲門フィラテリー

発行人: 小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

(株)英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座:00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当: 湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎 小川 義博

稲門フィラテリー

第 28 号

2008 年 6 月 1 日発行

『南蛮のみち』 バックパッカー二人旅

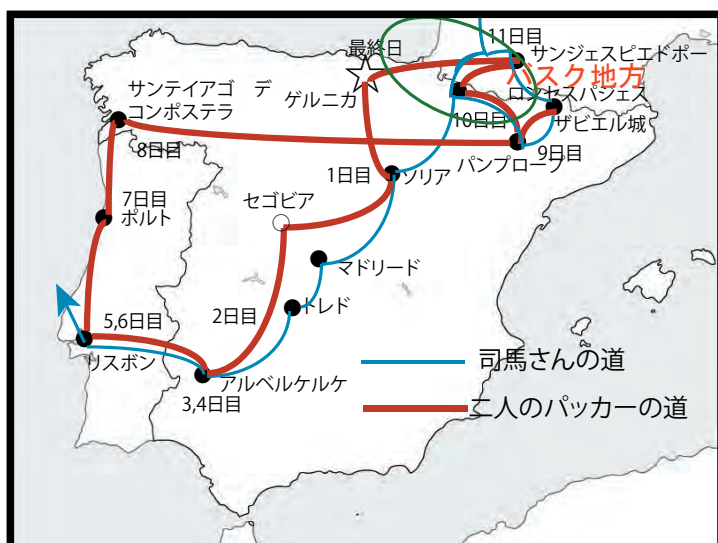
鳥谷越 明子

旅のはじまり

スペイン北部、バスク地方の町ゲルニカに移り住んだ高校時代の友人・温子（ながこ）さんからメールが入ったのは8月初めであった。「教職をリタイアして悠々自適、村の子供達を集めて遊んでいるおじさんと一緒に、車で気楽な旅をしない？」一も二もなくオーケー。気楽な旅の中身を数度のメールで確認しあった。このおじさん、フロレンさんは現在バスク地方の言語、文化を研究中。10月初めに故郷アルベルケルケに戻るので、ゲルニカからイベリア半島を斜めに横断しながら、ポルトガルへ。北上してスペインの巡礼の町々、ピレネーの麓の村々を巡った後ゲルニカに戻ると言う10日間のドライブの旅であった。地図を辿ると、司馬遼太郎の「街道シリーズ、南蛮のみち」によく似たコースである。温子さんからバスク独特の文化、気質、言語などを耳にし、「南蛮のみち」を読んでいたこと、また、来年友人と巡礼路「カミーノ」の一部を歩く計画を立てていることから、この旅が「南蛮のみち」を再現し、「カミーノ」の町々も下調べできる私にとって「オンリーワン」の旅になる予感がしてきた。

「南蛮のみち」は1985年日本文学大賞を受賞した作品である。1549年、日本に初めてキリスト教を伝えたザビエルは私達日本人には馴染み深い。司馬さんは「南蛮人」ザビエルが生まれ育ったザビエル城

とバスク地方、その後の青春時代、パリの大学で哲学とスポーツをこよなく愛しながらイエズス会を創設し、遠く日本にまで宣教するに至った経緯、又、彼を生み出したバスクの地からその後も続々と送り込まれた神父たちにも詳しく言及している。山麓の村、サンジャンピエドポーから、西の果サンティアゴ デ コンポステラに至る800キロの巡礼路「カミーノ」が当時のカソリック教徒（9－13世紀）に与えた意味等についても興味深く探求し、「国家とは」「宗教とは」と司馬さんの思考は止まるところを知らない。司馬さんの旅はザビエルが青春時代を過ごしたパリから始まりフランス側、スペイン側のピレネー山麓に広がるバスクの村や町を巡った後、広大なスペイン台地メセタ中心部の都市マドリードへ飛びトレドを経てポルトガルに至る。



二人旅の行程と司馬遼太郎の南蛮の道の行程



白い外壁、赤い屋根そしてベンガラ色の窓の外扉の美しい独特の民家が緑豊かな自然に映えるバスク地方

1日目 ゲルニカからソリアへ

私達の旅の出発は10月1日。フロレンさん、温子さん、私の3人は温子さんの家の前に集合した。朝方降っていた小雨もやんでバスクの緑が目にしみる。あちらこちらで羊や牛が草を食む。順調にビトリア（司馬さんはここでバスク国大統領と面会する）を過ぎ、巡礼の町ログローニョをかなたに見ながらぶどう酒の産地リオハ州のブドウ畑を駆け抜ける。

「次はソリアだ!」と言うフロレンさんの明るい声とは裏腹に車は何故かサラゴサへ。この道は4年前、温子さんとバルセロナまでバスで通った道であり、小高い丘陵に沢山の風力発電のプロペラの回る眺めはいかにもスペインらしい。車は60キロのスピードで行きつ戻りつ通常4時間で走るゲルニカ、ソリア間を何と8時間もかかってしまった。まさか10日の旅が20日になるなんてことは・・とちょっぴり不安になる。ソリアは中世の石畳を残した美しい町だが、ソリア市内を通り過ぎ、フロレンさんの知り合いがいるという郊外の村で宿をとることにした。



「カミーノ」へのスペイン側出発点

村に着いたのは午後7時。温子さんは絶え間なく話しかけるフロレンさんのお相手と60キロという超低スピードでお疲れ気味。しかし、その夜私達はとにもかくにも温かいお風呂に入り、無事旅の第1夜の眠りにつけたように見えた。しかし、夜半過ぎ、寝静まった村に突然響きわたるフロレンさんのアコーディオンの音。「一体何事?」同時にガバッとベッドに起き上がった私達はまんじりともせず朝を迎えた。早朝、部屋をノックしたフロレンさんの顔は青ざめている。実は昨夜遅くアルベルケルケに入院している母上の様態が急変したとの携帯が知人から入り、直ぐ出発したいとのこと。昨夜はアコーディオンを弾いて気持ちを紛らわせていたということであった。

2日目 ソリアからアルベルケルケへ

私達は朝食もとらずに直ちに出発した。本来ならゆっくり見物したかったセゴビア、世界遺産で有名なアビラの城壁なども吹っ飛ばして車



アコーディオンを弾くフロレンさん



バスクの小都市ゲルニカはフランコ將軍を支援するナチスにより無差別空爆を受けた。ピカソが怒りを込めて戦争の悲惨と平和の尊さを描いた作品「ゲルニカ」の小型シート



聖ヤコブが殉教後、遺骸は7人の弟子達により地中海を横断、生前聖ヤコブが福音のため上陸したとされるガリシア海岸のイリアに漂着して、その山中の奥深くに埋葬された事を描くスペイン切手



キリストの12使徒・聖ヤコブ（サンティアゴ）の墓「サンティアゴ・デ・コンポステーラ（カテドラル）」を目指すスペイン北部カミーノ（巡礼路）を描くスペイン切手

ヨーロッパの巡礼地図を描いたスペイン切手



カミーノの別名は「貝の道」。旅人が帆立貝の貝殻ペンダントのようなものを付けて歩き、貝殻のマークが黄色い矢印が道案内です。帆立貝が聖ヤコブのシンボルとされたからです。由来には諸説有ります。聖ヤコブの遺骸がエルサレムから流れ着いたという船の底に貝殻がたくさんついていたから、あるいは昔この貝をお皿代わりに托鉢（たくはつ）をしていたから、などです。貝殻の中央には聖堂騎士団の象徴の剣をあしらった十字架が赤で描かれます。切手もカミーノに関わるものには上の2つのような帆立貝が描かれている。また、巡礼路には右のような道標がたてられており、そこにも帆立貝のマークが描かれている。

はアルベルケルケへとひたすら走った。お昼頃フロレンさんの母上の様態が落ち着かれた言う一報が入り一同胸をなでおろした。無我夢中で走りぬけたスペインの台地は司馬さん言うところの「黄土色の荒々しい空間」であり「ブルドーザーをかけたばかりの空港予定地といった感じ」であり「半砂漠のような果てし無い」メセタ大地であった。黄土色の大地を過ぎるとエステレマデュラ州とカスティージャレオン州の州境。1500メートルほどの山の中腹である。谷間の小さな村の教会の塔は昔はやった「谷間に3つの鐘が鳴る」というフォークソングを彷彿させた。春には一面のサクランボの花が真っ白に咲き乱れ、まるで雪が降ったように谷間を埋め尽くすと言う。乾燥したスペイン大地から再び緑濃い山を下り周囲の植物の名前などをスペイン語で教えてもらいながら、私達日本人には緑



巡礼の町 Estella 900年の記念切手
ここにも帆立貝が描かれている

を愛するDNAが組み込まれているのだなあとつくづく思った。

カセレスの町を過ぎればフロレンさんのテリトリーである。美しい村のレストランでこの日初めてのまともな食事、美味しいスペインの田舎料理をご馳走になった。午後7時、いよいよフロレンさんご自慢の村、アルベルケルケへ到着した。村と言えど日本ではどんな風景が目に見えよう。私の知っている群馬県の川場村

は美しい田園風景と果樹園が一面に広がり、数十件の家が方を寄せ合って並び、その中に学校や郵便局、村役場などが点在する、そんな風景である。しかし、ヨーロッパの村、特にこのアルベルケルケの村は違う。古色蒼然、威風堂々たる大きな城が山の頂きにそびえ、前方のポルトガルとの国境の平原ににらみを利かせる。

城壁は高々と城を囲み、城郭はいくつもの城門を備えて中の住民を守る。城郭内は込み入った石畳の細い坂道が入り組み、古めかしく立派な教会がその中心にある。のどかな村をイメージしていた私達にはこのアルベルケルケはめったにお目にかかれぬ「お城つき」の中世の面影を残した「ご自慢」に値する「村」であった。

3日目・4日目 アルベルケルケ

翌朝、宿の目の前にある城跡と城を囲む散歩道をゆったりと歩きながら昔繰り広げられたに違いないポルトガルとの小競り合いに思いを馳せた。しかし二人の会話は少し深刻。「フロレンさんはお母さまの事もあるし、少しベベ（軽い飲酒運転？）だからここで車の旅は中止にする？」「ちょっと言いにくいけどね」

その日、城郭内で行われている建築作業、地元大学生の修復作業を見た後、お城内部のガイドに参加した。敵との戦いに必要不可欠な石落とし、熱湯注ぎ口、住民のための飲料水確保、城主の生活空間等々、後日見学するザビエル城より遥かに実践に即し、13－14世紀の面影をそ

のまま残した硬い城の守りであった。夕方、ポルトガルまで2－30分のレストランへ。

国境は緑の畑の中にEU国旗で同じみの青地に星をちりばめた看板がぼつんと一つ立っていた。海鮮をメインにしたポルトガル料理に大満足。国境の平原に落ちる夕陽を目に焼き付けてアルベルケルケへ戻ったところで温子さんが例の話を切り出した。「ねえ、フロレンさん、あなたはお病気のお母さまに付き添っていてね。私達はこれからバスや電車を使って旅を続けるから心配しないで・・・」私はフロレンさんの反応を



アルベルケルケ城を背にポルトガル国境に連なる荒野をびくびくしながら見守っていると答えは何と、「オー、ムイ ポニート！」（それは素晴らしい！）彼も母上のそばに付き添っていたに違いない。

翌日、私達はこれからの旅のために荷物を選別、僅かばかりの着替えと洗面道具をリュックに放り込んでバックパッカーにはや代わり。年齢のことは忘れてこれから始まるスペイン版「青春18切符」の旅に胸がわくわくしてきた。

5日目 アルベルケルケからリスボンへ

いよいよこれからは二人旅。前夜、大まかな旅程をたてた。バダホスからバスでリスボン。リスボンから電車でポルト。ポルトからバスでサンティアゴ デ コンポステラ。そこから長距離バスでビルバオへ。ビルバオからパンプローナ、ザビエル城、ロンセスバジェス、出来ればサンジャンピエドポー、バイヨンヌ、サンセバスチャン・・・と司馬さんの旅と重ね合わせる。



中世の面影を色濃く残すアルベルケルケ城



ザビエル生誕 500 年を記念する
スペイン切手と



1931 年のポルトガル領インド発行のザビエルを描く切手



ヴァチカンからも発行されているザビエル切手

といっても資料は「地球の歩き方」と温子さんのイベリア半島の大きなマップだけ。旅程といっても行き当たりばったり、足の向くまま気の向くままである。

バスはアルベルケルケを後にして一路バダホスへ。午後 3 時発のリスボン行きバスの発車時刻までの 2 時間半、大都会バダホスの旧市街や博物館を見学した。バスターミナルのカフェで遅い昼食の後、リスボンへ。司馬さんはマドリードからリスボン特急に乗り、国境の小さな町で検問を受けたが今は国境の目印もなくバスは果てし無く続く牧草地帯と子ならの林を通過する。テージョ川河口の入り江にかかる全長 2 キロの橋の



コメルシオ港をバックにバックバック二人

長さに驚嘆しながら、大都会リスボンに到着。

バスターミナルの案内所では係員が市内地図の上にくるっと丸印をつけ、「ここへ行ってごらん」とポルトガル語で言う。旅の達人・温子さんは地下鉄路線図を瞬間的に頭に入れて目指す地下鉄駅へ。そこは正に「セントロ」、リスボンの中心繁華街だ。中心街ではあるが、「青春 18 切符」の旅にふさわしく 1 泊 50 ユーロのちょっとシャビーなホテルにたどり着いた。

アルベルケルケからの長い一日であったが、気分はハイテンション、絶好調である。一休みして早速美味しいポルトガル料理のレストランへ。思いっきりグルメしながら旅の疲れをほぐした。外へ出ると辺りには霧が立ち込め街灯がしっとりと美しい。スペインとどこか違う。人通りは少なく、何故かポルトガルの男性はみなほっそりと背が高く上品だ。1 日を 2 日に分けて飲み食いした挙句、巨大な腰回りとなるスペイン人。1 日を 1 日として働く魚好きのスリムなポルトガル人。司馬さんはポルトガルについて、「人間が穏やかで秩序的でありいわゆるスペイン的の激情はポルトガルでは見られないと、言われている」と書いている。私達の「霧の夜の品定め」があながち間違っていないことを確認して、二人旅となった気楽さからぐっすりと安宿のベッドに身を沈めた。

6 日目 リスボン

本日も快晴。今日の予定は午前中リスボン市内見物、午後は 4 時間の観光バスツアーである。司馬さんが「リスボン特急」の最終駅サンタアポロに駅に着いたのは夜であったが、翌朝目覚めたときのことをこう書いている。「朝、目が覚めたとき、自分が今リスボンにいるというだけで、幸福な気分になった。ヨーロッパで最も気候のよい、首都であり・・・宿の周りを散歩するとやわらかく光るような海風が身を包み込んできて余生を暮らそうかと言う思いがしきりにした」

私達もまた海風に誘われるようにリスボンの



巡礼路に点在する聖ヤコブに
因む像を描く記念切手

中央大通りを一巡し、高々と茂った街路樹の並木通りを歩き、広場を通り過ぎて輝く海へと出た。この港こそ、1497年、インドを目指すヴァスコダガマが艦船を率いて出航した港であり、その後1541年、ザビエルがポルトガル王ジョアン3世の庇護の下、「サンチャゴ号」他4隻の船とともに東洋へ出航したコメルシオ港である。いまやかつての無敵艦隊時代の威光を失ったポルトガルではあるが、日本人には何故か「懐かしい」ポルトガルである。コメルシオ広場から市街へ戻る通りは道路を埋めるカフェやみやげ物店で大賑わい。

陶器類の好きな私達は飽きもせず次々とお店に入り青色の美しい陶器を手にとって、「これ、カワイ〜！」などと年甲斐もなく叫びながらもリュックの重さを考えて買わずにいた。

観光客のひしめく通りから静かな石畳の坂道に入ると、切ない歌が流れている。ああ、これが「ファド」ね。ファドを流しながらCDを売るストリートカーが街角に止まってファド好き

な女性がCDを吟味している。私達も流れている哀調溢れる女性歌手の歌が気に入ってCDを買った。司馬さんは「ファドはポルトガル独特のものである。民謡、あるいは民謡的演歌というか、涙、別れ、遂げられなかった恋の恨みといった風な人生の陰画的な詩情をじょうじょうと歌う」と書き、リスボンのファドレストランへ入って、ファドの生演奏を楽しんだようである。

午後はリスボンの観光スポットを回るバスツアーだ。私達を最も感服させたのはバスガイドさんである。30名ほど載ったバスの観光客の国籍は色々。ガイドさんはフランス語、スペイン語、英語（彼女はポルトガル人）をパーフェクトに駆使し、立ち寄るスポットでの説明は勿論、走るバスから見える光景をもれなく3ヶ国語で説明する。スポットでは言語に応じて集まる乗客に流暢にわかりやすく説明してくれる。集まる人の比率はフランス語50%、スペイン語40%、英語10%ほど。ヨーロッパでは英語はマイナーな言語である。



リスボンの街角でファドのCDを売るストリートカー

7日目 リスボンからポルトへ

今日はポートワイン発祥の地、ポルトへ。リスボンの電車の始発駅、オリエンテ駅はモダンアートのような屋根が翼のように広がる美しい駅である。列車は9時30分発、ポルト到着は12時半、3時間の列車の旅だ。今回初めての列車の旅。ところが前のシートの中年カップルが異常に「仲良し」。シートの中の10センチほどの隙間から見える二人の熱々ぶりに目のやり場がない。3年前の切手研総会。その後の懇親

会のことが思い出された。前日の中越大地震にもかかわらず新潟から出席された同期のTさん。地震の様子について尋ねられ「いや～、妻が何十年ぶりかで抱きついてきましたよ」・・・そう、日本人はそれでいいのよ、それで。私は日本人でヨカッタと思った。

12時半。ポルト到着。ここでも難関地下鉄路線をクリアして「セントロ」に出る。地上に出た途端、中世の香り漂う「世界遺産」の町が広がる。昨日のリスボンは度重なる大地震のせいで中世からの大建造物が少ない近代都市であった。が、ここは違う。何処へ行っても古いヨーロッパ映画の中にいるようである。石畳の坂道、細い路地には一杯の洗濯物が翻る。このはためくシーツもパジャマも世界遺産に彩を添える。



中世の香り漂う「世界遺産」の町 ポルト

私達は観光名所ドラウ河畔リビエラのせり出すカフェのテーブルで休憩する。秋の陽射しを浴びながら「あ～、又ゆっくり来たい町ね～」と異口同音。休憩後、散歩を続けると大きなカテドラルに出る。



ポルトの町とリビエラ河畔

カテドラルはポルトで最も由緒ある教会で宝物殿が公開されている。私達は回廊を見て驚いた。普通、キリストの使徒たちの逸話が彫られている壁一面にコバルトブルーのタイル絵が壁に埋め尽くされていたのだ。2階の宝物殿の外側にある中庭の壁もびっしりと全面タイル絵で埋め尽くされている。



ポルト聖堂のタイル画の回廊

司馬さんが初めて停まったのはポルトガルのマルバウン・ベイラ駅。駅の外壁に貼られたコバルトブルーの絵タイル。絵は抽象的なイスラムタイルではなく具象の風景と人物である。司馬さんはポルトガルに入った第一印象を「ポルトガル人にはそう感じられないかもしれないが、外国人である私どもの目から見れば、この駅舎の感じはいかにも懐かしげなタイル絵の多様振りといい、何かぬけぬけと叙情的で、音楽で言えばリズムよりメロディーの感じでありじょうじょうとしている」と書き、以下、このコバルト色のタイルについて発祥の地、ペルシャのコバルトがアラビア商人によって唐に渡り、「唐三彩」となり、その美しさを日本人がまねて「奈良三彩」となり・・・とその思考は広々と遊泳する。いずれにしてもカテドラルのタイル絵は特に宗教色もなく伸び伸びと自然の風景や人々の暮らしが描かれていた。私達はポルトの町を飽きることなく、夕陽が沈み、空が群青色に染まるまで歩き続けた後、カフェで温かいココアを飲み気持ちのよい宿でぐっすりと眠りについた。

(29号につづく)

なにもようせい傳

池山 眞彦

月日は百代の過客にして、行きかう年も又旅人也とか。いずれの歳よりか、そゝろ神の物につきて、夢うつつのままに妖しき精霊の棲むまふ不思議の国への想ひ。

司馬遼太郎の「愛蘭土紀行」に始めて接したときの、不思議な衝撃と感動が折に触れ組みひも文様の如く、脳裏を複雑に刺激続けてきたようです。

爾来、妖精、ケルト、アラン、ギネス、そして「百敗不滅」のキーワードが着実に五体の中で醸成され、何か急に懐かしさを覚えたとき、「そうだ。アイルランド。行こう。」と相成った次第です。お馴染みの「Eile」（エーラ）とはゲール語のアイルランドを意味します。

古代ローマ人に追われ、西の果てに固有の文化を構築したケルト民族の末裔。自然に親しみ、自然を神聖なものとした多神教民族は、その感性の中から進化してきた美しい声調の響をもつ、

ゲール語を生み出しました。

現在、英語と共にこの国の公用語として、町中のいたるところで、目にしますが、欧米人にとっては、日本語に劣らず難解な言葉として位置付けられているようです。



ギネスの創業者
アーサー・ギネス

「Hill of TARA」

さて、国の始まりが大和なら、旅の始まりは「タラの丘」。名画「風と共に去りぬ」の最終場面、「タラへ帰ろう」の Tara である。

ダブリンの北30キロ、緑のトンネルを走り抜けると、アイリッシュの「心の故郷」は当たり前のようにゆったりと現れた。紀元前2世紀、ケルトの王侯たちが宗教的な儀式や政策決定をしたと云われる聖地であるが、守護神セント・パトリックを祀る教会の裏手を抜けると、のど

かな牧草台地が広がり、中央に墳丘と身の丈ほどの石柱、周囲に浅く環状に路が取り巻いている。

360度目を転ずると、遥かに遠く緑の地平線。濃緑の森と教会の尖塔、薔が村々のたたずまいを誇示している。足元から続く牧場には、点々と白い羊が黙々と草を食む。降り注ぐ陽光、心地よい薫風。のどかな景色に心が和む。たったこれだけ、これが「タラ」なのだ。



タラの丘

田園風景の中に現れた中世の香り、Trim という町を過ぎると、いよいよこの国の心臓部、道の両側には石垣が目立ち始めた。切れ目からは丘の上へ向かって白骨の如く幾筋もの石垣が伸びていく。これぞ原風景とばかり目を凝らすと制限速度100キロの砂利道では息つく暇もない。気が付くと「犬の遠吠え」のような標識が次々と現れては去っていく。話に聞く「妖精注意」の標識か？ 確かに雨の日の夕暮れなんぞにはよく似合うかも……。



アイルランドの羊

「クロンマクノイズ」

島の中央部は緑豊かな丘陵地帯と一変した湖沼、河川、泥炭の地帯である。途中、泥炭ツアーに立ち寄る。トロッコ道を黄色い客車がトコトコはしる。

この国唯一の天然資源の採掘現場は、道に沿っ



上 自家用ピートの採掘跡

下 泥炭の掘削作業車を描く泥炭組合 50 年記念切手



て生える灌木を除いて、これが地球かと思える程、荒々しい真っ黒な大地である。ここから滲み出た水はブラックウォーター川となって、泥炭原野を貫く。

クロンマクノイズは初期キリスト教修道院遺跡で、又この地はタラの大王の埋葬場所と言われている所。ハイクロスと呼ばれるキリスト教と原始宗教の合体した重量感のある墓石には聖書物語やケルトの渦巻文様が刻まれ、上部の丸いクロスは輪廻転生を示しているとか。傍らにはラウンドタワーと言われる 20 メートル程の高さの丸い石積みのタワーが千数百年の歳月をずっしりと受け止めている。8 世紀中ごろ、バイキングの襲来によって、栄華を極めた修道院文化も終焉をむかえたが、地上 5 メートル程にある入り口を挟んでどのような攻防があったのであろうか。川面より流れる風は時にやさしく、時に厳しく、この廃墟を風化し続ける。今、観光客は黙々と散策する。

「コネマラ国立公園」

湖に囲まれた Cong という小さな村は、映画「静かなる男」の舞台である。

小さな茅葺きの Cottage と古い Pub が往事の面影を残している。

典型的なアイリッシュの男をジョン・ウエイン、お相手はモーリン・オハラとなれば西部劇の定番。幼かりし頃、小銭を握っての蒲田パレス座詣でが懐かしい。車は西へ、西へ、「Wild West」の世界へ。

湖と緑の先は岩だらけの牧草地帯。氷河に削り取られた V 字谷の底をめがけて一直線に進む。途中、柵から飛び出した赤や青の識別ペンキを塗られた羊が、何事もないように路上で草を食んでいる。

潮の香を感じるままに、目を転ずると眼下は大西洋。6 月の陽光の中、いつしか薄紫の世界。予期せぬ石楠花の大群落越しに、この国唯一のフィヨルドがコバルトブルーに光っている。絶景に感動。

自然の大景観に満足しつつ進むと、ワタスゲの咲き乱れる草原。ところどころに黒々としたピートの採掘跡が次々に現れる。草原のふわふわ感を楽しんでいると、突然、ガラッガラッと砂利道を 1 台のバントラックがやってきた。後ろに 50 メートル程、電話線を引きずっている。何事かと訝っていると急に 2~30 メートル程先に停車し、中から男の子 2 人の手を引いた女性が出てきた。

「Help me!!」と、近づいてくる。一体何者??

気の毒とは思いながらも下手に関わりあうと碌なことはないと、大げさなジェスチャーをしながら退散する。

それにしても、ガラガラトラックと子連れ母さんは彼らにとっては、最高のパフォーマンス



石楠花とフィヨルド



岩だらけの西部地方

の筈……。自分ながら情けないと思いつつも、旅の空。勘弁、勘弁。夢ではないがそれにしても気になる。きっと、現代版「ジプシー」なのだろう。

まるで絵のように美しい湖畔のカイルモア修道院を過ぎ、この地方の中心、Clifden に入る。

「あらしとOYSTER」

夜半、松籟が騒がしい。月明かりが薄ぼんやりと中空を照らし続ける。やはり、嵐だった。横殴りの風雨が窓をたたく。食堂に飛び交う「Lovely Wheather」、「Traditional」の声は、得がたき最西の荒ぶる様を体感できる喜びと期待感の表現かもしれない。

水溜りの穴を避けながら、海岸沿いの砂利道を走る。周りはおつごつした岩と僅かな草。どんな痩せ地でも育つという、この国の主食のジャガイモですら植えるスペースもない。

シャッターチャンスとばかり、窓を開けると、いきなり雨と小砂利に強烈に殴られる。遠く、鈍色の雲の切れ間から数条の光が白い小屋を差す。一日に四季があると云われる程変化の激しい天候、海峡を挟んで、ケルト文化を色濃く残す絶海の秘境 Aran が今日は墨を流したように横たわっている。当然、フェリーは欠航。諦めて Oyster Festival で有名な Galway へ向かう。

中心街を抜けてしばらく行くと、「MORANS」の標識が見えた。標識に従い畦道のような曲がりくねった砂利道を行く。

河口に面したどん詰まりに、目指す Morans Oyster Cottage が白い茅葺きの姿を現した。今でこそ、身近な存在になったオイスターバーで

はあるが、ここは世界中から選りすぐりの人達が集まる、隠れ家なのだ。小さな扉を押して中に入ると意外に広いスペースだったが、数組の客がいるだけ。隅の方に席をとって、オイスター、サーモン、そして Guinness を注文。暫く、店内に飾られた来店有名人の写真をみて廻ると、ありました。誰だろう、Emperor and Empress of Japan の若き日の姿でありました。高貴な気分です。美味求心。



モラン オイスターバー

心豊かな帰り道、またまた「犬の遠吠え」標識が続く。何気なく注視していると突然、「わかった！」のです。これは「妖精注意」などという風流な標識ではなく、単なる「小砂利飛び注意」だと……。



犬の遠吠え標識

今日の夕食は何となく郷土料理アイリッシュシチューが相応しく感じた。

「キラニー・匂いの町」

「人をつるす木もなく、溺れさせる水もなく、生き埋めにする土もない。」と云われた石灰岩の広がる不思議なバレン高原、200メートルの断崖絶壁が8キロに亘って大西洋に突き出すモ

ハーの断崖を経て、キラーニーへの250キロの長丁場だ。昨日とうって変わった絶好のドライブ日和。

風は爽やか、喉の渇きに立ち寄ったコンビニで買ったソフトクリームのあまりの旨さに絶句。ここでは何処でも清里清泉寮だ。コーンの看板を見付けては一時停止の連続、すっかり病み付きになってしまった。

音楽の町 Ennis、歴史的建造物の多い Limerick、色とりどりの建物や茅葺き屋根の連なる可愛い村 Adare などを見ながら、Killarney に入る。

ここは国立公園の中にある豊かな自然と遺跡に囲まれた湖畔の観光都市である。町に入ると、微妙な臭気と馬車の軽快な響きが交錯する。観光シーズンには少々早いこの時期、馬車の溜まり場では御者たちが人待顔で目を追いつけている。俗説「キラーニーの子供は早く背が伸び」。である。

石楠花の咲く公園の小道を行くと、次々と馬車に出会う。湖畔の辺に13世紀に建てられた古城が現れた。折りしも結婚式の後であろう、広々とした芝には正装した人々が談笑している。

泊まりはゲストハウス。オーナーの趣味で集め



Killarney 国立公園 50 年

られた骨董家具が所せましと飾られている重厚なハウスである。勿論、暖炉にはピートが赤々と燃える。



結婚式？

「ディングル半島・ケルトの幻影」

「ゲールタクト」という、日常的にゲール語を話す地域に入った。

反英気運の高まる、西部の寒村を舞台とした映画「ライアの娘」。切り立った断崖、のどかな牧草地、無数の遺跡、ケルトの魂が今に生きる最西端の半島。



「ライアの娘」 断崖のコーストライン



遺跡と断崖を組み合わせた切手

初期キリスト教時代、修行僧たちが厳しい修行に明け暮れた聖地でもあった。1300年前に建てられたガララス礼拝堂は、12坪ほどの船底を逆さにしたような石積み

の建物で、2メートルほどの入り口と東方に小さな窓があるだけ。厳しい修行と質素な生活、修行僧の心意気が、どのようなものか理解し難いが、大西洋からの烈風を耐え忍んで立つ孤高の礼拝堂には自然に頭が下がる。

その特異な姿を眺めていると、突然「日本の方ですか？」と声をかけられた。1週間ぶりに聞く日本語にびっくり。定年後の旅行先にこの国を選んだ奇情なご夫婦であった。同じ境遇、しかも極西の偏狭の地で出会った不思議さに急に懐かしさを覚えた。お互いの行程の無事を祈って別れる。

ここでの走行は実には大変である。道路標識はゲール語だけ。ナビなど付いてない田舎レンタカーでは、太陽の位置だけが頼みの綱、周囲の景観よりも帰路の発見に焦りが加わる。別々の方向から3度も同じ場所にきたときには、頭の中の方向指示器は完全に麻痺状態となってしまった。目にした想定外の絶景には感激したもの、迷った事の思い出だけが鮮明に残った。

「妖精さまのお通りだ」

伝統的朝食のアイリッシュブレックファーストを「一人分」注文する。

日本人の舌にはよく合う食事だが、ボリュームだけは手に負えない。卵、ソーセージ、ベーコン、ベイクド・トマト、マッシュルーム、フライド・ポテト、ブラック・プディング等が特大のプレートにのっている。パワーの源とはいえ、日本人には無理、とても食べられない。

湖畔沿いの緑の木々と薄紫の石楠花の間を抜けて、徐々に高度を上げると Ladys View という峠に至る。雨のそば降るたそがれ時、妖精が出没するという神秘の場所だが、残念ながら、今日は陽光燦然たる夏模様。峠の洋風茶店の前に車を止めて、雄大な景色を眺める。

この国の妖精大好き人間にとって、妖精は今も心の中に実在しているようだ。

緑の服を着た、小憎たらしい顔つきのオッサン



「妖精注意」の道路標識

ン妖精たちは踊りが大好き。いつも「さんざし」の木の下で踊っているとか。捕まえようとする、棘だらけの樹下にあるという間に逃げ込む知能犯だ。レプラフーンは妖精たちの靴を直す靴屋の金持ち妖精で、捕まえると大金持ちになると言われている。

この不思議の国にも、人間たちは厚か



司馬遼太郎画
「アイルランドの妖精」

ましく槌音をたてる。神秘の小道は国道となり、車が音を発ててはしる。危機一髪「妖精注意」だ。「Leprechaun Crossing」の道路標識が闖入者たちの愚行をあざ笑うかの如く、立っている。後日、東大阪にある司馬遼太郎記念館で購入した、5枚組の絵葉書のなかにアイルランドの妖精が収まっていた。司馬遼太郎が自ら描いたとぼけた妖精だ。出合った時の喜び、思わずほくそ笑んだ。

「郵便局を救え」

初夏の光に輝く海を見ながらの走行は快適そのもの。風光明媚な南端の街道をいくと、次々に色鮮やかな家の立ち並ぶ港町や歴史の息づく小さな町が続く。かつては、リネン産業で栄え、街中には往時の様子を今に伝える小さな町に事件は起こった。現在は朝食の主要メンバーであるブラック・プディングの産地である Clonakilty である。

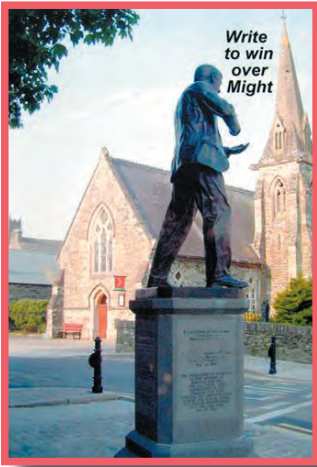
2003年2月、この町の郵便局格下げが発表された。1875年地主や裕福な農家、26名の長老派のメンバーによって建てられた、13世紀の教会の面影を残したゴシック調の教会は、その後郵政局に買い取られ、町のシンボリック的存在として、世界唯一の「教会の郵便局」として知られていた。町議会や保護実行委員会はロビー活動を展開すると共に3月には早くも6500名の署名を集め、格下げ決定



グリーンのポスト



郵便窓口



を廃棄するよう圧力をかけ続けた。又、「Write to win over night」というスローガンと地元出身の英雄マイケル・コリンズ像越しの郵便局を描いた絵葉書郵送キャンペーンを展開した。

今、この郵便局は緑色のサインポ

ストを掲げ、緑色の郵便車を懷に抱きながら誇らしげに業務を遂行している。街中で手に入れたキャンペーン絵葉書を手に窓口で記念の押印を依頼すると、ナンバリングのような事務器でガシャン。

グルメの集まる美しいヨットハーバー、Kinsale へ行く途中、有名なゴルフ場、Old Head Golf Links に立ち寄る。百聞は一見にしかず、世界中の30パーセントのリンクスコースを持つゴルフ王国の中でも、存在感を示すこのコースを一見したいと突入したが、残念ながら守衛に行く手を阻まれてしまった。馬の背の向こうに、大西洋の断崖に囲まれた難コースが垣間見られる。まあ、仕方がなかろう。

10月のFood Festivalには世界中からグルメが集まってくる小さな美しい町は、17世紀スペイン・アイルランド連合軍がイギリス軍と戦った「キンセールの戦い」の舞台でもある。波穏やかな内海では風に帆柱を揺らしながら多数のヨットが舳っている。フィッシュマーケットの跡地に建てられたホテルで食べたお勧めのチャウダー

の旨さ、到底忘れがたい。

おなかも満杯、ほろ酔い気分も混ざった至福のひと時をB & Bのベッドでぼんやり寛いでいると、次々にヨットや漁船が湾内にもどってくる。午後9時、日没までまだ時間がある。今は、白夜の時期なのだ。

「望郷編」

南部アイルランドの中心都市Corkはこの国第2の都市でもある。元々、教会を中心に発展したが、現在は活気ある商都である。ご多分に漏れず、都市部は一方通行が多い。この1週間の経験から、まずは流れに乗って軽く市街地を一周し、その後、徐に目的地を散策するという、自己流テクニックを覚えた。川の向こうの高台に鐘楼の美しい教会が目についたので、狙いをつけて石畳の道を登りきると、コークのシンボル、聖アン教会だった。意を決して一步、又一步と、急な階段を登る。遠く街並みを眺めていると、膝頭が何となく笑い出したので、即、下降を決意、実行。どうも人工の高所とは相性が悪い。おじさんが誇らしげに登楼証明書を書いてくれた。



St. Anns Church

南部の港には悲しい歴史が残っている。19世紀の中ごろ、この国の主食ジャガイモに胴枯れ病が発生、大飢饉が襲った。100万人の人々が餓死し、その上、チフスが蔓延した為、若者を中心として故国に見切りをつけ、新天地を求め、アメリカ大陸へ移住したのだ。JFKの曾祖父パトリック・ケネディも、その一人であったのです。

移住とは云いながら、ボートピープル同然の姿で棺桶船と



豊かな農業



大飢饉 150 年目切手 スープ配給所

移民船を待つ人々

瀕死の子供を見守る家族

いわれる粗末で不衛生な移民船での、死を覚悟しての移住だったようだ。

大西洋の表玄関 Cobh はその中心港で 20 世紀中ごろまで 250 万人の人々が故国を後にした望郷の地である。栈橋のかたわらには、二人の男の子の手を引いた女性像が西の彼方を眺めている。

又、この港は豪華客船タイタニックの最終寄港地として知られている。先に待っている悲劇を知る由もなく、華やかな出航風景が展開されたのだろう。

「思えば遠くへ来たもんだ」

南部の港町に別れを告げ、再び北上、高原の中の田舎道に行く。今回の旅行もそろそろ終わりに近づいてきた。100 キロ走行も何となく板に付き、余裕をもってゆったり走れるようになった。何時しか周囲は又もや石楠花の大群落。今日の日課か、単なる散策か、突然石楠花の茂みから羊が飛び出してきた。1 匹、2 匹・・・20 匹程の小団体が進行方向へ向かって道路の真ん中をゆったり歩いていく。100 メートル程先で、又茂みの中へぴょんぴょん跳ねながら消えていった・・・。呆気にとられながら、そ



道路に飛び出てくる羊

ろそろと動き出す。

中世の政治都市 Cashel の街並みを見下ろす岩盤に堂々と聳え立つ要塞は Rock of Cashel と呼ばれ、12 世紀の大司教区の跡。礼拝堂や塔、城などの建築物が集まり、見ごたえのある遺跡であった。生憎、一部補修工事中ではあったが、透き通るような青空を鋭く切り裂くロマネスク調アーチの、凜とした美しさに敗者の眩きが聞こえて来そうだ。



Rock of Cashel

それにしても、大自然のすばらしい景観はもとより、各所に見られる遺跡、



痕跡の多さに Rock of Cashel を描く航空切手はビックリする。先史時代の古墳、初期キリスト教時代の教会跡、ヴァイキング、ノルマン人によって破壊、略奪された城や修道院。更には近代に至るまでの厳しい闘争、飢饉等、それらの歴史から現在の国土を作り上げた不屈の精神には、圧倒的な賛辞を贈らざるを得ない。

旅の始めは出来るだけ丁寧に見てきた事物も終りに近づくにつれ、あまりの多さに疲労が加

わり、次第に見学意欲が低下してきたようだ。その代わり、この国の成り立ちや歴史観みたいなものが自分なりに蓄積され、何となく「百敗不滅」の意味が分かり始めたような気がする。

ハンテイング・クラブハウスだった古く狭いホテルのベッドに寝転んで、ぼんやり思い巡らしていると、窓枠に何かがす〜と通り越した。最前、街中で見た Balloon Festival の横断幕、大急ぎでカメラを持って飛び出した。

ゆったり、ゆったり、次から次へ気球はレンガ色の屋根の上を漂う。ホテルのバーで Guinness を飲む。カウンターに肘をついてみたが、様にならない。



バルンフェステ切手



バルーンフェスティバル

「Temple Bar の喧騒」

土曜日の午後の街は、時々刻々、華やかさを増してくる。

ここ Temple Bar 地区は市内を流れるリフィー川の南岸にある中世から続く歴史的、経済的中心地区であったが、19世紀以降スラム化し、ごく最近まで無視され続けた存在であった。現在は再開発により、あらゆる階層の人々の群れ



Dublin Millennium の切手



テンプルバーの賑わい

集う、最新の情報発信基地に変身し、誰もが自分のスタイルで、楽しめる独特の雰囲気醸す、活気溢れる街である。Pub、クラブ、レストラン、劇場、音楽、ギャラリー、メディア・フィルムセンター、ホテルなどあらゆる最新情報の集積した街の雑踏は、ふところが大きく何故かやたらに暖かい。テラスで食事を楽しむ人々、ストリートミュージシャンのリズム、大道芸のきょう声、堂々と闊歩するため GAL の集団、そして定番のよっぱらい。無口で無料な観光客でさえ、外から見れば画面の一部となっているのだろう。今夜はこの喧騒のど真ん中にある、古色蒼然たるホテルに世話になる。

今まで感動を与えてくれたすばらしい自然景観、神秘の歴史遺産、個性豊かな町や村、そして躍動感あふれる都市。アイルランドを旅する人には Repeater が多いと言う。どうも、その道を歩みそうな気配だ。

石畳に擦れ合う足音や、Pub から湧き上がる音楽が、夜遅くまで石壁を次々によじ登ってくる。

「旅の終わりに、みつけた夢は・・・」

司馬遼太郎の「愛蘭土紀行」は次のように結んでいます。

「いまま旅路の鈴がなりつづいて、当分やみそうにない。旅をしたというより、越してきた山河が書物のように思われて、そういうあたり、ふしぎな国だった。(略) 山河も民族も国も、ひとりの“アイルランド”という名の作家が古代から書きつづけてきた長大な作品のようでもある。」

本稿内容についてのお問い合わせは
<kyogetsu_ikeyama@lily.ocn.ne.jp> まで
嘘月 _ 池山と称される本原稿の執筆者、勇気を持って
お問い合わせください。 編集

「データベースもどき」の使用環境

EXCEL 実行 file と画像 JPG file(切手数分) をマクロ使用可能環境で LINK させて使用する。

検索は 4 つのキーワードで検索を絞り込めるようにマクロで動作環境を準備した。キーワードの選択方法としては図書検索のようなシーラスなどから選択する統制キーワード法などはとても難しく使用できないので日常語をキーワードとして使用できるように全文キーワード法と自分なりの統制キーワード法をマクロで処理できるように準備した。完全一致と部分一致の相違は色で判断できるようにした。具体的には「花」という文字で検索したとき、「花」という文字だけが記録されているときは完全一致、花火、花笠、落花生のときは部分一致として色別表示する。これらはマクロ連動した起動ボタンをクリックすることで処理を行い。画像表示

ボタンクリックで検索された切手の画像が全て表示される。Excel は DATAsheet、検索 sheet、検索画像 sheet、並び替え sheet、作業 sheet の 5 sheet で構成されている。Sheet 画面は

(1) DATAsheet

左ページ下のような画面構成

(2) 検索画面 sheet

下の欄、上の画面は伝統と太鼓という言葉と関連する対象が描かれている切手を AMD 検索した画面であり、「検索開始」ボタンをクリックした結果である。7 枚の切手がヒットして表示された。

(3) 検索画像 sheet

下左画面は (2) の画面の「切手を見る」ボタンをクリックした結果 7 種 9 枚の切手画像 FILE が表示された。

(4) 並び替え sheet

下右画面 発行枚数順に並び替えた表示画面

Microsoft Excel - ふるさと切手を探す																	
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンド(W) ヘルプ(H) Excel OOR(O) Adobe PDF(P)																	
MSゴシック 11 100%																	
I15 2001/9/28																	
A	C	D	F	H	I	J	K	L	P	Q	R	S	T	U	V		
1	ふるさと切手検索ページ								原画作者を対象	yes	(対象とするときは yes を)					CD	
2	検索文字 1			伝統		AND 検索		検索対象は文字でも単語でも良い									
3	検索文字 2			太鼓		OR 検索		AND 探索終了									
4	検索文字 3																
5	検索文字 4					切手を見る		項目該当は草色、文字該当は黄色で表示									
6	初期化		検索語数			2	検索ヒット数		7								
7	カタログNO		ここより検索対象項目														
8	番号	さくら	画像FILE	形態	額面	発行年月日	発行枚数	印刷方式	再発	通称	Keyword1	Keyword2	Keyword3	Keyword4	Keyword5	Keywo	
9	173	R136	地162	単	62	1993/6/4	4,200,000	グラビア	広島	壬生の花田植え	伝統芸能	花田植え	囃子手	農村	太鼓		
10	206	R153	地195	単	50	1994/8/1	3,200,000	グラビア	沖縄	綱引き	伝統行事	綱引き	雨こい	踊り	太鼓?		
11	233	R167	地222	単	80	1995/8/1	3,000,000	グラビア	沖縄	エイサー	伝統芸能	踊り	太鼓				
12	272	R192	地261	単	80	1996/8/1	4,740,000	グラビア	宮崎	下水流白太鼓	伝統芸能	奉納芸能	太鼓	踊り	折腹		
13	342	R236	地331	単	80	1998/3/19	12,400,000	グラビア	岐阜	起こし太鼓	伝統行事	日本三大神楽	飛騨古川(原)	裸男	夜景		
14	732	R507	r507	2連	80	2001/7/6	未発表	オフセット	大阪	第14回世界観光機関 (WTO) 大阪協会	伝統芸能	文楽	農楽	人形	太鼓	韓国	
15	743	R515	r515	2連	50	2001/9/28	未発表	グラビア	岐阜	揖斐の風物 (岐阜県)	伝統芸能	踊り	谷汲踊	太鼓	羽飾り	切り紙	

ヒット切手画像 FILE 表示画面

1	検索語	伝統	太鼓	作業のドライブ	0	
2	ヒット数	7				

壬生の花田桶え

綱引き

エイサー

下水流臼太鼓

起し太鼓

第14回世界観光機関 (WTO) 大阪近 拙姿の風物 (岐阜県)

並び替え画面

1	形態	発行枚数	印刷方式	関連地域	5. 郵政局別整理番号	6. 画面作者
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

並び替え対象項目を数字で選択、開始ボタンをクリック

基本データからふるさと切手を考える

2007 年 11 月末現在までのふるさと切手に関して 2 種類の日本切手カタログ、前述の電子版さくら切手カタログ、郵便事業株式会社ホームページ等 (2008.3.31 現在) 等からデータを借用し、入力した DataSheet を使用し、少しふるさと切手を考えてみた。

発行状況をその形態を考慮して経年で整理したのが下表である。

種類の多さはともかく発行形態が大きく変化してきている、ペーンの発行が消えていくと同時に連刷切手の増加が明らかであり、しかも、徐々に 4 連刷、5 連刷が主流となって、10、20 連刷に主流がシフトしてきたことがうかがえる。

年	単	2 連	4 連	5 連	6 連	10 連	20 連	切手 種類	ペーン	小型 シート	年賀 小貼	10 連 シート	総計
1989	18	2						20					20
1990	68	2	都道府県の花	47	連シートあり			70			4		74
1991	18	4	4					26	12	4	1		43
1992	13							13	6	1	1		21
1993	13							13	11	3			27
1994	14							14	13				27
1995	17	2	4					23	15				38
1996	18	4						22	15				37
1997	13	8	4	5				30	17				47
1998	24	6						30	23				53
1999	36	38	24	5		10		113	42	2		1	158
2000	21	24	12	15	6			78	31	1			110
2001	24	22	16	10				72	25	1			98
2002	11	18	16	5				50	1				51
2003	10	12	12					34					34
2004	20	4	12	5			20	61					61
2005	5	4	28	5		10	20	72					72
2006	3	2	28	10	6	10	20	79					79
2007	2			55		40	20	117					117
総計	348	152	160	115	12	70	80	937	211	12	6	1	1167

次に、都道府県別に発行種類数を整理し、多い都道府県を表にしたのが下表である。四国が、多いのは八十八ヶ所文化遺産切手の数が示した結果であるが、四国 4 県と解釈すると各県に 20 が加わっても各県 30 種ぐらいである。対して、北海道、東京が他府県の 2 倍以上の発行種類数である。

地域	単	2 連	4 連	5 連	6 連	10 連	20 連	合計
四国	25	14	36	5		10	80	94
北海道	14	8	20	25		10		77
東京	18	8	12	10				36
沖縄	16	6	12					34
長野	4	6	4			10		24
愛知	5		4	15				24
山梨	9	6	4	5				24
新潟	10	4	4	5				23
岐阜	5	7	8					20
神奈川	11	8						19
静岡	9	2	8					19
石川	11		4	1	1			17
大阪	7	2	4	3				16
岡山								

また、沖縄、長野と人口の多くない県で発行種類が多くなっている。この種類数からは郵政局単位での発行のため、所管都道府県の少ない郵政局 (北海道、沖縄、東京等) 管轄の都道府県が必然的に種類数が多くなるという理解しがたいことが考えられたが、..... 何というアンバランスであろうか。

種類数について、発行枚数を発表されている範囲で整理してみたのが上、右上の表である。(発表 696、未発表 241) 一時期の大量な枚数はなくなりつつあると考えられるが、ここでも北海道発行のふるさと切手の総発行枚数の多さである。

年	単	2 連	4 連	5 連	6 連	10 連	20 連	合計
1989	15980	1300						17280
1990	36125	600						36725
1991	12585	3600	1500					17685
1992	9720	0	0					9720
1993	9500	0	0					9500
1994	10240	0	0					10240
1995	12813	200	2000		万枚			15013
1996	11884	2520	0					14404
1997	10680	4930	2300	2500				20410
1998	12330	5400						17730
1999	23667	23178	8600	4990				60435
2000	16694	11729	8700	10838	2570			50531
2001	6970	7890	9230	3915				28005
2002								0
2003								0
2004	900							900
2005	3100	1200	6100	2000		1000	900	14300
2006	1390	960	4480	2080	650	600	610	10770
2007	1600			8016		1000	400	11016
総計	196178	63507	42910	34339	3220	2600	1910	344664

地域	合計
北海道	42407
東京	28183
長野	14360
大阪	12250
兵庫	11888
山梨	11794
沖縄	11154
神奈川	9884
岡山	9286
京都	9000
新潟	8425

これは北海道だけに見られる動植物を題材にその題材に当て込んだ枚数が消化できることを、見込んでの発行がなされていると考えざるを得ない。80 種類のうち、植物 35、鳥・動物 27 種という数字が示すように植物はともかく、動物を描いた切手が他の府県より圧倒的に多い数



を占めていることが如実に物語っている。

印刷方式はグラビア、オフセットがほとんどで凹版・グラビアは僅か 4 種類 (実質 2 種類) の中仙道木曾路の宿場を描いた切手のみである。このあたりにふるさと切手の品格を窺い知れる。



次に、個別に発行枚数を整理すると左下の表のような結果になり近畿郵政局のふるさと切手に対する発行方針の他の郵政局との明らかな違いが感じられるがいか

年	切手	地域	発行枚数
2000	淡路花博	兵庫	1930
2000	淡路花博	兵庫	1730
1992	ビジネスパーク	大阪	1600
1998	尾瀬	群馬	1590
1998	尾瀬	群馬	1590
1989	東京駅	東京	1500
1997	京都大学時計台	京都	1500
1995	牛若丸と弁慶	京都	1450
1995	岸和田だんじり祭り	大阪	1450
2001	K O B E 2001	兵庫	1450
2001	K O B E 2002	兵庫	1450

がなものであろうか。ここまで「もどき」の並び替え sheet で検討したものであるが、本



1930 万枚

1730 万枚

1590 万枚



1600 万枚

ふるさと切手の過美ともいえるにぎやかさ、加えて、猥雑ともいえる多様性への疑問を原画作者を職業から検討した。(56人は氏名のみ) やはりかなり幅があった。厳格な職業表現定義があるわけではない様であるが整理すると下表のようであった。従来の主に郵政省職員という枠とは異なる領域の人が原画を描いている。この他、中学生にはじまり俳優、染織家、漆芸家、郵政省職員、過去の浮世絵名作等 約 50 職業の方が原画を書いている。このあたりがふるさと切手の特徴を示す一因でもあろう。加えて原画作者は沖縄を筆頭にその土地に居住する傾向が明かにみられた。更に、他の一部シリーズ切手以外は特殊切手に少ないものがふるさと切手に多く見られる。統一性を欠く、もしくは切手デザインに混

職 業	種類
イラストレーター	268
日本画家	192
写真家	130
洋画家	122
グラフィックデザイナー	103
切絵作家	45
画家	36
教育関係者	24
版画家	19
グラフィックアーティスト	17
植物画家	17
漫画家	17
デザイナー	14
切手デザイナー	12
写真提供	9
郵政省職員	9
アートディレクター	8



工藤甲人氏 (日本画家) 水野良太郎 (漫画家) の落款とサインを拡大表示。



オーストリー、スウェーデンのように氏名が下外側に印刷された方が切手、原画作者の双方に良いのではと考えるが。



俳優
中尾 彰画

俳優
加山 雄三画

漫画家
久里 洋二画

種類	数
サクラ	31
ツツジ	14
チューリップ	10
ウメ	10
バラ	8
リンドウ	8
サクラソウ	8
ハマナス	7
リンゴ	7
キク	6
ジャクナゲ	6
ナノハナ	6
ヒマワリ	6
アジサイ	5
ハイビスカス	5
ハマユウ	5
ミズバショウ	5
モモ	5
アサガオ	4
エゾカンゾウ	4
サツキ	4
スイセン	4

考えられ、多少、切手の印象は改善されたと考える。

次に、このように幅広い領域の作者が描いた切手に何が一番多く描かれているかを「もどき」で検索すると、ご想像の通り「花」である。「花」で検索にかけると 372 種の切手に花が描かれている結果が示される。なんとふるさと切手の 40% 弱には花が描かれていることになる。どんな花が描かれているか? 約 150 種に及ぶ花が切手上に描かれている。多い順に並べると左表の如く、花から即、思い浮かぶものが描かれている。次に多



く描かれているのは、伝統という言葉で、地方で伝統的に受け継がれている祭を含めた伝統行事とそれに関連

しての伝統舞踊などが描かれたものが約 110 種程度ヒットしてくる。

この「データベースもどき」、会報を編集する者にとっては切手を探す手間とともに切手をその都度スキャンする手間がなくなり執筆者の依頼に気楽に対応できる補助具になってくれそうである。少しずつ範囲を広げ、「もどき」の名に値するようにしていきたいと考えている。

ふるさと切手がこの 5 月から統一され、整理された形で発行されることはふるさと切手の品格を従来よりも少しは高めてくれることと期待したいが、今回の心の風景シリーズをみると緻密さと縮小という切手の持つ古くて新しい問題を再び考えさせるものである。

(編集)

参考資料

さくら切手カタログ

キーワード検索がわかる

日本郵趣協会

ちくま新書 685

http://www.post.japanpost.jp/kitte_hagaki/stamp/index.html 郵便株式会社のホームページ

<http://yushu.or.jp/cgi/sakura/yomi.cgi> さくら切手カタログのホームページ

切手・野球・杉原研究の市川氏逝く 渡辺 勝正

市川鴻之祐会員が、急性大動脈解離で3月26日に急逝された。享年76歳であった。六大学野球のOBでもあり、昨年の秋には、早慶OB戦に選手として出場され、お元気であっただけに、急なご他界に驚いた。

今年から高野連盟史の編集員になられてご多忙の様子だったが、春の「スタンプショウ08」には野球に関する郵趣品をまとめて出品することを、楽しみにされていた。

ところが、市川氏から3月18日付けの絵はがきがニューヨークから届いたのは、ご逝去の知らせを奥様から伺った数日後のことであった。クローズド・アルバムとなった市川コレクションの野球関係切手は、幸いにも本誌27号に、7ページにわたって「日本の野球 昔と今」と題して掲載されている。

思い起こせば、市川氏に私が初めてお会いしたのは、2000年7月15日、岐阜県八百津町の人道の丘公園であった。早稲田大学が杉原千畝の顕彰碑を建立し、その除幕式が行われた日だった。杉原千畝は名古屋の第五中学（現瑞陵高校）を経て早稲田大学に入るが、市川氏の母校も同じく第五中学、早稲田大学である。そのようなご縁もあって、「命のビザ・杉原千畝」には深い関心を持っておられ、杉原の歴史探訪に協力していただいた。昨年、五中が創立百周年を迎えた記念誌に、市川氏は杉原千畝についてご執筆されたのである。早稲田が建立した杉原ビザの記念碑はリトアニアにもある。奥様の話によれば、近い内、一緒にリトアニアを訪ねてみたいと話しておられたそうである。

杉原ビザが、このたび吉川晃司主演の「ミュージカル SEMPO」となり、大好評である。本誌27号でも紹介されており、東京で20回、名古屋で3回、神戸で7回開催されるので、名古屋の会場では一緒に観劇するつもりだったが、実現できなかったことが残念である。ご冥福をお祈りする。

鎌倉会員 池澤会員 受賞

4月に開かれた全日本切手展2008で鎌倉達敏氏の「震災切手 1923-24」が企画部門の金賞と日本郵趣協会賞を、スタンプショー'08で池澤克就氏の「軽井沢物語～文学者たちの足跡」が金銀賞・特別賞を受賞されました。

編集後記

今回は会員の海外旅行記が巻頭を飾っております。観光旅行でも切手や郵便局が話題になるのが、OB・OGたる所以でしょうか。また、ふるさと切手について概観しております。まとめてみるといろいろと考えさせられます。

編集集中に、市川様の訃報に接しました。渡辺勝正様に思い出をまとめてもらいました。ご冥福をお祈り致します。（ゆ）

稲門フィラ常設切手展がスタート

「新宿北郵便局1階の展示スペースを提供するので、稲門フィラテリーによる常設展を」という郵便局株式会社新宿北郵便局の提案を受けて、この度、第1回は小西会長作「日本・カナダ同時発行赤毛のアン切手展」を6月7日から約2ヶ月間開催することになりました。

第1回 稲門フィラ常設切手展

「日本・カナダ同時発行赤毛のアン切手展」

開催日時： 6月7日～8月中旬

会場： 1階特設展示コーナー

主催： 稲門フィラテリー（早大切手研究会OBの会）

後援： 新宿北郵便局

内容： 日本で発行される赤毛のアン切手と
カナダで同時に発行される赤毛のアン切手など

新宿北郵便局と稲門フィラテリーでは、これから
常設の切手展を1階特設展示コーナーで開催いたします。
第1回は6月20日に日本・カナダ同時に発行される
赤毛のアン切手を紹介いたします。



切手教室再開

昨年8月以来、新宿北郵便局の会議室が利用できず中断していた切手教室は、磯野総務幹事の尽力が叶い、郵便局株式会社新宿北郵便局のご理解が得られ、正式に該局長から使用許可を受け6月より今までどおり新宿北郵便局会議室で再開できることになりました。

見学旅行決定

今年度の見学旅行が下記のように決定しました。

日程 9月26日（金）27日（土）

彦根城 長浜 錦織寺 石山寺 三井寺見学他
本会報に同封されました案内書をご覧ください。

「手彫切手研究」（季刊）発行

本会員坂下泰一氏の所属している手彫切手研究会（会長福原一信氏）から発行された。創刊号では、和紙黄2銭の無シート版の再構成の現状、13版（玉なし版）の再構成（坂下氏作成）などを掲載。手彫切手収集の発展に役立つものである。20ページ年4回の発行。購読料は年間6000円（送料共）。申込みは、ゆうちょ銀行振替口座00900-2-280879「高野昇郎」へ。

発行日：2008年6月1日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷1-11-3 正栄ビル4F

（株）英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座：00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当：湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎 小川 義博

稲門フィラテリー

第 29 号

2008 年 9 月 1 日発行

手彫切手の楽しみ NO.1

坂下 泰一

切手を集め始めたのが中学生の頃だったから、かれこれもう 60 年近くになろうとしている。手彫切手の日本的で芸術味豊かな図案の魅力に引かれて手彫を専門に集めだしたのがフィラ東京 '71 の頃であるから、こちらの方も、もう 30 年をオーバーしている。その間、国内外の切手展に幾度か出品し、JAPEX'01 では、[チャンピオンクラス] 金賞 [グランプリ] を、日本国際切手展 2001 では大金銀賞を受賞した。これも私一人の力ではなく、手彫切手研究会や、千代田会の各メンバーや切手を通じて知り合った多くの人達のおかげに負うところ大である、と心より思っている。

根気強く、気長に集めているおかげで、大珍品とまでは行かないが、お気に入りの切手や密かにではあるが自慢に思っている切手をコレクションに入れることができた。今回はその中から何点かを紹介させてもらう。

竜 1 銭 1 版 33 番の「東京検査済」図 1

竜銭切手は、新貨条例により、額面が文から銭に変更になったため、新図案の桜切手が製造されるまでのつなぎとして明治 5 年 2 月頃からわずかな期間、製造された。半銭 2 版と 1 銭 3 版を除き、竜面版はそのまま、額面版のみ新調された。また竜銭から目打が入れられたが、切手 1 枚の一辺くらいの短い目打器具が用いられたので、切手 1 シート目打するには 90 数回も打たなければならなかった。このような原始的で、非能率的な目打器具を用い、急ぎ製造されたので、センターのよいものを見つけるのは、特に低額面では極めて難しい。



図 1 竜 1 銭 1 版 33 番
東京検査済



1 版



2 版

図 1 の切手は竜 1 銭 1 版の 33 番である。目打の状態もまずまず。しかもこの消印は、大型の「東京検査済」の頭消しである。1 版で使用局の読めるものは少ないので貴重である。インキの色、油染み等外見的には問題なさそうである。ただこの消印が時期的に本当に存在するかどうかであろう。1 版のように未使用が高い切手にわざわざ偽消を作るメリットがあるか、と考えるが、未使用よりも使用済が高価な場合には偽消もありうる。

「手彫切手専門カタログ」によると、「東京検査済」の最後期使用例は明治 5 年 4 月 2 日であるが、竜銭 1 版の最初期使用例は 5 年 7 月 12 日、2 版は 5 年 4 月 5 日、3 版は 5 年 5 月 18 日。従って、1 版が使用されているときには、もう次の角検の時代に入っていたので、1 版に「東京検査済」を使用することはあり得ない事になる。が、手嶋康、浅見啓明両氏の「19 世紀の郵便」の中に東京差し立て (壬申七月十四日) 横浜宛ての竜 1 銭「東京検査済」の使用例のコピーが示されている。また同書の中に次のような記述が見られる。「5 年 7 月の "東京検査済" は、7 月 14 日～7 月 24 日など 5 例の使用例があり、この時期は "角検 Type1" が摩耗して使われなくなった時期と一致している事から、角検の代用として "東京検査済" が再使用されたと考えられる」。ということは、竜 1 銭 1 版にこの大型の「東京検査済」印があっても不思議ではない、ということになる。

今では、「東京検査済」で抹消された図 1 の竜 1 銭 1 版 33 番は大切な切手の 1 枚として、私のリーフを飾ってくれている。

房 2 銭と記番イ 1 番 図 2

房 2 銭切手に押された記番イ 1 番 (図 2) は偽消印であると思われていた時期があった。記番イ 1 番の使用時期と房 2 銭の発売時期とが合わない、という理由から。房 2 銭が発売されたのは 8 年 6 月 12 日で、最初期使用例は 8 年 8 月 5 日 (東京) である。ところが、記番イ 1 番の使用時期は 7 年 12 月 1 日～8 年 2 月 26 日。房 2

竜1銭2版用紙リスト

用紙	紙の材料	紙の厚さ	繊維の長さ
①脆弱紙	竹 100% (竹+藁?)	40～60 μm(平均)	0.4～0.65mm(平均)
②ペルアー紙 (半透明無地紙)	大麻(たいま)100%	40～60 μm(平均)	0.3～0.4mm(平均)
③強韌紙	三桮(みつまた)100% 雁皮(がんび)100%	65～70 μm(平均) 70～80 μm	2.1mm(平均) 2～3mm 白井氏発見
④竜1銭2版 (図3の切手)	三桮 100%	60～65 μm	1.5mm (単繊維長は 4.5mm)
⑤竜100文 (図4の切手)	三桮 100%	60～65 μm	4.5mm

白井二実氏の「竜1銭2版切手の用紙リスト」による



図2 房2銭 記番イ1番

銭が発売になったときには、もうすでに記番イ1番は使用されていないことになる。しかし、沢まもる氏や古屋厚一氏の研究によって、金子入書状に限り、その後も使用されていたことが明らかになった。それにより、今では、この房2銭に押された記番イ1番は珍印として多くの人に求められている。図2は私の房2銭のリーフに深みと変化を与えてくれているように思う。

竜1銭2版未使用の強韌紙 図3

郵便創業前、切手の二度使用防止の方策として前島密が考えたことは、はがしたら破れてしまうような薄くて弱い紙の使用であった。しかし、前島は外遊の際、乗り合わせた郵便船の船長から消印と言う便法を知ったため、粗悪で弱い紙(脆弱紙)は御蔵入りになり、丈夫で強い三桮和紙が竜文に使用された。しかし、新貨条例により、竜銭をきゅうきょ発行しなければならなくなったとき、ストックされていた脆弱紙やペルアー紙が流用された。

竜銭の後期には、三桮を材料とする強韌紙も少量使用された。

図3は竜1銭2版の25番の`あごなし竜'である。目打の抜けやセンター等の状態は申し分ない。しかし、ここで注目したいのは、少し見にくいですが、目打の切り離し部分に見られる毛羽だち(繊維)である。これは、繊維の短い脆弱紙やペルアー紙には見られない特徴である。そこで手彫切手研究会の例会にこの切手を持参して、意見を求めた。やはり脆弱紙やペルアー紙だ、と言う人はいなかった。

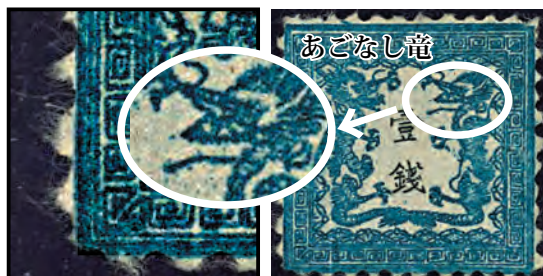


図3 竜1銭2版25番強韌紙
目打ち切り離し部分の繊維 あごなし竜に注目

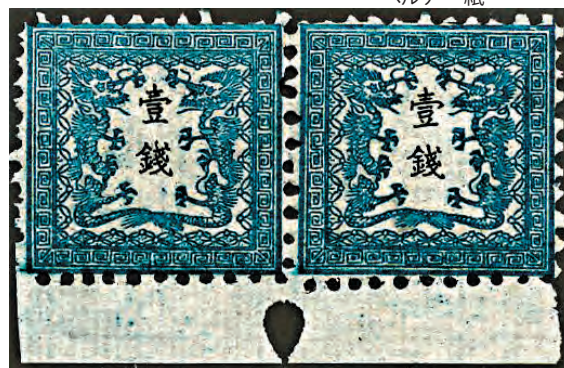
この竜1銭2版未使用切手は、一見ペルアーと思えるような美しい白色の切手であるが、ソフトな感触は竜文の薄手の三桮和紙を思わせた。残存した竜文の用紙が竜銭に流用されることはなかったか、との疑問を以前から持っていたので、この竜1銭と似た感触の竜文切手が私のコレクションの中にないか、調べてみた。竜100文切手に、この竜1銭とよく似た用紙を見つけることができた。数日後、手彫切手研究会の白井二実氏にお会いして、穴倉ペーパーラボの穴倉左敏氏に2枚の切手の材料分析を依頼してもらったことにした。氏はよく知られた紙の研究者である。上の表の④(図3)と⑤(図4)の欄に示されたのがその分析の結果である。

予想した通りの結果と言ってよい。⑤の切手は勿論のこと、④の切手も材料は三桮100%であった。紙の厚さも同じ。繊維の長さは、④の方が短いように見えるのは、表面を滑らかにするための加工(叩き潰し)を施してあるため



図4 竜100文1版7番
三桮和紙

竜1銭2版2番
ペルアー紙



竜1銭2版34,35番 脆弱紙

だ(単繊維長は同じ)。従来、竜銭の三極和紙を強靱紙と呼び慣わしてきたが、竜文の場合は、同じ三極和紙でありながら決して強靱紙と呼ぶことはしない、いや別ものである、と認識してきた。しかし、この④と⑤のように、竜銭と竜文に同じような紙が存在する、ということは、僅かながら残った竜文用紙が竜銭に流用された証拠にならないか、と思いたくなる。現在のところ、竜1銭2版の未使用で三極和紙と専門家に認定されているのは、これ1枚しかない。強靱紙であろうが、竜文と同じ三極紙であろうが、早く、2枚目が出現するのを望んでいる。

洋紙赤色 20 銭未使用目打 9s 図 5

この目打 9s とはゲージ 9 の小穴長器目打器具のことで、明治 8 年の後半以降使用開始された輸入機である。鳥 12 銭仮名ハで初めて、他の目打との複合で現れる。小穴ながらきれいに抜けているのが特徴で、人気も高い。図 5 の改色 20 銭の 9s は使用済みでもなかなか入手しにくい、未使用となると、図 5 の 1 枚しか今のところ知られていない。早く 2 枚目が出てくれることを期待している。



図 5 洋紙赤色 20 銭未使用目打 9s

和紙半銭 4 版の「津島検査」図 6

図 6 の上から 2 番目の切手は、桜切手のエラーとしては有名なキ半銭である。このキ半銭ストリップは「郵楽」誌の日本の珍品集の中に紹介されたことがある(大正 4 年 3 月 88 号)。私がこの切手に興味を持っているのは、この切手がキ半銭エラーであることも、もちろんであるが、それ以上に切手に押された 2 カ所の消印のためである。消印は、ややうすいが、「津島検査」

と読める。和紙半銭は、そのほとんどが大阪のボタ印で、16 年に市内便はがきが、1 銭に値上げになったとき、小判 5 厘はがきの加貼用に使用された。従って、不統一印や N1B1 などの初期の消印は少ない。

尾張国海東郡津島は明治 5 年 3 月 1 日に郵便取扱所を開設。そのとき使用された消印はやや大型の「津島検査済」である(図 7)。中川長一氏の「初期消印集成」に、7 年 4 月 7 日使用の例が記録されているからこの大型の「津島検査済」は遅くまで使用されていたことが分かる。次に使用されたのは、この小型の「津島検査」である。いつ頃から使用され始めたか、はっきりしない。上記の本では、7 年 8 月(日欠)、7 年 9 月(日欠)の記録があるだけである。8 年には記番印ヲ 11 号が使用開始されるから、この「津島検査」は短命の印ということになるだろう。私がこの「津島検査」の押された半銭切手を特に気に入っているのは、沢まもる氏の「明治の銅版画」の中に、津島郵便局の絵を見つけたからである(図 8)。この銅版画は当時の郵便局のたたずまいや、風俗をよく伝えてくれている。人力車が走り、洋装したハイカラな婦人が洋傘を持って通る。洋風欧化の風潮が、尾張の地にも押し寄せて来ているのが分かる。建物左方には津島郵便局の看板が見え、右方には証券印紙売下所の立て看板も見える。津島郵便局の窓口にはキ半銭のストリップを貼った封書が差し出され、津島検査の不統一印が押された…今から百数十年前に。

そうした空想に耽ることは楽しいことである。



図 6 和紙半銭 4 版津島検査

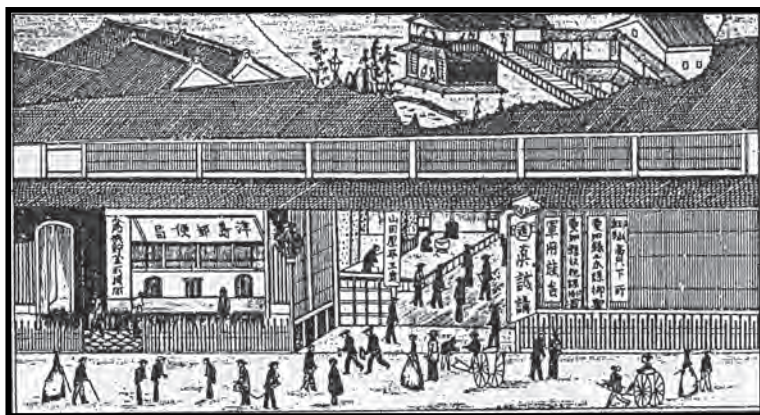


図 8 「明治の銅版画」より

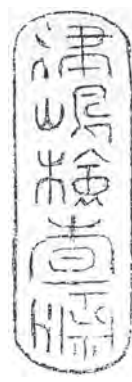


図 7 津島検査済「初期消印集成」より

『南蛮のみち』

バックパッカー二人旅 2

鳥谷越 明子

8日目 ポルトから

サンティアゴ デ コンポステラへ

今日はいよいよスペインへ戻って「星降る町」サンティアゴ デ コンポステラへ。私は6年まえからこの町に憧れている。NHKの番組でこの巡礼の町が紹介されて以来である。40日間歩き疲れ汗にまみれてたどり着きたい町…。しかし、予想もしなかったポルトガルから、しかもバスでやすやすと到着するのは邪道のように後ろめたさを感じないわけではないが、何としても訪れたい町、コンポステラである。

バスは薄い緑の丘陵地帯を走って3時間ほどでコンポステラに着いた。バスターミナルで時刻表を調べると次の予定地ビルバオへは夜行バスしかない。その夜はここで宿泊の予定を急遽変更して、午後11時発の夜行バスに乗ることにする。それまで8-9時間はたっぷりある。

早速バスターミナルから市内バスに乗り、いよいよロマネスク様式最高傑作といわれる大聖堂カテドラルへ。まず大聖堂全景を見渡せるエデューラ公園へ。全景をしっかりと目に納めてから、入り組んだ石畳の道を歩いて大聖堂前のオブラドイロ広場へ出る。写真や映像で何度も見てきた大聖堂が目の前に真っ青な空を背景に金色に輝いている。あ～、これが憧れの本物の大聖堂！広場には巡礼を終えた人々が疲れた足を投げ出して感無量の面持ちで大聖堂を見上げている。

私達は開いていた大聖堂の中に入る。中は薄暗く荘厳な雰囲気の中で中央に聖ヤコブ像が燦然と輝いている。あの有名な巨大香炉ボタフメイロ、巡礼者の頭上に高々と振り回される香炉は正面祭壇の横に置かれていた。他の観光客と共に祭壇横の階段を上ると正面の聖ヤコブ像の後ろ側に出た。そこで浄財を集めていた司祭が恐れ多

くも「ヤコブ像に抱きつきなさい」という。腕を一杯に広げて「もう一度あなたを後から抱ける日が来ますように」と願いを込めて後から思い切り抱いた。カテドラル周辺のみやげ物店、バール、カフェなどをブラブラ散策の後、再びオブラドイロ広場へ戻った。うっすらと夕闇が迫っている。広場の隅にあるガラス張りのカフェで休憩。右手にはガリシアの山々に沈む夕陽、



1954年発行サンティアゴ大聖堂と聖ヤコブ像の切手



真っ青な空を背景に金色に輝くサンティアゴ大聖堂



夕日に輝きをます大聖堂に再度訪れることを願って

左手にはライトアップされて輝きを増す大聖堂が群青色の空に浮かび上がる。余りの美しさに言葉もなく、ただひたすら巡礼の終着地としてもう一度訪れることができますように・・と願った。

午後10時。長距離バスターミナルへ。ぼつぼつ乗客が集まってくる。巡礼を終えた人が数人。自転車で終えた人たちは自転車をバスのわき腹に放り込んでいる。短パン、サンダル姿で同年輩と思われるデンマークのご夫妻に話しかけてみた。「巡礼は如何でしたか」「素晴らしかったわ。お天気がパーフェクト」「ペルドン峠やセブレイロ峠は如何でした?」「どうってことないわ」「アルベルゲ（巡礼宿）に泊まれたのですか」「勿論よ」「道に迷ったことは?」「そんなこと全然・・・でもリュックは出来るだけ軽くすることね」

彼らはこんな姿で気軽に巡礼しているのだ。このまま夜行バスでビルバオへ。そこからこの姿でデンマークまで飛行機で帰るのだ。私は6年も準備していると言うのに。何と気楽な姿! EUの便利さ、近さを実感した。午後11時、夜行バスは9時間ひた走り、ビルバオの一つ手前のビトリアに着いたのは午前8時であった。窮屈な座席だったが5-6時間は眠ったのか。気分は爽快。眠っている間に、巡礼の町で有名なレオン、ブルゴスなどを通り過ぎた。

9日目 パンプローナからザビエル城へ

今日はパンプローナ市内と待ちに待ったザビ

エル城。

ビトリアに着いた私達はそのままパンプローナ行きのバスに乗り換える。1時間ほどで到着。パンプローナは牛追いで有名な大都会だ。日帰りでザビエル城を見学した後ここで宿泊する予定であったがザビエル城へは夕方のバスしかない。急遽ザビエル城近くのホテルに予約する。

パンプローナは巡礼の拠点となる町の一つなので、バスを待つ間、牛追いの出発点「市庁舎」「サラサーテ通り」「フランス門」「城塞公園」・・・この時ばかりは温子さんの「ポチ」を返上、来年のために地図を片手に所要所を頭に入れた。ナバラ州都パンプローナはローマの要塞から出発した古い都市だそうだ。10世紀以来、フランス北東部に領地を持つ貴族の所有となりフランス領ナバラ王国となる。13世紀当時のナバラ国王は「戦士王」アルフォンソ。彼はお隣スペイン領アラゴン王国からの襲来に備えてサングエッサに近い丘の上にザビエル城を築城した。

この城を与えられて国境守備を任された騎士がアダム・デ・サダであるが、その家系が絶えやがて遠い血縁にあったザビエルの母となるマリアがその城を所有することになった。15世紀後半、ザビエルの父で法学博士ファン・デ・ハスはナバラ王の宰相として仕えその人柄、見識共に王の信頼を得ていた。王はファン博士にマリアとの結婚を勧めた。マリアは嫁入りに際して「ザビエル城」を持参してきたのだ。ザビエルの父は首都パンプローナで王につかえていたので、三男として生まれたザビエルは19歳のパリ留学まで母と母方の伯父によってザビエル城の中で育てられた。

パンプローナからザビエル城まではバスで1時間ほど。途中サングエッサ村を通過するはずだ。この村には司馬さんがザビエル城の帰りに宿をとった「ヤマグチホテル」がある。司馬さんが両替えしようとしたドル札を見て珍しさのあまり大騒ぎになった鄙びたホテルだ。サングエッサ村から1キロほど上ったところに「ヤマグチホテル」が車窓から見えた。2階建、間口

は広々として壁は薄いオレンジ色だ。ここから9キロ、バスはザビエル城へ向かって走る。時刻は午後6時前。偶然、司馬さんたちがザビエル城に近づいていた時刻である。司馬さんとスタッフのカメラマンは夕陽のあるうちに何としてもザビエル城に到着したいと願ってこう書いている。

「(いよいよちかいな) と思い、地図で確かめた。時に午後6時5分で、回りの岩や丘が怪しいほどの深さで陰影を濃くしはじめた。バスの背後の太陽はいつ沈むか、わたしどもを脅迫し始めている。助手台に座って身を乗り出している写真家の長谷忠彦氏がしばしば太陽を振り返ってはその位置を確かめた。「長谷さん、疲れますよ、あせっても仕方がない」と慰めているとふりむいて顔じゅう笑顔にした。「祈っています」ザビエル城に着くまでこの太陽が落ちないように、と言うのである」

司馬さんたちの車はいよいよ複雑な地形を上って城に近づいてくる。

「道路の左側が雑木林になっている。細い幹のその雑木はよほど密な樹叢を構成しており道路の左側からすぐ谷が陥没し、そのほかに全体が同種類の木々でうずまっていた。雑木谷の向こうの丘に出会い頭にザビエル城が出現したのである。視野をさえぎる雑木谷には斜陽はとどかず陽はすでに付近の丘に没しており、空には彩雲だけがのこっていた。……そのくらい森のこずえのむれの上に真っ赤な夕陽をあびてほとんど金色になった城頭がぬつと覗いた。夜は上から降りてくるというのは間違いだと思った。下から来る。下の谷の樹叢がまず夜をまとい始め、その上の城の塔だけがかがやいていた。午後6時20分である」

私達は25年前の司馬さんたちが乗り移ったようにドキドキしながらこの光景を待った。バスは走る。すると突然、広々としたバス道路の

下方、まだ明るい陽の下にザビエル城の全景がくっきりと俯瞰できるではないか。私達は一瞬間顔を見合わせた。あれは確かにザビエル城。でも何故？何故こんな姿で現れるの？停留所に私達だけを残してバスは走り去っていく。美しいザビエル城。でも何故か見たくないものを見てしまった感じである。ホテルに荷物を置いて急ぎザビエル城へ。6時ごろであった。そろそろ陽が傾いている。薄暗い森の中にぬつと城頭だけが金色に輝くザビエル城を第一に見たかった私達はどうしても納得がいかず、城の周辺の林を探る。

「旧道があるはずよね」すると、林の途切れたところにあるではないか。アスファルトの幅5-6メートルの旧道が雑木林に囲まれて城の後方へと伸びている。私達はし〜んと静まりかえった旧道をばたばたと靴音高く駆け下りた。時刻は6時15分。100メートルほど駆け下りてから、あらためてアスファルトの道をゆっくりと上る。正に司馬さんの世界である。周囲の雑木林がだんだんと濃いやみへと変わっていく。そして、最後の坂を上ると私達は見たのだ。夕陽をあびて金色に輝くザビエル城の城頭を！下の森から上ってきた夜を！正に6時20分ごろであった。私達は感激に言葉もなく塔を見上げ続けた。5-6分後塔は暗い影となった。一瞬の出来事だった。司馬さんはこのときの感激を、

「左手の暗色で塗りつぶされた谷間の樹叢越しに塔が赤ばんで出現したときの感激ははげさに言えば、15, 6世紀の地理的発見者のような気分だった」と書いている。浅学非才ながら司馬さんと同じ感動を体験できたのだ。この旅のハイライトであった。



夕日に映えるザビエル城



スペイン 1936 年発行 ザビエル城の切手



司馬さんが最初に見たザビエル城（同じアングルから）

10日目 ザビエル城から パンプローナ、ロンセスバジェスへ

朝、珍しく霧雨が緑の木立を包んでいた。朝食後、9時開館のザビエル城の見学へと向かった。2006年、ザビエルの生誕500年を迎えるにあたって、十数年の歳月をかけてザビエル城の修復、博物館創設、周辺の環境整備等が行われた。25年前、夕闇迫る頃ここを訪れた司馬さんたちにイエズス会の修道士が迷路のような階段や石壁の間を通りながら次々と城内の部屋を案内した。洞穴のような部屋にはぶどう酒のたるが積み上げられ、納屋のような部屋には日本語で書かれたザビエル伝、日本画などが積み上げられていた。当時のオバケ屋敷のような秘密基地のようなザビエル城はもうない。だが、居間とザビエルの勉強部屋はそのまま保存されていた。石壁に囲まれたザビエルの勉強部屋には出窓が一つある。出窓には向かい合う石の腰掛がある。翌朝、もう一度ザビエル城を訪れた司馬さんはここに座ったときのことを書いている。

「すわると窓越しに藍色の山が見えた。窓で切り取られた外界は光で描いた絵のようであった。・・・「あの山はピレネー山脈ですか」と聞くと修道士さんは赤ん坊に口移しに言うように、れいれ、れいれと言い、いいつつ石の上にLEYREと指で書いた。ザビエルが19歳までの日々、朝夕山の変容をこの窓から見、れいれと言うその名を何千、何万度となく口にしよう。そう思えば、銀の小さな鈴が転がる音のようにきこえる」

私も石の腰かけに座って出窓の向こうに見える「れいれ」に暫くの間見惚れていた。

午後、バスでパンプローナに戻った。昨日とは打って変わり、町は秋色濃く人々はコートの襟を立てて歩いていた。私達はこれから18時のバスでロンセスバジェスへ向かう。フランス読みでロンスヴォー。巡礼路「カミーノ」のスペイン側出発点である。夕食用にパンやオレンジ、チーズなどを買い込んでバスターミナルに戻ると翌日か

ら巡礼を始める若者達が大きなリュックをバスの脇腹に押し込んでいた。パンプローナからロンセスバジェスまではバスで僅か1時間、しかし歩いて2日間の行程である。この辺りのことは既に本やネットで勉強済みである。バスが発車すると間もなく勉強済みの村の名前が次々と現れる。「あっ、ララソアーニャ村」「あ、ズビリだ」「うあ、エロ山、結構高い」「あ、「日はまた昇る」のブルゲーテ」と興奮のうちにロンセスバジェスに到着。人口わずか25人。本物の村だ。山小屋風のホテルには暖炉が赤々と燃え、ピレネーの峠を越えてきた巡礼者たちが濡れた靴やズボンを乾かしている。夕闇迫った村を歩いてみると教会でミサが行われている。明日から巡礼を始める人たちと地元のお年寄りが数人静かに祈りを捧げていた。教会の奥に学校のような建物があり、そこがアルベルゲ（巡礼宿）であった。最盛期には大勢の巡礼者で賑わうのだろう。シーズンオフの今、住民25人の村にはレストランもない。私達はパンプローナのスーパーで買った夕食を「大正解だったわね」と言いながら美味しく食べた。

食後、翌日の予定について話し合った。「明日はピレネーを越えてサンジャン・ピエ・ド・ポーヘタクシーで行きましょう。サンジャンを数時間歩いてから、電車でバイヨンヌ、サンセバスチャン、そこからバスでビルバオ、ゲルニカへ。明日中にわが家に帰れるわ」



生前のカンドウ神父

私がサンジャン・ピエ・ド・ポーを訪れたいわけは二つあった。一つはこの町がフランス側の「カミーノ」出発点なので、ここロンセスバジェスと比べてどちらが出発地としてふさわしいか見ておきたかったこと。もう一つはカンドウ神父のことである。1900年代、ザビエルに影響を受けて「イエズス会」に入会したバスク出身の神父たちが続々と日本を訪れている。

中でもソヴール・カンドウ神父は有名だ。カンドウ神父はこの地で織物店を営んでいた信仰深い父とその家族の中で育った。第一次大戦に応召、終戦を迎え、その後ローマのグレゴリアン大学に入学する。そこで「イエズス会」に入会したカンドウはザビエルやロヨラの影響を深く受けた。1925年、30年を過ごすことになる日本に上陸し、翌年開校された東京大神学校の初代校長に選ばれ、以後1955年、高熱で亡くなる日まで日本の修道士を育ててきた。「カンドウ全集」全5巻を初め多くの論文、エッセー、講義録を残しているが、いずれも日本人も驚くばかりの立派な日本語で書かれている。今も尚、加賀乙彦氏を初め多くの人々が神父の卓越した信仰と人柄を慕っている。司馬さんもカンドウ神父の生家を訪れている。織物店はカンドウ神父の姉のジャンヌさんに引き継がれた。ジャンヌさんの死後も営まれていると言うカンドウ神

旅の思い出と交差する切手



1961年発行
ブルゴス大聖堂



1973年発行
サンドミンゴデシロス ブルゴスから60km離れたロマネスク洋式の修道院(11世紀)美しい回廊と柱頭の彫刻で有名。修道院専属のグレゴリア聖歌隊は多くのCDを出している。



修道院中庭と柱頭の彫刻



多いと云われるステンドグラスで有名。内部の聖ヤコブ像は巡礼者がふれる為すり減っている。

2003年発行
レオン大聖堂
13世紀半ばから300年かけて建てられたゴシック様式建造物。前面ファサードの美しいバラ窓。内部の壁面積より



1975年発行
サンファンデラペーニア 巡礼路「アラゴンの道」の途中に見られる修道院。12世紀、岩をくりぬいて建てられる。救護院にもなっていた。柱頭には人や動物がコミカルに描かれている。

父の生家、婦人服の店を私達も覗いてみたかった。

いよいよ明日が旅の最終日。標高950メートルのここロンセスバジェスの山小屋風ホテルは床暖房と二重窓だ。深々と毛布にくるまって眠りについた。

11日目 ロンセスバジェスから

サンジャン・ピエ・ド・ポー、ゲルニカへ

翌朝、ひんやりとすがすがしいロンセスバジェスの村を歩いた。「ロンセスバジェスーサンティアゴ790 km」という看板と帆立貝のマークを見つけた。バス通りから少し入った小道である。サフランの花の咲いた小道を温子さんと少し歩いてみた。ここから790キロ先には3日前に訪れたサンティアゴの大聖堂が待っている。辺りは美しい丘陵地帯、「カミーノ」はここから始めようと決心した。9時半に来たタクシーはピレネーの山を上る。緑濃い深い森である。今向かっているサンジャン・ピエ・ド・ポーから出発する巡礼者は初日のピレネー越えでかなり消耗するらしい。ピレネーを下ったところにあるこの町の電車でタクシーを下り、いよいよアーチ型の城門をくぐって城郭の中へ。中世の小さな城郭都市だ。両側に古い石壁のお店やレストランのある坂道を上ると巡礼者のための事務所があった。古めかしい木の扉に帆立貝のマーク。私達はその中に入ってみた。シーズン中は巡礼者にクレデンシャルという巡礼証明書を発行するのに忙しい事務所も今はがらんとしている。二人のスタッフの男性が日本人の私達を見ると喜んで「日本人は今年もう1400人も歩いているよ」とリストを見せてくれる。私達はこの男性にダメモトと知りながら尋ねてみる。(温子さんのフランス語で)「あのう、この辺に昔、日本へ宣教に行ったカンドウという神父の生家があると聞きましたが・・・」「ウー、カンドウね。電話帳で調べてみよう・・・カンドウ、カンドウ、見当たらないな」そこへ奥の扉から年配の上品な女性が現れた。男性が尋ねる。「君、

カンドウと言う人を知っているかい?」「あら、知ってるわ。私の友達よ」「この日本人が会いたがっているんだが」「ちょっと待って。都合を聞いてくるから」女性は石畳を駆け下りて行った。4,5分後戻った女性は「さあ、ついていらっしゃい」と私達を促した。

司馬さんは今はブティックとなっているカンドウ神父の生家を訪ねたときのことを書いている。

「私どもは店に入った。・・・カウンターにはめがねをかけた40代の小柄な婦人が立っていた。

・・・夫人はこの家からカンドウが出たことを誇りに思っている様子だった。しかし、彼女はカンドウ一族ではなかった。「ジャンヌさんは先年亡くなりました。いい人でした」彼女はジャンヌの仕事を手伝っていたがやがて支配人として一切を任されるようになったようである。「ジャンヌさんの娘さんはここからちょっと離れた町に住んでいます」娘と言っても老齢のはずであった。カンドウ家の全ての人々の物語は終わりに近づこうとしていることを知った。「家の中にはいますか。カンドウの少年の頃の部屋もあります」と言ってくれた。ただその表情には、是非といった強制はなかった。「植野さん(通訳者)、店を見せていただいただけで十分のよろこびです、と言ってくれませんか」とたのんだ」



今はブティックとなっているカンドウ神父の生家

私達は石畳を足早に歩く老婦人の後についていく。「まさか、こんなことってあり?」興奮状態で顔を見合わせる温子さんと私。着いた先は私達が入った城門のもう一つ先の城門の近くであった。そこには司馬さんが25年前に訪れた時と変わらぬ婦人服の店があった。

店の角を曲がると玄関がある。案内をしてくれた女性はベルを押すとにっこり笑って去っていった。胸の動機は高鳴るばかり。と、玄関が



ニブ川から見たカンドウ家のベランダ

内側に開き、「オハヨーゴザイマース」と大柄な老婦人がニコニコと現れた。瞬間、この方はジャンヌさんの娘さんである、と直感した。初対面の私達に「さあ、どうぞ、どうぞ」と手をとらんばかりに中に招じ入れてくれた。1500年代の石造りの家はひんやりと薄暗い。しかし家具や柱、階段などはぴかぴかに磨き上げられていた。私達は踊り場のある階段を上がって居間へと案内された。薄暗く落ち着いた部屋にはなんと日本の掛け軸、壁飾りが上品に飾られているのではないか。掛け軸は竹を描いた水墨画であった。「これは伯父が大切にしていた日本の物です」「伯父はザビエルを心から尊敬していました。そして、日本が大好きでした」彼女の人を包み込むような人柄は、はるばる日本に宣教に赴き、そこで生涯を捧げたカンドウ神父のおおらかで朴訥な信仰深いバスク人に共通する暖かさに満



ニブ川に面した花咲き乱れるベランダで
カンドウ神父の姪さんと（神父の姉ジャンヌの娘さん）

ち溢れていた。「さあ、記念写真を撮りましょう」とベランダに案内してくださる。ベランダはニブ川の川面に突き出しており、手すりには花が咲き乱れていた。私達は夫人と夫々満面の笑顔で写真に納まった。

階段を下りるとき、薄暗い踊り場に日本人形が飾られてあるのに気付いた。文楽人形のような裾の広がるやや大きめの人形が木の椅子に座っている。「「ミセス ヤマグチ」とよんでいるの」とにっこり微笑まれた。数十年経っているとは思えないほど、塵一つなく大切に飾られていた。階段を下りるとご夫君がおられて、私達に「オハヨーゴザイマース」とニコニコ挨拶してくれた。お二人で玄関まで送ってくださり「来客があるので短い時間でごめんさいね」とおっしゃった。「こちらこそ突然伺いましたのに有難うございました」と心からお礼を述べて外へ出た。この旅の第二のハイライトであった。

ダメモトから始まったこの奇跡的な出来事。司馬さんは「南蛮のみち」の中で、犬養道子さんから聞かされた話も奇跡のようだと書いている。1970年代、犬養さんは一人でサンジャン・ピエ・ド・ポーの町に下り立った。カンドウ神父の生家を訪ねるためである。右も左もわからぬバス停に下りたとき、一人の老婦人が前から歩いてきた。犬養さんはその夫人に尋ねる。「この辺に日本へ布教に来られたカンドウ神父の生家があると聞きましたが」「私がカンドウの姉の



カンドウ家に飾られた日本人形

ジャンヌです」その夜、ジャンヌさんは店を早めに閉めて犬養さんと夜遅くまでカンドウ神父について語り明かしたと言う。

「部屋を案内しましょうか」との申し出を遠慮された司馬さんであるが、カンドウ神父が少年時代を過ごした部屋の中で心行くまで思いを巡らせたかったに違いない。「カンドウ家の全ての人々の物語は終わりに近づいている」とご自分に言い聞かせている。しかし今、カンドウ家は、まだお元気なジャンヌさんの娘さんご夫婦によって立派に守られている。カンドウ神父が残された遺品の数々はほこり一つなくカンドウ家の宝物として飾られている。私達は奇跡的にこのことを知った。司馬さんが天国から肩を押してくれたのだろうか。

夕方、荷物を預けたサンジャン・ピエ・ド・ポールの駅に戻り、電車でバイヨンヌ、サンセバスチャンへと出た。サンセバスチャンは美しいコンチャ海岸を持つリゾート地である。暗くなった駅周

辺の佇まいを見ても昼間の美しさが想像できる。私達ははまだ感動覚めやらぬ思いでこの旅の最後の食事、美味しい魚介のおつまみ、ピンチョを味わった。

サンセバスチャンからバスで、ビルバオへ1時間半。ビルバオからタクシーで懐かしい温子さんの我が家へと着いたのは午後11時であった。

温かい布団の中で、旅の一こま一こまを思い出す。10日前と言うのに大分前のように感じられるフロレンさんとの旅、初めて訪れたリスボン、ポルト、そこからコンポステラへ。巡礼の町々を確かめることも出来た。そして最後に司馬さんが歩いた「南蛮のみち」のいくつかを実際に体験できた喜び。この旅に誘ってくれた温子さん。温子さんの素晴らしい人柄、語学力によってこんなに楽しい旅が出来たのだ。司馬さんも天国から見守ってくれたのだろうか。一生の宝、「オンリーワン」の旅であった。



ニューヨーク旅行記

ーワールドトレードセンターの思い出ー

三村 正光

私が2年前に定年退職した年の秋、定年記念旅行として家族4人でニューヨークに1週間旅行した。

何故、旅行先をニューヨークに選んだのかということだが、①長らく連れ添った妻が大のジャズ好きで、かねてから一度ニューヨークの本場でジャズを聞きたいとの希望をかなえてやりたかったこと。②成人した娘2人に、結婚前に家族との思い出旅行に世界の大都市、摩天楼のそびえる活気に満ちた多民族国家アメリカを見せてやりたかったことである。

私は在職中の1987年に研修旅行で、1990年人材採用と現地駐在員の生活状況把握の為、社用で2度アメリカを訪れている。

私の最初の訪米は全米各地を回る14日間のアメリカ小売業視察研修であった。初めに降り立ったニューヨークではマンハッタンのそびえたつ摩天楼に圧倒され感動と驚きを感じたのを憶えている。それまで私はヨーロッパは2度訪れていたが、ヨーロッパの歴史のある伝統的な建築物、風景とは違って林立するモダンな超高層のビル群は圧巻であり、人間の存在を小さくしてしまう感覚すら覚えた。食事ビッグなビーフステーキ、ロブスター、老夫婦が食後に食べる大きなケーキ等大味ながら体格の良いアメリ

カ人の食生活にも圧倒された。マンハッタンについては、当時は私も働き盛りで忙しく、恥ずかしながら事前の勉強も余りせず十分な知識もないまま出発した為、見るもの聞くもの全てに驚きを感じたのを憶えている。

この時代のニューヨークは貧富の差があり、街角にはスタンドで時計を売る人、昼でも街娼が立ち、スリ、置き引きが横行する治安の悪い社会であった。旅行者は細い路地には入らないように、夜間遅い時間の帰りはタクシーを利用するように、ぶつかったり、飲み物をかけたりして介抱するスリのたぐいに気をつけること、ホテルの中といえどもエレベーターには黒人とは2人きりで同乗しないことなど注意された。(現に旅行中被害にあった仲間がいた)37歳で初めて体験する異文化、社会状況に戦慄さえ覚えたのを思い出す。

私たちの団体がニューヨークに着いたのは日付変更線を越え、1987年10月19日(月)夕方6時頃であった。思い出す方もおられるだろうが、この日はブラックマンデーが起きた日であった。世界大恐慌の引き金となった1929年暗黒の木曜日(ブラックサザデー)の下落率を上回った史上最大規模の世界的株価の暴落はニューヨーク株式市場の暴落を発端にアジア、ヨーロッパ市場へと連鎖し世界同時株安となった。街の新聞スタンドでは大きな活字でそれを報道する新聞が売られ、人々はそれに見入っていたのを思い出す。翌日、市内の地理的關係の把握ということでバスで島内を回ったが、ロウアー・マンハッタンに位置するワールドトレードセンター隣のウォール街は新聞記者、TVカメラマン等取材陣で道路がごったがえしていたのを目の当たりにした。最初のアメリカ旅行では多くの初体験、初見聞をし、もう少し若い時に来て見たかったと思ったものである。



船上から撮影した、聳え立つ当時のWTC (1990.10)

2回目の訪問の際はツアーではなかったので日程的に余裕があった。ボストンで語学に堪能な人材を採用すべく「日経フォーラム」に参加した後ニューヨークへ戻り駐在員2名の住居を訪問し家族とも会い生活状況を聞いて回った。一日時間が取れたので朝一ケネディ空港からバッファローまでツアーでナイアガラの滝を見に行った。合羽を着て水しぶきを浴びながらナイアガラ滝の船で巡り楽しんだ。次の日はマンハッタン市内観光をしたがバッテリーパークから船でリバティ島へ渡り「自由の女神」を見学した。台座の一番上までE Vで上がり、更に狭い螺旋階段を登り王冠の窓からマンハッタンの摩天楼をながめた。(今はテロ防止の為登れない) ひときわ目立つツインタワーは今でも目に焼きついている。バッテリーパークはその後の話で、ワールドトレードセンター建設の際大量に出た土砂を埋め立てて作った埋立地であることを知った。そして、次にお目当ての110階建てのワールドトレードセンターの屋上展望台にE Vで昇った。当日は平日だったので観光客もそれ程多くなかった。セキュリティも今ほどではなく厳しいチェックも受けずにE Vを乗り継いで110階まで昇り屋上へと歩を進めた。屋上は高さ417mで私が上った一番高い建造物で大パノラマの眺めは素晴らしかった。この建物は、日系アメリカ人建築家のミノル・ヤマサキ氏の設計だが2001年9.11のテロで呆気なく崩壊したのは驚いた。あのアメリカのシンボリック存在であったツインタワーが相次いで崩落する様子はまるで映画でも見ているような錯覚に陥ったのを憶えている。

夜は南のヘリポートからマンハッタンの夜

間遊覧飛行に出掛けた。このヘリコプターは時々近く的高速道路等に落下するとの話も聞いて少し不安はあったが楽しみ優先で勢いで乗ってしまった。記憶は不確かだが、15分で7,000円位だったと思う。ヘリは北上してから右手にハドソン川、左手にイーストリバー見てマンハッタンの中央部を南下して飛んだ。右奥にはワールドトレードセンターが2本の巨大な石柱のようにそそり立って見える。2度と経験できないことだと思い乗ったが、縦に伸びるいくつものネオンに輝くストリート、広告塔、ライトアップされた高層ビル群の一面の夜景は宝石をちりばめたように美しかった。ただ、セントラル・パークだけが不気味に真っ暗で静寂が漂っていた。

3度目にアメリカを訪れたのが一昨年の定年記念家族旅行であった。旅行会社の7日間ツアーだったが初日のみ市内観光が付いていたが、残りはフリーであった為かなり自由にマンハッタン市内を歩くことが出来た。メトロポリタン美術館、自由の女神、サウス・ストリート・シーポート、五番街でのショッピング、トランプタワーでの昼食、エンパイアステートビルからの夜景、ミュージカル「美女と野獣」、ブルックリンでの夕食と対岸からの夜景、ナイアガラ滝 etc 家族も満喫してくれたと思う。もちろん、ハーレムでは夕食付きでジャズ演奏を聞き、妻は興奮し



金網が張りめぐらされたグラウンド・ゼロ (2006.9)



グラウンド・ゼロの金網に張られた惨状を伝えるパネル (2006.9)



惨状を伝えるパネル (2006.9)

演奏終了後ジャズメンとの話が弾み別れを惜しんで帰途についた。

旅行中、9月8日に私は61回目の誕生日を迎えた。全然考えてもいなかったが知らないうちに娘2人が買

い物に行き、真紅のバラの花をお祝いにくれた。ホテルで花瓶を借り帰るまで部屋に飾っておいた。「自由の女神」を模したお面も買ってきていて、それを顔につけて記念写真を撮った。初めての異国の地で迎える誕生日だったが、大変いい思い出になり改めて家族の有難さを実感し嬉しかった。

到着して4日目リバティ島へ行った帰りワールドトレードセンターの跡地「グラウンド・ゼロ」を訪ねた。かつて、ここに慄然と聳え立っていたツインタワービルはなく、崩壊現場は金網の柵で仕切られ、これから始まる建築現場の様相である。現場は新たな観光地となり9.11当日の惨状を知らせる写真とパネルが張り巡らされていた。それは世界を震撼させたテロ惨事の地獄絵である。ワールドトレードセンターは「ワールドトレードセンター・コンプレックス」とい

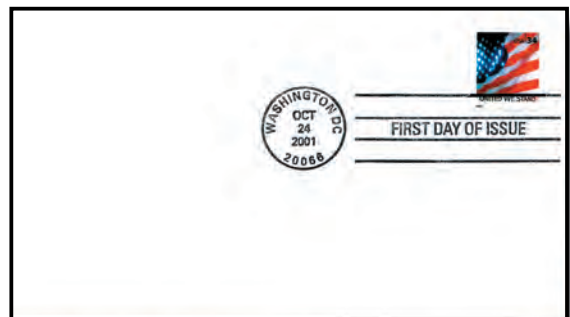
ていた。

ワールドトレードセンターへのテロは1993年の地下駐車場爆発事件(6人死亡)に続き今回2度目の惨事であった。今回の9.11テロはイスラム系国際テロ組織アルカイダ実行犯によるハイジャックした民間航空機二機が両タワー

う7つのビルから構成されたニューヨーク最大のオフィス、商業センターであった。一日5万人の勤務者と20万人の来館者があり、あまりにも規模が大きいのでワールドトレードセンターだけで二つの郵便番号(10048、10049)が与えられ



の扱いとなった。なお、付加金は2001.9.11に発生した同時多発テロ事件の被害者やその家族救済に当てられた。



「団結しよう」と訴え、発行されたアメリカ切手のFDC (2001.10)



「団結しよう」と訴え、発行された同盟国オーストラリアの写真付き切手 ユニオンジャックの右隅には2000の文字と左隅には金色のオーストラリア大陸とタスマニア島が記されている。

に次々に自爆突撃をするという前代未聞の出来事でアメリカだけでなく世界中を震撼させたテロ事件であった。搭乗していて犠牲になった乗員、乗客を始め、ビルに勤務していた者、救出に当たった港湾警察官、消防士など合わせて2,749人が死亡した。中でも、勇気ある救出活動で犠牲になった消防士に多くのアメリカ人が称賛を与え冥福を祈った。また、その活動を称えて映画も数本作られ遺族の涙を誘った。

その後、跡地では再建の話が進み2010年代までに新タワーが完成する運びとなっている。計画によると尖塔までの高さ1,776フィート(541m、アメリカ独立の1,776年にちなむ、建物部分は70階建て)の自由の女神を模した「フリーダム・タワー」が中核を占め、周囲に数棟のビルが建てられる。再建後の名称は従来通り「ワールドトレードセンター」となる予定である。《あとがき》

日本にも「世界貿易センタービル」があった。先日、所用があって浜松町に出かけた。JR浜松町駅の改札口を出ると「世界貿易センタービル」という看板が目についた。このビルはJR浜松町駅に隣接した建物で昭和45年3月高度経済成長という時代の要請のもとに誕生した。当時東洋一の高さ(40階、152m)を

【ワールドトレードセンターの概要】

所在地	アメリカ合衆国、ニューヨーク
建設期間	1966年～1973年
使用目的	オフィス
設計	ミノル・ヤマサキ アントニオ・プリッティオッチ
高さ	アンテナ/尖塔(最頂部) 528m
屋上	417m
最上階	411m
階数	110階
延床面積	約148,600㎡ (両タワーの有効オフィススペース)
エレベーター数	208基 (両タワー、業務用を除く)

誇り東京の名所であった。私も25年前茨城の田舎から上京した今は亡き86才の祖父を展望台に案内したことを思い出した。この建物は今ではすっかり忘れられた存在になってしまった感がある。最近は大Vドラマや映画で取り上げられた東京タワー(533年開業、高さ333m、特別展望台250m)の方が脚光を浴びている。今年12月で開業50周年を迎える。しかし、これも2011年の地上デジタル放送開始にあわせて開業予定の新東京タワー(墨田区、610m、展望台450m)の完成により主役の座を譲ることになる。高さは現在の東京タワーのほぼ2倍、名称も「東京スカイツリー」に決定した。

因みに、今世界一高い建造物は台湾台北市の台北国際金融センター「台北101」(高さ508m、101階)である。2004年12月竣工で施工は熊谷組である。私はそのことを知らずに昨年3月台湾を旅行した際に現地で知り、E.V.で展望台(89階)まで昇った。この高速エレベーターは東芝製で毎分1,010m(時速60.6km)の速さで世界最速としてギネスブックに認定された。生憎曇り空で遠望がよくなかったのが残念だった。私は富士山(3,776m)にも登ったがどうも高いところが好きなのである。

切手に厠の香を聞く（1）

小川 義博

厠に興味を持ち、香を求めてはや10年。厠にその脳を占められた者が切手を見ると自ずとそこに厠の香を思い出し、幻覚が現れる。そのいくつかの幻覚にお付き合いいただき会員諸氏の厠香の聞き分けの参考にさせていただきたい。

切手に排泄、厠を扱ったものがあるのか？この迷題を持って切手収集を続けてきて諦めかけていたとき、なんとありました。しかも、2枚、これも長年、人に馬鹿にされ、蔑まれながら厠、排泄行為に関する学識経験（？）を深めていたおかげである。

一枚は通常であれば見過ごしてしまうような切手にそれを見出しました。かわいい人形の切手、しかもクリスマス切手である。その切手はアンドラ公国（スペイン）の1997年のクリスマス切手である。現物人形は手に入れられたのだが、切手は100円前後で手に入れられるものであるが国内では見つからず外国の知人がスペイン旅行時に見つけてくれ、やっとわが手に香を聞くことができた。

クリスマスが近づき12月にはいとバルセロナのカテドラル広場にクリスマス飾り、人形を並べた出店を見ることができる。その中に大を



インターネットからの画像



Christmas — A119

1997, Nov. 25 Photo. Perf. 14
246 A119 32p multicolored 40 40

スコットの表示部分と
カガネー人形を描いたアンドラ切手

している人形が沢山あらわれる。これを”ウンコをしている人”、カタルーニャ語で「カガネー」（Caganer）つまりウンコタレ人形という。これがこの切手の題材になったものである。クリスマスという神聖なときにふさわしくないと考えられますが、この地方ならではの堅苦しい時節に現実的な行為、すなわち現実生活をしっかり見つめるということを示しているという説、また自然から得たものはもう一度地面に返すという意味から豊作を願う気持ちを表しているとも



いう説、また誰かがとても偉そうに見え、その偉さに負けそうになったら、その人がウンコをしているところを想像して、人間みんな同じと感ずることができる人形であるという説もある。



Walter Schmonger の絵画

2枚目はわが会長から教えていただいたもので1986年オーストリー発行のモダンアートシリーズの「崩壊」という作品の切手である。長らくアルバムにその存在は意識していたが、まさかそのものを表現しているとは感じ取れなかった。周囲に飛んでいるのは虫で何か果物でも描いているかと考えていた。しかし、あらためてルーペで確認すると周囲のものは中心に存在する物の飛沫であることが分かった。この原画作者 Walter Schmonger はどうも飛沫を描くことを好むらしく他の作品にも飛沫を描いたものが存在している。とにかく、現代芸術は理解しにくい。モダンアートは難しい。

その折、会長が忠告してくれた。「何でこの種

の切手が少ないかわかるか?」「それはな、切手は舐めるものであるからだよ」と さすが教養高き老人集団、稲門フィラテリーの親方である。

人物切手に香を求めると

廁という性格上、個人名を上げての資料は少なくどうしても個人の旧居の付属としての資料に偏ってくる。妹尾河童の著書に著名人の廁の様子がスケッチとともに記述されているが、切手に描かれた人物は紹介されていない。切手に香を求めると、文化人切手に描かれた方の旧家にたどり着く。

まず、文化人切手、西周を見ると津和野にある藩医であった生家の青磁陶製の便器、竹を床に用いた廁が浮かぶ。ただし、生家に残存する青磁の便器、これは西周が亡くなってからのものと考えざる得ない。西周(1829-97)が陶器の便器が使用できたとは考えにくい。陶器便器が普及したのは亡くなる6年前の1891年の濃尾地震の後であること、しかも小判型大便器といわれる前方が丸い覆いの有る大便器は前方に板を立てた作りの角型大便器に比較し技術的に難しくかなり後のことであると考えられるので西が使用したことはなかったであろう。

次に、同じ文化人切手の新島襄の旧居の廁の独特の香が浮かぶ。幕末から維新にかけて米国生活を送った新島が同志社大学の近くに建てた



代々藩医を勤めた西家全景



青色小判型大便器、青色朝顔形小便器を備えた廁

コロニアル様式の住い、三方にベランダのある和洋折衷の建築物である。自ずと廁も和洋折衷の独特の洋式の腰掛式便器を模した造りの廁である。長崎出島等の外国人居留の地にはすでに洋式便所が造られていたであろうが消失しており、この廁が現存する日本最古の洋風腰掛式便器の廁であるという。もちろん汲み取り式。因みに、洋式生活に慣れてない家人のために直ぐわきには和式の廁が設けられている。



1,2階にベランダを設け雨戸でなく鎧戸をつけた和洋折衷住宅

床面より50cm高く段をつけ、そこに25cm程の穴を開けた腰掛式の廁。全て木製で使用しない時は蓋が準備されている。

最後は、現在の文化人切手の中の幸田露伴の居宅。向島に借家をしていた建物が明治村に残る。露伴は借家生活が長くそのことから自分の家を蝸牛庵と称し、露伴の別号としてこの名を使用している。ここでは廁の蝸牛庵での位置が注意されねばならない。

この蝸牛庵の廁が日本家屋に多くみられる位置に造られていることである。廁が書院の床の間の裏に位置することである。この位置に注目したのが桂離宮の美を評価したドイツ人建築家ブルーノ・タウトであり、精神文化の中心書院(床の間)と自然現象の場の無比の対照を見出し、上便所として文化的意義を見出している。民俗学の立場からは座敷に入る者は神聖だから、そのものが使用する廁だから。上便所という考えを上便所=神便所からの発生という説明もある。

この蝸牛庵には次ページ写真の矢印の先に大の廁が2ヶ所連なっている。書には施主が歌舞伎俳優で付け人のため設けたと記してあるが、3年前の稲門フィラテリーの旅行の際、老舗酒問



平成 9 年文化人
幸田露伴



草花染付角型大便器かなり
ゆったりとした蝸牛庵廁



明治村に残る幸田露伴の旧宅 蝸牛庵

屋が妾宅として改造した時、住人が三味線の師匠で多くの女弟子のために改造したという別の、上便所とはかなり異なる庶民的な現実味ある文化的意義ある話も聞いた。

次に、時代を遡って庶民の廁の香を聞きたいと考えると適当な人物切手は見つからない。苦し紛れにアルバムを探すと笑門来福落語切手の師匠に助けを求めることに気がついた。志ん生、米朝らが語る熊さん、八ッあんが日々お世話になっていた庶民の廁。長屋の廁は"子別れ"、廁の造りは"家見舞い"、尿尿運搬は"汲みたて"、舟遊びでの処理は志ん朝の"船徳"などの噺などにふれられている。志ん生の語る"子別れ"に熊さんの家にやってきた吉原の女が"外惣後架だ

から、はばかりにいくのが嫌なんだよ"という箇所がある。落語の世界の様子は下の絵のようなものであったことを知らぬと理解が難しい。

一般庶民の住む長屋に廁はなく惣後架という扉も半分しかなく人の姿が外から見えるというものだったという。これを知れば廁から紙屑やに



平成 11 年落語切手
古今亭志ん生



丸の中が惣後架という江戸の長屋共同便所

下は上の長屋の様子が再現された深川江戸資料館



惣雪隠という。京、大阪の長屋共同便所。江戸の惣後架より上等である

人従えたそれなりの位の侍が戸は半分で頭が見えている後惣架がある。この時代、廁にプライバシーを求めることは非常に難しかったことが推しはかれる。

この時代の廁から忘れてはならないことがある。それは尿尿は重要な肥料であり、農家にとっては必需



平成 9 年文化人
安藤広重



上野の山の辻雪隠
広重 江戸名所道外蓋

品、従って尿尿は商品価値がありこの商品を生み出す店子を抱えた長屋の大家さんの大切な副収入源であったこと。この頃の川柳に「大晦日、大家は、尻で餅をつき」とある。尿尿 10 人分で年に 2、3 分となり、これは年に 8～10 万円となる計算である。(1 両 = 4 分 = 10～15 万) この商品も市場原理、食生活が豊かな商家のは高い価格で引き取られたという。借家人の場合は尿代は家主、尿代は借家人の収入となっていた。

京都でも尿代は借家人のもので、京ナス、京菜、京かぶら等と交換された。尿は蔬菜に即効性のある肥料であるから非常に珍重され、街角には尿用の便器がおかれ、男性だけでなく女性の使用も期待されたものが見られたようである。この様子を驚きをもって”京の家々厨の前に小便担桶ありて、女もそれへ小便をする故に、富家の女房も小便は悉く立て居てするなり。(中略) 或は供二三人つれたる女、道ばたの小便たごへ立ながら尻の方をむけて小便をするに耻るいりなく笑ふ人なし”と滝沢馬琴は著している。

この立小便の習慣は生活のためであり小便たごは 6 日に一度は農家に引き取られ野菜に交換されたという。京の漬物をささえる京野菜そしてそれをささえるこの立小便習慣ということができるか。京にとどまらず東北地方まで立小便習慣は存在し、気候にあった立ち振る舞いがあったという。

この女性の習慣



野菜類と尿尿交換のため街を
いく百姓の姿 (江戸)



平成 10 年文化人
滝沢馬琴



垣の外で小便をする女
好色重宝記上方版 元禄期
一部 画像修正

は意外と長く残っており、明治 41 年 7 月福岡県教育関係者の会合で「女子学生の立小便の廃止」が検討された記録が残る。また、明治以降の上流社会の生活にもうかがい知れる。太宰治の「斜陽」のはじめの 2 ページ目あたりに「かず子や、お母さまがいま何をなさってるか、あててごらん。」とおつしやつた。

「お花を折っていらつしやる。」と申し上げたら、小さい声を挙げてお笑ひになり、「おしつこよ。」とおつしやつた。ちつともしやがんでいらつしやらないのには驚いたが、けれども、私などにはとても真似られない

という文がある。



女性立小便便器
TOTO 製作便器 米国大学使用便器 ブルッセル空港便器

さらに、現在は女性の立小便便器も存在する。欧米の空港、大学において設置され使用されている。日本では昭和 37 年 TOTO が製作した記録があり、そのひとつが東京オリンピック開催時国立競技場のスタートラインの直下、精神的緊張による尿意対策として設置されたという。

おっと！

むこうから、あの有名な葛西舟が良き香を聞かせに「汲みたて」をのせてやってきました。

今回はこのへんで(続く)

2007 年 7 月切手教室のレジュメを加筆、訂正しました。

参考文献は次回にまとめて記す。

切手偏見



11月7日に慶應義塾創立150周年記念切手が発行される。切手を集める友人諸氏の喜びは大きいことであろう。また、過去に早稲田の大学の創立100周年切手の発行に努力された方々の複雑な心境も察せられる。その気持ちを整理し、今後の切手発行を考える糧になればと考え、今回の慶應義塾記念切手の発行を材料に記念切手の発行の一側面を整理してみた。

今回の記念切手を考えるとき下記3点から検討してみる必要があろう。

1. 慶應義塾大学創立の我が国における意義
2. 150周年という年数の意義

そしてわが母校の切手の未発行を思う時、政治家でなく、文化人として位置づけられる福沢諭吉という人物の存在を無視してこの切手は考えられないのではと、思い、

3. 創立者 福沢諭吉の存在

まず、大学創立の意味であるが、慶応大学の創立は我が国で最初の高等教育機関としての創立である。東京大学よりも19年、わが母校よりも24年先んじての創立である。高等教育機関創始記念の意味を持つ発行とも理解していくべきであろう。因みに最初の大学関係の切手が東京大学創立75周年切手であり、それ以後は慶応大学の2種のみの発行である。また、高等教育関係としては2000年に発行された私立女子高等教育創始100周年記念切手が発行されてる。こ



の切手、大学創設者肖像とシンボルの花が描かれている。女子英学塾(現津田塾大学 津田梅子 シンボルの花：梅)、東京女医学校(現東京女子医科大学 吉岡彌生 シンボルの花：カトレア)、日本女子大学校(現日本女子大学 成瀬仁蔵 シンボルの花：桜と楓)の3大学が切手と取り上げられたと解釈できよう。

この他には大学の建物がふるさと切手に描かれている京都大学、早稲田大学があるのみで創立者が切手に描かれているものが数種ある。

次に、何周年を記念して切手が発行されてきたかという年数の問題を検討してみる。時代的な背景が大きく時の政府が意図するものは年数が無くとも、根拠が曖昧でも発行されており1～2600年という幅を持つものであるが。その状態は右表のようになる。やはり50年、100年という判り易い年数での発行が多くなっているが戦後の一定時期までは75年で発行されるものが多くなっている。今回の慶応大学切手の150年記念は現在までに前島密生誕150年、日米交流150年の2件の発行にとどまっているが100年での発行件数の多いことを考慮すると、今後どの程度150周年記念切手が発行されるか興味深い。慶應大学100周年発行時に近いものを拾い出すと赤十字関係は定番の切手として発行されていくであろうが、他のものがどのように選別されていくかを見れば今後の記念切手の発行のおおよそ想像がつくであろう。参考までに年数に関係する切手を右表にしたので参考にしてください。



年	件数	ふらさと
1	1	
10	9	
20	6	
25	6	
30	8	
35	1	
40	1	
45	1	
50	61	(2)
60	1	
70	2	
75	14	
80	2	
90	2	
100	78	(4)
110	1	
125	1	(1)
150	2	
200	1	
300	2	(2)
350	1	
400	7	(3)
450	1	
500	1	
800	1	
1100	1	
1200	1	
1250	1	
1300	1	
2600	1	

件 名	年	発行年
大東亜戦争 1 年	1	1942
明治神宮鎮座 10 年	10	1930
満洲建国 10 年	10	1942
アルコール専売制度 10 年	10	1948
人権宣言 10 年	10	1958
南極条約 10 年	10	1971
沖縄復帰 10 年	10	1982
日中国交 10 年	10	1982
日中平和友好条約 10 年	10	1988
天皇在位 10 年	10	2000
神宮式年遷宮	20	1929
ユネスコ 20 年	20	1966
日韓国交 20 年	20	1985
青年海外協力隊 20 年	20	1985
沖縄復帰 20 年	20	1992
日中国交正常化 20 年	20	1992
競馬法公布 25 年	25	1948
放送 25 年	25	1950
国際放送 25 年	25	1960
国際連合 25 年	25	1970
婦人参政 25 年	25	1971
沖縄復帰 25 年	25	1997
関東局始政 30 年	30	1936
行政相談委員制度 30 年	30	1991
青年海外協力隊創設 30 年	30	1995
日韓国交正常化 30 年	30	1995
日本モンゴル外交関係 30 年	30	2002
パングラデシュ国交 30 年	30	2002
沖縄復帰 30 年	30	2002
日中国交正常化 30 年	30	2002
世界人権宣言 35 年	35	1983
世界人権宣言 40 年	40	1988
世界人権宣言 45 年	45	1993
郵便創始 50 年	50	1921
万国郵便連合加盟 50 年	50	1927
教育勅語 50 年	50	1940
ブラジル移住 50 年	50	1958
航空 50 年	50	1960
南極探検 50 年	50	1960
簡易保険 50 年	50	1966
民生委員制度 50 年	50	1967
ILO50 年	50	1969
ガールスカウト 50 年	50	1970
調停制度 50 年	50	1971
ボーイスカウト 50 年	50	1972
放送 50 年	50	1975
健康保険 50 年	50	1976
アマチュア無線 50 年	50	1977
地下鉄 50 年	50	1977
ラジオ体操 50 年	50	1978
練習船日本丸・海王丸 50 年	50	1980
自然公園 50 年	50	1981
日本プロ野球 50 年	50	1984
国際放送 50 年	50	1985
湯川秀樹中間子理論発表 50 年	50	1985
著作権制度 50 年	50	1989
ラジオ・テレビ・利用 50 年	50	1990
税理士制度 50 年	50	1992
平和 50 年 (広島・長崎平和祈念	戦後事項	1995
国連・ユネスコ 50 年	50	1995
労働委員制度 50 年	50	1996
戦後 50 年メモリアル	50	1996
婦人参政権 50 年	50	1996
ユニセフ 50 年	50	1996
共同募金運動 50 年	50	1996
最高裁判所 50 年	50	1997
参議院 50 年	50	1997
高校定時制通信制教育 50 年	50	1997
労働基準法制度 50 年	50	1997
農業災害補償 50 年	50	1997
沖縄切手 50 年 *	50	1998
世界人権宣言 50 年	50	1998
新年賀切手発行 50 年	50	1998
土地改良制度 50 年	50	1999

家庭裁判所 50 年	50	1999
更生保護制度施行 50 年	50	1999
岩宿遺跡発掘 50 年 *	50	1999
日本プロ野球セパ誕生 50 年	50	1999
日本学術会議 50 年	50	2000
行政書士制度 50 年	50	2001
平和条約 50 年	50	2001
法律扶助制度 50 年	50	2002
日本ライオンズ 50 年	50	2002
インド国交 50 年	50	2002
スリランカ国交 50 年	50	2002
パキスタン国交 50 年	50	2002
日米フルブライト交流 50 年	50	2002
民間航空再開 50 年	50	2002
テレビ 50 年	50	2003
奄美群島復帰 50 年	50	2003
中央競馬 50 年	50	2004
現行警察法 50 年	50	2004
国際文通週間 (国連加盟 50 年	50	2006
南極地域観測事業開始 50 年	50	2007
天皇在位 60 年	60	1986
鉄道 70 年	70	1942
議会開設 70 年	70	1960
靖国神社 75 年	75	1944
郵便開始 75 年 戦後初の記念切手	75	1946
鉄道 75 年	75	1947
中央気象台 75 年	75	1949
UPU 加入 75 年	75	1952
日赤創立 75 年	75	1952
東京大学 75 年	75	1952
電灯 75 年	75	1953
東京文芸台 75 年	75	1953
国際通信連合加盟 75 年	75	1954
ハワイ移住 75 年	75	1960
標準時 75 年	75	1961
国民参政 75 年	75	1965
電話創業 75 年	75	1965
郵便開始 80 年	80	1951
議会開設 80 年	80	1970
郵便 90 年	90	1961
議会開設 90 年	90	1980
北 斎 100 年 ★ 戦後 150 年文化人切手発行 1999 年	100	1948
製鉄 100 年 ★ 150 周年発行決定	100	1957
日本開港 100 年	100	1958
慶応義塾 100 年	100	1958
赤十字思想 100 年	100	1959
松蔭 100 年 /PTA 大会	100	1959
日米修好 100 年	100	1960
赤十字 100 年	100	1963
国際電気通信連合 100 年	100	1965
北海道 100 年	100	1968
明治 100 年	100	1968
灯台 100 年	100	1968
電信創業 100 年	100	1970
郵便創業 100 年	100	1971
戸籍制度 100 年	100	1971
政府印刷事業 100 年	100	1971
鉄道 100 年	100	1972
学制 100 年	100	1972
税関 100 年	100	1972
おまわりさん誕生 100 年	100	1974
UPU100 年	100	1974
リンゴ 100 年	100	1975
郵便貯金 100 年	100	1975
幼稚園 100 年	100	1976
UPU 加盟 100 年	100	1977
国立科学博物館 100 年	100	1977
商工会議所 100 年	100	1978
証券取引所 100 年	100	1978
東京文芸台 100 年	100	1978
特殊教育 100 年	100	1979
医療文化 100 年	100	1979
検疫制度 100 年	100	1979

国際電気通信連合加盟 100 年	100	1979
消防 100 年	100	1980
農林水産振興 100 年	100	1981
砂防 100 年	100	1981
動物園 100 年	100	1982
中央銀行制度 100 年	100	1982
官報 100 年	100	1983
天気予報 100 年	100	1984
産業教育 100 年	100	1984
工業所有権 100 年	100	1985
内閣制度 100 年	100	1985
建築学 100 年	100	1986
日本薬局方 100 年	100	1986
日本標準時制定 100 年	100	1986
登記制度 100 年	100	1987
海洋生物学会 100 年	100	1987
木曾三川近代治水 100 年	100	1987
日タイ修好 100 年	100	1987
近代水道 100 年	100	1987
日墨 (メキシコ) 条約 100 年	100	1988
日本トルコ修好 100 年	100	1990
裁判所制度 100 年	100	1990
点字制定 100 年	100	1990
議会開設 100 年	100	1990
電話創業 100 年	100	1990
日本水準原点 100 年	100	1991
農業研究 100 年	100	1993
日本ブラジル修好 100 年	100	1995
近代河川制度 100 年	100	1996
メキシコ移住 100 年	100	1997
日本チリ修好 100 年	100	1997
日本アルゼンチン修好 100 年	100	1998
日本人ペルー移住 100 年	100	1999
日本ギリシャ修好 100 年	100	1999
日本人ボリビア移住 100 年	100	1999
弁理士制度 100 年	100	1999
民法・商法施行 100 年	100	1999
著作権制度 100 年	100	1999
清水港開港 100 年 *	100	1999
私立女子高等教育創始 100 年	100	2000
切手趣味週間 (赤いポスト 100 年	100	2001
みずゝとふるさと長門 *	100	2003
山を愛した文学者 *	100	2003
映画監督青春の地 *	100	2003
国際ロータリー 100 年	100	2005
日本文学会創立 100 年	100	2008
議会開設 110 年	110	2000
沖縄郵政創業 125 年 *	125	1999
前島密生誕 150 年	150	1985
日米交流 150 年	150	2004
シーボルト生誕 200 年	200	1996
後楽園築庭 300 年 *	300	2000
俳句のまち *	300	2003
名古屋 350 年	350	1959
遣欧少年使節 400 年	400	1982
日蘭交流 400 年	400	2000
仙台開府四百年 *	400	2001
歌舞伎発祥 400 年	400	2003
江戸開府 400 年	400	2003
萩開府 400 年 (山口県) *	400	2004
熊本城築城 400 年祭 *	400	2007
日本ボルトガ友好 450 年	450	1993
東京開都 500 年	500	1956
日本茶 800 年	800	1991
古今和歌集 1100・新古今 900 年	1100	2005
平安建都 1200 年	1200	1994
奈良遷都 1250 年	1250	1960
藤原京創都 1300 年	1300	1995
紀元 2600 年	2600	1940

* ふるさと切手を示す。

明治維新と戦後に大きな社会変化、発展があったことが切手の発行からも示されている。憲法 50 周年記念切手が無いのは政治色の有無、どちらか？

件 名	件数
議会開設記念	5
郵便創業記念	5
沖縄復帰記念	4
世界人権宣言記念	4
鉄道記念	3
日中国交正常化記念	3
UPU 加入記念	2
国際通信連合加盟記念	2
放送開始記念	2
国際放送開始記念	2
青年海外協力隊創設記念	2
電話創業記念	2
東京天文台記念	2
日韓国交記念	2
婦人参政記念	2

このような年数をとらえての切手発行状況の中で、今回の慶応大学 150 周年切手の持ついっそう重要な意義は 2 回目の発行であるという点であろう。約 220 件の発行されてきたものの中で複数回発行されている内容を整理したのが左表であり 15 件にとどまっている。しかもその内容を見ると全てが官公、国家的な内容であり、民間に関わるものは皆無である。あえて、慶應大学の立場に近いものを考慮するなら、東京天文台創立、青年海外協力隊創設記念の切手をあげることができるかという感である。この点からも今回の慶應大学創立 150 周年記念切手発行は郵便事業が民間になったことを大きく考慮しても、非常に画期的なことであり、喜ばしいことである。

切手に描かれる人物について考えてみる。普通



二度、発行された東京天文台
青年海外協力隊の切手



切手を除き、個人を特定できる切手（集合画面含む）を拾い出すと、約 200 枚の切手に 230 名近い方が描かれている。これら特定できた方々の立場、活動分野で分類してみたのが右表である（20 世紀シリーズ等を他の切手と同等に扱えるのかは議論があろうし、分類の評価も検討の余地がある）。

また、複数枚の切手に描かれた個人を一覧表にしたのが右の右表である。

大きくスポーツ芸能、文学を含めた学術文化の分野に属する人物で半数を占めるのに対して芸術分野の人物が少ないのは、その作品をもって代え

るという意味合いがあるのであろうか。また。映画演劇、芸能分野もその出演映画、演技場面が主対象と考えると、切手に人物として描かれる対象は福沢諭吉のような学術文化面に貢献した人物に限られている。

次に政治家として 9 名が特定できているが、このうち、人物として描かれているのは佐野常民、尾崎行雄のみであり、他は講和条約の吉田茂、池田勇人等と、ミズリー艦上の重光葵等で記録写真から特定できる人物であり、戦前はともかく戦後は切手に極力政治色は排除されている様である。



わが母校から世間が連想するのは「都の西北」、大隈講堂 → 大隈重信となるであろう。大隈重信は政治家として位置づけざるえない。現に、大学名の入った水鉢、鳥居と大正時代の政党、憲政会の名が彫られた燈籠が墓（125 周年で講堂だけでなくこちらも大幅に改装されたようで）に据えられている。この

ことから早稲田大学関係の記念切手発行には創立年数以外にかなり高いハードルが存在したし、今後もしていくかと考える。

以上、この慶應大学創立 150 周年切手発行を機に過去の記念切手発行を考えてみた。郵便、通信、放送関連と官業に偏って、我田引水、手前味噌的発行経過であったことは否めないようである。官から民に郵便事業会社になって、記念切手の発行がどのように変わるのか期待したい。（編集部）

分 野	人数
映画演劇	38
文学関係	38
学術、文化	37
スポーツ	23
伝統芸能	22
郵政	15
芸術	11
政治	9
武士・軍人	7
歌謡	5
音楽	4
皇室	4
実業家	4
映画監督	2
探検家	2
外交官	1
総 計	223

** 2 代に渡る皇太子、妃

* ふるさと切手を含む

氏 名	合計
前島密	11
キヨソネ	4
皇太子、妃 **	4
正岡子規 *	3
美空ひばり	3
三船敏郎	2
渥美清	2
華岡青洲	2
佐野常民	2
手塚治虫	2
森鷗外	2
石原裕次郎	2
川端康成	2
長岡半太郎	2
湯川秀樹	2
梅謙次郎	2
白瀬中尉	2
福沢諭吉	2
北白川宮	2
野口英世	2
有栖川宮	2
力道山	2

東京中央郵便局建て替え

多くの会員が胸を躍らせ、記念切手の発行日には行列に加わり、FDCを作成したり、求め忘れた切手を補充に訪れた東京駅丸の内南口の東京中央郵便局が建て替えのため7月21日から八重洲口に移転しました。

日本郵政グループは平成23年度完成を目指して中央郵便局を建て替え、38階建て、高さ200mのJPタワー（仮称）を建設すると発表しました。

切手を手に入れることに気をとられてあまり気にとめなかった中央郵便局の建物、日本建築学会が選んだ全国2000棟に選ばれたという建物。あの桂離宮を世に知らしめたブルーノ・タウトやA・

レーモンドが伊勢神宮、桂離宮にも通じる合理性・機能性と美の融合を絶賛した建物だそうです。日本の伝統的な真壁構造を意図的に表現しようと柱と梁による構造になっているという。そのため、日本の伝統的建築がもつ明快性、簡素さという抽象化された美しさに共通するものをもっている。外装の清楚な白タイルと、窓枠や内部の黒大理石張りの八角柱との対比にもモノクロームな単純性と抽象性が宿るという。

このような建物を残すため、低層部に現在の外壁を保存、活用し、レンガ造りの東京駅などとの景観の調和を図るという。



高層ビルに囲まれた中央郵便局。白と黒、装飾を廃し単純なリズム感を持たせた外壁



西門から見た配送車スペース



白い床、天井と対比する黒い八角柱。7月の平日昼にも閑散とした局内部

UPUポストは残るのか

発表された仮称JPタワーイメージ図



第1回、2回 稲門フィラテリー常設切手展

「日本・カナダ同時発行赤毛のアン切手展」は切手を拡大展示する小西会長の工夫で一般の人に興味もっていただき、好評のうちに8月12日終わりました。8月13日からは、サミットをテーマにイギリスの

美しいグリーティング切手も日本のものととも展示しました。



切手展会場の新宿北郵便局前は明治通り、写真右は諏訪町交差点。左は理工学部。そして地下に6月に開通した地下鉄副都心線「西早稲田駅」



赤毛のアン切手展の展示



全紙用紙に拡大展示された日、英サミット切手

地域に根付けるか稲門フィラテリー

稲門フィラテリーの切手教室、常設切手展
が地元新宿区の広報紙「広報しんじゅ」

稲フィラ会員中心に開か

れてきた切手教室と新たにスタートした展示がどれだけ区民

の方々に参加いただける
か、切手への興味関心を

持っていただけか？
従来とは異なる稲門

フィラテリーの活動が問われるこ

とになりそうです。
また、「郵趣」にも

紹介されました。こちらは切手を熱心に収集される方の参

✓加がどれだけいただけるか。両面から活動内容のレベル選定が難しくなります。



明治通りに面した新宿北郵便局 P R box に
掲示された稲門フィラテリー活動ポスター

訃報 馬場 恒浩氏が4月病気のため急逝されました。馬場氏は昭和35年切手研幹事長をされました。会報21号に原稿を寄せられ、この9月の滋賀旅行には岡山から参加いただけるのではと楽しみにしていたのに残念です。角帽、下駄履き姿をなつかしく思い出します。ご冥福をお祈りします。

編集後記

今号を作成している間に北京オリンピックが始まりました。北京とあまり時差がないため夜更かしして中継を見ずにすむのありがたいことです。(もっとも、夜更かししないとオリンピックを見た気がしない、というのも事実ですが。)

東京中央郵便局が移転したことを知りました。個人的にも様々な思い出の残る「東京中央郵便局」がどのように変わって行くのか楽しみです。(き)

新型郵便物自動読取区分機見学会

10月4日(土)の切手教室は新宿北郵便局で新たに稼動した新型郵便物自動読取区分機を見学する教室になります。手紙類が目にとまらぬ速さで分けられていく様子は一見の価値があります。ぜひお出かけください。

第9回稲門フィラテリー総会開催

稲門フィラテリー総会を下記のように開催します。

平成20年10月26日(日)午後1時から2時
大学7号館 205教室

総会後、鎌倉達敏会員による講演があります。

午後4時から高田牧舎において懇親会を開きます。多くの会員の参加をお待ちします。



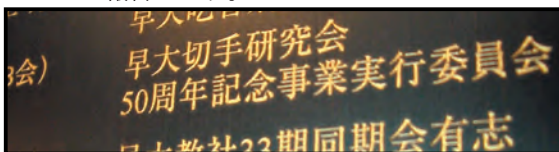
府川氏 版画展で入賞

6月12日から上野の東京都美術館で開かれた版画展第58回板院展で府川会員の作品「雌雄蕊結実Ⅱ（しゅうずいけつじつ）」が院友推薦の賞を受けられました。トウモロコシの葉、実の線が美しく表現された作品です。

作品 雌雄蕊結実Ⅱ
(しゅうずいけつじつ)

新たに切手研関係銘板の存在確認

会報 27 号でお知らせしました大隈講堂内に設置された記念事業募金寄付者銘板に稲門フィラテリーのほかにより下記のように切手研 50 周年実行委員会の名が刻まれていたのを磯野幹事が発見しましたので報告します。



切手教室

第 53 回	6 月 7 日		
	外国切手の中の日本	甲斐	正三氏
第 54 回	7 月 5 日		
	手彫り切手の楽しみ	坂下	泰一氏
第 55 回	8 月 2 日		
	楽しい切手集め	宮鍋	益治氏

発行日：2008 年 9 月 1 日

発行：稲門フィラテリー

発行人： 小西 邦彦

150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F

(株)英国海外邮趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座 :00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当：湯川 宗昭 池澤 克就

木元 淳一郎 小川 義博

稲門フィラテリー

第 30 号

2008 年 12 月 1 日発行

震災切手でカムバック ー学生時代の思いを 30 年後の全日展でー

鎌倉 達敏

1. はじめに

2008 年全日本切手展で、初出品にもかかわらず、「企画部門」で金賞を受賞する事ができました。また、日本郵趣協会賞の特別賞まで頂きました。本年度の企画部門が「震災切手」であった事も幸いしたと思いますが、出品者自身としては想定外の受賞であり、大きな驚きとともに大変大きな喜びとなりました。高い評価をして頂いた関係の皆様には、大変感謝している次第です。



金賞のメダル

昨今の「郵趣界」では、新しい収集家の参入がない中、かつて収集した人のカムバックが期待されており、筆者も、2 年前に本格的な収集を再開した「カムバック組」になります。とは云っても、学生時代から大小の波は有りましたが、細々と震災切手の収集は継続していたのも事実です。折角の機会ですので、震災切手収集の契機から全日本切手展でカムバックするまでの長い道程、そしてその原動力になった震災切手の魅力（楽しみ）について、まとめてみました。

2. 1 銭 5 厘と震災切手

切手収集を始めたのは、中学 1 年になってからで、仲間の中では大変遅い方でした。初めて購入した記念切手は 1967



国際観光年記念切手

趣」を購読し、東京中央郵便局へ通う「切手少年」になったわけです。

収集が進むと、新しい切手を発

行毎に買って、初日カバーを作るだけでは、満足できなくなりました。その時、興味を持ったのは、戦前の通常切手と郵便印でした。切手については、新日本切手カタログ、郵便印については、1968 年に発刊された天野安治氏の「日本郵便印入門」がバイブルでした。上・中巻までは出版済でしたが、下巻が中々出版されず、首を長くして待った記憶があります。また、その当時創刊された「フィラテリスト」の天野氏の「普通切手のエンタィア（適正使用例と 1 枚ばり）」の影響を受け、エンタィアに興味を持つようになりました。

しかし、一般の中学・高校生にとっては手の届く切手には限界があり、切手展に出品するようなコレクションを作るには難しい対象でした。

そこで考えたのが、「1 銭 5 厘」という切り口で



国際観光年記念切手



天野安治著 日本郵便印入門

した。この額面であれば、高価な「手彫切手」「小判切手」にはありません。比較的安価な菊切手・田沢切手・震災切手に限定されます。菊切手1銭5厘には「朝鮮」字入りという難関は有りましたが、中学・高校生としては諦め、その他の範囲で収集を進め、作品にまとめあげる事にしました。アルバム作り、切手展への出品も初めてであり、試行錯誤の連続でした。それでも何とか3フレーム(36リーフ)の作品に仕上げ、高校2年の時に PhilaTokyo' 71、JAPEX' 71 の年少者部門に「1銭5厘」のタイトルで出品しました。特に JAPEX' 71 では、審査員特別賞を



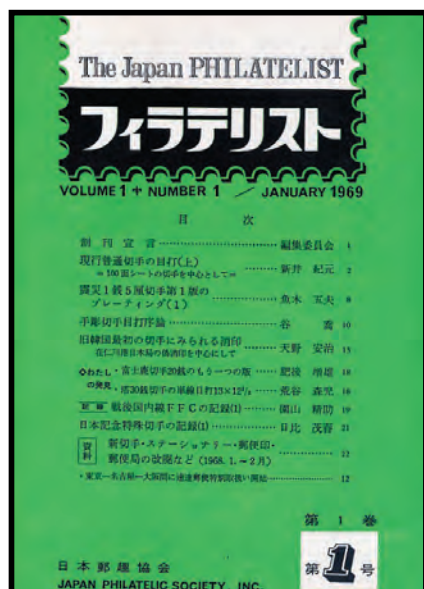
1銭5厘切手6種と

頂き、当時高校生として大変感激したものでした。この1銭5厘という切り口から、震災切手との縁が出来たわけなのです。



3. 震災切手とプレーティング

受験の時期を経て大学では、憧れの早大切手研究会に晴れて入部することができました。高校時代に早稲田祭の切手展は下見済でした。その時、切手研の会報を将来入部する可能性のある高校生という事で、無料で頂いた記憶があります。大学生になると、アルバイトの収入により、少し切手収集のレベルを上げる事が可能になりました。高校時代から、是非やって見たいと思っていたのは、「フィラテリスト」創刊号(1968年1月)に掲載された魚木五夫氏の「震災切手1銭5厘のプレーティング」でした。手彫切手でしか出来なかった「プレーティング」が安価な震災切手でも出来るというのは大変魅力的でした。しかし、この記事を読んだ高校生の時は、震災切手の所有枚数も少なく、トレースする事さえ出来ませんでした。大学生になり、少しづ



フィラテリスト創刊号



1銭5厘プレーティング(左半分)

つ、プレーティング可能な「1銭5厘のタイプI」を買い集めました。そして、フィラテリストの記事に合わせて、プレーティングなるものをやってみた所、同じように見える切手でも1枚

1枚異なる顔を持っており、そのポジションも特定できる事は大きな感動でありました。

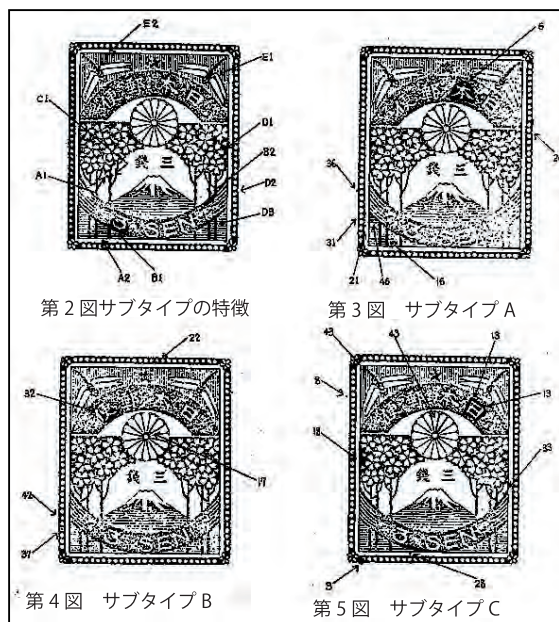
丁度そのような時に、震災切手発行50周年でJPS(日本郵趣協会)主催の「震災切手」切手勉強会(1973年9月1日)が開催されました。魚木五夫氏から直接、震災切手の基本版構成に関する最新の研究を聞くことが出来、「震災切手」への興味が更に高まる事になるのです。そして、自分でも震災切手のプレーティング研究をやってみたいと思っていた所、切手研の先輩のいる切手商で3銭切手タイプIの未使用シート(穿孔付き)を入手する機会を得ました。早速、プレーティングの調査研究をスタートさせました。来る日も来る日も、3銭切手とルーペを通してにらめっこです。ようやく、まとまった成果を、切手研究会の会報(1975年11月)に載せることが出来たものの、70%の部位の特定に

留まりました。それでも、その当時、震災切手の3銭についての、プレーティングの成果としては、初めての発表でした。現在でも震災切手研究の入門書になっている牧野正久氏の「震災切手と震災郵便」が出版される、1982年7月の約7年前の出来事でした。

4. 大変長い静かな時代

大学の3年後半になると、理科系のため、研究室活動が大変忙しくなり、切手に割ける時間も経済的な余裕もなくなりました。更に大学院の時代、会社に就職しても、細々と収集は続けているものの、まとまった形での収集にはなりません。それでも、「郵趣」は継続して、またオークション誌についても断続的ですが、購読を続け、少しずつですが、入札・落札もしました。収集の対象は「震災切手」ともう一つのテーマである「東京・深川郵便局の消印」の2つでしたが、主体は後者で、結果的には震災切手については、余り進みませんでした。郵趣会活動は、会社の先輩から誘われた地元横浜の独立系郵趣会「瀬谷郵趣会」に所属し、主に現行品の情報交換・郵趣品の入手は続けました。

その間、仕事の関係で始めた「ゴルフ」にも凝り始め、切手どころではなくなりました。ゴルフもそれなりに楽しかったのですが、腕は上がりませんでしたので、結果的には、切手収集にとっては回り道だったかもしれません。



震災3銭切手タイプIのプレーティング

5. インターネットと早大切手研 50 周年

社会人になって、20年たった頃、インターネットの普及が始まり、個人のホームページを開設するのが盛んになりました。自分でも開設しようとテーマを考えた所、「東京深川郵便局の消印アラカルト」に行き着きました。しかし、自分のコレクションを整理したところ、情報発信するには、穴だらけで、もう少し本格的に収集する必要性を強く感じたのでした。

また、その頃、早大切手研 50 周年記念（1999年11月）の準備活動に参画し、一般事業委員会として記念郵趣品（記念ゆうペン・記念カバー・記念絵入り官葉）の作成を担当させていただきました。

その対応の過程とお礼で、横山隆一画伯の鎌倉のご自宅を訪問する機会を2回も得ました。記念に、持参したカバーに画伯直筆のフクちゃんサインを頂き、今では「家宝」になっています。この活動を通じて、切手収集再開の機運が自分の中で高まって行きました。



切手研 50 周年記念ゆうペン



切手研 50 周年記念カバー



横山隆一画伯を囲んで



家宝のフクちゃんサイン入りカバー

6. 「日本切手全集」と「ペンスブルー」

インターネットの更なる普及で、切手収集の方法も大きく変化しました。ネットオークションの登場です。日本では「Yahoo!」、世界では「eBay」となります。入札の方法、送金の方法も大変簡単であり、注意すれば安全でもあります。自宅に居て、世界中から瞬時に欲しい切手を安価で入手する事が可能です。この方法で、少し収集をしてみる事にしました。対象は、なんと日本のゼネラルコレクション、ポストーク日本切手アルバム（1～2巻）を埋める事。これは、子供の時から「カタログ掲載の日本切手を全部集める」夢の実現です。



かんむり

現在、一般的な日本切手の実勢価格は、カタログ価格に比べかなり安いので、手彫切手の特殊な物、軍事・字入れ高額・未発行切手以外は、すぐに集まってしまうました。



制定シート

これでは、面白くないので、外国切手にチャレンジする事にしました。国として、どこをやるべきか、大変悩みました。結論は、大胆にも郵便切手発祥国「英国：GREAT BRITAIN」でした。それも、最初期である「Queen Victoria」



ペニーブラック ペア

の時代に限定する事にしました。あの有名な「ペニーブラック」「ペンスブルー」「ペニーレッド」が対象になります。



ペニーブラック 1a～11 全版揃い



ペニーレッド Black Plates 1b～11 全版揃い

まず、ある程度まとまったコレクションを「eBay」で入手し、基本的な部分は直ぐに集まりましたが、切手として歴史があり、研究も徹底しており、大変奥深い世界である事も改めて確認出来ました。

その中で、最も興味を持ったのが、「2 ペンスブルー」切手でした。1 ペンスは基本料金のため、使用量が多く、実用版も多く、ペニーブラックに限定すれば別ですが、版別に完全に集める事は、まず無理である事は明らかでした。一方、



ペンスブルー ペア



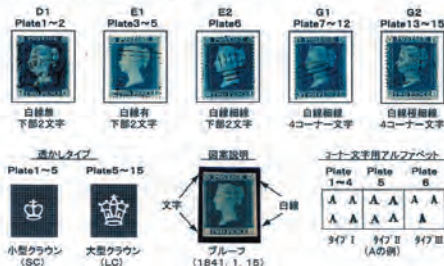
ペンスブルーブルーフ

英国 2ペンスブルー 1840-1876

世界で最初に発行された切手は、英国のビクトリア女王の肖像を、中央に配したベニーブラック (1d) と、ペンスブルー (2d) の2種類です。1ペニーの方は再使用防止のため、すでにベニーレッドに刷色変更されました。一方、2ペンスの方は、切手図案は少しずつ変化するのですが、約40年間に亘って、ブルー色 (ペンスブルー) での発行が続きました。

その間、図案としては、大きく分けて下記の5種類で、実物の印刷に使用された実用版としては、Plate 1~9、12~15の計13版になります。印刷された切手としては通称で2種類 (小型クラウン、大型クラウン)。目打で3種類 (無目打、Perf 16、Perf 14) あり、その組み合わせにより、バリエーション豊かなものになっています。刷色を別けると、下記一頁表の19種類に分類する事ができます。

このコレクションでは、約40年間使用された2ペンスブルー切手を実用版 (Plate) 別に、製造面、使用面から使用済切手 (カバー含む) を中心に、まとめていきます。



2ペンスブルー プレート別一覧表

図案	D1		E1		E2		G1				G2			
757777	I				II		4コーナ文字				4コーナ文字			
Plate No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	12	13	14	15	
通し目打														
無	(1)	(2)	(3)	(4)										
SC	P16				(5)	(6)								
P14					(6)	(7)								
LC	P16					(9)	(12)							
P14					(10)	(11)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	

英国 2 ペンスブルー タイトルページ

1840~ 2ペンスブルー Plate[2]



ペンスブルー PL.2 リーフ

2ペンスの方は使用量が少なく、15の実用版 (Plate) しかない事がわかりました。また、印刷色もブルーであり、大変きれいな切手でした。そこで、ペンスブルーを集中して集める事にし

ました。日本の1銭5厘切手の基本色がブルーであった事も、偶然とは云え、何かの縁かもしれません。

7. JAPEX' 06 への挑戦と思いがけない再会

全て、インターネットで集めた独自コレクションでしたが、ペンスブルーについては、かなり集まって来たので、日本の郵趣界での客観的な評価を得ようと JAPEX に出品する事を考えました。競争展として、切手展に出品するのは、JAPEX' 71 以来35年振りになります。レギュラークラスは3フレーム以上なので、ワンフレームクラスに出品することにしました。

結果は、残念ながら、銀賞でした。作品の意図も理解してもらえず、「ペンスブルー」の田型がないとか、はんこ (郵便印) 集めは意味がないなど、酷評でした。これには、正直がっかりしました。これでは、皆さん収集をやめてしまうか、切手展への出品など諦めてしまうでしょう。しかし、長年やってきた専門分野以外で出品する事の難しさ、また独自の研究という視点では自分にも反省点を強く感じた次第でした。

しかし、そのような結果よりも、切手展へ出品した事による副産物の方が大きく、今回の本題である「震災切手」の本格的収集再開に繋がって行くのでした。久々の出品と意外なテーマであったため、昔の大学郵趣連盟の仲間から、「お前まだ、切手収集やっていたのか」「懐かしい名前が出ていて驚いた」「ペンスブルーなんかやっているのか」など、多数声を掛けてもらう事になりました。

その中で、表彰式後に、30 数年振りに再会した魚木五夫先生から、「ペンスブルーの作品はじっくり見せてもらった」「まだ震災切手はやっているのか」「いつかきっと戻って来ると思っていた」「時間があれば、切手博物館に来て見れば」と声を掛けて頂きました。30 年以上前の事を覚えて頂いていた事への驚きは大変衝撃的なものでした。

8. 震災切手専門収集の再開

JAPEX' 06 が終了した 06 年の 12 月、早速、魚木五夫先生にお会いする事にしました。また、併せて、この 30 年で震災切手について、どのような研究がなされていたか、切手博物館で調べてみました。結論は、今からでも十分追いつけ

るし、研究課題としてはまだ多く残されているという事でした。

魚木先生には、まず1銭5厘から、自分の所有品を通じて、今までの研究成果のレビューをして頂く事にしました。また、魚木先生主宰の震災切手研究グループにも入り、情報交換をするようになりました。震災切手の研究には、多くの数の切手が必要です。切手商という切手商の震災切手の使用済束、未使用切手のブロックを探しました。残念ながら、市場にはほとんど残っていませんでした。全て特定の収集家に集まる市場の仕組みが、長い間に出来上がっていたのです。そこで、日本国内の入手ルート以外に、ネットを通じた海外からのルートにより、枚数を増やしました。また、積極的な入手により、即売会・切手展で切手商の方からも声を掛けて頂けるようになりました。

9. JAPEX' 07に震災切手でカムバック

どの世界でも何か事をなす場合、明確な目標設定が成功の鍵を握ります。まず、第1ステップの目標は、JAPEX' 07に「震災切手1銭5厘」を出品する事にし、第2ステップの目標は、大胆にも、全日本切手展'08に「震災切手フル額面」

で出品する事にしました。

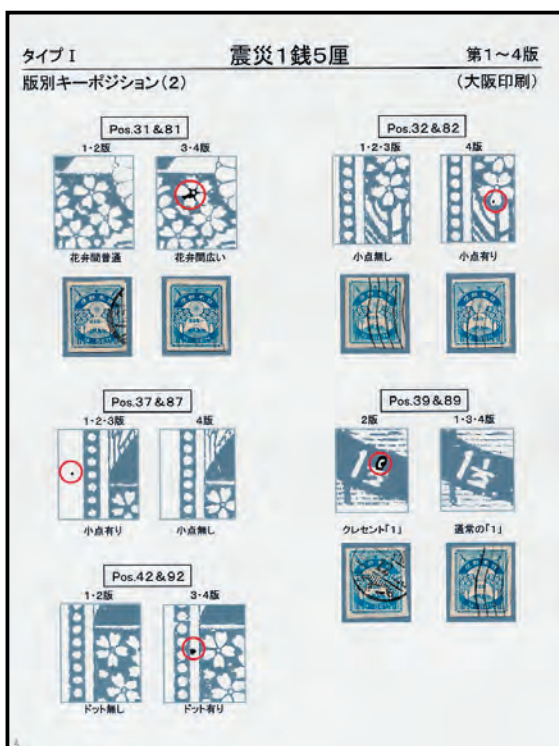
まず、第1目標である1銭5厘切手で、JAPEXに出品するには、3フレーム以上の作品に仕上げる必要があります。いきなり3フレームを作るのは大変ですので、震災切手研究グループの最新の版別研究の成果を取り入れて、纏める事にしました。また、最近パソコンのお陰で、作成が簡単になった版欠点の拡大図を多く用いて、リーフ構成を行いました。その結果、本テーマでは初出品ながら、金銀賞（審査員賞辞付き）を受賞することが出来ました。

また、サブコレクションの「深川」でも、ワンフレームながら、「東京・深川郵便支局のボタ印と日付印」でも金銀賞というダブル受賞のオマケ付きでした。まさに、前年の「2ペンスブルー」の「リベンジ」であり、真の「カムバック」となりました。自分自身としても金銀賞のダブル受賞は驚きであり、2作品ともにオリジナル研究の成果が評価されたようです。

10. 全日本切手展 '08 出品と金賞受賞

前振りが非常に長かったのですが、やっと、これからが本題です。

切手収集家にとって、通信博物館(ていぱーく)



1銭5厘タイプI版別キーポジション



東京深川郵便支局のボタ印

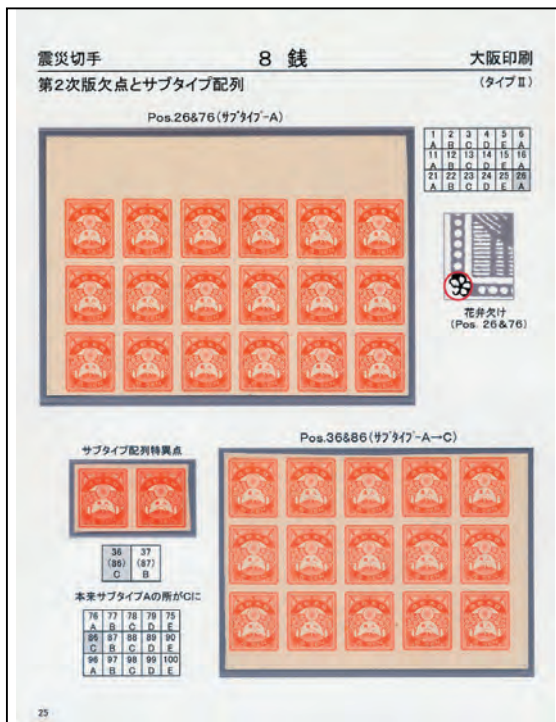


ティパーク

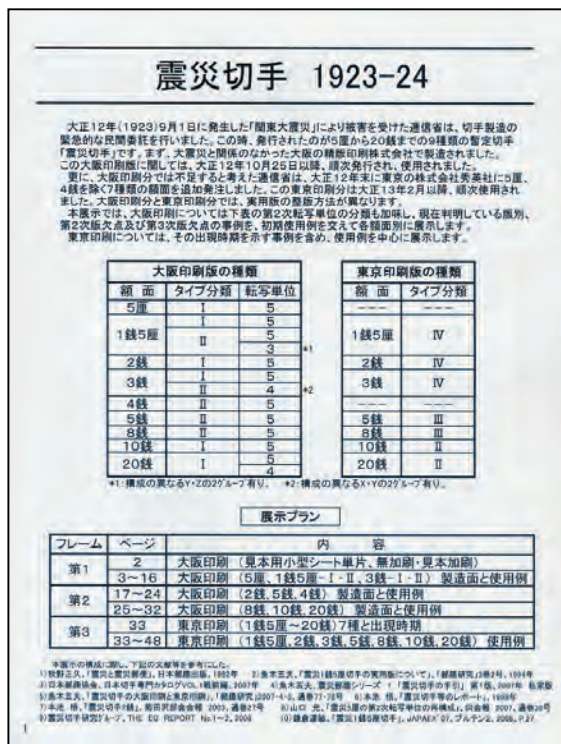
08 年が通博での最後の全日展という噂が有り、成人クラスで一度も出品した事のない者として、是非とも出品したいという思いが有りました。それに加えて、08 年の「企画部門」が偶然にも「震災切手」であり、JAPEX '07 終了後、早速、作品作りに取り掛かりました。今度は、第 2 ステップの目標である、5 厘から 20 銭までのフル額面への挑戦であり、大阪印刷・東京印刷に分けるとタイプ別でも 18 種類になります。それを 3 フレームにまとめる必要があり、各額面をタイプ別でバランス良く構成するのがポイントです。大阪印刷 2 フレーム、東京印刷 1 フレームの構成にしました。大阪印刷の方は、最新の版別区分、第 2 次・第 3 次版欠点を中心にまとめましたが、多くのマテリアルが有り (JAPEX' 07 の 1 銭 5 厘だけでも、48 リーフ)、選別するのに

は、切手の殿堂であり、大きな憧れでもあります。その「逋博」（ていぱーくより馴染みのある名称）が08年中には無くなり（実際には09年になりそう）

苦勞しました。一方、東京印刷の方は使用例を中心にまとめ、1フレームとは云え、所有するマテリアルが少なく、大変苦勞しました。それでも、何とか「震災切手 1923-24」というタイ



震災切手 1923-24 (大阪印刷8錢)



震災切手 1923-24 タイトルページ



震災切手 1923-24 (東京印刷 3 銭)

トルで、念願の「フル額面」での全日本切手展出品を果たしました。タイトルの年号は、1923年大阪印刷、1924年東京印刷の意味を入れ込んだもので、出品者のこだわりです。

細かい枝葉をカットして震災切手全般をポイントのみ絞って3フレームにまとめたため、参観した多くの方から、非常にすっきりして、判りやすいとの評価を頂きました。JAPEx' 07の1銭5厘の「専門的過ぎて、1銭5厘ばかりで見る気も起こらない」という評価とは全く異なっており、一般の切手展の場合、余り専門性を高くするのも問題なのかもしれません。

そして、企画部門での「金賞」、日本郵趣協会賞の特別賞まで頂く事になりました。震災切手の専門収集再開後、わずか1年4ヶ月でのスピード達成となりました。これも、魚木五夫先生を始めとした震災切手研究グループのメンバーのご指導・ご支援、切手商の皆様の協力並びに理解ある家族の直接・間接（経済面を含め）の支援の賜物であり、大変感謝しております。これまで、今までの遅れを取り戻すために、全速力でキャッチアップしてきましたが、これからは、少しスピードを巡航速度に落として、じっくりと震災切手研究に取り組んで行きたいと思っています。

なお、JAPEx' 08には、同テーマで、6フレームに拡大した作品を出品し、金賞・JAPEx 実行委員会賞を受賞しました。

11. 注目して頂きたいリーフ等の紹介

最後に、出品した作品の中でも、注目して頂きたい、自慢のリーフについて、紹介させて頂き、本稿の終わりとさせて頂きます。

(1) 見本用小型シート切抜き単片

基本的には見本加刷（加捺）されて使用されたものであるが、一部加刷のないものがあり、大変貴重な存在になっている。切取用点線がなく、左右マージン幅が狭いのが特徴である。単片でも、プレーティングにより、判別が可能である。

見本加刷単片と合わせて紹介する。

(2) 3銭タイプⅡ貼書状

第3次版欠点 Pos.30 貼り書状。「S 下部白点」版欠点を含むペア貼り2倍重量便エンタィア。日本橋局鮮明印。



見本用小型シート単片



3銭タイプⅡ（大阪印刷）書状

小笠原島使用書状。震災切手の小笠原島使用は非常に少ない。しかも、暫定切手廃止最終日使用例。

(3) 4銭タイプⅡ（大阪印刷）5枚貼り外信書状

合計20銭の適正料金エンタィア。4銭5枚ブロックの鮮明欧文印付き。

(4) 1 銭 5 厘タイプⅣ（東京印刷）12 枚ブロック

1 銭 5 厘タイプⅣ（東京印刷）の発売量は、約 100 万枚と推定されている。大量に印刷されたが、田沢切手の印刷再開によって、不要となり、廃棄されたためである。存在が確認されている中で、4 番目の大きさのブロック。第 3 コーナーの 12 枚。東京印刷の特徴も図示する。

(5) 8 銭タイプⅢ（東京印刷）未使用田型ブロック

8 銭タイプⅢ（東京印刷）の発売量は、約 50 万枚

と推定されている。単片でも使用済・未使用ともに少なく、特に、田型ブロック以上の未使用マルチプルは大変貴重である。また、使用済も、衆議院内局以外の使用例は少ない。

(6) 20 銭タイプⅡ（東京印刷）未使用田型ブロック

使用済については、マルチプルを含め、入手は容易であるが、未使用となると、入手が難しい。特に、田型以上の未使用は 8 銭と同様に貴重である。



4 銭 5 厘タイプⅣ 12 枚貼り外信書状



8 銭 (東京印刷)



1 銭 5 厘 (東京印刷) 12 枚ブロック



20 銭 (東京印刷)

稲門フィラテリー第9回総会報告

青柳 次男

定刻の午後1時より少し遅れて稲門フィラテリー第9回総会の開会が宣言された。司会は諸田幹事。「今日もすごく混雑していますね」小西会長の挨拶が始まる。「早稲田がマスコミ大学と言われていた時代があります。そのころ、名物教授だった仁戸田六三郎先生が、マスコミ大学とは、マスの中で先生と生徒が混み合っている大学のことだ、と云っていたのを思い出しました」仁戸田先生の名前を耳にして、私の時代の名物教授の姿が蘇ってくる。昭和37年の入学式。「早稲田は地球の上にある」記念会堂の壇上で、中島正信先生は大声で続ける。「早稲田と慶応には、大人と子供の違いがある。早稲田マン、



小西会長 挨拶

慶応ボーイと呼ぶのがその証拠である」割れんばかりの拍手と歓声。思い出に耽っているうちに、小西会長の挨拶は終り、議事は着々と進行していた。その内容をかいつまんで紹介する。

① 平成20年度活動報告および平成21年度活動計画（小西会長）

- ・郵政民営化の影響で、切手教室として新宿北郵便局の会議室使用に困難が生じたが、磯野幹事の尽力により、6月から使用が許可された。また、同北郵便局のロビーで、2ヶ月に1回、稲門フィラテリーの常設展を実施している。
- ・見学旅行会「湖国・滋賀への旅」は、参加者14名。上田会員の案内で楽しく有意義に実施され、その途中、木辺会員（木辺円慈上人）が門主を勤める錦織寺に立ち寄り歓待された。
- ＊なお、錦織寺の創建は平安時代の天安2年（858年）だそうです。ホームページもあります。<http://www.cable-net.ne.jp/user/kinshokuji/>
- ・稲門フィラテリーは、来年10周年を迎える。今後、幹事会などで記念行事について議論を詰めていく。

② 平成20年度会計報告および平成21年度予算（石井幹事）

- ・繰越残高に余裕が出てきたので、懇親会などに多少援助可能と付け加えられた。

③ 平成20年度会計監査報告（坂下幹事）

- ・適正かつ妥当であると報告された。

④ 役員改選（諸田幹事）

- ・兼務 吉沢 忠一（アドバイザー・編集）
- ・転任幹事 木元 淳一郎（編集→総務）
- ・新任幹事：五十野和男（編集）
- ・退任幹事：小林 彰、湯川 宗昭
三村 正光

ここまでで議事の審議は終了し、全て満場一致で可決された。その後、次のような質疑が行われた。

質問：来年度も懇親会は高田牧舎を使用するのか。

答：基本的には、その方向で考えていく。

質問：会員名簿に物故者は載せないのか。

答：幹事会で検討していく。

＊会員名簿が物故者で一杯になってしまう、との外野からの声あり。

質問が一段落したところで、磯野幹事から、「大隈講堂切手」に関する情報が紹介された。

- ・9月20日から再発売されている。
- ・発売地域は、早稲田近辺と本庄近辺。
- ・慶応150周年記念式典会場での販売も視野に入れている。
- ・通信販売も実施する。

会員27名、オブザーバー1名の出席で開催された稲門フィラテリー第9回総会は、予定通り進捗し、午後1時45分無事、閉会した。

暫し休憩の後、鎌倉達敏会員（昭52・理）による講演が始まる。

題して「震災切手でカムバック」鎌倉会員は、今回の演題になっている震災切手の作品を出品し、全日本切手展2008で、特別賞と金賞を受賞している。鎌倉会員は、切手収集を始めた中

学時代から、今回の受賞までの道程について、パソコンを駆使したスライドで興味深く紹介し、更に、受賞作品にまつわるエピソードなども盛り込み、時の経つのを忘れさせる 1 時間であった。



講演する 鎌倉会員

スライドを利用した講演は、稲門フィラテリーでは初の試みだと思うが、今後はかなり有効に活用できるのではないかと感じる。

まだ準備中の高田牧舎。最初にしなければならないこと。それは来年の予約。ただ、来年の日程は未定。それでもマスターは快く承知してくれた。

先日、「命のビザ」で知られる杉原千畝氏の奥様、幸子夫人が 10 月 8 日、94 歳で亡くなられた。週刊新潮（10 月 23 日号）の「墓碑銘」にもその記事が掲載され、その中で、渡辺勝正会員が奥様の思い出を紹介されている。「・・・幸子さ

んの活動がなければ、千畝さんの功績は日本では再び埋もれたかもしれない」今回の懇親会は、そのことに関する渡辺会員の話から始まった。

秋の日は釣瓶落としと言われるように、直ぐに沈んでしまう。今回の懇親会では、その秋の日に負けないくらい、料理の無くなるのが早かった気がする。年齢は、着実に 1 歳増えているのに。でもこれは、会員諸兄姉の元気澁刺さを示しているものだと思う。

「もう！おしまいなの」名残を惜しむ声をそのままに、来年の再会を期して、すっかり暮れてしまった早稲田の杜を後にした。



牧舎での懇親会 紅 3 点が撮影されてない！！！！

写真撮影 磯野会員

懐かしきキャンパス 3

大隈講堂前の広場、時計塔の下から 15.6 メートル離れて、道路に面し大隈庭園への入口にかわいらしい小屋がある。

この小屋、藪野画伯も壁画に書かれているが、明治 15 年大学開校時からの貴重な建物。旧大隈邸正門馬丁小屋であったという。大学にとっては重要文化財的な存在である。

この重文建物を早稲田大学前郵便局として切手の購入に利用された会員と現在の JTB の前身、日本交通公社出張所として学割を利用して青春の思い出の切符を購入された会員がおられると思います。

現在は、カーテンがひかれ、使用されていないようですが、大切に保存されることを祈ります。



藪野 健画伯描く 商学部建物再建安全塀壁画より

生まれも育ちも船場育ち、道頓堀で悪がき時代を過ごし根っからのトラキチ、同郷の世界のコレクター金井宏之氏が切手研出身と聞き及び、いの一歩に入室し当時の諸田幹事長よりデカイチョコレート記念に頂いた事が思い出される。それから、時を経て一度金井先輩に拝顔したいと念じつつ、数年前総会で講演されると知り、かぶりつきで拝聴し、名刺を頂いた時にはブルーモーリシャスを手に入れた金井先輩かと興奮を覚えた。すでにご承知とおもいますが、訳本・「ブルーモーリシャス」を探せ!を読むとその実感がふつつつと伝わります。(お読みにになりたい方はメールでどうぞ、回送します。jjfim@yahoo.co.jp)

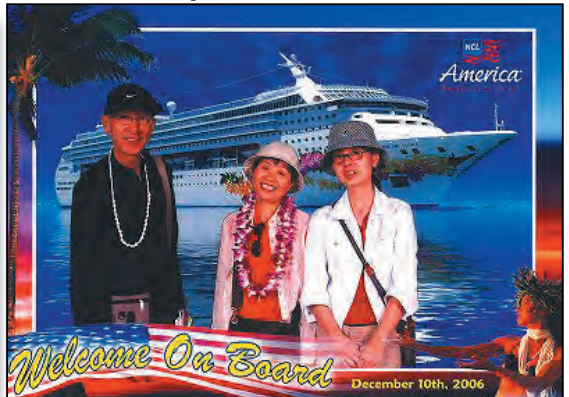
仁戸田六三郎先生のゼミを取り、実存を学びつつ何故か機械屋となり、未だ細々と現役で小さな店舗で自動車部品メーカーにスチールボールを納めています。このスチールボール、世界の自動車メーカーで50%のシェアと聞き、驚く哲学出身です。

同期の尾内公認会計士事務所にお世話になり、「ポキ」と呼ばれて(麻雀のポンをポキと連呼していたので)あれから40有余年気がつけば稲フィラ古参になりつつあり、昨今驚くことが多い。高齢者と呼ばれ、シルバーカードが届いたり、毎夜悠々としてタイガース戦を楽しんでいたのに・・・不安定な金融市場に突入し経済は未曾有の混乱を呈し、総理は簡単にさじを投げるし、何かボヤキたくなるのは、これも歳のせいかな?

船に乗って旅に出よう! そう思い立って一昨年、家族三人でホノルルに飛んだ。ハワイアン・クルーズ7泊8日、というハワイの島々を巡航する最もポピュラーなクルージングである。ハワイの知人に予約を入れてもらって、何万もの日本人が押し寄せるホノルルマラソンの当日の夜、出航という便に、多数日本人が乗り込んでくるだろうという計算であったが、あてが外れた。乗り込んだ9万トンの客船、乗客人

数3000人の「Pride of Aloha」はライトを浴び、ハワイアンソングに見送られて航海が始まった。

がその時電話が鳴り浮ついた調子で「Halloo!」と叫んだらしっかりとした日本語で「ようこそ、プライドオブアロハに、日本人はあなた方含めて5名です。なんなりと私にどうぞ」という明るいトーンであったが、これは日本人専用のツアー企画は出来ませんということであり、和食もなく、なにもかも英語の世界に突入した訳である。元来、船旅の日本人は少ないと聞いていたが、まさか5/3000とは。ごくたまに日本旅行社のツアーで20人ほど乗り込むことがあるが、いつもパンダ的存在ですと言う。陸地のハワイ各島は溢れんばかりの日本人旅行者で埋まっているのに。



乗船時の記念スナップ

毎朝島に着くと多数のツアーバスが待ち受ける。パンフを見ながらそれぞれのツアーに乗り込む。冒険あり、観光、体験何でもありのバリエーションに富んでいるが全てオプションで別途費用である。三食自由に食事が出来る。デッキのバイキング、各種レストランと豊富にあり、フィットネス・プール・劇場と多彩である。これらは料金込みであり、退屈させないように盛りだくさんである。かの日本人クルー嬢は、毎朝その日のガイドと各レストランのメニューなど日本語のパンフを入れてくれる。シアトルに遊学していた娘が少しは頼りになった? 各島の乗降にはパスポートの提示が求められ、大半がツアーに出かける。どの島もホノルルマラソンに参加と応援の日本人に出くわす。各島には見せ場があり、“鯨が遊泳しています、ナパリコーストを通過するのは三時から三時半頃です”、“キラウエア火山は9:45pm~10:00pm頃通過します”と

慣れた案内が続きます。毎日のツアーバスにも疲れはて、たまには船内でゆっくりくつろいで見ようかと提案すると、母娘は喜んで意気揚々と出かけてしまった。

船旅はいろいろな人との出会いがあり、ロマンスが生まれると名画、旅愁のセプテンバーソングが誘い、旅情のキャサリン・ヘップバーンが立ち止まるが、このデッキにはその気配はとんと無く「女どもは勝手な奴だと」ビールをおおってぼやいていた。すると、「日本のかたですか？」と声掛けられ振り向いてみると、私たちと良く似た夫妻であった。てっきり残りの二人の日本人はこの方たちと即断したが「私たちは日本人だが、国籍は米国籍でシアトルに住んでいます。」と話がはずんだ。その夜は食事を一緒に、いろんな話に夢中になった。驚いた事にS37・8卒の早稲田商学部の出身で、フジテレビに入社されて数年後に家のご都合でブラジルに渡り、ご苦労されて、シアトルのhp ヒューレットパッカードに勤務され、頃の好いところで勇退されて、いまはご夫婦であちこち旅行されていると聞きました。

急速に親しくなり、その後のツアーも一緒に頂き何かと船旅が一層楽しくなりました。羽二生 <haniu> 道夫さんと義子さんという方で、日本でも早稲田の同期の仲間と一緒に旅行するのが楽しみと、言われ、その半年後に日本にいられて、拙宅にお出でになりました。これも船旅の由縁でしょう。

羽二生さんの勧めで私たちはヘリコプターに搭乗することになりマッチ箱のような小さなヘリに乗り、崖っぷちや滝の近くを回り、結構スリルがありましたが、日本で再会した際、その後二機ほど墜落しましたと聞き驚きました。またクルージングの価格ドットコムなどあり、格安で飛行機チケット付きで出航間近のクーポンを手に入れることが出来るようで、「かばんに詰めて用意して待っててください」とPRしている



豆ヘリから無事生還

ようです。当時ハワイだけでも三隻の船が入れ替わり出港している様をみると客を集めるのも大変のようで、今年ハワイの知人が来た時には採算割れで二隻はどこかに売られて漂流しているのではと笑っていました。またシアトルからカナダのクルージングもリアス海岸で美しいとの話です。私たちに気になっていたことは船酔いでしたが、それは問題なかったようで出来るだけデカイ船を選ぶことでしょう。

パブリックなクルージングなのでドレスアップの必要も無く、母娘の浴衣姿がウケタ様子で、よく観察すると大半はデッキのバイキングで、レストランでの食事は正装した白人がよく目立ちました。

最近クルージングツアーのPRを紙上でみますが、客室は左右のデッキがついた海側がよく、窓の無い中央客室は倉庫にいるようで最悪です。富裕層向けの日本の豪華客船もありますが、少し桁が違うようで私には手が届きませんが。

まだまだ外国のクルージングでは日本人乗客は希少でサービスは陸のようにはいかず、英語力も聞き取りが私には難点でした。パソコンと英語に強い方は安いクーポンも取れますので至りつくせりのクルージングもいかがでしょう。

肝心の切手は船内でも売っていましたが、特記するほどのものはなくただ下船して世話になったハワイの代理店の方に海苔を送ろうとしてホテル内でうろうろして困っていたところ黒人の夫人が「切手は持っていますので使ってください」と一シート出してくれました。代金を払おうとすると彼女は「今日は私の誕生日で何かいい事がしたかったのよ。また貴方もそのようにしてくれたらうれしいよ。」と言って立ち去った姿がいいお土産になりました。

何十年前にホノルルに來た際と今ではすっかり趣きが変わり、東南アジアの島のように雑踏喧騒で賑やかなこと。その昔大津美子の「ここに幸あり」がどこに行っても流れていたのが懐かしいものです。

結論的にはクルージングほど至りつくせりであるが、また不健康なメタボ旅行は類を見ないでしょう。デッキでひとり老女がベンチで陽を浴びながらやすんでいる。彼女は年中この船で余生を暮らしていると聞きしばし寂しさを覚えました。

希少切手のごとく多くなる事は無い稲フィラ会員諸氏のご多幸とご自愛を祈ります。



ハワイの希少切手

ポキ！

湖国、滋賀の旅日記

府川 宏昭

いきなり自分自身のことで恐縮ですが、一昨年秋の一日、東京上野の国立博物館で、とある仏像の背面に廻ってびっくり仰天。"強烈!!"としか言いようがないのです。それは渡岸寺の十一面観音立像でした。共に見入っていた家内も哑然として、暫くは顔を見合わせるだけで声になりません。"何というのだろう。このお面、形相は!!"十一面観世音菩薩の背面、後頭部にある「暴悪大笑面」なのです。

さて今回の旅行案内を受けた折、向源寺十一面観音を拝観する由。はて、どこかで見た、聞いたお寺さんだと思い、前記の仏像展のパンフレットほかを繙きました。"あった、あった!!"。あの目を奪われた仏様に再びお会いできるのかと。心高まる思いでした。



東京国立博物館仏像展
パンフレット

閑話休題、9月26日、2名が横浜線の信号機故障で遅れたものの、後からの新幹線「のぞみ」を乗り継いで30分遅れの11時20分には全員が米原駅に集合、やれやれで、名古屋辺りから降り始めた雨もやみました。

まず琵琶湖の北東、高月町の十一面観音が安置されている渡岸寺観音堂へ向かいました。渡岸寺とは昔は寺名だったのでしょうが、現在では寺はなく地名で、また安置、奉拝されていたお寺も天台宗光眼寺から、真宗大谷派の向源寺へと変遷、改称して、それと共に、この十一面観音菩薩は真宗でのご本尊ではないため、居場

所を少し離し、新たに建てた観音堂へ移されたそうです。

従って、地名としての高月町大字渡岸寺の観音堂で、(括弧)付で本来崇められていた(向源寺)を示しているのだとか。

お堂ではお上人が懇切丁寧に説明下さり、一通りのお話の後、一昨年の仏像展についてお尋ねしました。門外不出の観音様が、たった一度だけのお出ましだったのだそうです。



向源寺 十一面観音菩薩 (写真葉書から)
暴悪大笑面 背面 正面

その訳は、安置しているお堂が古くなり、建て替えるのに資金が不足。故河合隼雄文化庁長官に陳情に行ったところ、東京へ観音様がお出で下さるなら、何とか援助しましょう、という交換条件となったとか。

またどの十一面観音にも、その後頭部には大笑相があり、通常、正面から拝顔を折には光背もあり、後部にも廻れないため、窺い知れぬことなのだそうです。

初日の昼は、少し南へ下がった長浜市、毛利志満で近江牛のしゃぶしゃぶをご馳走になり、食後数人で黒壁の街中を通り抜け、その先の大通寺まで散策。このお寺も立派な伽藍を構え、由緒ある寺院だとお見受けしました。

この長浜は羽柴秀吉が築城、本拠とし、後には、山内一豊も城主となりました。高月町から長浜に下る途中には、鉄砲鍛冶で有名な国友を通過し、いよいよ彦根城へと向かいます。

彦根を中心にして地図を眺めると、西は日本一広大な湖だとしても、東西南北全てが戦国時

代の城址、史跡ばかりです。眼を瞑れば、この道もあの道も、騎馬武者が、足軽が、駆け抜けて行ったのかと、まさに、戦国の世にどっぴりと漬かってしまいます。

琵琶湖の北東岸に注ぐ姉川を8^{あねがわ}キロも遡れば、^{げん}元亀元(1570)年6月28日、織田、徳川の軍が^{あさひ}浅井、朝倉勢と刃を交えて、これを破った姉川の古戦場です。

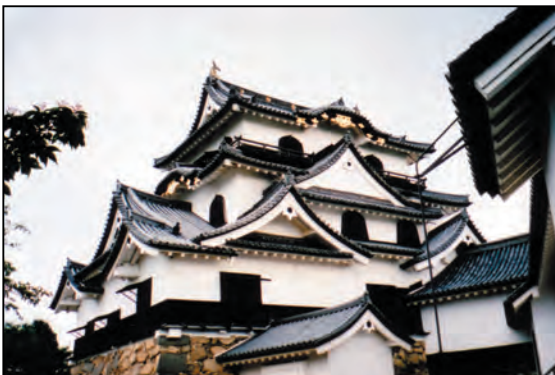
高月町の東には^{か おだに}彼の^{おだに}小谷城址があります。元亀3(1572)年7月、信長は、再度、浅井長政に攻め掛かり、翌天正元(1573)年8月、小谷城を包囲、攻められた長政は、信長の妹で妻となった市と3人の息女、茶々、初、小督(江)を信長の下に返し、9月1日、小谷城で長政は自刃して、小谷は落城しました。

前記の十一面観音は、元亀元年の戦火で^{どう}堂宇が焼失する中、村人が運び出し、土中に埋めて難を逃れたのだそうです。

それから9年、天正10(1582)年6月2日、「本能寺の変」で^{しすがたけ}信長は歴史の舞台から消え去り、高月町の北にある^{ししがたけ}賤ヶ岳では翌天正11(1583)年4月21日、秀吉が^{ししがたけ}配下の加藤清正、福島正則ほか、所謂、賤ヶ岳の7本槍の活躍もあって柴田勝家を破り、4月24日、勝家は本拠地、越前(福井)北^{きたのしょう}庄で嫁いできたお市ともども自害、これで秀吉の天下統一の基礎が築かれました。

更に長浜市の真東、岐阜県、美濃の国境に入^{くにざかい}った所には家康と石田三成が戦った関ヶ原があり、真に枚挙に遑がなく、紙面がいくらあっても足りません。

さてさて、やっと国宝彦根城の段です。城へは幹事お手配の、ボランティアの方が案内して下さいました。この城の内濠と中濠に挟まれた袂には、今回旅行の上田幹事が通っていた名門、



彦根城天守

彦根東高校があります。

見上げるお城は、明治6年の廃城令やその後の戦災を免れ、堂々と雄大で堅固さを誇っていました。案内された順に述べてまいります。

元は「いろは」47本もの松が植えられていたという「いろは松」の並木通り^{さわぐちだもんやぐら}を行くと、佐和口多門櫓^{なほすけ}にさしかかります。

すると城郭の中濠外に、第十一代藩主の十四男に生まれた井伊直弼^{なほすけ}が17歳から32歳までの16年間を、国学、和歌に茶道ほか文武に精を出して過ごし、よもや自分が藩主になるとは思わず、一生部屋住みを覚悟して名付けた埋木舎^{うもれぎのや}が200メートル程先に望めました。

次兄以下、12人の兄が他家への養子^{なほあき}や、また、没してしまい、長兄の第十二代藩主、直亮の子息までもが亡くなるという偶然が重なって、直弼は十三代藩主、果ては請われて徳川幕府末期の、安政5(1858)年4月23日、大老に就任しました。

さてここで少し脱線します。幕府大老職は家康の四天王、井伊直政、本多忠勝、榊原康政、酒井忠次の中で3家、井伊、本多、酒井の家系から選ばれています。

例外は寛永年間の土井利勝、天和年間の堀田正俊、宝永年間の柳沢吉保だけなのです。それだけに3家は徳川の信頼とそれへの忠誠が、共に厚かったのでしょう。

話を戻します。埋木舎の外堀を眺めて、佐和口多門櫓を過ぎると、馬21頭を収容した国の重要文化財、L字形の馬屋がありました。全国の近世城郭に残る馬屋では、他に例を見ない規模だそうです。

次に長浜城の大手門を移築、組み直したものとされ、計量時に使う天秤を模したような^{てんびんやぐら}天秤櫓が現れます。櫓を支える石垣は「牛蒡積み^{ごぼうづみ}」と呼ばれ、積まれた石の奥、即ち表から見えない、土の中に埋もれる内側部分の方が大きくなっていて、崩れ難いのだとか。



1987年 第3次国宝シリーズ 彦根城



2007年

ふるさと切手彦根城

また、嘉永7年の櫓の改修では石垣半分まで積み替えられ、新しい「落し積み」と古い「牛蒡積み」とがほぼ二分して組まれていて、その差異が顕著に見られます。

その天秤櫓は、山の尾根を切通しにした石垣の「堀切」と呼ばれる上にあり、櫓に通じる橋が架け

られています。この堀切の坂をループ状に迂回し、橋を渡らなければ本丸に到達しません。

"いざ"という時には、橋の支柱を外して落としてしまい、橋なき場合には、高い石垣をよじ登らなければ、本丸への侵入は適いません。

次に太鼓門櫓が登場します。時を知らせる、或は非常を知らせるための太鼓が打たれた櫓です。この櫓も他城、もしくは寺院の門を移築したのだとか。

天秤櫓や太鼓門櫓の物見窓は、外を覗うに都合がよいような断面菱形の竪棧が設けられ、かつ城外に向く面の壁は身の丈ほどの高さまでは厚く、鉄砲の弾の通過を防ぐ構造になっています。

さて、いよいよ彦根城の天主です。明治維新の廃城令で、このお城も例外ではなく、多くの城と同じように取り壊される運命にありました。

明治11年、明治天皇が京都行幸から東京へ帰る途中、彦根通過の際、随行員の参議大隈重信は、美しい彦根城の文化的な、歴史的な意義から永久保存を訴え、これが功を奏して、彦根城は個人の所有や取り壊しに遭うことから免れ、廃城から救われたのでした。(この項、横尾会員の支援を受けました。)

慶長5(1600)年9月15日、天下分け目の関ヶ原の合戦で敗れた石田三成の居城、佐和山城を家康は四天王の一人、武勇誉れ高き井伊直政に与えて、西国、北陸への要所を固め、睨みを利かせました。

その佐和山は彦根城の東、目と鼻の先にあります。直政は諸所検討のうえ、新たな城を計画、しかし直政は関ヶ原の翌々年、42歳で没してしまいました。慶長9年、次の直継の代で、幕府支援の元に築城が開始されます。

天守は、前記の関ヶ原の合戦で西軍の猛撃にも落城しなかった五階四層の大津城を取り壊し、

その木骨えお再利用し造営し、三階三層のどっしりと、落ち着いた構えを成しています。(この大津城は奈々の妹、初、その夫、京極高次の居城でした。)

彦根城の構造は通し柱を用いず、各階ごとに積み上げ、寺院ほかの唐様建築に使われた花頭(火灯)窓、屋根は切妻破風、入母屋破風、唐破風、などで優美さを形作っていました。

さらに鉄砲狭間は漆喰で塗り固められていて、実際に発砲するときには、固められた壁を突き破って、銃口を突き出す開口部にするのだとか。このため狭間は平時、隠れて治世にあっては外からは見え、城の美観を保っているのでしょう。

この後、大名の庭園、玄宮園へ向かい、その途中、内濠を渡りました。内濠に面する石垣は三段構成になっていて、中段には土を盛って緑地帯とし、鉢巻のように石垣を巡っています。玄宮園を散策し、帰路、四位の正装、衣冠束帯を身に纏った直弼公の像が目にとまりました。

小生が住む横浜市の西区にある桜木町駅、その近くに同様の像があります。その名も井伊掃部頭直弼の官司名からの掃部山で、港、今では「みなとみらい地区」となってしまった方角に向かって像は建っています。

それは大老が開港を決断し、新しい日本の国造りの緒としたことを後世に伝えたいがため、元彦根藩の武士が当時名もない丘を買い取って、明治42(1909)年に建立、現在の像は昭和29年に再建されたもので、今も横浜市民は恩人として称えています。今年のNHK・TV大河ドラマ「篤姫」では、「安政の大獄」を指揮した強面直弼とは別の、茶道、歌道にも長けた面を描き出していました。

安政7(1860)年3月3日、直弼は、尊皇攘夷派の水戸藩士ほかに暗殺されました。大老に就任して僅か2年後の「桜田門外の変」です。彦根城内の直弼像の近くには、好を回復したいがため、水戸市からは梅の木が贈られ植樹されています。“さて仲良くなれるのかしら?(筆者の独り言です。)”

さて、ここまで記してきて、もう一度、彦根城を一言で表すならば、『雄美』という造語を思いつきました。如何でしょう。

城内には、まだまだ見学するところ多々あり、その一つに藩主の住まいを一部復元した「表御殿」があって、彦根城博物館となっています。



1976年 切手趣味週間 彦根屏風

所有の国宝「彦根屏風」は特別展示で、常設ではないとのこと。

また重要文化財の、西の丸^{さんじゅうやぐら}三重櫓は、これも小谷城からの移築だとか。再利用、リユースだらけの、“もったいない”の精神が生きた国宝、彦根城です。



坂下会員配布 近江国の不統一印集レジュメ一部

時間の制約で出立し、宿へ向かう途中、彦根郵便局へ寄り、稲フィラ旅行の慣例となった訪問地での風景印を調達しました。

宿は彦根城に近く、湖畔の「双葉荘」。大きなホテルではありませんが、入った正面、大額には墨痕鮮やかに「賓至如帰」とあります。“賓(客)至り、(自宅に)帰るが如し”と、持て成しの心意気なのでしょう。

スタッフも少人数ながら、暖かい雰囲気を出していました。

ここで出されたお菓子の名が「埋れ木」です。小生の家内は、“古の伝統ある城下町には銘菓あり”と言います。呑み助が付け加えると、佳酒、美酒あり、と。

さて喉を潤し、お腹も満ちたあと、恒例の“お宝拝見”です。今回も坂下会員が、「源氏物語の故郷・近江への旅」と題して、近江国の不統一印集を配布して下さり、その1面には彦根城の切手と、この日、9月26日の風景印が捺されています。旅行参加のメンバーにとって嬉しい記念品となりました。いつもながら、坂下会員の収集の広さ、深さには驚くばかりです。

次には新潟在住でいながら、毎回参加の高橋会員が日く、何と“新潟と滋賀は関係があったのだ”と。

それは、あの有名な京都、第三高等学校の「琵琶湖周航の歌」の原曲は、新潟県、新津出身、24歳で夭折した吉田千秋作曲の「ひつじぐさ」なのだと。(次ページ参照)

替歌といったら語弊があるのですが、当時学生の間で流行っていた「ひつじぐさ」のメロディに琵琶湖周航の詩を乗せたのだそうです。

翌27日、安土へ向かうバスの中で、原曲の「ひつじぐさ」と「琵琶湖周航の歌」を共々聴かせていただきました。

原曲との差異は多少ありますが、三高で歌い継がれていくうちに、また編曲され、レコード化される中で、現在の「琵琶湖…」の曲になったのでしょう。

さて彦根から南西に下って安土です。ここでは信長が天正7(1579)年5月に築いた安

吉田千秋略年譜

明治28(1895)年2月18日	大鹿(旧藤津市)に生まれる
明治30(1897)年	父のもとへ上京
明治34(1901)年	小学校入学、大鹿へ転校
明治45(1912)年	東京府立第四中学校卒業、東京農科大学予科入学
大正3(1914)年	19歳 京都・伊勢を旅する、病気のため退学
大正4(1915)年	20歳 帰郷。「ひつじく」試読作を「音楽界」に発表
大正6(1917)年	22歳 大鹿教友会(キリスト教)で讃美歌指導
大正7(1918)年	23歳 方言研究、父康佐死去
大正8(1919)年2月24日	24歳で死去

東京府立第四中学校卒業当時(17歳)

千秋の生家は、新津の秋葉山に近い小倉地区大鹿内にある。千秋が生まれた時には父・東佐は日清戦争の従軍記者として軍艦上に乗っていた。祖父・精次郎が東佐に殉じた千秋誕生を知っている。そこには「修徳の立派な男の子で、名は千秋と付けたい」とある。小倉地蔵は花舟園で知られているが、千秋の産した記録には、チエリッブの商業生産が通説より早かったという新事実も含まれている。彼が描いたアジサイやスイセンが、今も生家に咲き続けている。

二階の自室からは朝々の間から秋葉山そして山の上の山が見渡せたとしながら、広い閑静な環境も千秋の生家でごく自然なことはなかった。千秋の生家に生まれ、ひつじくで亡くなっている。千秋の生家は平成十五年、国の登録有形文化財の指定を受けた。地域の宝のひとつとして、これから活用されていくところだろう。

琵琶湖周航の歌の誕生

大正6年、旧制三高(現京都大学)のボート部が琵琶湖周航の途中、湖畔の今津で宿をとった。その夜、部員の小口太郎が一片の詩を作り、部員に紹介した。部員たちは、当時学生の間で愛唱されていた「ひつじく」というメロディーにこの詩を乗せて歌った。「琵琶湖周航の歌」の誕生の瞬間である。

今津宿、琵琶湖周航の歌の誕生地。琵琶湖周航の歌の誕生の瞬間を再現した。琵琶湖周航の歌の誕生の瞬間を再現した。琵琶湖周航の歌の誕生の瞬間を再現した。

高橋会員配布 新潟 吉田文庫発行のパンフより

土城天主の5階と6階部分が原寸大に復元された「安土城天主・信長の館」を見学。

この絢爛豪華に再現された二層は、1992年スペイン・セビリヤ万国博覧会で日本館のメイン展示として出品され、これを安土町が譲り受けて解体移築し、更に天人が飛翔している画や、鯨^{しんげ}を頂いた大屋根などの手を加えての展示でした。

あまりにも朱漆^{しゅうし}と金色^{こんじき}が眩^{くら}しく、時代を切り拓いた信長を思い遣ること暫しでした。それは、天主の5階に仏教の世界観による釈迦説法図、天井の飛天、これらは嘘だとは申しませんが、信長による元龜2(1571)年9月12日、叡山、延暦寺の堂塔焼き討ち、摂津、一向宗石山城への攻撃などなど、仏の教えを信ずる宗教観と、それに対して門徒宗、一向宗の教徒であっても、齒向かう者への憎悪、攻撃は別なのでしょうか。天下統一への執念なのかもしれません。

さてここからが今回の稲フィラ旅行ならではの見学コースです。

安土から更に南西に南下、野洲^{やす}へ向かい、その途中、近江八幡市の八幡山ロープウェーが眺めら

れました。この山は、鶴翼山^{かくよくざん}ともいい、秀吉の姉の子で秀吉の養子となった秀次が、この山に八幡城を築城しましたが、秀頼の誕生後、邪険にされ、詰め腹を切らされました。その秀次の城址があります。

野洲では、昭和38年卒の稲フィラ会員、木辺円慈上人が第二十二代の門主を継ぎ、住職を務める(浄土)真宗、木辺派の本山、錦織寺を訪ねました。

所在地は野洲市木部です。元はといえば木辺も木部も同根なのでしょう。

さてこの錦織寺、本山を名乗るだけに堂々たる伽藍です。大きく、どんと構える御影堂、その右隣に阿弥陀堂、更に唐破風の向背を配した天安(毘沙門)堂、鐘楼、また東山天皇の崩御後、その住居を下賜された東山御殿が寺務所に連なり、茶室と庭園、立派な堂宇が建ち並びます。そんじょそこらのお寺とは、訳が違います。

さて木辺門主のお話と、いただいた資料に、私観を加えて述べてまいりましょう。

先ず江戸時代まで、一向=ただひたすらに阿弥陀仏を念ずる教えだから、一向宗と(他宗から)呼ばれ、それ以降、宗門自らが(浄土)



木辺会員が門主を勤める錦織寺



木辺住職を囲んで(杉山会員提供)

真宗へと改称した由。

ところで、その念仏、"南無阿弥陀仏"の「南無」とは、「心から帰依する」の意で、阿弥陀仏に冠して"(私は)阿弥陀仏に帰依、即ち、信じて、仏様のお力にすがります。阿弥陀仏の救済を願っています"ということになりましょうか。

対極にあるのが日蓮宗の"南無妙法蓮華經"で、"妙なる仏の教え、真理は、蓮華經にあり"とし、法華經を拠り所としています。ですから、唱えるとき、"ナム・アミダブツ"だし、"ナム・ミョウホウ・レンゲキョウ"ではないのかと私は思っています。因みに南無阿弥陀仏は「念仏」ですが、南無妙法蓮華經は「お題目」と呼びます。

また脱線。さてこの浄土真宗には、10もの派があるのだそうですが、教義的には殆ど違いはなく、開祖親鸞との伝統的な繋がりの中で、それぞれの派ができたのだそうです。

ご存知の通り、親鸞は浄土宗、法然の下で修行しました。法然の浄土宗が、浄土三部經を拠り所の經典とし、特に観無量壽經を重視して、専修念仏によって極樂浄土へ往生するとしています。それに対し、親鸞は無量壽經に立脚して、阿弥陀仏の本願の信心を重視し、称名念仏は、仏恩報謝の行であり、これを宗旨にして、浄土真宗とするのだと。ここは辞書、大辞泉からの受け売りです。

親鸞が北陸、関東を教化、説法で仏教の思想を広めて、京都へ戻る途中、このお寺に滞留し、念仏の法を説かれ、それ以来、真宗、木辺派、本山と称していて、御影堂には親鸞の諱、諡号「見真」の大額が掲げられています。

御影堂は元禄7年、大火に遭って焼失。その折、ご本尊の阿弥陀如来も焼け焦がれ、今でも真っ黒な芳しいお姿ですが、その俣、安置され、門徒の信心を集めています。

その後、御影堂は7年後の元禄14年に再建され、今日に至っているのだとか。

寺名の由来は暦仁元(1238)年7月6日、まだ親鸞が逗留中の夜、空に衆が響き渡り、また靈光が輝き、堂内には芳香が満ちて、2人の童子が蓮の糸を手繰り、天女が機織していたそうです。

夜明けにはその姿はなく、内陣に横3尺、縦1丈5尺の紫紅の錦が仏前に供えられていて、これを伝え聞いた四條天皇が「天神護法錦織之寺」の寺号と額を下賜され、それ以降、錦織寺としたのだそうです。

さてさて驚くことは、未だ未だあって、チベッ

ト、西域探検で有名な大谷光瑞^{こうずい}は、ご尊父、第二十一代、宣慈上人の伯父様に当たり、またその宣慈上人は天体望遠鏡のレンズ製作では、日本の第一人者だったのだそうです。



1961年 国定公園琵琶湖 夜景

第2日目のお昼は、湖畔、吉川の鮎家。終わって大津市に南下し、紫式部が「源氏物語」の一部を着想したとされる石山寺へ向かい、小生は高校時代の修学旅行以来、50年ぶりの見学となりました。



2003年 国際文通週間五十三次大津

多宝塔は季節とか、時の経過もあるのでしょうか、周囲の緑が増してしまい、昔は塔の全体がもっとよく見えたのでは、とも思いました。しかし表現として使ってよいのか迷いますが、閑寂枯淡な優美な塔です。

紫式部が「源氏物語」を著して千年経ちました。それは寛弘5(1008)年11月1日、一条帝と中宮彰子との間に敦成親王ご誕生50日の祝いの日に、藤原公任が"この辺りに若紫はいませんか"、と宮仕えの女房たちに話しかけたと、この日の紫式部日記に記されているのだそうです。源氏物語、第5巻のヒロイン「若紫」にことよせて、



1951年 石山寺 多宝塔



2008年発行 ふみの日切手 紫式部

紫式部を称えての話しかけでした。(富士谷あつ子「源氏物語千年紀」から)

従って、このとき既に「源氏物語」は完成し、上層の公家階級では読まれていたと見做され、今年2008年が千年紀なのです。その源氏物語には小説の要素とか、筋道、構成など、全てが凝縮されているといっても過言ではないのでしょうか。紫式部とその「源氏物語」については、もう私の出る幕ではありません。"お後が宜しいようで"。

最後になります。今回の旅行に参加したのは、アイウエオ順で、池山、上田・幹事、小熊、小西、小林(彰)、坂下、杉山、高橋、野島、府川、宮鍋、諸田・幹事、それに地元、大津在住、現地参加の横尾の13名でした。3年前には会津八一を訪ねて新潟、昨年は東京に近い横須賀、三浦、今回は彦根を中心に滋賀へと、その土地出身の稲フィラのメンバーが幹事を務めています。これからどうなるかは判りませんが、勝手知った所を詳しく、かつ有意義に案内しています。

どうぞ近い、遠いに関わらず、また幹事の善し悪しは別にして、ご参加いただけたらと思います。なお本稿は歴史的、史跡的な事項が多く、横尾、木辺両会員には校閲をお願いしました。今回の旅行を取り計らった上田、諸田両幹事にも、共に厚く御礼申し上げます。

多謝



2008年発行 「源氏物語」一千年紀 記念切手

切手偏見



見慣れた日常品の中に美を意識させてくれる NHKTV 番組「美の壺」で9月のはじめに切手が対象として放送された。放送では切手を鑑賞する壺として三つの壺が取り上げられた。

◎大胆なレイアウトに秘密あり(図案トリミング)

◎小さなキャンバスに彫刻の冴えあり(凹版印刷)

◎限られた色が創る無限の世界(微妙な色)

この三つの壺から、最近の切手が美的に向上し



左 鑑賞の壺 大胆なレイアウトに秘密あり(図案トリミング)の説明に使われた鳥居清長『雨中湯帰り』と1958年趣味週間切手

左下 鑑賞の壺 限られた色が創る無限の世界(微妙な色の再現)の説明に使われた速水御舟『炎舞』重要文化財(山種美術館)と近代美術シリーズ切手(1979年)

下 鑑賞の壺 小さなキャンバスに彫刻の冴えあり(凹版印刷)の中で凹版切手の傑作として黒色で彫刻の冴えを拡大して紹介された第2次国宝切手(1978年)東照宮陽明門



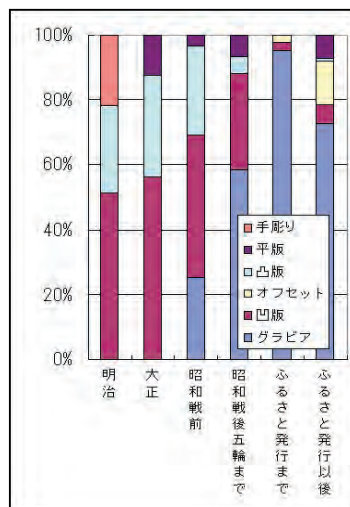
ているのか考えてみたいと思う。三つの壺のうち、一つ目の壺、**図案、トリミング**については意見が分かれるところであるが、最近のふるさと切手などは改善されたかと思える。さらに、三つ目の壺、**色**の再現につ

いては好みの問題はあるが色彩は豊かになっていることは確かである。

しかし、2番目の壺、**彫刻の冴えあり(凹版印刷)**については残念ながら壺の中身が減っていることは会員諸兄姉の心配するところ。この壺の中を少し調べてみたいと思う。

凹版印刷を取り出す前にすべての日本切手(ペーン、切手帳を除く4818種)をその印刷方式で調べてみた。加刷の整理の仕方等にもよるが印刷方式は上表のようになり、やはり7割がグラビア印刷で一番多くなっている。凹版印刷が10%と現在の切手発行からは意外と思われる数が発行されている。四十八文から現在までを大きく4時期に分けて印刷方式を分類すると上図に示す結果であった。戦前の凹版、戦後のグラビア主流の間

印刷方式	合計	広義分類		
グラビア・メタリック	5	凹版	524	10%
グラビア	3259			
グラビア・エンボス	32			
グラビア・凸版	37			
グラビア・ザンメル凹版	1			
グラビア・凹版	272			
グラビア・階調凹版	1			
グラビア・局式凹版	10			
ザンメル凹版	34			
凹版	191			
階調凹版	5	凸版	239	5%
凹版・平版	8			
階調凹版・ドライフセット	1			
凹版・ドライフセット	1			
オフセット	426			
凸版	198			
凸版・石版加刷	2			
凸版・凸版加刷	2			
凸版・平版	2			
平版	235	平版	291	6%
平版・エンボス	10			
平版・ホットスタンプ	36			
手彫り(凹版)	45			
総計	4813			



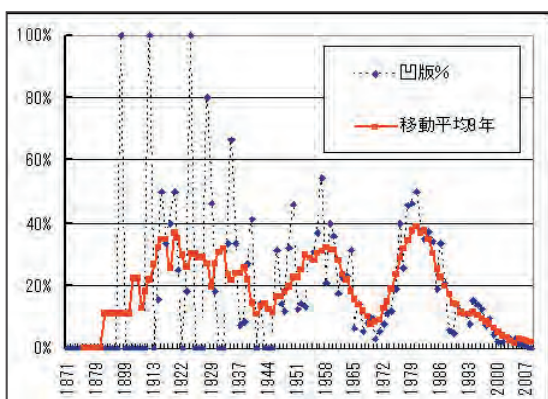
に10~30%程度は発行されていた凹版が徐々にグラビア、平版・オフセットにその割合を譲っていること

が明らかである。更に、9年毎に凹版印刷の割合を移動平均として図にすると下図のように一定の周期で3時期に凹版印刷が増加していることがわかる。

第1期は大正初期から戦前までの皇室関係の記念切手と通常切手の凹版が凸版印刷に伍してかなり発行された時期と言えよう。

第2期は凹版に初めてグラビア・凹版とザンメル凹版が発行され、ザンメル凹版切手が集中した時期であったといえる。また、この期間は国民体育大会切手の凹版印刷が始り、そして終わった時期であるのが注意される。

この第2期と第3期に移る谷間の時期(1966年)に低額の通常切手に美しく人気のある切手が4種発行されていることが注意される。第1次ローマ



第1期の凹版切手
初の凹版切手、凹版高額通常切手、40%が凹版で発行された第1次昭和切手の1枚「上高地」



第2期に発行された凹版・グラビア印刷、ザンメル凹版切手



凹版印刷、ザンメル凹版で13年間発行されていた国体切手



凹版印刷の美しい通常切手
比叡山延暦寺根本中堂
東大寺音声菩薩像

左上より
桂離宮
中尊寺迦陵頻伽

字入り切手の4枚である。(拡大して表示しますので美の壺を抑えていただければ)

第3期は凹版印刷が1984年に消えたが、グラビア・凹版印刷が各種シリーズ切手を中心に数多く発行され、新たに階調凹版、局所凹版印刷等が加わって発行され、広義の凹版印刷が一時期、再度復活するかと期待されたのが、平版、オフセットがこれに変わってくる傾向である。更に10単位で記念切手が発行されるようでは、人のわざと努力に左右される切手は望むべくなく、第2の鑑賞の壺、彫刻の冴えは今後も期待できないことになっていくのであろうか。(編集子)



最後となっている純凹版印刷切手

参考文献： 世界の切手印刷 印刷局朝陽会
切手研究用語集 郵便文化振興協会

凹版印刷切手一覧表

年	種類	額面	印刷方式	通 称
1896	記念	2 銭	凹版	日清戦勝 4
1908	通常	5 円	凹版	菊切手 1
1908	通常	10 円	凹版	菊切手 1
1914	通常	5 円	凹版	田沢型旧大正毛紙 1
1914	通常	10 円	凹版	田沢型旧大正毛紙 1
1915	記念	4 銭	凹版	大正大礼 2
1916	記念	10 銭	凹版	昭和立太子礼 1
1919	記念	1.5 銭	凹版	世界大戦平和 4
1920	記念	1.5 銭	凹版	明治神宮鎮座 2
1921	記念	3 銭	凹版	郵便創始 50 年 2
1923	記念	1.5 銭	凹版	台湾行啓 2
1924	通常	5 円	凹版	新大正毛紙 1
1924	通常	10 円	凹版	新大正毛紙 1
1928	記念	1.5 銭	凹版	昭和大礼 4
1929	航空	9.5 銭	凹版	芦ノ湖航空 4
1929	記念	1.5 銭	凹版	神宮式年遷宮 2
1930	記念	1.5 銭	凹版	第 2 回国勢調査 2
1934	航空	8.5 銭	凹版	芦ノ湖航空 1
1935	記念	1.5 銭	凹版	満洲国皇帝ご来訪 4
1936	記念	1.5 銭	凹版	議事堂竣工 4
1937	通常	5 円	凹版	昭和白紙 1
1937	通常	10 円	凹版	昭和白紙 1
1938	通常	10 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	5 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	6 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	7 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	12 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	30 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	5 円	凹版	第 1 次昭和 1
1939	通常	10 円	凹版	第 1 次昭和 1
1940	記念	2 銭	グ・局式	紀元 2600 年 4
1940	記念	2 銭	グ・局式	教育勅語 50 年 2
1940	通常	20 銭	凹版	第 1 次昭和 1
1942	通常	15 銭	凹版	第 2 次昭和 1
1942	通常	40 銭	凹版	第 2 次昭和 1
1946	通常	50 銭	凹版	第 1 次新昭和 1
1946	記念	15 銭	凹版	郵便開始 75 年 4
1947	通常	100	凹版	第 2 次新昭和 1
1947	通常	50	凹版	第 2 次新昭和 1
1947	通常	100	凹版	第 3 次新昭和 1
1948	通常	10	凹版	第 2 次新昭和 1
1949	記念	8	凹版	1949 文化人切手 1
1949	記念	2	凹版	UPU75 年 4
1949	記念	10	凹版	岡山博覧会 1
1949	記念	10	凹版	高松博覧会 1
1949	通常	16	凹版	産業図案 1
1949	通常	100	凹版	産業図案 1
1949	通常	500	凹版	産業図案 1
1949	記念	10	凹版	松山博覧会 1
1949	記念	8	凹版	中央気象台 75 年 1
1949	記念	16	凹版	長野平和博 1
1949	記念	2	凹版	別府観光 2
1949	記念	8	凹版	郵政省・電通省 1
1950	記念	8	凹版	1950 文化人切手 5
1950	航空	16	凹版	きじ航空 5
1950	通常	24	凹版	昭和すかしなし 1
1951	記念	2	凹版	観光地百選 2
1951	記念	8	凹版	1951 文化人切手 6
1951	通常	14	凹版	昭和すかしなし 1
1952	記念	10	凹版	1952 文化人切手 6
1952	通常	100	凹版	昭和すかしなし 1
1952	通常	500	凹版	昭和すかしなし 1
1953	記念	5	凹版	婦朝 2
1953	通常	100	凹版	第 1 次円単位 1
1953	通常	500	凹版	第 1 次円単位 1
1954	記念	5	凹版	通信連合加盟 75 年 2
1954	記念	5	凹版	第 9 回国体 2
1955	公園	5	凹版	公園 秋交多摩 2
1955	通常	5	凹版	第 10 回国体 2
1956	記念	10	凹版	佐久間ダム 1
1956	記念	10	凹版	柔道選手権 1
1956	記念	10	凹版	巡航見本市 1
1956	記念	5	凹版	第 11 回国体 2
1956	通常	14	凹版	第 1 次円単位 1
1956	公園	10	局式凹版	西海 九十九島
1956	記念	10	凹版	東京開港 500 年 1
1957	通常	10	凹版	原子炉竣工 1
1957	記念	10	凹版	国連加盟 1
1957	記念	10	凹版	小河内ダム竣工 1
1957	記念	5	凹版	第 12 回国体 2

1957	通常	24	凹版	第 1 次円単位 1
1958	記念	10	凹版	慶弔義塾 100 年 1
1958	記念	5	凹版	第 13 回国体 2
1958	記念	10	凹版	日本開港 100 年 1
1959	記念	5	グ・凹版	皇太子御成婚 4
1959	記念	10	凹版	航空運送会議 1
1959	記念	10	ザン凹版	自然公園の日 1
1959	記念	5	凹版	第 14 回国体 2
1959	通常	30	凹版	第 1 次円単位 1
1960	記念	10	凹版	岡山観測所開所 1
1960	記念	10	凹版	議会開設 70 年 1
1960	記念	5	ザン凹版	第 15 回国体 2
1960	記念	10	ザン凹版	日米修好 100 年 2
1960	記念	10	ザン凹版	日本三景 3
1961	記念	5+5	凹版	五輪募金 3
1961	記念	5	ザン凹版	第 16 回国体 2
1961	記念	10	ザン凹版	第 52 回ロータリー 1
1962	記念	5+5	凹版	五輪募金 6
1962	記念	10	凹版	若戸大橋 1
1962	記念	5	ザン凹版	第 17 回国体 2
1963	記念	5+5	凹版	五輪募金 7
1963	記念	5	ザン凹版	第 19 回国体 2
1964	記念	5+5	凹版	五輪募金 4
1964	記念	5	ザン凹版	第 19 回国体 2
1965	記念	5	ザン凹版	第 20 回国体 2
1966	通常	60	凹版	第 1 次 R 字入り 1
1966	通常	110	凹版	第 1 次 R 字入り 1
1966	通常	120	凹版	第 1 次 R 字入り 1
1966	通常	200	凹版	第 1 次 R 字入り 1
1966	記念	7	ザン凹版	第 21 回国体 2
1967	記念	50	グ・凹版	第 1 次国宝 2
1968	記念	15	凹版	第 1 次国宝 6
1969	記念	50	グ・凹版	第 1 次国宝 1
1969	通常	500	凹版	第 2 次 R 字入り 1
1970	記念	15	凹版・平版	古典芸能 1
1971	記念	15	階調	政府印刷 100 年 2
1972	記念	20	階調・ドラ	古典芸能 1
1972	記念	20	階調	古典芸能 1
1972	通常	200	凹版	第 1 次 R 字入り 1
1973	記念	20	グ・局式	1973 趣味週間 1
1973	記念	20	凹版	開門橋開通 1
1973	記念	50+10	グ・階調	古墳壁画 1
1974	記念	20	凹版	最高裁庁舎 1
1974	記念	20	凹版・ドラ	自然保護 1
1974	記念	20	グ・凹版	自然保護 3
1975	記念	20	グ・凹版	自然保護 3
1975	記念	20	ザン凹版	船シリーズ 4
1975	通常	1000	凹版	第 4 次 R 字入り 1
1976	記念	50	グ・凹版	自然保護 5
1976	記念	50	ザン凹版	船シリーズ 8
1976	記念	100	グ・凹版	第 2 次国宝 1
1977	記念	50	グ・凹版	自然保護 5
1977	記念	100	凹版	第 2 次国宝 5
1978	記念	50	グ・凹版	自然保護 3
1978	記念	50	凹版	証券取引所 100 年 1
1978	記念	50	グ・凹版	相撲絵 9
1978	記念	100	グ・凹版	第 2 次国宝 2
1979	記念	50	グ・凹版	医療文化 100 年 1
1979	記念	50	グ・凹版	近代美術 8
1979	記念	50	グ・凹版	相撲絵 6
1979	記念	50	グ・凹版	日本の歌 4
1980	記念	50	グ・凹版	議会開設 90 年 1
1980	記念	50	グ・凹版	近代美術 8
1980	記念	50	グ・凹版	消防 100 年 1
1980	記念	50	グ・凹版	日本の歌 10
1981	記念	60	グ・凹版	近代美術 6
1981	記念	60	グ・凹版	近代洋風建築 4
1981	記念	60	グ・凹版	東京切手展 4
1981	記念	60	グ・凹版	日本の歌 4
1982	記念	60	グ・凹版	近代美術 6
1982	記念	60	グ・凹版	近代洋風建築 8
1982	記念	60	グ・凹版	中央銀行 100 年 1
1983	記念	60	グ・局式	官報 100 年 1
1983	記念	60	グ・凹版	近代美術 4
1983	記念	60	グ・凹版	近代洋風建築 6
1983	記念	60	グ・凹版	特殊鳥類 4
1984	記念	60	グ・凹版	1984 趣味週間 2
1984	通常	300	凹版	花・貝・文化財 1
1984	記念	60	グ・凹版	近代洋風建築 2
1984	記念	60	グ・凹版	高山植物 4
1984	記念	60	グ・凹版	特殊鳥類 6
1984	記念	60	凹版	特殊鳥類 3

1985	記念	60	グ・凹版	高山植物 8
1985	記念	60	グ・凹版	前島密生誕 150 年 1
1985	記念	60	グ・凹版	伝統工芸品 2
1986	記念	60	グ・凹版	高山植物 2
1986	記念	60	グ・凹版	昆虫 12
1987	記念	40	グ・凹版	昆虫 10
1987	記念	110	グ・凹版	第 3 次国宝 2
1988	記念	60	グ・凹版	シルクロード博 1
1989	記念	100	グ・凹版	第 3 次国宝 6
1990	記念	80	グ・局式	1990 文通週間 2
1990	ふるさと	62	グ・凹版	中山道妻籠宿 2
1990	記念	62	グ・凹版	電気機関車 5
1990	記念	62	グ・凹版	馬と文化 7
1991	記念	80	グ・凹版	1991 文通週間 2
1991	記念	62	グ・凹版	1991 日本切手展 1
1991	記念	62	グ・凹版	馬と文化 3
1992	記念	120	グ・凹版	1992 文通週間 2
1992	記念	62	グ・凹版	日中 20 年 2
1993	記念	62	グ・凹版	1993 文化人切手 3
1994	記念	80	グ・凹版	1994 文化人切手 2
1994	記念	80	グ・凹版	糖尿病会議 1
1994	記念	80	グ・凹版	郵便切手の歩み 8
1995	記念	80	グ・凹版	1995 文化人切手 2
1995	記念	80	グ・凹版	郵便切手の歩み 8
1996	記念	80	グ・凹版	1996 文化人切手 2
1996	通常	1000	グ・凹版	日本の自然 1
1996	記念	80	グ・凹版	郵便切手の歩み 4
1997	記念	80	グ・凹版	1997 文化人切手 2
1997	記念	80	グ・凹版	沖繩復帰 25 年 1
1997	記念	80	グ・凹版	日本民家 2
1998	記念	80	グ・凹版	1998 文化人切手 2
1998	記念	80	グ・凹版	日本民家 6
1999	記念	80	グ・凹版	1999 文化人切手 3
1999	ふるさと	80	グ・凹版	中山道妻籠宿 2
1999	記念	80	グ・凹版	日本民家 3
2000	記念	80	グ・凹版	2000 文化人切手 3
2001	記念	80	グ・凹版	2001 文化人切手 2
2002	記念	80	グ・凹版	2002 文化人切手 3
2003	記念	80	グ・凹版	2003 文化人切手 2
2004	記念	80	凹版・平版	2004 文化人切手 3

注 1 グ=グラビア印刷、ザン=ザンメル凹版印刷、局式=局式凹版印刷、階調=階調凹版印刷、ドラ=ドライオフセット

注 2 通称の最後の数字は同年同通称で発行された切手数

網掛けは例示した切手

ザンメル凹版：1つの版面に図柄に応じて異なる色のインキを所定の場所に詰め込み、一度に印刷する。ザンメル(集合)方式という。



階調凹版：グラビアのぼかしと彫刻画線の長所をだすためにグラビアの版に彫刻凹版の線を入れた版式。



局式凹版：グラビア印刷機を使って印刷する凹版の一種。グラビア・スクリーンを使わずに画線を書真的な技術で作りをそれを腐食させて版にする。



稲門フィラテリー役員

平成 20 年 10 月～ 22 年 9 月

会長	小西 邦彦		
顧問	大杉 徹	花本 金吾	
	金井 宏之		
アドバイザー	吉沢 忠一	小熊 忠三郎	
総務	磯野 昭彦	諸田 志郎	
	青柳 次男	○木元 淳一郎	
会計	石井 克忠		
編集	☆吉沢 忠一	小川 義博	
	*五十野 和男	池澤 克就	
部会	野島 正顕	府川 宏昭	
	宮鍋 益治		
会計監査	坂下 泰一	住吉 忠男	

* 新任、○転任、☆兼任

第 43 回全国切手展 (JAPEX) 会員出展内容

★日本ブラジル交流年記念「ブラジル切手展」

牛の目 90 レイス横ペア・山羊の目 30 レイス・猫の目 10
レイス & 30 レイスなどを展示

BRAZIL 1843-1866 渡辺 勝正氏

Postal History of Brazil 1809-1877 正田 幸弘氏

○レギュラー・クラス

鎌倉、小林会員金賞受賞

鎌倉 達敏氏 震災切手 1923～24

金賞・JAPEX 実行委員会賞

小林 彰氏 カナダ・アドミラル・イシュー
1911～1925

金賞・住野正顕賞

和田 文明氏 米国書留業務郵便史
1842～1929

切手教室

第 56 回 9 月 6 日

切手と飛行機 金成 嘉一氏

第 57 回 10 月 4 日

郵便物自動読取区分機見学会 磯野 昭彦氏

第 58 回 11 月 1 日

英語であつめナイト 小西 邦彦氏

新入会員

高野 貴江 40・文

283-0003 千葉県東金市道庭 356

編集後記

郵政民営会社発足 2 年目が終わろうとしています。この 1 年、この会社の発行した切手の種類は 311 種、各 1 枚を購入しても 23566 円という金額になります。1894 年明治銀婚から 1960 年切手趣味までの記念切手の数が 1 年で発売されたことになりました。Come Back 切手収集の年金生活老人、切手収集を始めようとする子供達には郵便局に行くのがつらい日々の 1 年でした。

一枚の切手をじっくり眺め、友人の顔を思い、気楽にシートから切り、手紙に貼れる日々が懐かしく、郵便物に貼られる記念切手が少なくなってしまうのかな、と感じさせる 1 年でもありました。

この 1 年、皆様の会報編集への御協力に深く感謝いたします。また、ご意見をお待ち致します。

第 3 回稲門フィラ常設展

新宿北郵便局で開いている常設展、はや 3 回を迎え、小西、磯野会員のご努力に感謝、感謝です。

今回は「世界クリスマス切手と日本の年賀切手」美しい切手の拡大展示が年末のあわただしさのなか利用者の目と心を楽しませてくれるでしょう。



慶應義塾創立 150 周年記念切手発行祝賀会

稲フィラのメンバー 10 人が 11 月 22 日、田町駅前集合、慶應キャンパスへ。東門から入ると学生がワイワイして夜祭のような賑やかさだった。

祝賀会は午後 6 時に大高さんの司会で始まり、出席者は 50 人ほど、小西会長はじめ稲フィラの面々が、ひとりひとり紹介された。まず、慶應郵便切手研究会の伊藤会長が挨拶「郵趣品がよく売れました。また、福沢諭吉先生が、切手を貼って郵便を出した初の日本人であることを忘れないようにしましょう」、次に、郵研三田クラブの桑野会長が立って「稲フィラ（会報）は立派です」そのあと、記念切手発行までの経過を、縷々、入念に報告された。

稲フィラ側からは小西会長が「100 年たっても、天皇陛下は早稲田に来ないでしょう」、渡辺さんが「慶應創立 200 年切手を出してください」と挨拶。乾杯の後、慶應関係の切手贈呈式のサイン入りシートを囲むなど、早慶の歓談の輪があちこちに出来た。フレーム切手やカバーをデザインした町田良子さんに感謝状が贈られ、さらに根岸さんが稲フィラを代表して、慶應側からのプレゼントをいただいた。

(ないしょ話：料理は高田牧舎の方がよかった) (吉沢)

発行日：2008 年 12 月 1 日

発行：稲門フィラテリー

発行人：小西 邦彦

〒150-0002

渋谷区渋谷 1-11-3 正栄ビル 4F

(株) 英国海外郵趣代理部内

稲門フィラテリー事務局

郵便振替口座 :00110-0-560458

「稲門フィラテリー」

編集担当：吉沢 忠一 五十野 和男

池澤 克就 小川 義博